AVerMedia®

IWH3216 Touch

取扱説明書

2011年2月

連邦通信委員会通知（等級 A）

本装置は、連邦通信委員会規則の第 15 条に準拠しています。本装置は、以下の条件の下で使用しなければなりません。(1) 本器が重大な妨害を発生させないこと (2) 本装置の使用中には妨害（正常な作動を妨げるような妨害）を受けることがあること。

連邦通信委員会による声明

注意－ 本装置に関する試験を行った結果、連邦通信委員会規則の第 15 条に準じた、等級 A ディジタル機器の制限に準拠することが判明しています。こうした制限は、家庭内に設置した場合において、有害な妨害に対する妥当な保護を提供するために制定されています。本装置は無線周波数エネルギーを生成・使用し、また、輻射することがあり、指示に従って取り付けたり使用しなかった場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。しかし、これは、特定の取付方法を採用した場合に妨害がまったく発生しないことを保証するものではありません。本装置の電源を入切してラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こすと判明した場合、使用者は、以下の対策のうち、1 件または複数件を用いて、妨害を修正しなければなりません。

- 受信アンテナの方向を変化させる、または、設置場所を変更する。
- 本装置と受信機との間の距離を離す。
- 本装置と受信機との電源を別々の電源供給回路から供給する。
- 販売者または経験豊富なラジオ・テレビ技術者に助言を求める。

等級 A ITE

等級 A ITE は、等級 A ITE を満足するが等級 B ITE 条件は満足しないその他の ITE カテゴリすべてを指します。こうような装置の販売を制限するものではありませんが、使用説明書には、以下の警告が明記されています。

警告 ― 本装置は等級 A 製品です。家庭内環境で本装置を使用する場合、電波妨害を発生することがありますが、その際には、使用者が適切な対策を講ずる必要があります。

欧州共同体指令による声明（等級 A）

これは、本製品が、電磁両立性 2004/108/EEC に関する加盟諸国の法律の近似化に関する指令で制定された条件に準拠することを証明するものです。

警告 － 家庭内環境で本装置を使用する場合、電波妨害を発生することがありますが、その際には、使用者が適切な対策を講ずる必要があります。

DISCLAIMER

品質、性能、商品としての適格性の保証や特定目的への適合性を含め、本書の内容に関して、明示または暗示を問わず、一切の保証はいたしません。本書の内容は、その信頼性に関して、慎重に確認されていますが、誤謬に関する責任は保証しません。本書の情報は、予告なく変更することがあります。
本製品や文書をを使用した結果または適切に使用することができなかった結果、直接または間接的に発生した出来事や損害に関して、そのような損害が発生する可能性があることが通知されている場合であっても、アバーメディア・インフォメーションでは、一切責任を負いません。

商標

アバーメディア・インフォメーション株式会社が使用を承認されている AVerMedia®は、AVerMedia® TECHNOLOGIES, Inc の登録商標です。IBM PC は、International Business Machines Corporation の登録商標です。Macintosh は、Apple Computer, Inc の登録商標です。Microsoft は Microsoft Corporation の登録商標であり、Windows は Microsoft Corporation の商標です。本書に登場するそれ以外の製品名や企業名は、それぞれの所有者の登録または登録商標です。

著作権

家庭用ゴミ箱に X 印を付けた左記マークは、本製品を家庭廃品と一緒に廃棄してはならないことを示しています。本製品を廃棄しようとする場合には、電気電子製品リサイクル回収場所に提出して廃棄する必要があります。リサイクル用廃品回収場所の所在地については、家庭廃品回収業者または本製品を購入した販売店にお尋ねください。

警告

1. 火災や感電の危険を少なくするために、雨の中や湿気の多い場所に本装置を晒さないでください。
2. DOM 内容を無断で変更した場合、保証が無効になります。
3. 使用中は、リムーバブル HDD トレイを取り外さないでください。DOM 内容が破損することがあります。
4. DVR が対応するモニター解像度に設定した上、ご使用してください。DVR がサポートしない解像度に設定した場合、DVR 機能が異常になることがあります。
5. 気密な環境に DVR を置かないでください。システムの動作が不安定になることがあります。

注意

本製品の梱包内に損傷や不足品や不適切な品目があった場合、お近くの販売店にお申し付けください。許可なく改造が行われた場合、製品の保証が無効になります。

本書内で使用される記号

本書では、以下の記号が使用されています。

この注意記号は、使用者に、重要な取付指示や使用指示に関して注意を促すために使用されています。指示に従わなかった場合、システムは破損することがあります。

この情報記号は、指示を明確にする追加情報を提供するために使用されています。

目次

第1章　　　　はじめに

1.1　パッケージ内容

- ☐ IWH3216 Touch 本体
- ☐ AVerMedia 光学式 USB マウス
- ☐ 標準付属 CD (マニュアルおよびクイックガイド含む)
- ☐ リカバリ CD
- ☐ ハードディスクインストール用 SATA ケーブル
- ☐ 電源コード(*電源コードは使用される国、地域によって異なる場合があります)
- ☐ 電源アダプタ
- ☐ オーディオ入力・スポットモニター出力ケーブル
- ☐ ビデオ入力ケーブル(16 チャンネル)

パッケージの内容物に損傷、不足または不適切な品目がある場合、お買い求めの販売業者にご連絡ください。

1.1.1　オプションアクセサリ

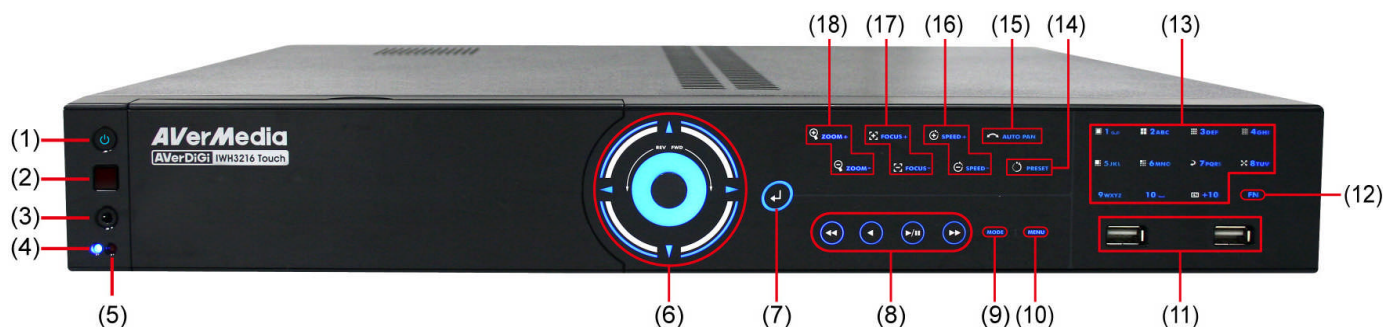
- ■ ループスルーケーブル(16 チャンネル)
- ■ ラックマウント
- ■ リモートコントローラ
- ■ IR 延長ケーブル

1.2 仕様

	IWH3216 Touch
カメラ入力(アナログ)	DVI ケーブル経由 BNC コネクタ 16
カメラ入力(IP)	16ch: 16 チャンネル MPEG4/MJPEG /IP カメラからの H.264 データストリーム
ビデオ出力	D-sub コネクタ付き VGA 出力×2
SPOT 出力	1 チャンネル出力のみ　注)アナログカメラ画像のみ対応
ループスルー出力(アナログ)	DVI ケーブル経由 BNC コネクタ 16
コンポジットビデオ信号	1 Vpp、 75 Ω
レコーディング分解能 (アナログ入力)	NTSC: 352 x 240 (CIF)、704 x 240 (HD1)、704 x 480 (D1)
レコーディング分解能(IP 入力)	すべての IP カメラチャンネルに対し、最高 42 メガピクセルの解像度
圧縮方法(アナログ)	H.264
レコーディングレート	480 FPS (CIF) 480FPS (HD1) 240 FPS(D1)
チャンネル単位レコーディングレート (ビデオ入力はアナログ)	NTSC:0-30 fps
プレビュー分解能	VGA1: 1920*1200 VGA2: 1280*1024
サポート対象 IP カメラ(IP カメラが内蔵されている場合、IP PTZ、IP IO、および IP オーディオをサポート)	AXIS、Panasonic、SONY、Arecont、Mobotix、BOSCH、IQinvision、JVC、TOSHIBA、VIVOTEK、ACTi、D-Link、PiXORD、PELCO、Apron、Lilin およびそれ以外
オーディオ入力	16-チャンネルライン入力信号、8 KHz サンプリングレート
オーディオ出力	1-チャンネルライン出力信号
マイクロフォン入力	1-チャンネルライン入力信号
アラーム入力	16 点入力電圧: 最大 6 VDC
リレー出力	4 点
PTZ 制御(アナログ)	サポート対象プロトコル: Pelco-D、Pelco-P、DynaColor、Lilin (PIH7622)、CD55、DiGiDome、YoKo、MicroJack-P、Cannon(VC-C4R)、Panasonic(CS859/CW860/ CS950/ CS850)、Samsung(SCC-641)、JVC(TK-C676)、JVC(TK-C675)、Sony(EVI-D70P)、Philips(TC8560)、ELMO(PTC-200C)、Fastrax II(HID-2404)、AmericanDynamics_UltraSpeed、DMP23-H2、MD101、Sony(15-cz45-1)、DiGiDome、CD55、EyeView(V2/T2)、LG_LS950、Kalatel、Vicon、D-Max
ストレージ容量サポート	内部 SATA HDD が 3、外部 HDD 用 eSATA コネクタが 1
eSATA のサポート	eSATA RAID をサポート
イーサネット	2、10/100/1000 Base-T、帯域制限
RS 485 ポート	1
RS 232 ポート	1
USB 2.0	6 (正面 x 2, 背面 x 4)
DVD ライタ	あり
電源装置	120 ワット
オペレーティングシステム	組込み Windows、SA GUI
オペレータインターフェース	USB マウス、USB PC キーボード、System Controller Pro
Web ブラウザ(リモートクライアント)	Windows 2000、XP、VISTA、Windows 7 上の Microsoft Internet Explorer 6 またはそれ以降
ビデオ/オーディオデータのエクスポート	AVerMedia フォーマット
寸法(高さ x 幅 x 奥行き)	65x430x370 mm
動作温度	0℃から 40℃

S/W 機能	
レコーディングモード	連続録画 / モーション録画 / アラーム録画 / マニュアル録画。 すべてのモードはスケジュールによる設定可能
モーション検知	すべての種類の動作を検知
E-map 機能	カメラ、センサ、リレーおよびトリガ状況を表示
パワフルサーチ	日付、時間、カメラ、イベント、およびログファイルによる
ブックマーク	レコードデータ保管場所のリンクを容易に保存、および保存リンクから直接再生
詳細イベントログビューア	選択したイベント、オペレーション、システム、およびネットワークイベントの選択に基づく、完全なイベントログ詳細
アラームトリガモード	アラームトリガ条件時の、シングルイベントまたは複数イベント/HDD エラー
スマートアラーム機能	E メール / PTZ プリセットポイントトラッキング / レコーディング開始 / カメラ表示の拡大/ CMS へのビデオ送信
中央管理	CM3000/CM3000 Gold Central Management System を最大 1000 DVR までサポート
リモートアクセス	通常の IE ブラウザ経由 Web カメラ / リモートコンソール/ SmartViewer/ PDAViewer/ JAVAViewer/ iPhoneViewer
ディスパッチサーバ	通信ロードの共有。さらに多くのクライアントがリモートアクセスおよび高速データ通信を利用可能
PDA ビューア	4 カメラビュー、全画面およびライブオーディオ
SmartViewer	Symbian および Windows スマートフォンシステムをサポート/ JAVA2.0 を使用するスマートフォンによる PTZ カメラ制御をサポート
DDNS	リモートクライアントはサーバ IP アドレス要求なしでダイナミックサーバの検索が可能
iEnhance	記録データの、輝度/コントラスト/色調/彩度/シャープネス/ノイズリダクション/インターレース除去/グレースケールなどのビデオ品質を向上
iStable	クリック 1 つでビデオの振動および揺れの影響を軽減

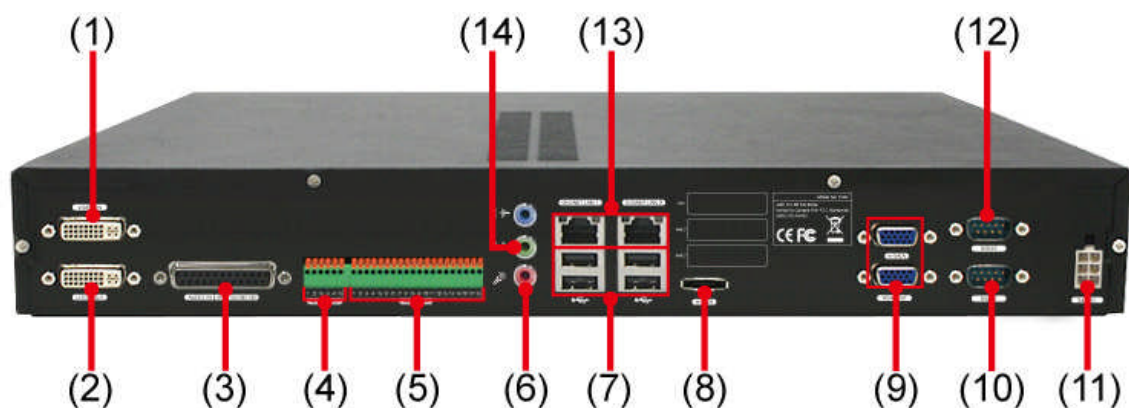
1.3 ハードウェア紹介

1.3.1 フロントパネル

ヒント

青い文字、ボタンセンタ、青い矢印、および青い範囲にタッチすると、選択または操作が可能です。

名称	機能
(1) 電源	DVR ユニットのオン/オフ
(2) IR センサ	DVR ユニット操作のための信号をリモートコントロールの受信口
(3) IR サンサポート	拡張 IR センサケーブル接続用(オプション)
(4) システム電源インジケータ	システム電源の状態インジケータ。 システムの動作状態を表示します。 システム動作中に点灯します。
(5) HDD インジケータ	DVR システムがレコーディング中、ライトは点滅し続けます。
(6)	DVR アプリケーションインターフェースおよび機能設定ウィンドウのカーソルを左右上下方向に動かします。 PTZ モードで、PTZ カメラのレンズを左右上下に移動
	青い領域にタッチして次または直前のフレームに移動します。 正方向に動かすと**次**のフレーム、逆方向は**前**のフレームです。
(7)	確認または選択
(8) 再生コントロールボタン	ビデオを 1/2 倍、1/4 倍、1/6 倍、1/8 倍、1/16 倍、または 1/32 倍の低速で再生します。
	ビデオ巻戻し
	再生のポーズ 再生の開始
	ビデオを 2 倍、4 倍、6 倍、16 倍、または 32 倍の高速で再生します。
(9) モード	プレビュー、再生、および EMap モードを切替えます。 ■ プレビューモードでは、ユーザは**プレビュー**、**再生**および **EMap** モードに切り替え可能です。 ■ 再生モードでは、ユーザは**プレビュー**および**再生**モードを選択可能です。 ■ EMap モードでは、ユーザは**プレビュー**および **EMap** モードを選択可能です。

名称	機能
(10) メニュー	プレビューモードでシステム設定メニューを呼出し 再生モードで再生メニューを呼出し
(11) USB 2.0 ポート	以下の USB 機器等を接続するための USB 2.0 ポートが 2 つ。 USB フラッシュドライブ、外付けハードディスク、マウス等。
(12) FN	多重システム制御用ファンクションキーです。FNを押すと FN モードが使用可能になります("FN の文字が画面の左下隅に表示されます・)。 FN モードを終了するには、FNを再度押します。 FN + 1 : シングルスクリーン表示モードに切替え FN + 2ABC : 4 画面表示モードに切替え FN + 3DEF : 9 分割画面表示モードに切替え FN + 4GHI : 16 分割画面表示モードに切替え FN + 5JKL : 1 つのシングルスクリーンおよび 7 + 1 分割スクリーン表示モードに切替え FN + 6MNO : 1 つのシングルスクリーンおよび 12 + 1 分割スクリーン表示モードに切替え FN + 7PQRS : チャンネル自動切換えサイクルの有効化/無効化 FN + 8TUV : フルスクリーン表示モードに切替えます。 再び押すと、もとの表示モードに戻ります。
(13) 数字ボタン	1 ~ EN +10 - **再生およびプレビューモードでチャンネルカメラを選択する番号です。** 10 を超えるチャンネルでは、EN +10を押してから 1 ~ 6MNOを押します。 - FN ボタンを押すと異なる表示モードに切替え可能です (1 ~ 6MNO)。 - PRESETボタンを押すおよび番号ボタン(1 ~ 9WXYZ)を押すと、PTZ モードのプリセット位置を設定できます。
(14) PRESET	ユーザが望む位置に PTZ レンズを修正します。 次に、PRESETと番号ボタンを押して PTZ カメラのプリセット位置を設定します。
(15) AUTO PAN	選択済みカメラグループのプリセット位置番号により、PTZ カメラを自動的に操作します。 ⓘ プリセット位置を設定していない場合、プリセットボタン(AUTO PAN)を押しても機能しません。 プリセット位置の設定の詳細は、 3.7 章を参照してください。
(16) Speed + / Speed −	SPEED + PTZ カメラレンズの動作スピードの上昇 SPEED− PTZ カメラレンズの動作スピードの減速
(17) Focus + / Focus −	FOCUS + PTZ カメラレンズの焦点をイン側に調整する FOCUS− PTZ カメラレンズの焦点をアウト側に調整する
(18) Zoom + / Zoom −	ZOOM + PTZ カメラレンズのズームイン ZOOM− PTZ カメラレンズのズームアウト

1.3.2　バックパネル

名称	機能
(1) ビデオのループアウト (16CH)	ビデオ信号を CCTV モニタに出力
(2) ビデオ入力	ビデオカメラの信号を入力し、チャンネル 1 から 16 に表示
(3) オーディオ入力およびスポットモニタ	オーディオ信号をオーディオ入力機器(16 チャンネル)に入力し、アラームビデオ(2 チャンネル)を受信時にスポットモニタのビデオを表示します。

オーディオ入力機器には別途電源装置が必要です。

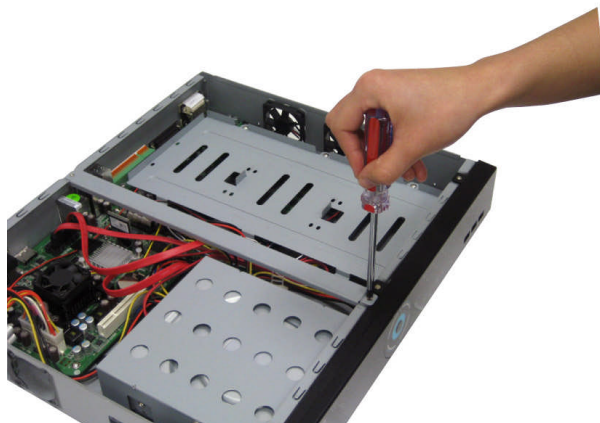
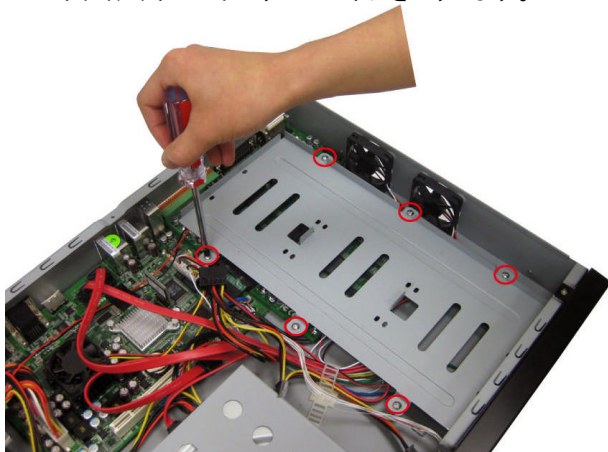
名称	機能
(4) リレー出力	リレー出力 4 点(接点容量: 125V AC/30V DC で 1A)
(5) センサー入力	センサー入力 16 点
(6) マイク入力	マイクを接続
(7) USB ポート	フラッシュドライブ、外部 USB ハードディスク、マウス、キーボード等の USB インターフェース機器接続用
(8) eSATA インターフェース	e-SATA ストレージ接続用
(9) VGA 出力	ビデオ信号のモニター出力
(10) RS485	PTZ カメラおよび System Controller Pro の接続用
(11) 電源プラグ	電源コードの接続コネクター
(12) RS232 ポート	POS 機器との接続用
(13) LAN ポート	ギガビットイーサネット接続用
(14) スピーカ	スピーカ出力端子

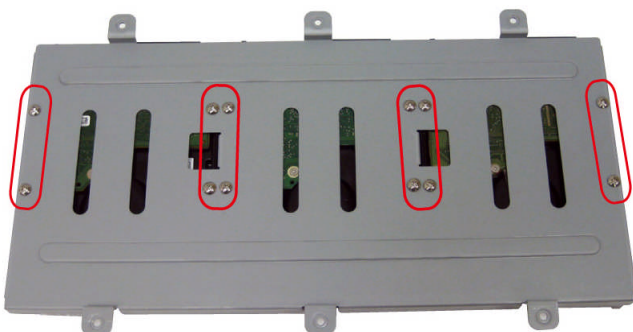
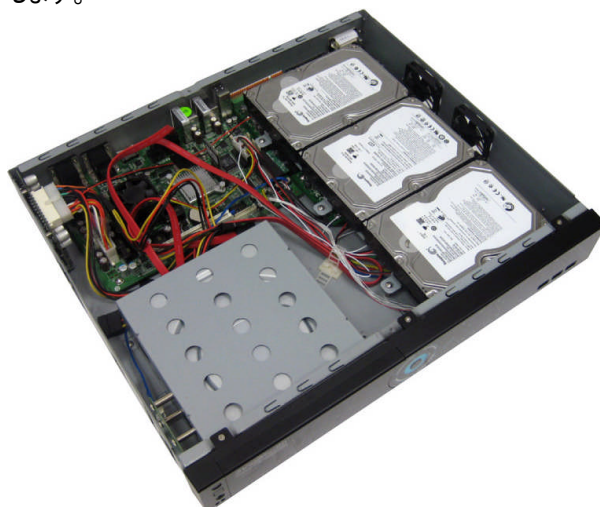
第2章　　　　　ハードウェアの取付

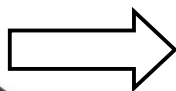
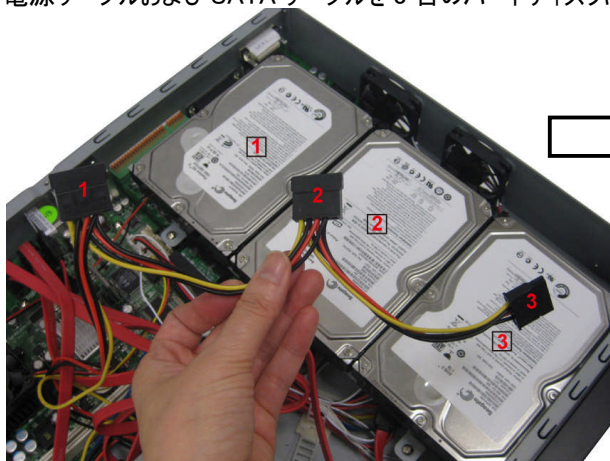
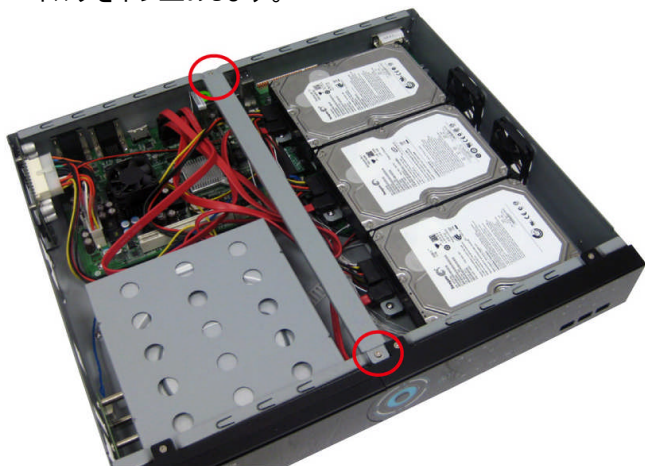
2.1　　HDD を取り付ける

DVR ユニットには最大 3 つのハードディスクを接続可能です。以下の図の説明に従い、ハードディスクを装着します。

1. (両側面および背面)のすべてのネジを緩め、カバーを後ろに押しながら上部に持ち上げてケースカバーをはずします。

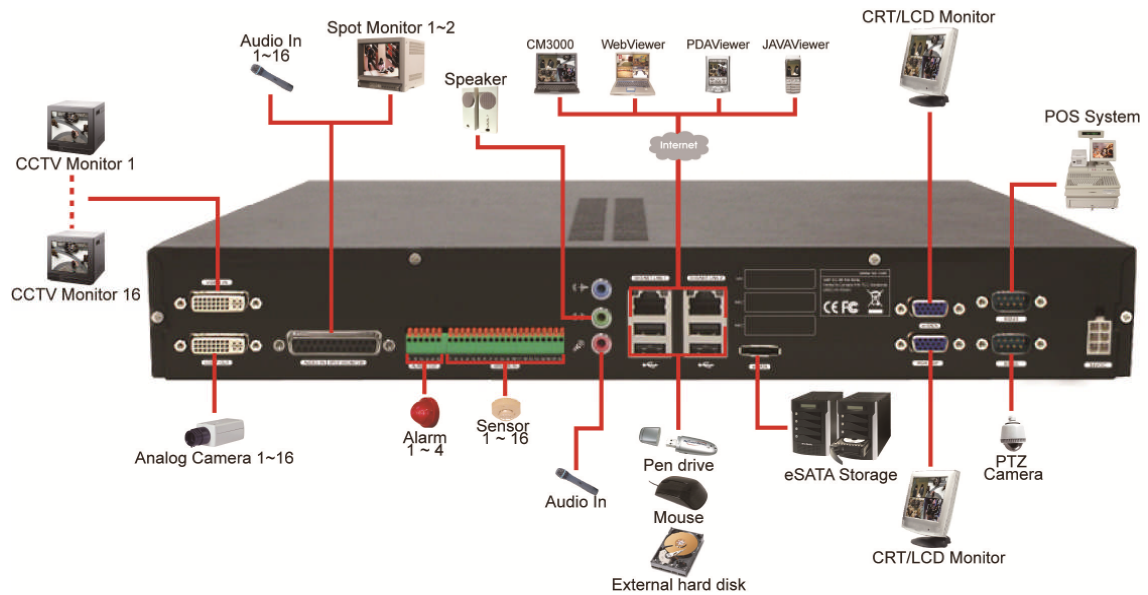
2. ホルダのネジを外すことによりハードディスクの装着が容易になります。

3. ハードディスクプレートのすべてのネジをはずします。

4. ハードディスクプレートにはハードディスクを 3 台装着可能です。 ユーザはハードディスクを装着する位置を選択可能です。

5. プレートおよびハードディスクを慎重に裏返し、ハードディスクをプレート上に固定します。 ハードディスクがネジ穴に合っていない場合、ハードディスクの位置を調整してネジ穴に合わせます。

6. ハードディスクをDVRユニットの内側にしてプレートをネジ止めします。

- DVR 中のプレートのネジを外しやすくするため、左端の HDD の SATA ケーブルをはずすことができます。
- 簡単に接続するため、電源ケーブルおよびSATAケーブルを移動できます。

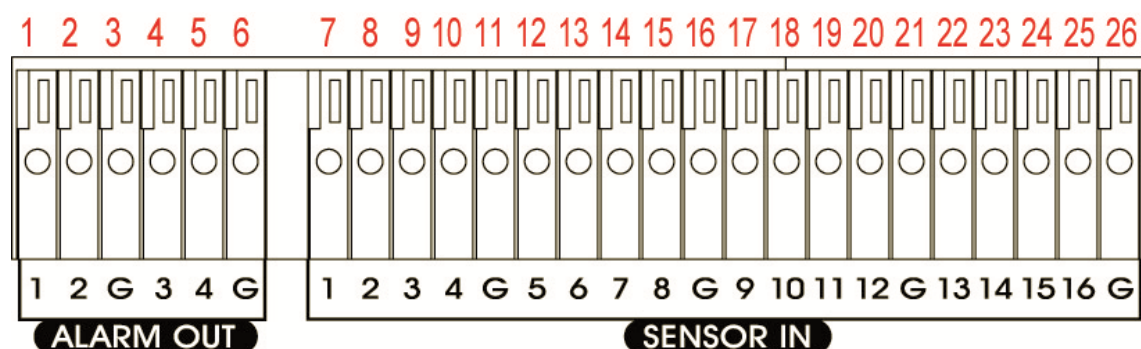
7.　電源ケーブルおよび SATA ケーブルを 3 台のハードディスクに接続します。

8.　ホルダをネジ止めします。

9.　カバーを前方に押し、カバーを固定します。

10.　これで DVR ユニットにすべてのケーブル電源を接続できます。

2.2 周辺機器の接続

DVR ユニットの背面には、アナログカメラを最大 16 台接続可能です。 DVR ユニットには 16 台のセンサー機器、4 台のアラーム機器が接続でき、出力用ビデオは 2 つの CRT/LCD モニターコネクタに接続可能です。 以下の図に従い、接続します。

録画済みビデオのバックアップは、USB フラッシュメモリーまたは外部ハードディスクを USB ポートにつなぎ、行うことができます。

2.3　センサー/リレーデバイスのピンホールの割り当て

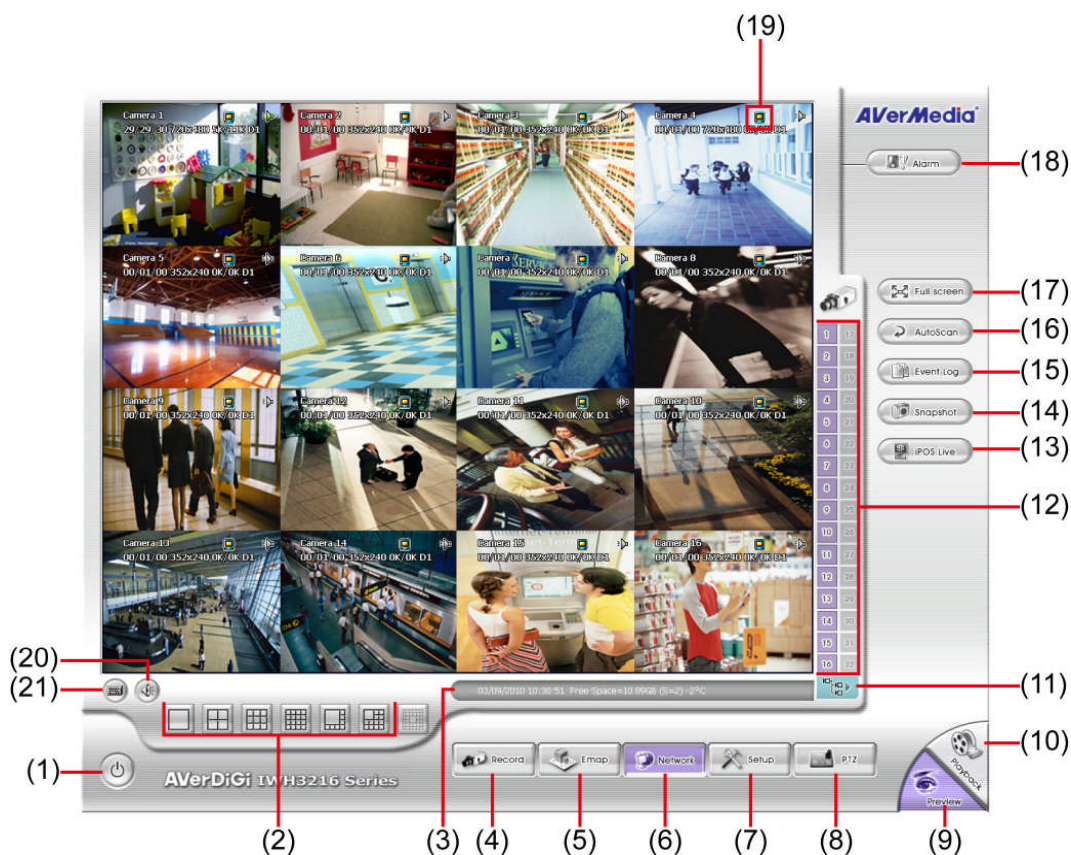
I/O カードを使用して、16 のセンサー入力および 4 つのリレー出力が可能です。 外部センサーおよびリレーのピンを直接 I/O カードのピンホールに接続します。 以下の表で、どのピンホールがセンサー入力およびリレー出力に割当てられているか確認します。

(赤外線センサー、煙探知機、近接センサー、ドアセンサー等の)センサーからの信号は I/O カードに転送され、これによりシステムにトリガがかかり、信号を(アラーム、電話等の)リレー機器に送信します。

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	リレー信号 1	14	センサー信号 7
2	リレー信号 2	15	センサー信号 8
3	リレーグラウンド	16	センサーグラウンド信号
4	リレー信号 3	17	センサー信号 9
5	リレー信号 4	18	センサー信号 10
6	リレーグラウンド	19	センサー信号 11
7	センサー信号 1	20	センサー信号 12
8	センサー信号 2	21	センサーグラウンド信号
9	センサー信号 3	22	センサー信号 13
10	センサー信号 4+	23	センサー信号 14
11	センサーグラウンド信号	24	センサー信号 15
12	センサー信号 5	25	センサー信号 16
13	センサー信号 6	26	センサーグラウンド信号

第3章　DVR ソフトウェアの使用法

3.1　DVR を初めて使用する

DVR に電源を初めて入れる際には、システムに CD キーを入力する必要があります。CD−キーを入力後、DVR は DVR アプリケーションのプレビューモードに入ります。 以下の章では、プレビュー、再生、および DVR アプリケーションのコンパクトモードの機能を説明します。

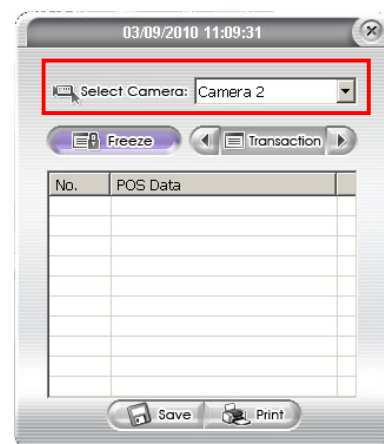
3.2　高度/プレビューモードでの機能ボタン

名称	機能
(1) 終了	ログアウトダイアログボックスを表示させます。 ログアウトダイアログボックスでは次の各操作を行うことができます。

- DVR プログラムを閉じるには**終了**をクリックします。
- **再起動: DVR システムを再起動します。**
- 別のアカウントに切り替えるには **ログイン** をクリックします。

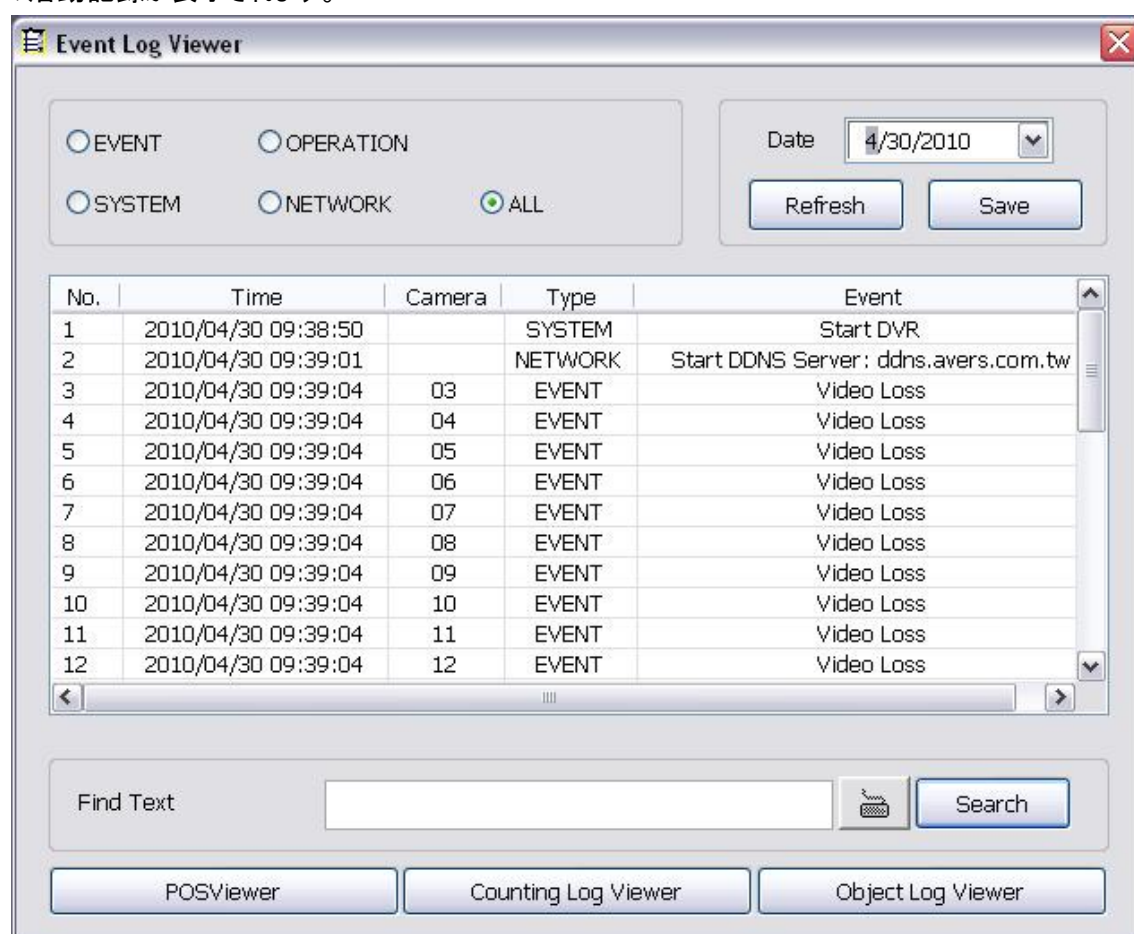
名称	機能
(1) 終了	- **バージョン情報: 現在の DVR プログラムのバージョンを表示します。 ユーザは DVR プログラムのファームウェアも更新できます。 更新ボタンをクリックし、更新するファームウェアファイルを指定します。** - コンパクトモードに切り替えるには **コンパクト** をクリックします。 - **ゲスト**: ゲストモードに切り替わります。ゲストモードでは、リモートコントローラーおよび DVR のコントロールパネルでしか DVR をコントロールできません。このときプレビュー機能と再生機能のみに限定されます。DVR の完全機能が必要な場合には、管理者としてログインしてください。 - ログアウトダイアログボックスを終了するには**キャンセル** をクリックします。
(2) 分割画面モード	7種類の分割画面モードを選択できます。

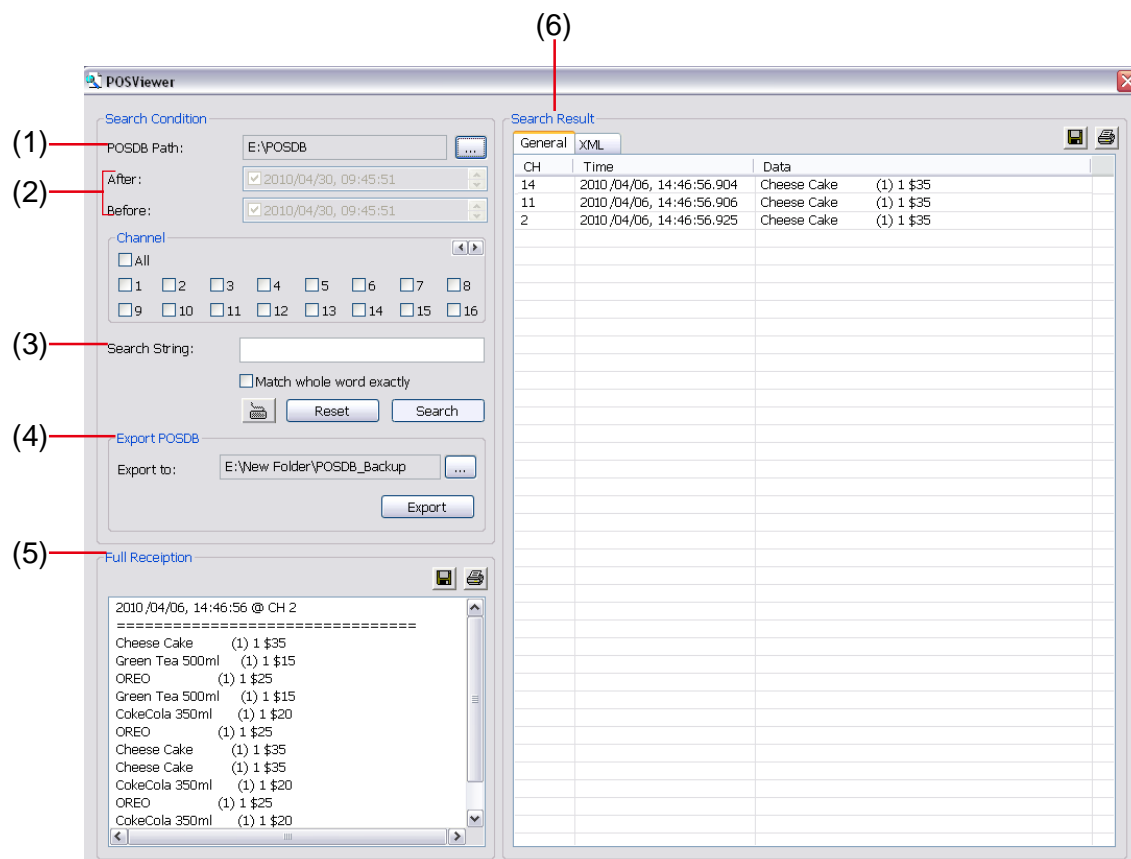
- カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。
- DVR アプリケーションを閉じる際に、DVR システムは現在の作動モード(分割画面モード、自動スキャン、フル画面、コンパクトモード状態)を記憶しており、次回ログインする際には、そのモードが適用されます。
- 単一画面表示モードでは、拡大したい部分の四角を**右クリック**して**ドラッグ**すると、拡大することができます。
- 複数画面表示モードでは、カメラのビデオ画面を**右クリック**して**ドラッグ**すると、希望の場所に再配置することができます。複数画面表示モードどれか一つの画面だけを表示させたい場合には、表示させたい画面を**左クリック**します。

名称	機能
(3) 状態バー	現在の時間、システム温度、およびハードディスクのフリースペースを表示します。
(4) 録画	Record をクリックすると録画が開始されます。録画中はこのボタンの色が紫になります。もう一度クリックすると、録画が停止します。
(5) E マップ	Emap をクリックすると、BMP または JPG フォーマットで、最大 8 個の 希望の電子地図をロードすることができ、カメラやセンサーやリレーを希望の位置に配置することができます。(第 3.6 章を参照).
(6) ネットワーク	Network をクリックすると、インバウンド接続が行えます。この機能が起動すると、このボタンの色が紫になります。もう一度クリックすると、インバウンド接続が停止します。
(7) 設定	初めてユニットを設定する際には、パスワードテキストボックスに「admin」とタイプしてアクセスしてください。 権限 ID及びパスワードを入力してください。 ユーザーID admin パスワード OK キャンセル Click Setup ボタンをクリックすると、カメラ、録画、ネットワーク、スケジュール、バックアップ、センサー、リレー、アラーム、ユーザー認定の各設定のコンフィギュレーションを行うことができます。
(8) PTZ	PTZ をクリックすると、PTZ 設定ダイアログが表示され、指定 PTZ カメラのコンフィギュレーションを行うことができます。(第 3.5 章を参照)
(9) プレビュー	プレビュー /高度モードに切り替わります。実況カメラ表示を行うことができます。Ctrl + F を押すと、実況プレビュービデオ画面を静止させることができます。このとき、**スナップショット**をクリックすると、静止したビデオ画面を保存することができます。
(10) 再生	再生モードに切り替わります。録画したビデオファイルを再生することができます。(第 3.3 章を参照)
(11) カメラグループ樹形図	ユーザーが設定したチャンネルグループの樹形図を表示します(第 4.2.4 章を参照)。グループの + をクリックして、グループを展開して、監視モニターにカメラをドラグして映像を見ることができます。カメラの + をクリックして、カメラの情報を一覧できます。

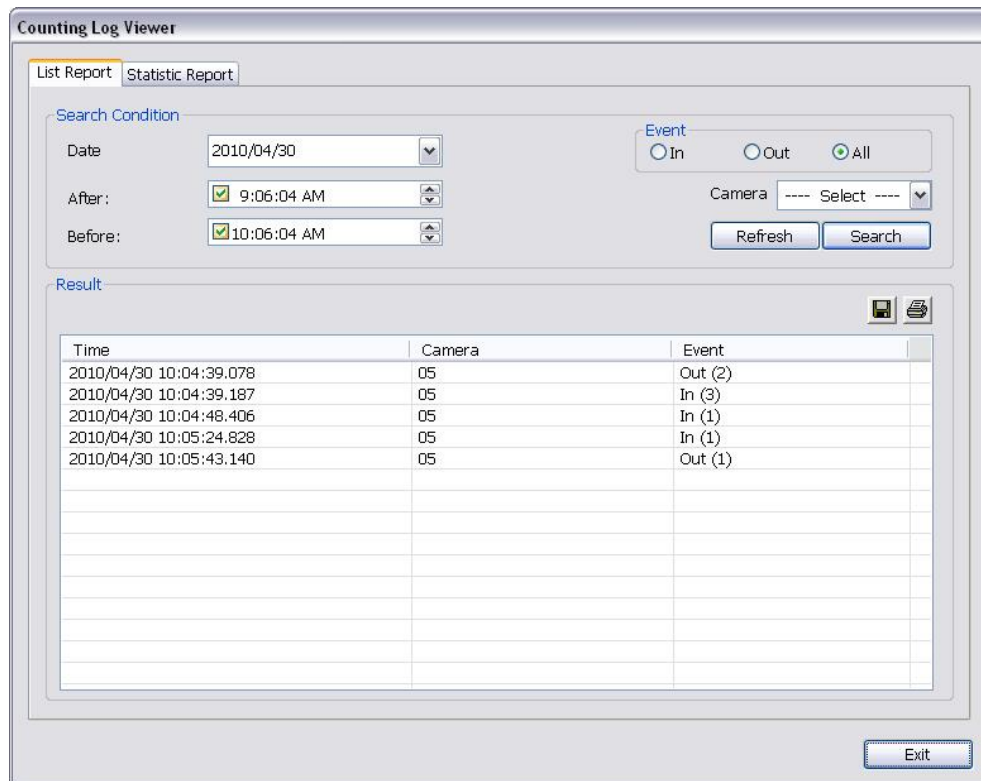
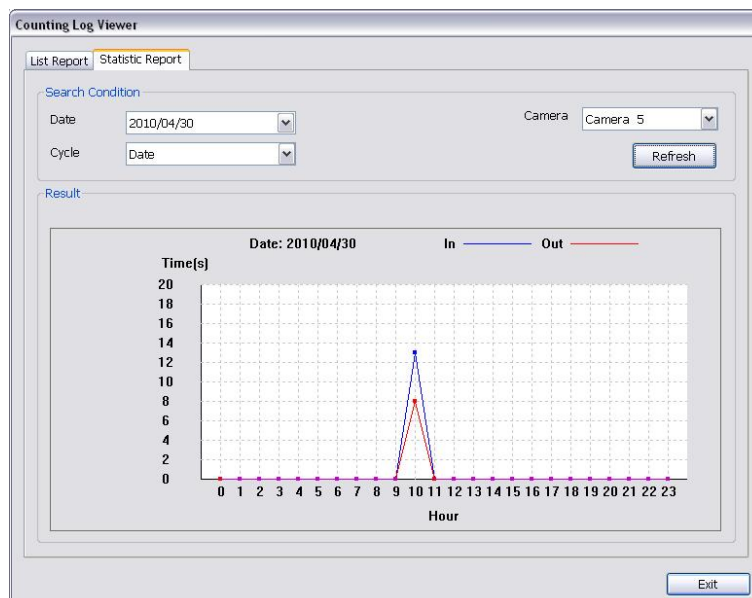
名称	機能
(12) カメラ ID	希望のアイコンをクリックすると、希望のチャンネルが再生されます。アイコンをクリックすると、アイコンは黄色に変化します。分割表示モードを指定してカメラ番号を指定すると、カメラのアイコングループ全体が黄色になります。
(13) iPOSLive	チャンネルのリアルタイム iPOS データが表示されます。iPOSLive をクリックすると、リアルタイム iPOS データウィンドウが表示されます。 iPOS ウィンドウの各チャンネルを、適切な位置へ、別々に移動させることができます。IPOSLive のマルチチャンネル（システム設定の iPOS Pro 設定を参照）を起動しなかった場合、一度に1つのチャンネルしか表示できません。 別のチャンネルに切り替えるには、**カメラを選択**ドロップダウンリストをクリックして、希望のチャンネルに切り替えます。iPOS データを一時的に静止させるには、**フリーズ**をクリックします。静止を解除するには、**トランザクション**をクリックします。
(14) スナップショット	録画画面を静止して、BMP または JPG ファイルで保存します。
(15) イベントログ	これをクリックするとイベントログビューアーダイアログボックスが表示され、イベント、作動、POS（販売時点情報管理）、システム、ネットワークの各ログを確認することができます。希望の日付とログ項目を選択すると、表にログデータがすべて表示されます。
(16) 自動スキャン	Alarm をクリックすると、アラームの状態または高度アラーム情報が表示されます。

名称	機能
(17) フル画面	画面全体にビデオのみが表示されます。マウスの右ボタン、キーボードの ESC、または矢印アイコンを押すと、元の画面に戻ります。 矢印アイコンをクリックするとフル画面表示モードが終了します。 複数画面モードでフル画面に切り替えた場合、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(18) アラーム	をクリックすると、アラームの状態または高度アラーム情報が表示されます。
(19) ライブ再生ボタン	をクリックして、プレビューモードで録画データをインスタント再生します(4.1 章の (9) その他も参照してください)。チャンネルがライブ再生モードの場合、アイコンはです。マウスをライブ再生チャンネルの下部へ移動すれば、再生制御バー ( ) が現れます。再生制御バーを使って、再生を制御します。ライブ再生を同時に行う場合、最大 4 チャンネルまで対応可能です。
(20) 音量	適当な音量になるように調整します。
(21) オンスクリーンキーボード	外部キーボードが使用できない場合、バーチャルキーボードを使用することができます。

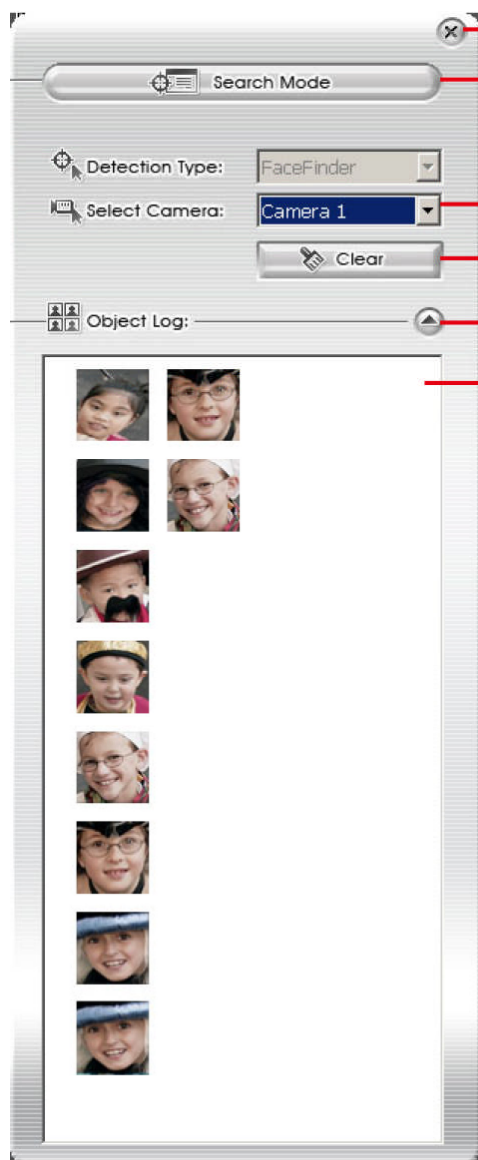
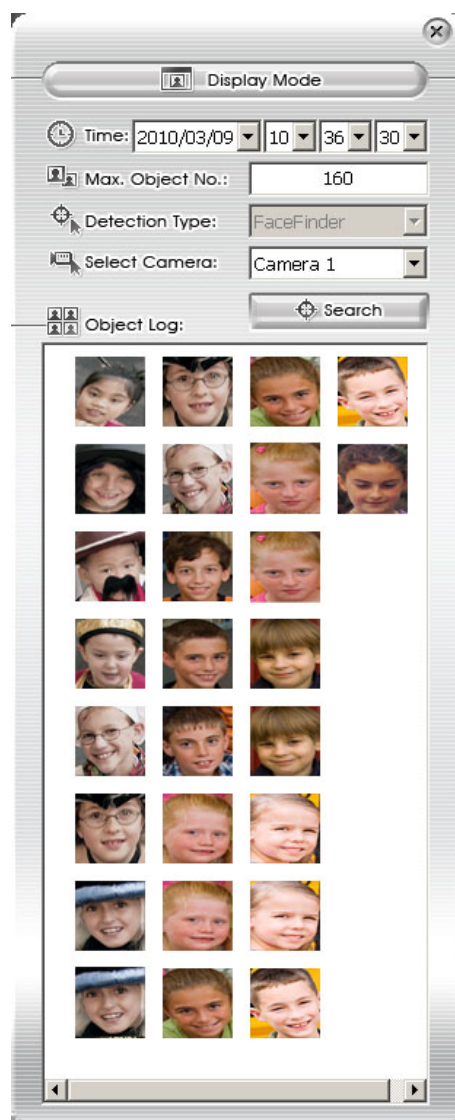
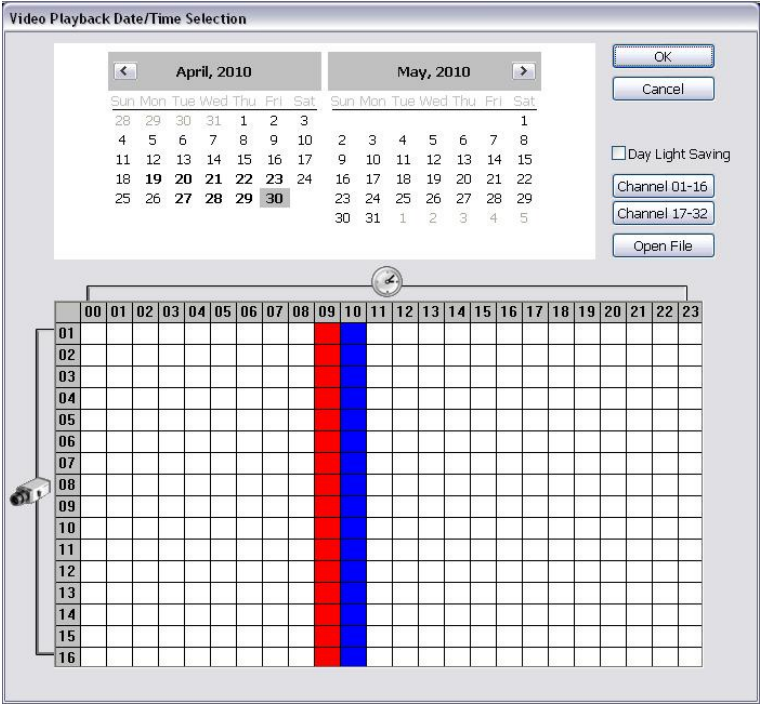
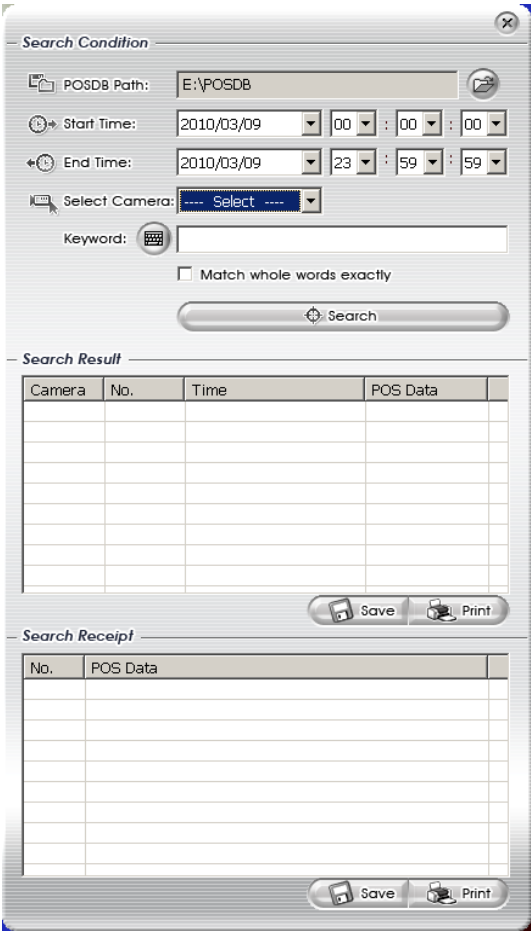
3.2.1 イベントログビューアーの使用法

システム内の活動記録が表示されます。

1. DVR システムメインインターフェースでイベントログボタンをクリックすると、イベントログビューアーウィンドウが開きます。
2. 見たい日付を選択するか、キーワードで特定のイベントログを検索します。**テキストを検索**カラムにキーワードを入力し、**検索**ボタンをクリックします。.
3. 記録をフィルターするには、選択ボタンを選択してクリックすると、「イベント」、「システム」、「作動」、「ネットワーク」、「すべて」が表示されます。
4. 画面に表示されたイベントリストは、テキストファイルフォーマットで保存できます。イベントリストを保存するには、**保存**ボタンをクリックします。
5. POS イベントログを表示するには、**POS ビューアー**バーをクリックして POS イベントログウィンドウを呼び出します（第 3.2.1.1 章節を参照）。
6. 物体計数情報を表示するには、**計数ログビューアー**をクリックします（第 3.2.1.2 章節を参照）。
7. 顔面検出ログを表示するには、**物体ログビューアー**をクリックします（第 3.2.1.3 章節を参照）。

3.2.1.1　POS ビューアーの使用法

名称	機能
(1) POS データベース先	POS イベントログの保存先。… をクリックすると、保存先を変更することができます。
(2) 前/後	POS イベントログの前と後の期間を設定します。
(3) チャンネル	チャンネルの POS イベントログを選択します。
(4) 文字列の検索	特定のキーワードまたは文字列を入力して、POS イベントログを検索します。POS イベントログで完全に一致したキーワードや文字列を検索する場合には、「**完全に一致する語を検索**」ボックスにマークを入れてください。
(5) POS データベースの出力	POS データベースをエクセル形式で、指定した保存先へ保存することが出来ます。… をクリックして、保存先を変更します。指定した保存先に POS のデータベースを保存するには、**エクスポート(Export)**ボタンを押してください。
(6) フルレセプション	検索結果ウィンドウから選択された POS イベントログの詳細が表示されます。をクリックすると POS イベントログが保存されます。をクリックすると POS イベントログが印刷できます。
(7) 検索結果	検索結果の POS イベントログが表示されます。をクリックすると検索結果が保存されます。をクリックすると検索結果が印刷できます。

3.2.1.2　計数ログビューアーの使用法

イベントログビューアウィンドウ上の**ログビューアのカウント**ボタンをクリックして、カウント対象のリストおよび統計レポートを、検索および表示します。 オブジェクトのカウント機能が使用可能になっていない場合、データーは表示されません。 オブジェクトのカウント設定に関する詳細は、4.2.1 章を参照してください。

1. **日付**（Date）を選択して、物体計数検索の期間は**検索開始時間**（After）と**検索終了時間**（Before）を設定します。
2. 検索したい**イベント**（**イン、アウト、全部**）を選択します。
3. 検索したいカメラ（特定カメラ或いは全部）を選択します。
4. **検索**ボタンをクリックして、検索を開始します。
5. 検索結果は**結果**の表に表示されます。
6. をクリックして、検索結果を保存します。
7. をクリックして、物体計数のログリストを印刷します。
8. **統計レポート**のタブをクリックして、物体計数の分析レポートを表示します。
9. **日付、カメラ、サイクル**を選択して、物体計数（イン・アウト）のレポートを表示します。

3.2.1.3　オブジェクトビューアーの使用法

イベントログビューアウィンドウ上の**オブジェクトのログビューア**ボタンをクリックして、FaceFinder ログを検索します。 FaceFinder 機能が使用可能になっていない場合、検索および表示するデータは存在しません。 FaceFinder の設定に関する詳細は、4.2.2 章を参照してください。

名称	機能
(1) 終了	これをクリックするとオブジェクトログビューアーウィンドウが閉じます。
(2) 検索モード	顔オブジェクトログ検索モードに切り替わります。**時間とカメラ**を選択して、オブジェクトを検索します。 結果は**オブジェクトログ**ウィンドウに表示されます。
(3) カメラ選択	表示するカメラに切り替えたり、全部のカメラを表示します。
(4) クリア	オブジェクトログリストのオブジェクトログをすべてクリアします。
(5) クローズアップ	これをクリックするとオブジェクトログリストがクローズアップされます。
(6) オブジェクトログリスト	顔オブジェクトログが表示されます。32 個のオブジェクトログを表示できます。リストが一杯の場合には、オブジェクトログの最初の行が入れ替わります。

3.3 再生モードの機能ボタン

再生モードに切り替えるには、高度/プレビューモードユーザーインターフェースの右下にある**再生**ボタンをクリックします。

名称	機能
(1)分割画面モード	全カメラの録画済みビデオファイルを再生する際に、6 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。

カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、13、16 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。
画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を**右クリック**して**ドラッグ**してください。

名称	機能
(2) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(3) 時間ボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。

時間ボタンは、24 時間時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。

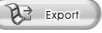
名称	機能
(4) 再生コントロールボタン	各ボタンの意味は左から順に次のとおりです **最初:** ビデオファイルの最初に戻ります。 **コマ戻し**: 以前のフレームに戻ります。 **スロー再生**: ビデオファイルの再生速度を 1/2x、1/4x、1/8x に遅くします。 **巻き戻し**: ビデオファイルを巻き戻します。 **一時停止**: ビデオファイルの再生を一時停止します。 **再生**: ビデオファイルを再生します。 **早送り:** ビデオファイルの再生速度を 2x、4x、8x、16x、32x 倍速度で再生します。 **コマ送り**: 次のフレームに進みます。 **最後:** ビデオファイルの最後に進みます。

名称	機能
(5) 日付	00 から 23 までの数字で選択します。 – **ファイルを開く**: HDD より録画データを開きます。 – チャンネル 01 から 16 およびチャンネル 17 から 32: 再生カレンダーの異なるチャンネルグループに切替えます。 DVR システムがサポートするチャンネルが 16 以下の(16 を含む)場合、チャンネルグループの切替えボタンは機能しません。 – **サマータイム**: サマータイム期間の録画データを再生カレンダーに表示します。

00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 16 までの数字は、カメラ ID です。青いカラムは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いカラムは、録画済みビデオファイルの再生が始まる場所を示しています。

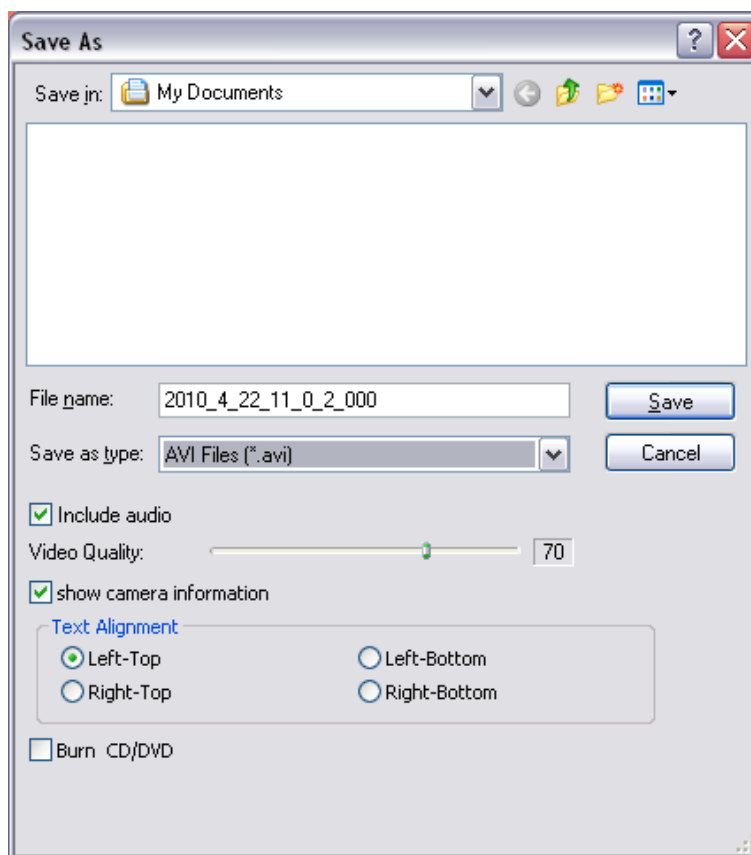
名称	機能
(6) プレビュー	プレビューモードに切替えます。 ユーザはプレビューモードで、モニタ、レコーディング、および構成が可能です。
(7) 再生	再生モードに切替えます。 ユーザはレコーディング済みビデオの再生、ビデオセグメントの出力、および再生する特定のビデオクリップの検索が可能です。
(8) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。
(9) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。

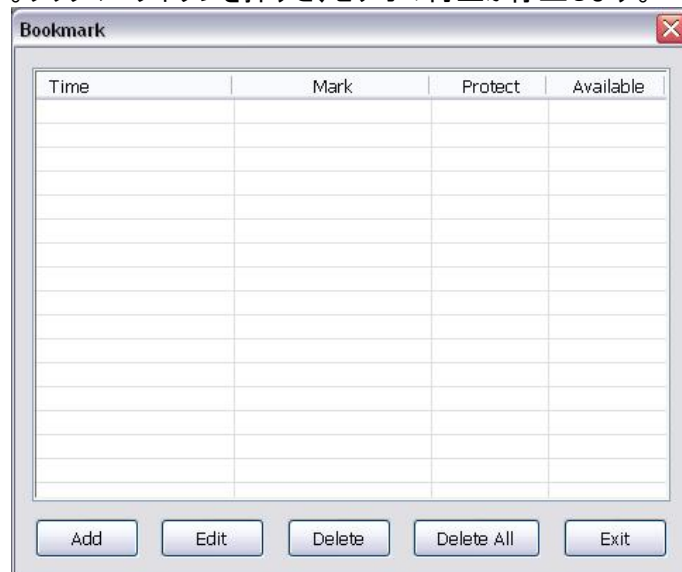
名称	機能
(10) iPOS 検索	キーワード或いは期間を入力して、iPOS のイベントを検索します。 **POSOB 先**: iPOS データの保存先 **開始時間**: 検索開始の日時を選択します。 **終了時間**: 検索終了の日時を選択します。 **カメラ選択**: 検索したい iPOS イベントのカメラを選択します。 **キーワード**: キーワードを入力して、iPOS のイベントを検索します。 - **全文字一致**: キーワードに 100%一致する iPOS のイベントを検索します。 検索結果は検索結果ウィンドウズに表示します。特定の iPOS イベントをクリックすることで、レシートウィンドウズに iPOS の詳細内容が表示されます。 検索結果を保存するには、**保存**ボタンを押します。検索結果を印刷したいときは、**印刷**ボタンを押します。 選択した iPOS の検索レシートを保存するには、**保存**ボタンを押します。選択した iPOS イベントの詳細内容を印刷したい時は、**印刷**ボタンを押します。
(11) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれます。 ■ **スナップショット**: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ **印刷**: 画面ショットを印刷します。 ■ **ビデオクリップ出力**: *.mpg、*.avi または*.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.3.1 章を参照)。 ■ **バックアップ**: 再生ファイルを USB デバイスまたは DVD-ROM ディスクに保存します(第 4.6 章バックアップの設定を参照)。
(12) セグメント	録画済みもにビデオの一部分を保存します(第 3.3.1 章を参照)。

名称	機能
(13) フルスクリーン	画面全体にビデオのみが表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すか、矢印アイコンを押すと、元の画面に戻ります。 矢印をクリックして、フル画面モードを終了します 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(14) イベントログ	システムのアクティビティの記録を表示します。記録をフィルターするには、オプションボタンを選択してクリックすると、イベント、システム、操作、ネットワーク、POS のみが表示されます。
(15) ブックマーク	録画済みもにビデオファイルの再生中に、後でもう一度見たい箇所があったら、参照ポイントマークを付けることができます。これを設定するとファイルを保護することもできます(第 3.3.2 章を参照)。
(16) ビジュアル検索	特定のカメラで、日付、時刻、分、10 秒、秒で検索します(第 3.3.3 章を参照)。
(17) 次を検索	次のイベントまたは動作検知器フレームの変更を検索します。インテリジェント検索やイベント検索機能でもこれを使用することができます。
(18) イベント検索	システムで記録されたアクティビティ(センサー、動作、ビデオ消失、POS など)を検索します(第 3.3.4 章を参照)。
(19) インテリジェント検索	動作検知器フレームの変更を検索します(第 3.3.5 章を参照)。
(20) 音声	音声のオン/オフをします。
(21) インターレース除去	ビデオの画質を改善します。キャプチャーした画像が動きのない画像のときにはインターレース除去モードを#1 に、動きの多い画像のときには#2 に設定してください。

3.3.1 録画済みビデオで希望の部分を切り取って保存する

1. 再生コントロールボタンを使用するか、再生進行バー上のバーをドラッグして、切り取りを開始したい場所で一時停止させます。次に、**セグメント**( )をクリックして開始マークを設定します。
2. 再生コントロールボタンを使用するか、再生進行バー上にバーをドラッグして、切り取りを終了したい場所で一時停止させます。次に、**セグメント**( )をクリックして終了マークを設定します。分割をキャンセルする場合や分割を初めからやりなおしたい場合には、もう一度**セグメント**( )ボタンをクリックします。

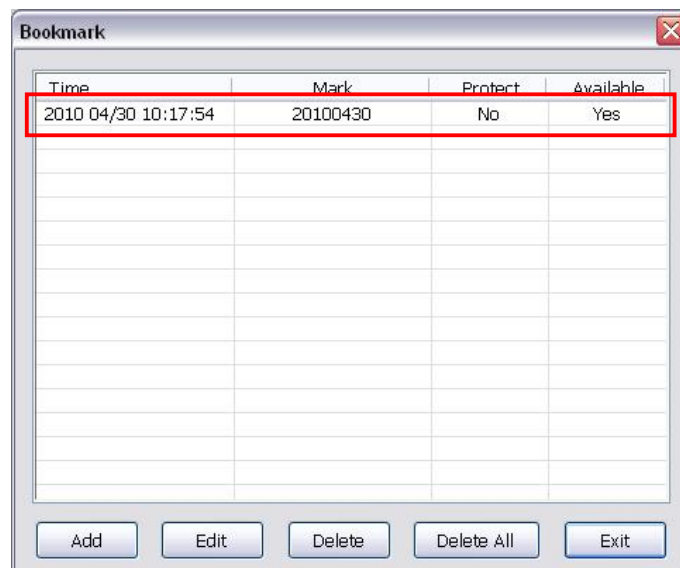
3. **エクスポート**( ) > **ビデオクリップ出力**ボタンをクリックすると、必要な部分が保存されます。
4. 「名前を付けて保存」ダイアログボックスでファイルを保存したいフォルダを見つけて、ファイル名を入力し、ビデオフォーマットを選択します。VCD/DVD ROM へ**焼く**(Burn)場合、ビデオフォーマットは.*mpeg のみ対応です。
5. 再生する時のファイルタイプとカメラ情報の表示位置を選択します。カメラ情報とは、ユーザーがネットワーク設定時に定義したサーバー名です。
6. *.avi ファイルを選択したとき、もし出力するビデオセグメントへ音声も入れたい場合、**音声含む**(**Included audio**)にチェックを入れてください。
7. 必要な時、映像品質(Video Quality)を調整してください。
8. **保存**(**Save**)をクリックしてビデオセグメントを保存します。

セキュリティの維持の為、右クリックの機能は無効です。

3.3.2　　ビデオの一部分にブックマークを付ける

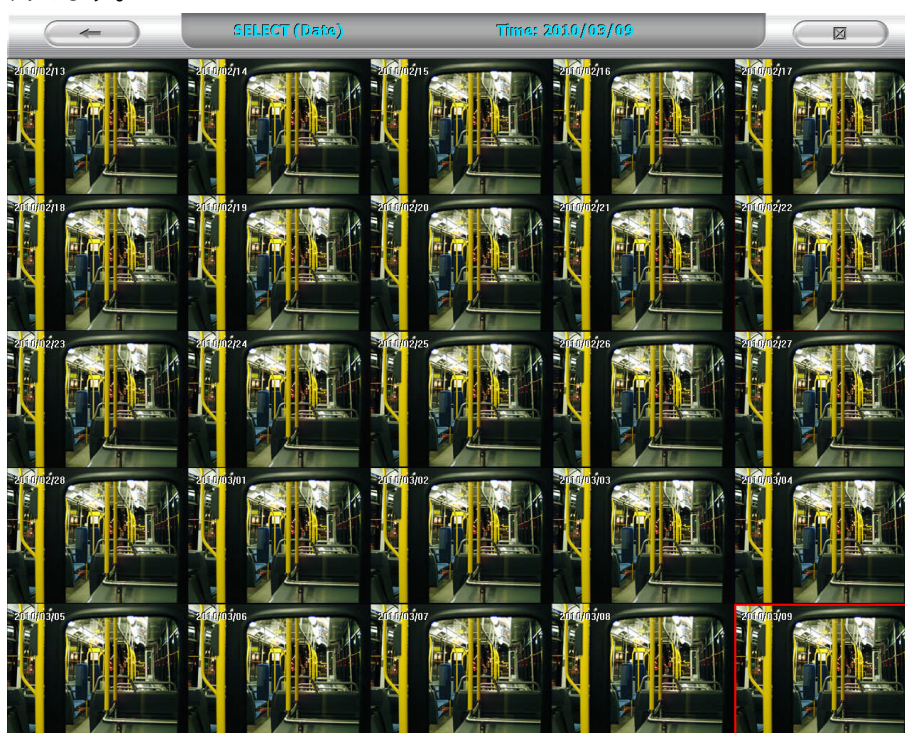
1. **ブックマーク**をクリックします。ブックマークボタンを押すと、ビデオの再生が停止します。

2. ブックマークダイアログボックスでは、以下の操作を行うことができます。
   - **追加**で、ブックマークリストに参照マークを追加することができます。このときファイル保護を可能にしたり解除することができます。　ブックマークエディタウィンドウで、ユーザはこのマークの名前を指定できます。 ユーザは**ファイルプロジェクト**を選択して、ブックマークファイルが削除されないようにできます。

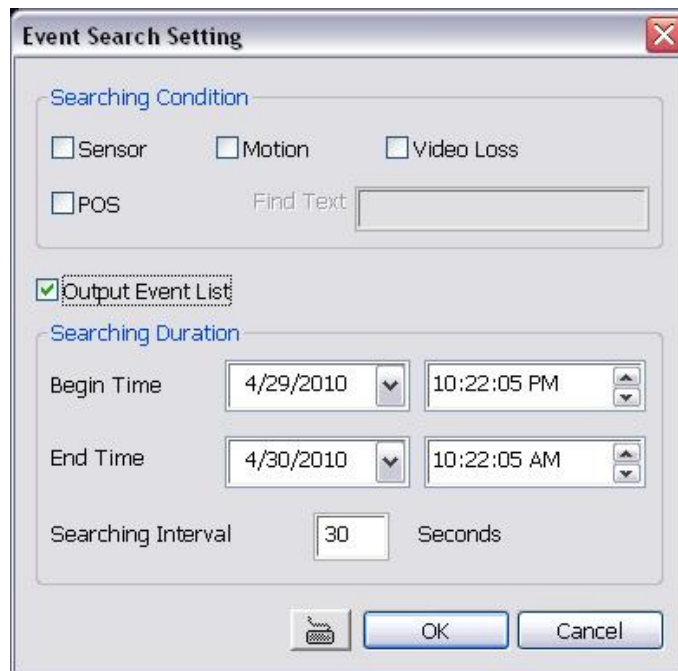
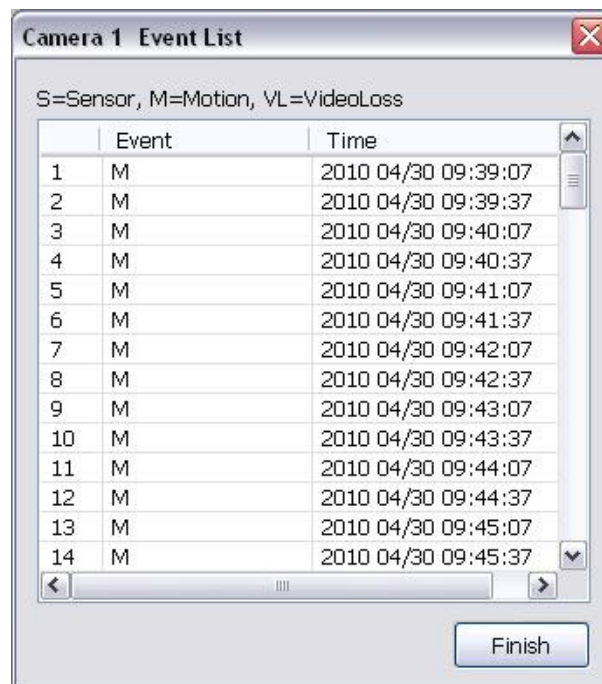
- ブックマークが保護されて状態では、ファイルを上書きすることができません。
- **システム設定**で **録画済みデータを削除**を選択すると、保護されているブックマークファイルが削除されます(4.1 システム設定も参照のこと)。

   - **編集**で、マークの説明を変更したり、ファイル保護を可能にしたり解除することができます。
   - **削除**で、リスト中で選択した参照マークを削除することができます。
   - **すべて削除**で、リスト中の参照マークをすべて削除することができます。
   - **終了**で、ブックマークダイアログボックスが閉じます。

3. ブックマークのいずれかを選択してクリックすると、ファイルをプレビューすることができます。

3.3.3 ビジュアル検索を使用して検索する

1. ビジュアル検索をクリックします。
2. ビジュアル検索設定ダイアログボックスで、カメラ番号と日付を選択し、OK をクリックします。

3. 日付順に一連のフレームが表示されているときに、フレームをクリックすると、別の一連のフレームが表示されますので、1 日のうちで 1 時間ごとに、その 1 時間内で 1 分ごとに、その 1 分間で 10 秒ごとに、その 10 秒間で 1 秒ごとに、検索を行います。前に戻るには をクリックします。選択したフレームから表示させたり、イベント検索を終了するには、 をクリックします。

3.3.4　　　イベント検索を使用して検索する

1.　ビデオ画面上で、検索したい部分をクリックします。

2.　**イベント検索**をクリックします。画面の左下に、イベント検索テキスト（赤）が表示されます。
3.　イベント検索設定ダイアログボックスで、検索したい条件タイプにチェックマークを入れます。POS を選択した場合、「テキストの検索」ボックスにテキストをタイプし、**OK** をクリックすると検索が開始されます。条件に一致したフレームでビデオ検索が停止します。検索を継続するには、 をクリックします。
4.　検索を行って検索結果を列記させることもできます。その場合は、**出力イベントリスト**ボックスにチェックマークを入れてください。「検索期間」セクションで、**開始時刻、終了時刻**、 **検索間隔**を設定し、**OK** をクリックすると検索が開始されます。
5.　イベントリストが表示されたら、表示させたい項目を選択してクリックしてください。

3.3.5　　インテリジェント検索を使用して検索する

1. ビデオ画面上で、検索したい部分をクリックします。
2. **インテリジェント検索**をクリックします。画面の左下に、インテリジェント検索テキスト（赤）が表示されます。
3. インテリジェント検索設定ダイアログボックスと動作検知器フレームが表示されたら、感度バーと動作検知器フレームサイズとその位置を調整することができます。動作検知器フレームサイズとその位置を設定するには、左クリックして画面内へドラッグします。次に OK をクリックすると検索が開始されます。条件に一致したフレームでビデオ検索が停止します。検索を継続するには、 Find Next をクリックします。
4. 検索を行って検索結果を列記させることもできます。その場合は、**リスト**ボックスにチェックマークを入れてください。「検索期間」セクションで、**開始時刻、終了時刻、 検索間隔**を設定し、OK をクリックすると検索が開始されます。

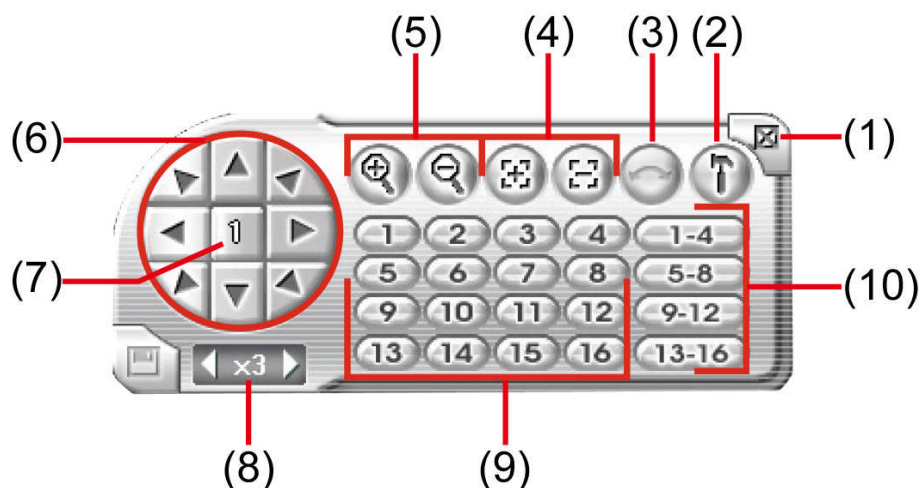
3.4　コンパクトモードの機能ボタン

コンパクトモードで見るには、**終了** ボタンをクリックします。ログアウトダイアログボックスで**コンパクト**をクリックしてください。

名称	機能
(1) 分割画面モード	全カメラを表示する 7 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。

- カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。
- 単一画面表示モードでは、拡大したい部分の四角を**右クリック**して**ドラッグ**すると、拡大することができます。
- 複数画面表示モードでは、カメラのビデオ画面を**右クリック**して**ドラッグ**すると、希望の場所に再配置することができます。複数画面表示モードでどれか一つの画面だけを表示させたい場合には、表示させたい画面を**左クリック**します。

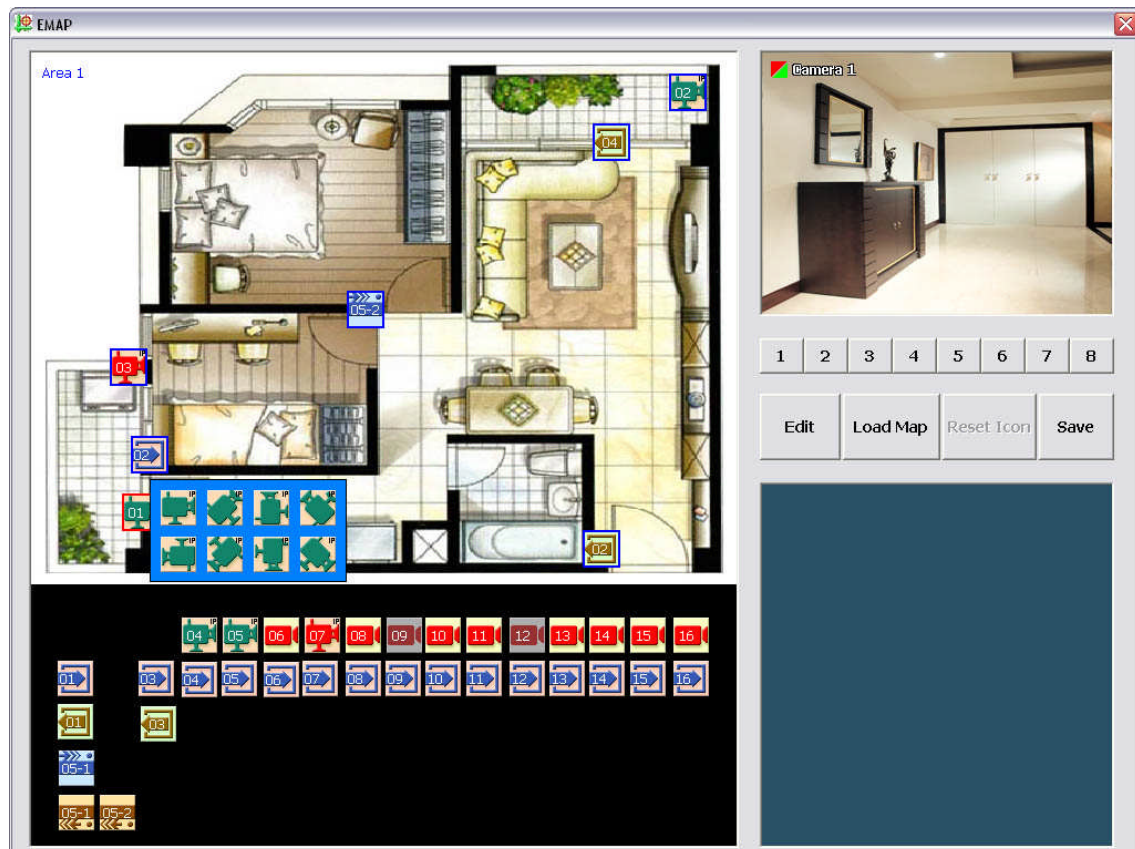
名称	機能
(2) 自動スキャン	ビデオ画面サイクルスイッチをオン/オフします。
(3) アラーム	警告情報を表示して警告を発します。
(4) 再生	再生モードに切り替わり、録画済みもにビデオファイルが再生されます(第 3.3 章を参照)。
(5) 高度	プレビュー　/高度モードに切り替わります。

3.5　　PTZ カメラコントローラーの機能ボタン

名称	機能
(1) 終了	PTZ カメラコントローラーを終了します。
(2) 設定	PTZ カメラをコンフィギュレーションします(第 3.7 章を参照)。
(3) 自動パン	選択されたカメラグループププリセット位置番号に従って PTZ カメラを操作します。
(4) ピント +/−	画像がはっきりに写るように、手動でピントを合わせます。
(5) ズーム +/−	画像を拡大または縮小します。
(6) 方向ボタン	PTZ カメラの焦点を調整して配置します。
(7) カメラ ID 窓	現在使用中の PTZ カメラ番号を表示します。
(8) カメラレンズ速度コントローラー	PTZ カメラレンズの移動速度を調整します。
(9) カメラプリセット位置番号	PTZ カメラをプリセット位置へ移動させます。
(10) グループ自動パン	全 PTZ カメラを一つのグループとして自動的に作動させます。

3.6　E マップの設定と使用法

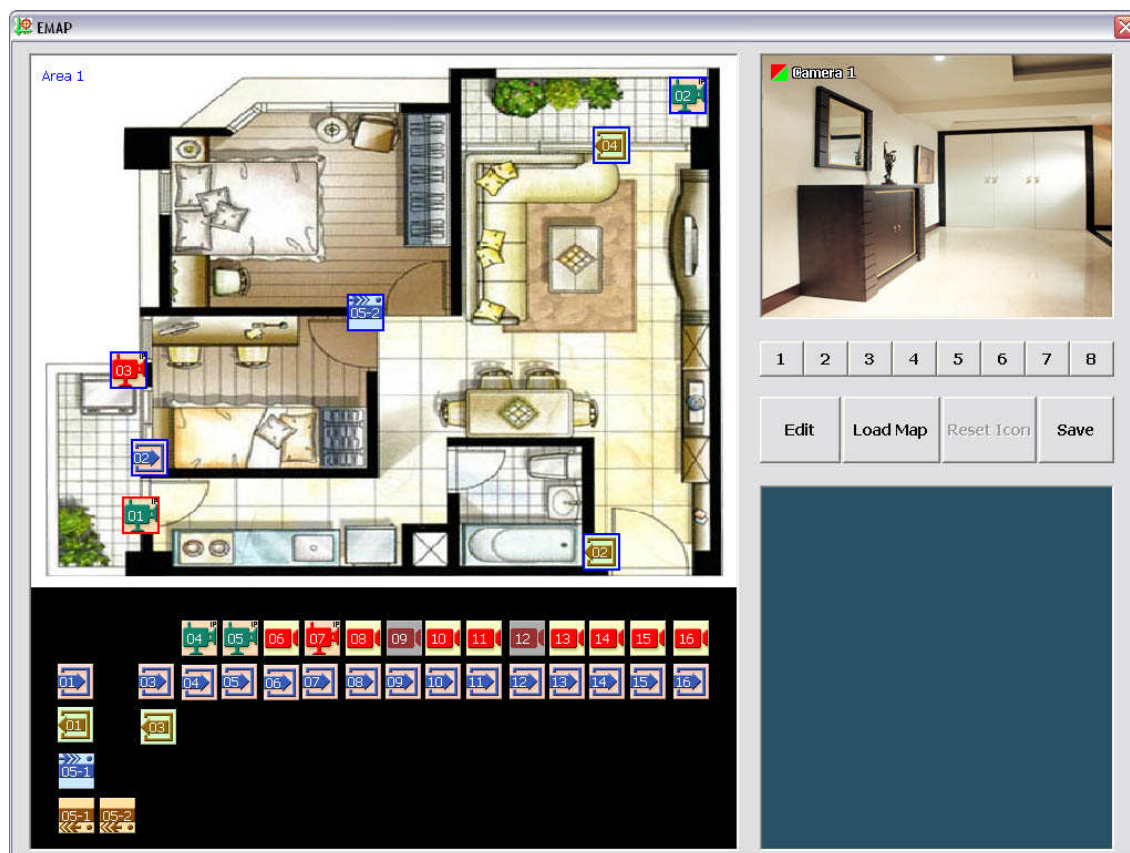
E マップは、*.bmp または*.jpg フォーマットであらかじめ作成しておきま。最大 8 個のマップを保存することができます。電子地図内にカメラやセンサーやリレーを配置させることができます。

3.6.1　E マップの設定

1. **E マップ**をクリックします
2. E マップ画面が表示されたら、マップを挿入したい場所のエリア番号（1 から 8 までのボタン）をクリックします。
3. **マップのロード**をクリックしてマップを挿入します。「開く」ダイアログボックスが表示されたら、電子地図を選択して、**開く**をクリックします。
4. 挿入した電子地図が E マップ画面に表示されたら、**編集**をクリックします。すると、カメラやセンサーやリレーのアイコンを、マップ上の各場所にドラッグすることができます。
5. アイコンは、マップ上でどこでも配置できます。カメラアイコンを右クリックすると、8 種類の角度のうちから、カメラの角度を選択することができます。
6. アイコンを電子地図上の別のエリアに配置しようとする場合、アイコンを、E マップ画面下の黒い窓へドラッグしてから、アイコンを配置したいエリアに切り替える必要があります。 全部のアイコンを E マップ画面下の黒い窓へ戻すには、**アイコンのリセット**をクリックします。

7. 作業が完了したら、**編集**ボタンをクリックして新しい設定を保存します。E マップ 画面を閉じるには、**X** をクリックします。

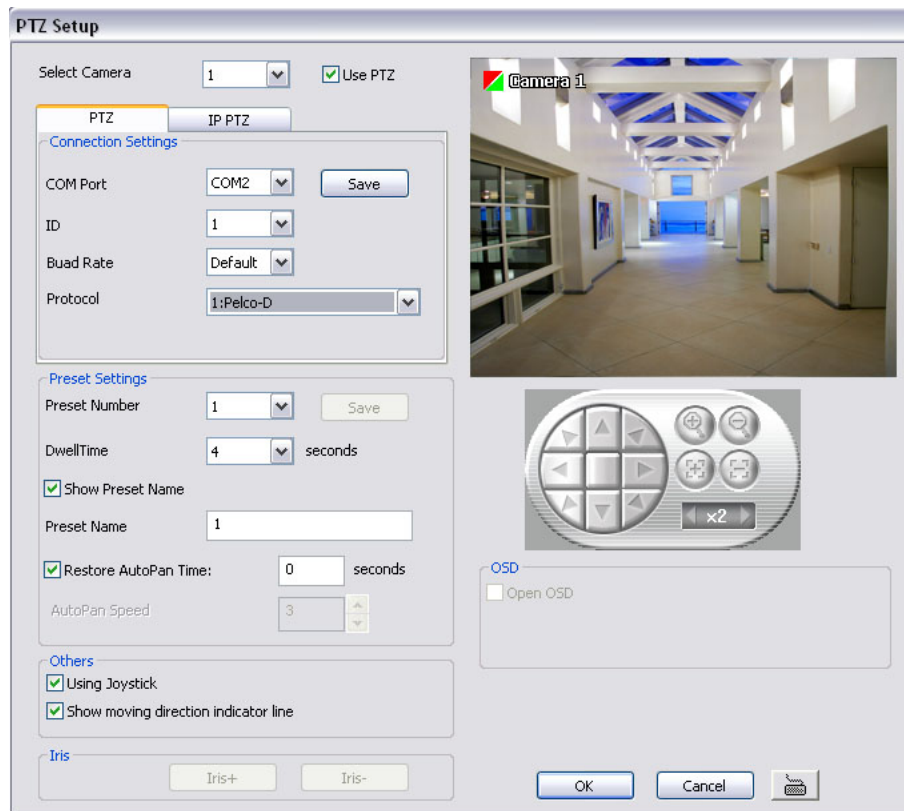
3.6.2 E マップの使用法

E マップ を使用するには、次の手順に従ってください。

1. **E マップ** をクリックします。
2. E マップ 画面で、カメラアイコンをクリックし、マップ上でカメラが配置されているエリアに切り替えると、E マップ画面の右上にビデオが表示されます。E マップ画面の右下に、警告メッセージがすべて列記されます。

3. リレーアイコンを右クリックして、リレー状態（オン、オフ、トリガー）を選択します。
4. 異なる E マップを見るには、E マップの数字ボタン（１～８）をクリックします。
5. X をクリックして E マップ画面を閉じます。

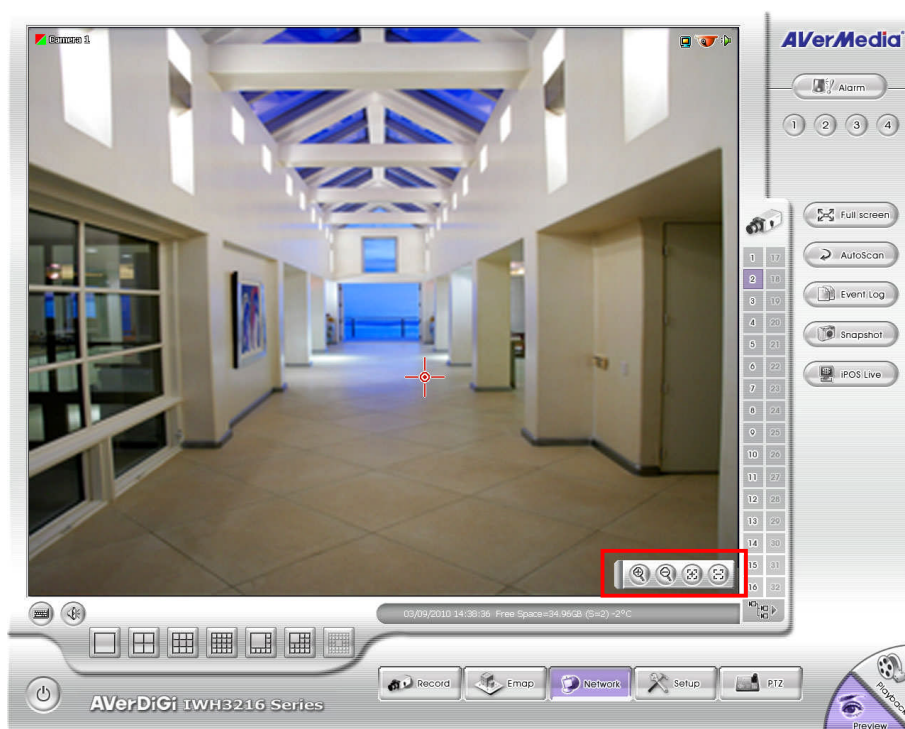
3.7 PTZ/IP PTZ カメラの設定方法

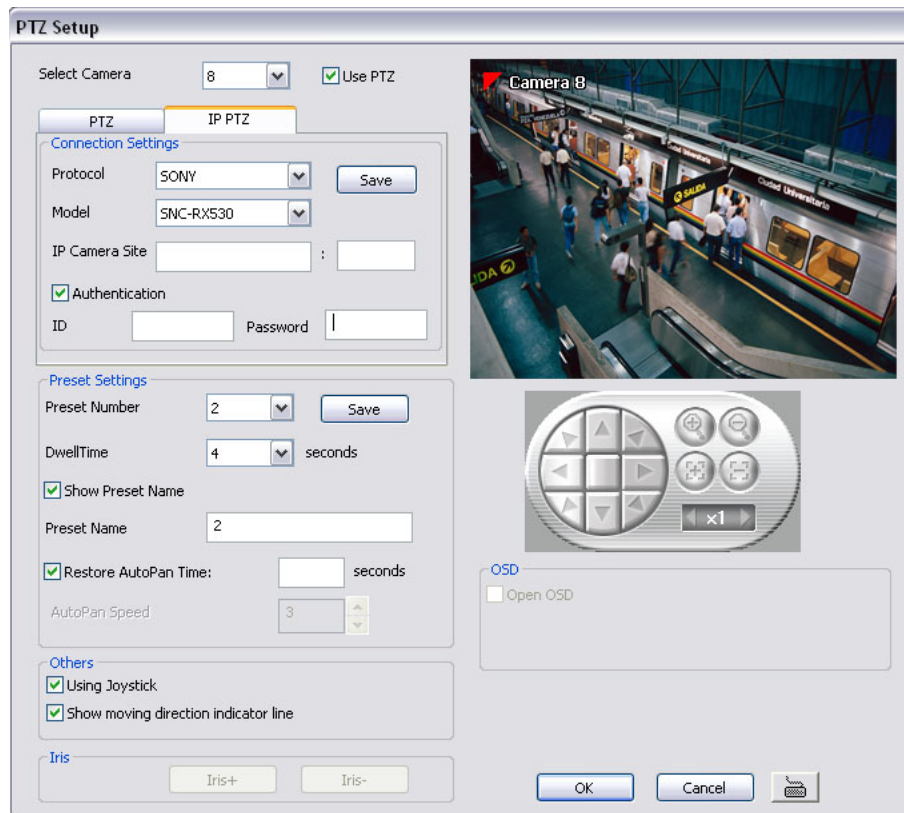
3.7.1 PTZ カメラの設定

1. I PTZ コントロールパネルで**設定**をクリックします。
2. PTZ 設定ダイアログボックスが表示されたら、カメラ番号を選択して、**PTZ 使用**ボックスにチェックマークを入れてください。

3. **接続設定**セクションでは、PTZ カメラが接続されている **COM ポート**、PTZ **ID** 番号、**ボーレート**、および**プロトコル**を選択します。 次に、**保存**をクリックして設定を保存します。
4. PTZ コントロールパネルを使用して、PTZ カメラの位置を調整します。
5. **プリセット設定**セクションでプリセット番号を選択して、PTZ カメラの現在位置にプリセット番号を割り当てます。PTZ カメラが次の位置に移動するまでその位置にとどまっている時間として、**滞留時間** (1–60 秒)を設定します。説明を追加したい場合、**プリセット名表示**ボックスと**プリセット名**テキストボックスにチェックマークを入れ、テキストをタイプしてください。作業が終了したら**保存**をクリックすると設定が保存されます。
6. 別の PTZ カメラ位置を保存したい場合には、上記ステップ 4 と 5 を繰り返します。
7. **オートパン復元時間**: PTZ カメラを動かした後で、自動パス機能を復元するための時間を設定します。チェックボックスにマークを入れ、秒で時間を設定してください。
8. **その他**: USB ジョイスティック装置の使用をオン/オフします。
9. **移動方向のインジケータラインを表示する**: PTZ モードのスクリーン上でマウスのドラッグを使用する場合、方向線の表示を使用可能/不能にします。
10. **虹彩**: PTZ カメラの虹彩を調整します。但し、PTZ カメラのブランドによりサポートしない可能性もあります。
11. **OSD**: PTZ カメラの工場出荷時の OSD 設定画面を呼び出します。PTZ カメラのブランドにより OSD 設定メニューが異なる場合があります。
12. 作業が終了したら **OK** をクリックすると設定が保存されます。**キャンセル**をクリックすると、新しい設定を保存せずに、終了します。
13. PTZ カメラが接続してる状態で、マウス或いはオンスクリーン PTZ コントロールバーを使って、PTZ カメラを制御することができます。
14. オンスクリーン PTZ コントロールバーのアイコンをクリックして、コントロールバーを呼び出します。

15. PTZ コントロールアイコンが押されると、アイコンが赤くなって、マウス印が赤いクロスになり、スクリーン上に PTZ コントロールパネルが表示されます。

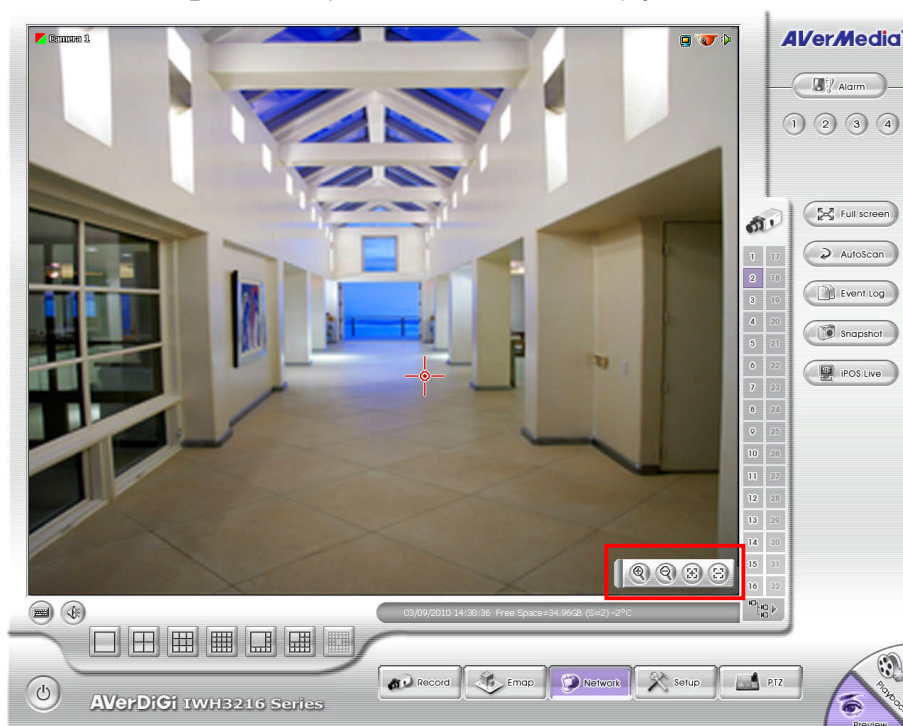
- PTZ コントローラーは、画面上のどの部分にも移動させることができます。
- オンスクリーン PTZ コントローラーは、一度に一つのチャンネル画面にしか表示されません。

16. 赤いクロスのマウス印を使って、スクリーンを直接ドラグして、カメラ映像をズームイン/アウトします。
17. PTZ コントロールバー上のボタンをクリックして、フォーカスイン/アウトします。

3.7.2 IP PTZ カメラの設定

1. PTZ コントロールパネルで**設定**をクリックします。
2. PTZ 設定ダイアログボックスが表示されたら、**IP PTZ** タブをクリックします。
3. カメラ番号を選択して、**PTZ 使用**ボックスにチェックマークを入れてください。

4. 「接続設定」セクションで、PTZ カメラが接続されている**プロトコル**と、IP または IP カメラの URL がある IP カメラサイトを選択します。次に**保存**をクリックして、設定を保存します。
5. IP PTZ コントロールパネルを使用して、IP PTZ カメラの位置を調整します。
6. **プリセット設定**セクションでプリセット番号を選択して、IP PTZ カメラの現在位置にプリセット番号を割り当てます。IP PTZ カメラが次の位置に移動するまでその位置にとどまっている時間として、**滞在時間**(1–60 秒)を設定します。説明を追加したい場合、**プリセット名の表示**ボックスと**プリセット名**テキストボックスにチェックマークを入れ、テキストをタイプしてください。作業が終了したら**保存**をクリックすると設定が保存されます。
7. 別の PTZ カメラ位置を保存したい場合には、上記ステップ 4 と 5 を繰り返します。
8. **オートパン復元時間**: IP PTZ カメラを動かした後で、自動パス機能を復元するための時間を設定します。チェックボックスにマークを入れ、秒で時間を設定してください。
9. **その他**: USB ジョイスティック装置の使用をオン/オフします。
10. **移動方向のインジケータラインを表示する**: PTZ モードのスクリーン上でマウスのドラッグを使用する場合、方向線の表示を使用可能/不能にします。
11. **虹彩**: PTZ カメラの虹彩を調整します。但し、PTZ カメラのブランドによりサポートしない可能性もあります。
12. **OSD**: PTZ カメラの工場出荷時の OSD 設定画面を呼び出します。PTZ カメラのブランドにより OSD 設定メニューが異なる場合があります。
13. 作業が終了したら **OK** をクリックすると設定が保存されます。**キャンセル**をクリックすると、新しい設定を保存せずに、終了します。
14. PTZ カメラが接続してる状態で、マウス或いはオンスクリーン PTZ コントロールバーを使って、PTZ カメラを制御することができます。
15. オンスクリーン PTZ コントロールバーのアイコンをクリックして、コントロールバーを呼び出します。

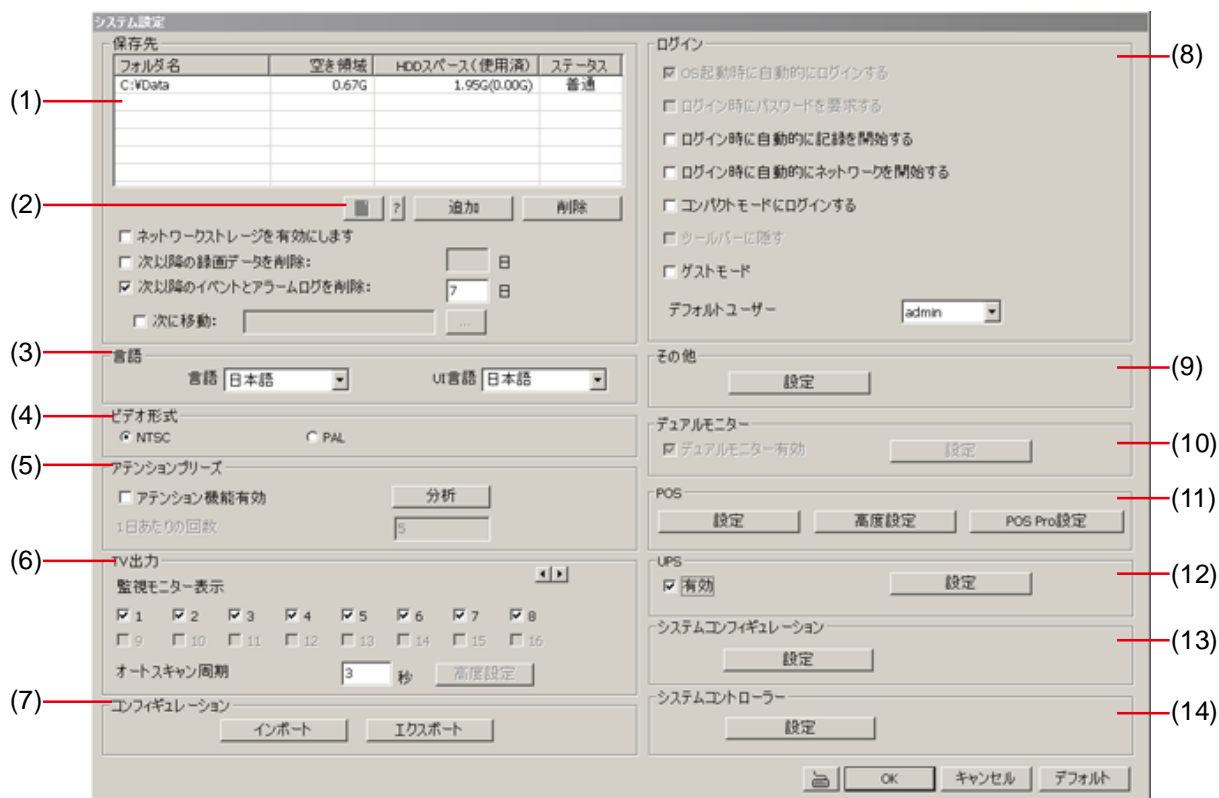
16. PTZ コントロールアイコンが押されると、アイコンが赤くなって、マウス印が赤いクロスになり、スクリーン上に PTZ コントロールパネルが表示されます。

- PTZ コントローラーは、画面上のどの部分にも移動させることができます。
- オンスクリーン PTZ コントローラーは、一度に一つのチャンネル画面にしか表示されません。

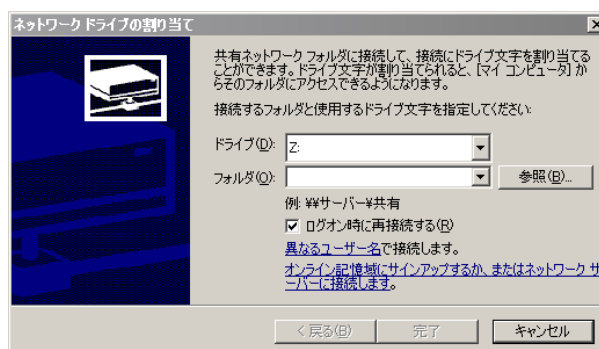
17. 赤いクロスのマウス印を使って、スクリーンを直接ドラグして、カメラ映像をズームイン/アウトします。
18. PTZ コントロールバー上のボタンをクリックして、フォーカスイン/アウトします。

第4章　　　　DVR システムのカスタム化

プレビュー/高度モードで Setup ボタンをクリックすると DVR システムをカスタム化することができます。DVR コンフィギュレーション設定選択肢が表示されたら、設定を変更したいボタンを選択してクリックします。

4.1　　システム設定

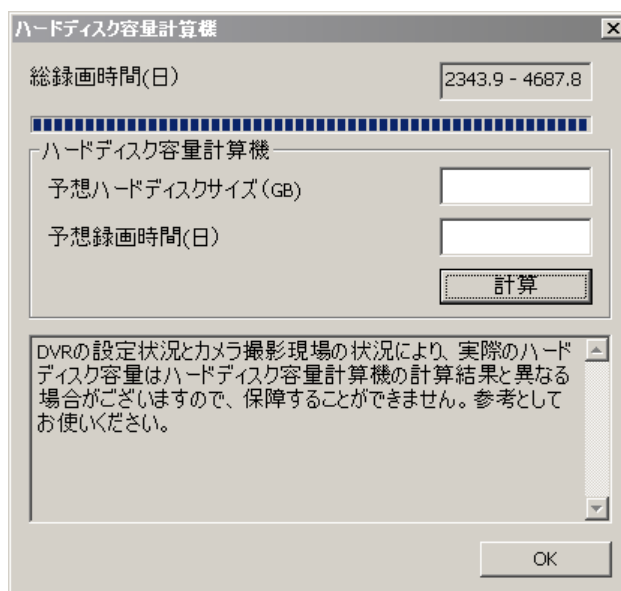
システム設定ダイアログボックスで、**OK** をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると設定を保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると工場設定に戻ります。

(1) 保存先

データを保存したいディレクトリを設定します。1 時間分のデータを保存するための十分なスペースがない場合、システムは自動的に一番古いデータを削除して新しいデータを保存します。保存パスが 2 つ以上ある場合には、システムは自動的に、次の保存パスにデータを保存します。きわめて大きな保存容量が必要な場合には、ネットワーク接続式ストレージ(NAS)を追加することができます。「ネットワークストレージを作動」チェックボックスにマークを入れ、録画済みビデオをネットワークストレージに送ってください。ネットワークストレージを追加するには、インターネットストレージドライブ/フォルダを DVR サーバーのネットワークドライバーとしてマッピングしなければなりません。まずネットワークストレージを作動状態にしてから、「追加」をクリックします。**フォルダのブラウズ**ウィンドウでドライブ C を選択し、マウスボタンを右クリックして、**ネットワークドライブをマッピングする**オプションを選択します。

判明している場合には、**マップネットワークドライブ**ウィンドウで、**ドライブ**を選択して、**フォルダ**カラムにネットワークドライブを記入します。もしくは、**ブラウズ**をクリックして、フォルダを見つけます。**終了**をクリックすると、ネットワークドライブのマッピングが完了します。ネットワークドライブを追加したら、ネットワークストレージ用フォルダを作成する必要があります。**フォルダのブラウズ**ウィンドウでネットワークドライブを選択し、マウスボタンを右クリックして新しいフォルダを追加します。次に **OK** をクリックします。保存パスリストに新しい保存フォルダが表示されるはずです。

初期設定では、データは C:¥Data に保存されます。別の保存パスを挿入するには、**追加**をクリックします。選択したパスを削除するには、**削除**をクリックします。ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、**次より前の録画データを削除**チェックボックスにマークを入れ、**日数**テキストボックスに日数を入力します。ある日数後にシステムにイベントやアラームログを自動的に削除させたい場合、**次より前のイベントとアラームログを削除**チェックボックスにマークを入れ、**日数**テキストボックスに日数を入力します。ログの保存先を変更するには、**移動先**を作動状態にして、新しい保存先を選択します。

(2)ハードディスク計算機

ハードディスクの容量を算出します。計算結果は概数値ですので目安にしかなりません。ハードディスクの記録容量は実際の録画の質や、ビデオ内のシーンがどの程度複雑な画像であるかによって異なります。

▣をクリックすると、ハードディスク計算機ウィンドウが表示されます。**総録画時間**は、現在のハードディスク録画容量を示しています。**予想ハードディスクサイズ**または**予想録画時間**にハードディスクサイズの予想値や予想録画時間を入力し、**計算**ボタンをクリックします。OK をクリックすると、ハードディスク計算機ウィンドウが閉じます。ハードディスクの計算は、録画設定や現在のハードディスクの設定に基づいて行われます。

(3) 言語

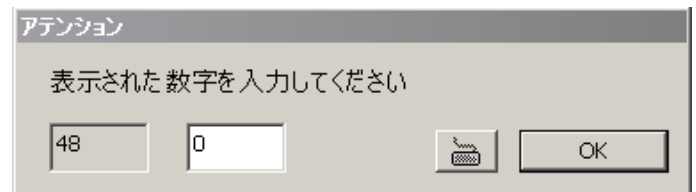
選択した言語でツールのヒントやダイアログを表示するように、システムをカスタム化することができます。初期設定言語は日本語です。

(4) ビデオシステムの設定

使用しているカメラビデオシステムに応じてビデオシステムを選択して変更することができます。ビデオシステムの設定が間違っていると、画面が正しく表示されません。

アテンション

表示された数字を入力してください

48　0　OK

(5) アテンションプリーズ

システムの監視者がどの程度注意を払っているか確認することができます。**1日の回数**テキストボックスで、1日にアテンションダイアログボックスを表示させる回数を設定することができます。監視者がどのくらいすばやく反応するか示したグラフを表示するには、**分析**をクリックします。

この機能を作動させると、アテンションダイアログボックスが表示されます。システムの監視者は、左のテキストボックスに表示されているのと同じ数字を右のボックスに記入して、**OK** をクリックしなければなりません。

(6) TV 出力

TV (スポットモニタ)上に表示したいカメラを選択し、次のカメラに切り替わるまでの**オートスキャン**時間間隔を 3 から 10 秒にします。

(7) コンフィギュレーション

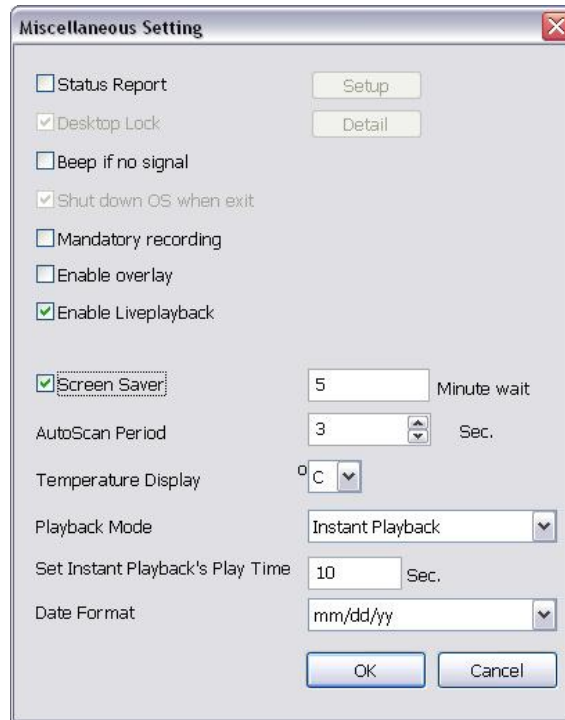
全設定のコピーをバックアップして、同じ設定状態に戻すために使用します。現在の設定を保存するには、**エクスポート**をクリックします。保存しておいた設定と入れ替えるには、インポートをクリックします。

(8) ログイン

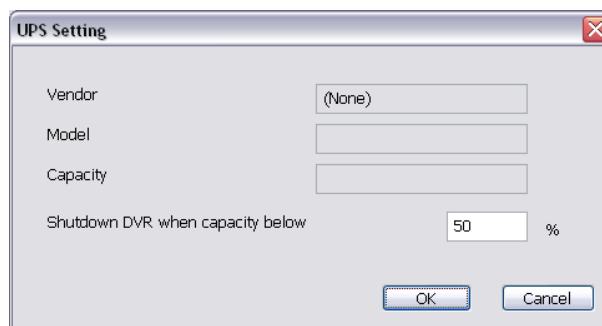
システムに自動的に実行させたいログインセクションを選択します。

- **ログイン時に自動的に記録を開始する**
  DVR を起動したときに、自動的にビデオ録画を開始します。
- **ログイン時に自動的にネットワークを開始する**
  DVR を起動したときに、自動的にネットワークへ接続します。
- **コンパクトモードへのログイン**
  DVR を起動したときに、直接コンパクトモードに切り替えます。
- **ゲストモード**
  DVR を起動したときに、自動的にゲストモードに入ります。ゲストモードに入ると、使用する機能はプレビューと再生に限られます。
- **デフォルトユーザー**
  DVR を起動したときに、選択されたデフォルトユーザーで自動的にログインします。

(9) その他

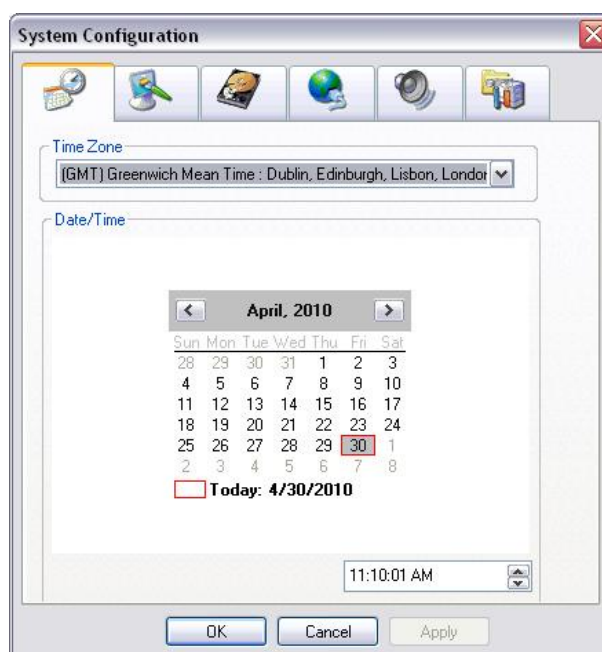
その他セクションで、システムにどんな状態を実行させたいか、選択することができます。

- **状態レポート**
  イベントやアテンション分析レポートを毎日送信します。E メール設定を変更するには**設定**をクリックしてください。
- **信号がない場合のビープ音**
  ビデオ信号が消失すると、警告音が出ます。
- **自動録画**
  DVR が動作中、ずっと録画をします。
- **オーバーレイ有効**
  ビデオの画質を改善するためにビデオ信号を強化します。
- **ライブ再生の使用可能化**
  プレビューモードでレコーディング中の、同時ライブ再生を使用可能にします(3.2 章の(19)ライブ I 再生も参照してください)。
- **スクリーンセイバー**
  スクリーンセイバーモードに切り替わる時間を設定します。
- **オートスキャン時間**
  自動スキャン機能の時間的ギャップを、3 秒から 10 秒の間で設定します。設定した時間ギャップに応じて、自動的に次のビデオに順々に切り替わります。
- **温度表示**
  温度のフォーマット(° C 或いは° F)を選択します。
- **再生モード**
  ビデオの再生モードを選択します。
  - ✓ **日付と時刻の選択**: 再生させたい日付と時刻を選択します。
  - ✓ **最後のファイルを再生**: 最後の 1 時間分のビデオを自動的に再生します。
  - ✓ **インスタント再生**: たった今録画したビデオを再生します。インスタント再生期間の設定は、**インスタント再生時間設定(Set Instant Playback's Play Time)**欄に時間(秒)を入力します。
- **日付フォーマット**
  日付と時刻の選択再生モードで表示させたい日付フォーマットを選択します。

(10) デュアルモニタ

再生 UI を 2 つめのモニタで表示するためにマークします。 デフォルトで、DVR システムは 1 つのモニタのみで表示しますが、デュアル出力も可能です。

接続済みモニタが 1 つのみの場合、デュアルモニタ機能を使用不可にします。 そうしなければ、再生 UI はメインモニタの画面に表示されません。

(11) POS

どのカメラ画面からPOS 装置のデータを表示させるか、設定します。**設定**をクリックして、POS コンソール設定を選択してください (第 4.1.1 章を参照)。

(12) UPS (**無停電電源装置**)

電源サージや電圧低下などからシステムを保護します。これによって、バッテリー容量がパーセントレベル設定以下になってバッテリーバックアップ電源がシャットダウンに達すると、自動的にDVRシステムを適切な方法で終了する程度の時間が与えられます。DVR に UPS 装置が接続されていなければなりません。

(13) システムコンフィギュレーション

日付と時刻の設定

1. DVR システムが設置されている場所の**時間ゾーン**を選択します。
2. **月**と**日**を選択します。矢印ボタンをクリックすると別の月に変更されます。
3. スピンボックス矢印ボタンで**時刻**を設定します。
4. **OK** をクリックするとコンフィギュレーションが保存されます。

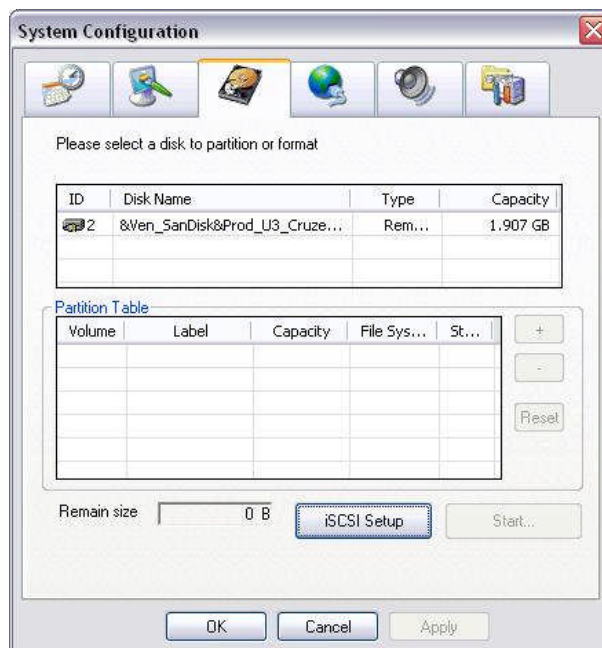
表示

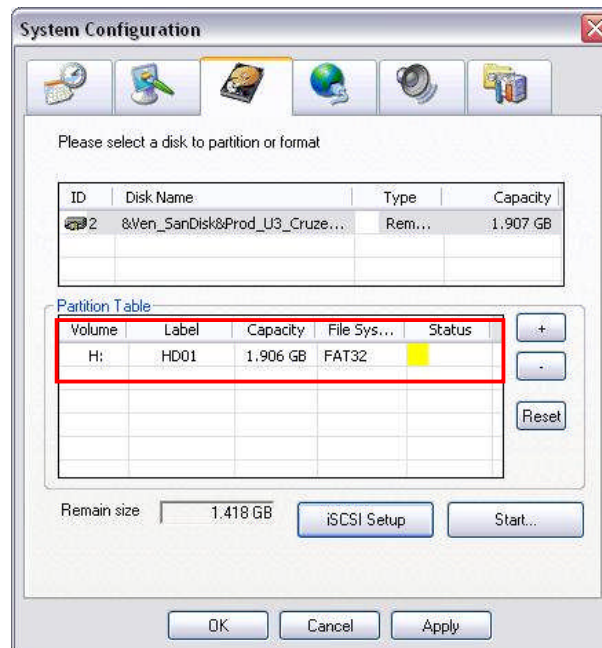
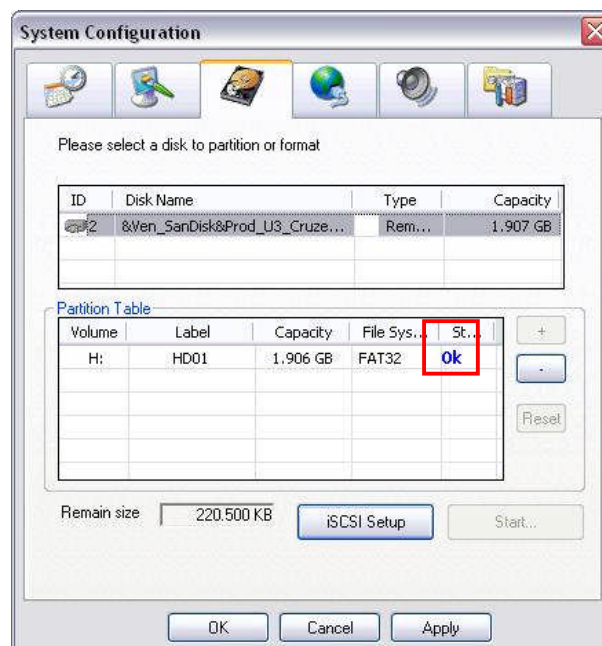
画面の解像度を調整し、タッチモニタを調整します。 **詳細設定**をクリックしてモニタの詳細設定を構成します。モニタの詳細設定はユーザが使用するモニタの仕様により異なります。

タッチモニタの調整:

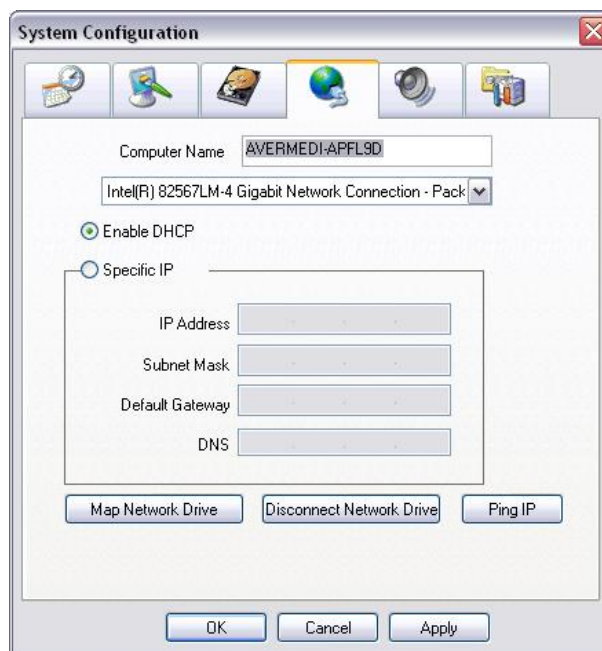
1. **タッチモニタの設定**ボタンをクリックします。
2. タッチモニタの設定ウィンドウで、**追加**をクリックします。
3. 次に、+を 1 つずつクリックして調整を終了します。

ディスク管理

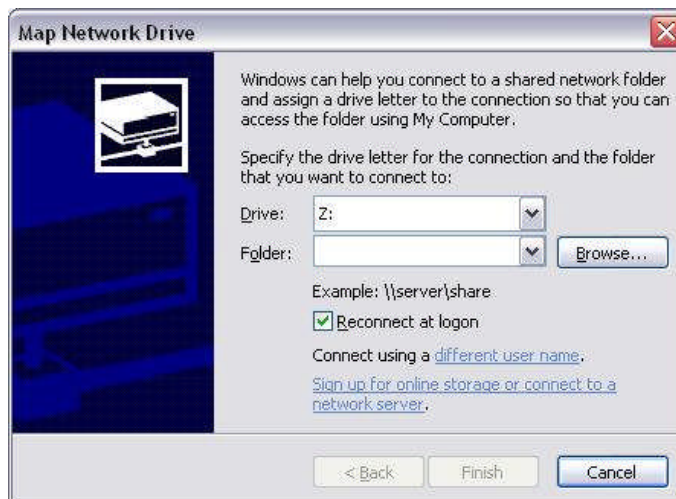
DVR システムが新規ハードディスクを検知する場合、ユーザはここでハードディスクのフォーマットおよびパーティション割りを実行できます。 ユーザはハードディスクを再パーティション化できますが、ハードディスクに保存済みファイルはすべて削除されます。

ハードディスクのフォーマットおよびパーティション分割:

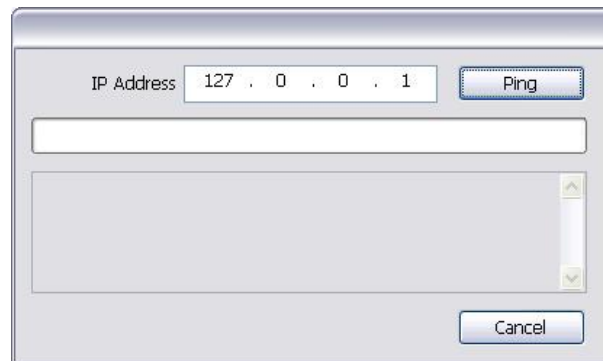
1. インストール済みハードディスクがリスト表示されていることを確認します。 フォーマットまたはパーティション分割したいハードディスクをクリックします。
2. +ボタンをクリックして選択したハードディスクを**パーティションテーブル**セクションに追加します。

3. パーティションの容量は、表示されている容量をクリックして**容量**を入力すれば変更可能です。 ハードディスクを複数のパーティションに分割しない場合は、容量を変更せずにおきます。
4. パーティションには、表示されているラベルをクリックして名前を入力できます。
5. 1 つ以上のパーティションを作成する場合は、2 および 4 のステップを再び繰り返します。
6. パーティションをすべて追加後、**開始**をクリックしてすべてのパーティションをフォーマットします。
7. フォーマットが完了すると、各パーティションのステータスは **OK** に変化します。
8. フォーマットの終了後 **OK** をクリックし、完了します。

9. ユーザはフォーマット済みハードディスクまたはパーティションを、ストレージパスとして割当てることができます(4.1 章、システム設定を参照してください)

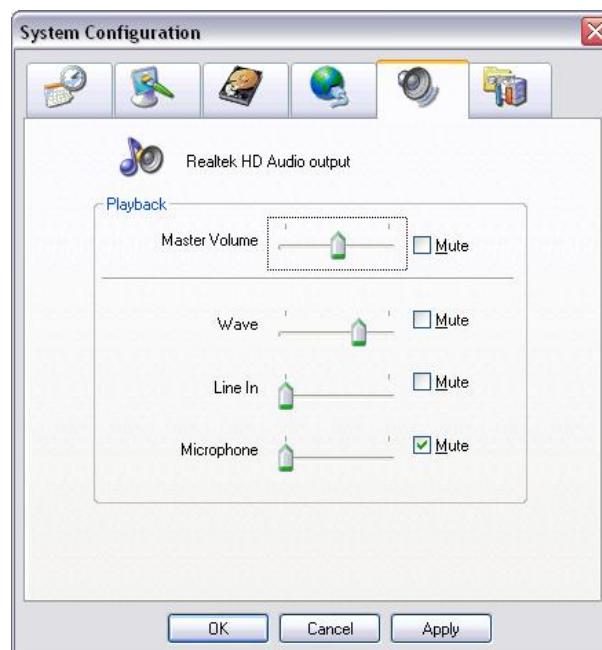
ネットワークの設定

ネットワーク設定（IP アドレス、サブネット、DNS など)のコンフィギュレーションを行います。

- **自動的に IP を得る(DHCP)**: DVR サーバーに IP アドレスを割り当てる DHCP サーバーを使用します。
- **次の IP アドレスを使用する**: DVR サーバーに固定 IP アドレスを割り当てます。
  - **IP アドレス**: ISP から DVR に与えられる実際の IP アドレスである、一定の IP アドレスを割り当てます。

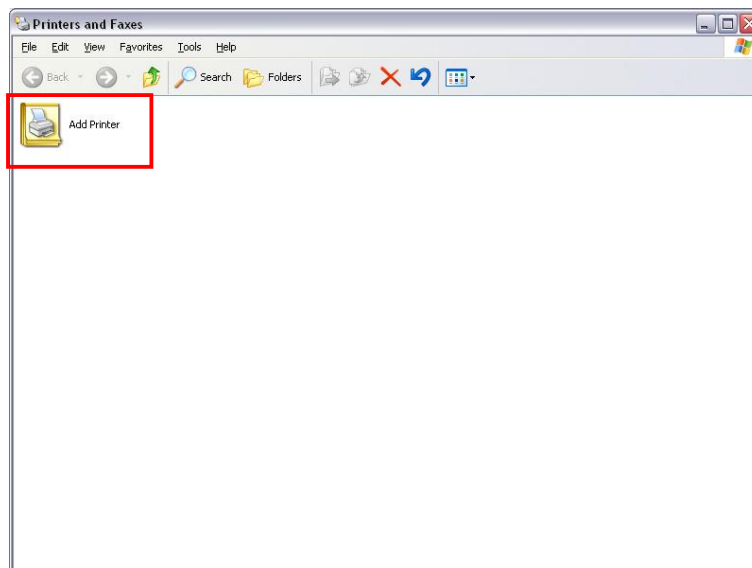
DVR に 1.0.0.0 ネットワークセグメントを割り当てないでください。1.0.0.0 IP セグメントを識別できないため、DVR がインターネットにアクセスできません。

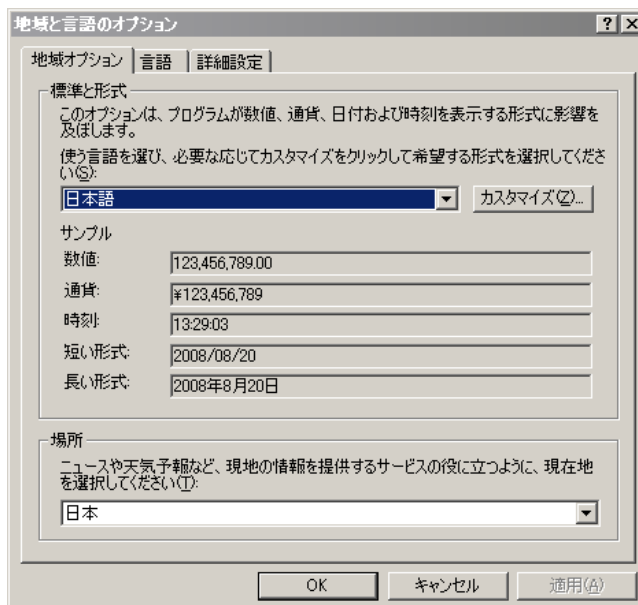
  - **マスク**: サブネットワークを識別し、いくつのビットによってホストアドレスに余裕が与えられるかの識別に使用されるビットマスクです。DVR システムに割り当てた IP アドレスのサブネットマスクを入力します。
  - **ゲートウェイ**: インターネットへのパスウェイの役目をもつネットワークデバイス。ネットワークゲートウェイの IP アドレスを入力します。
  - **DNS**:ドメインネームサーバーは、ドメインネーム（www.abb.com.tw など）を IP アドレスに翻訳します。DNS の IP アドレス(あれば)を入力してください。
- ネットワークドライブのマップ: ネットワークストレージの追加には、インターネットストレージドライブ/フォルダを DVR サーバにネットワークドライブとしてマップする必要があります。 以下のステップに従い、ネットワークドライブをマップします。
  - **ネットワークドライブのマップ**ボタンをクリックします。 **マップネットワークドライブ**ウィンドウで、**ドライブ**を選択し、ご使用のネットワーク中のファイルサーバまたは NAS の **IP アドレス**および**ファイルフォルダ**を、**フォルダ**に入力します。
  - 次に、**終了**をクリックして接続を完了します。

- 接続が成功すれば、ユーザはネットワークドライブを**ストレージパス**上に見ることができます。
- マップしたネットワークドライブを切断するには、**ネットワークドライブの切断**をクリックします。

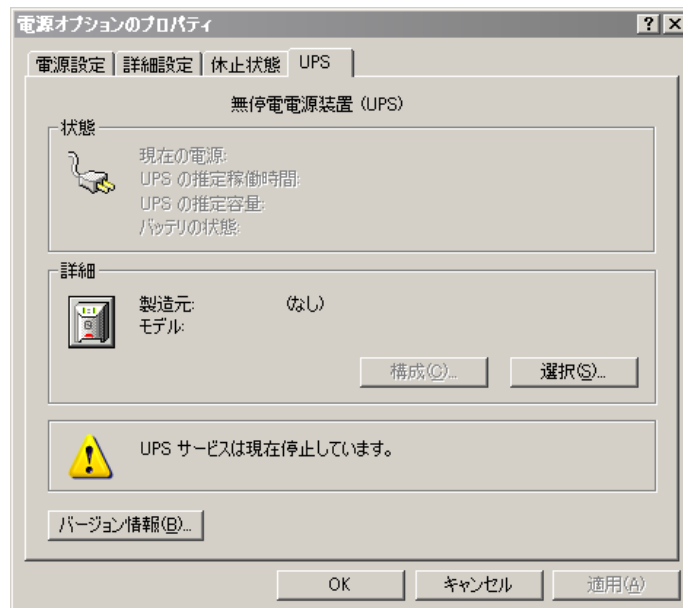
■ **Ping IP:** ユーザはネットワーク上にあるネットワーク/サーバデバイス中に特定の IP アドレスに対する ping およびトレースが可能です。

音声の設定

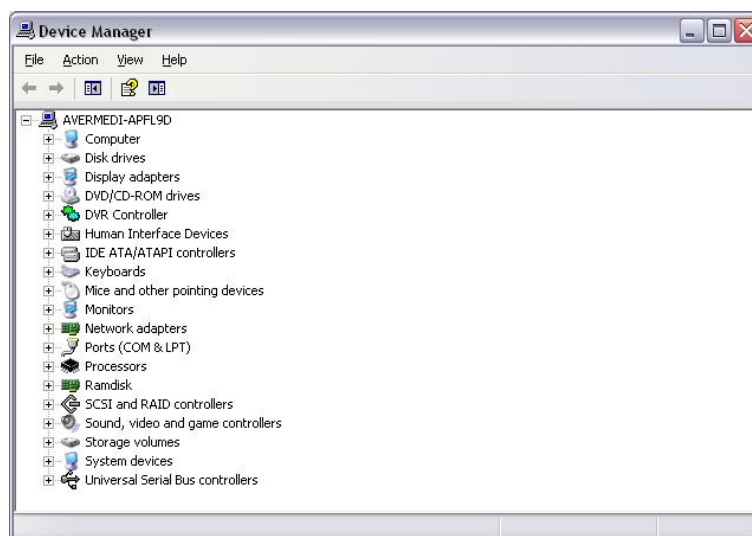
システムの音量を調整します。

その他

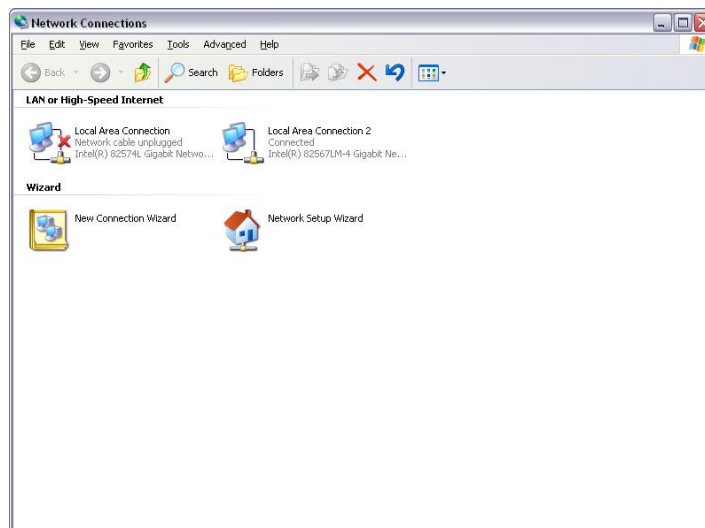
プリンターの設定

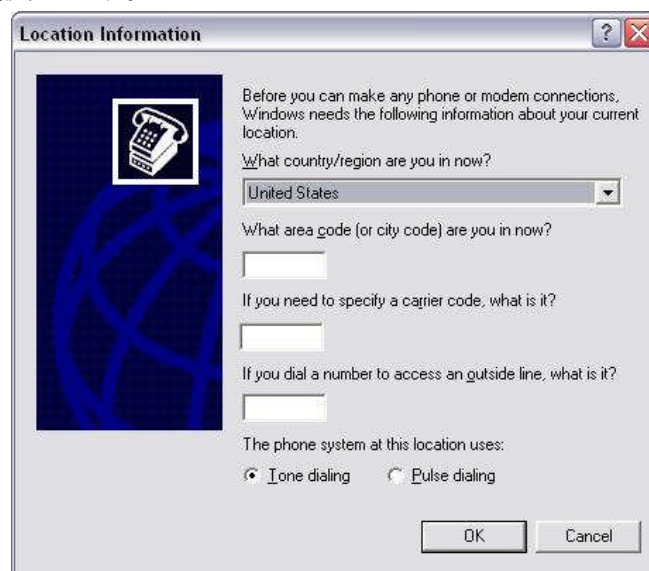
プリンターを追加をクリックして、ウィザードに従ってプリンターをインストールしてください。

地域と言語の設定

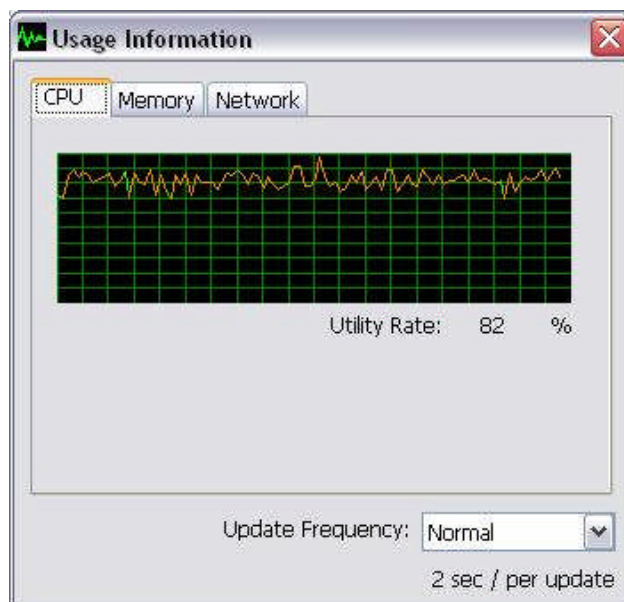
DVR アプリケーションで英語以外のユーザー情報言語を使用する場合、ユーザー情報ディスプレイが正しく表示されるように、それに対応する地域と言語を選択することができます。

電源の管理

UPS コンフィギュレーションを設定します。

機器の管理

DVR システム機器を表示します。v

ネットワーク接続

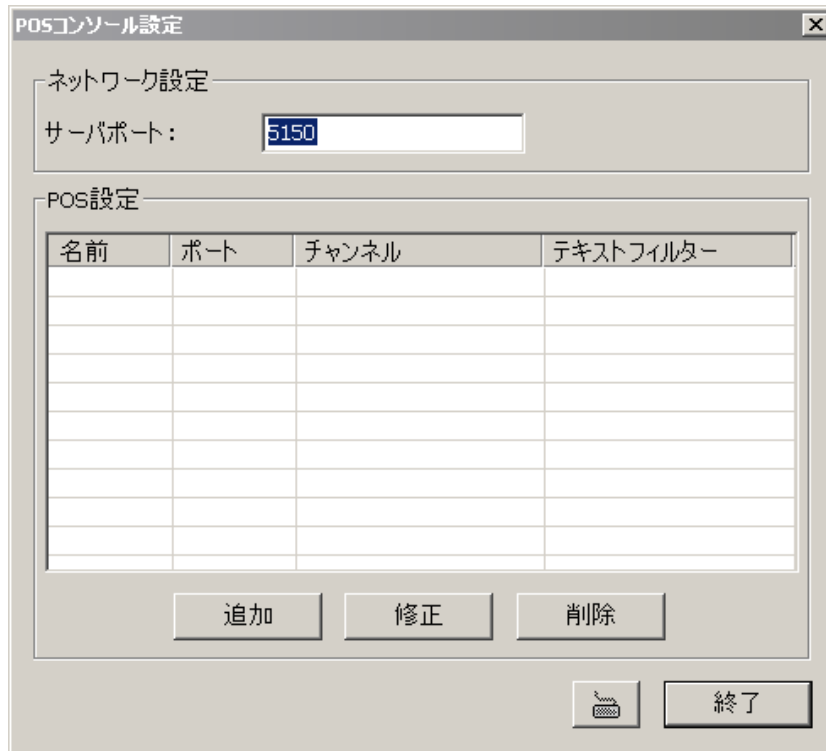
ネットワークの接続を表示します。

電話およびモデムのオプション

モデムのダイアルアップを設定します。

使用情報

システム CPU、メモリおよびネットワークの使用を表示します。

(14) システムコントローラー設定

システムコントローラー(オプションのアクセサリー)のと通信できるようにパラメーターを設定ます。システムコントローラの操作方法は、システムコントローラの***ユーザーズマニュアル*** を参照してください。

- **有効** – チェックボックスにチェックを入れて、システムコントローラーの機能を有効にします。
- **モデル** – システムコントローラのモデルを選択します。 システムコントローラが USB ポートを介して DVR に接続している場合は、**System Controller Pro** モードを選択してください。 システムコントローラが RS485 ポートを介して DVR に接続している場合は、**System Controller Pro 485** モデルを参照してください

- **ポート**– システムコントローラーに接続した COM ポートを選択します。

ⓘ システムコントローラが RS485 ポートを使用して DVR サーバに接続している場合のみ、ポートを選択する必要があります。

- ID – DVR サーバに ID (0 から 99)を設定します。 この ID は、1 つ以上の DVR サーバが RS485 ポートを介してシステムコントローラに接続されている場合に、シンテムコントローラが DVR サーバをコントロールするためのキーです。

4.1.1 POS を設定する

4.1.1.1 一般設定

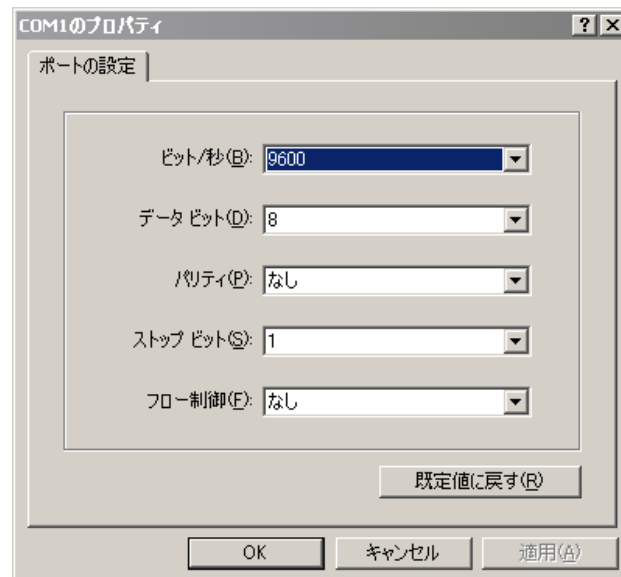
1. システム設定ダイアログボックスの POS セクションで、**設定**をクリックします。
2. POS コンソール設定ダイアログボックスで**追加**をクリックすると新しい POS を設定でき、**変更**をクリックすると POS 設定を変更でき、**削除**で選択した POS 設定が削除されます。**OK** をクリックすると、保存されて POS コンソールが終了します。

3. POS マッピングダイアログボックスで **OK** をクリックすると設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると新しい設定を保存せずに終了します。

(1) **POS 名**: POS を識別する名前を入力します。
(2) **プロトコル**:プロトコルを選択するには、**設定**ボタンをクリックします（POS 装置の設定を参照）。
(3) **スキップ**:削除したい行の数を設定します。
(4) **テスト開始**: POS 設定をテストする際にクリックします。POS マッピングウィンドウの右側にテスト結果が表示されます。

(5) **ポート設定**:接続されているローカルまたはリモートポートを選択します。

- ✓ **ローカル** – 接続されている COM ポート番号を選択します。
- ✓ **リモート** – POS システムがインターネットにブロードキャストできる場合には、リモート接続用 UDP プロトコルを使用します。リモートステーションの IP アドレスを入力します。

(6) **設定…**: COM プロパティを設定します。不明な場合は、POS サービスプロバイダーにお問い合わせください。

(7) **チャンネルへのマップ**: トランザクションテキストを表示するカメラ番号を選択します。

(8) **テキストフィルター**: 表示したくない文字を入力します。

POS デバイスの設定

4 個の初期設定 POS デバイスがあります。初期設定以外の POS デバイスを使用する場合、新しい POS デバイスと規則を追加することができます。初期設定 POS デバイスを含めて、最大 50 個の POS デバイスを追加することができます。

■　**標準 POS デバイスの設定**

✧　**新しい POS デバイスの追加**

1. **追加**をクリックします。
2. **名前**カラムに POS デバイス名を入力します。
3. **タイプ**として、**標準**を選択します。
4. **OK** をクリックすると保存されます。
5. 既存のデバイスを変更するには、そのデバイスをダブルクリックします。
6. **初期設定**をクリックすると、元の設定に戻ることができます。

✧　**規則の追加**

1. デバイスリストから POS デバイスを選択します。
2. 規則セクションで**追加**をクリックします。
3. 規則設定ウィンドウで**グループ**を選択します。各グループでは、回数が限定されています。規則設定ウィンドウで「**最大**」と「**リマインダー**」の情報を参照してください。行末、ページ末、請求書末の各グループは、1 回しか設定できません。
   - **行末**: 各行を分割する規則を設定します。
   - **ページ末**: 改ページの規則を設定します。

- **スキップコマンド**: 文字列や文字を無視する規則を設定します。
- **含める**: 行に文字列や文字を表示する規則を設定します。
- **除外する**: 行で文字列や文字を隠す規則を設定します。
- **請求書末**: 各トランザクションを分割する規則を設定します。

4. **タイプ**の選択 – Ascii または XML を選択します。
5. **データ**カラムに、文字列や文字を入力します。最大長は 31 文字です。
6. **OK** をクリックします。
7. **保存**をクリックします。コンフィギュレーションは保存されずに失われます。.
8. 既存の入替え規則を変更するには、その規則をダブルクリックします。

✧ 文字の入れ替え

POS データで文字や語を入れ替える規則を設定します。入替え回数は最大 8 回です。

1. デバイスリストから POS デバイスを選択します。
2. 入替えセクションで**追加**をクリックします。
3. **古いデータ**: **タイプ**(Ascii または XML)を選択し、入れ替えたい文字列や文字を入力します。
4. **新しいデータ**: **タイプ**(Ascii または XML)を選択し、旧データと入れ替える文字列や文字を入力します。
5. **OK** をクリックします。
6. **保存**をクリックします。コンフィギュレーションは保存されずに失われます。
7. 既存の入替え規則を変更するには、その規則をダブルクリックします。

✧ 規則の優先順位の調整

規則グループの優先順位を設定することができます。グループを選択して、上/下矢印ボタンをクリックし、優先順位レベルを移動させます。上に行くほど優先順位は高くなります。

XML POS デバイスの設定

XML は、XML フォーマットで送信される POD データでのみ作業が行うことができます。

- ✓ **デバイス**: 新しいデバイスを選択または追加できます。ここでは、XML をサポートするデバイスのみがコンフィギュレーションされます。**追加**をクリックしてデバイスを追加します。デバイス名を入力し、タイプとして **XML** を選択します。初期設定デバイスを含めて、最大 50 個の POS デバイスを追加することができます。

- ✓ **ページの初め**: トランザクション用データの初め
- ✓ **ページの終わり**: トランザクション用データの終わり
- ✓ **タグ**: DVR サーバーへのデータトランザクション範囲として、ルートタグとサブタグを選択します。**追加**をクリックしてタグを設定します。**保存**をクリックします。コンフィギュレーションは保存されずに失われます。

詳細については次の例を参照してください。

<TicketStart> ***→ページの初め***

<Header> ***→ルートタグ***

<MessageVersion>1.0</MessageVersion>
<Date>20060317</Date>
<Time>164216</Time>
<RegisterID>3</RegisterID>
<Shift>4</Shift>
<CashierID>000000009</CashierID>
<JrnlTransNum>3</JrnlTransNum>
<JrnlID>0</JrnlID>

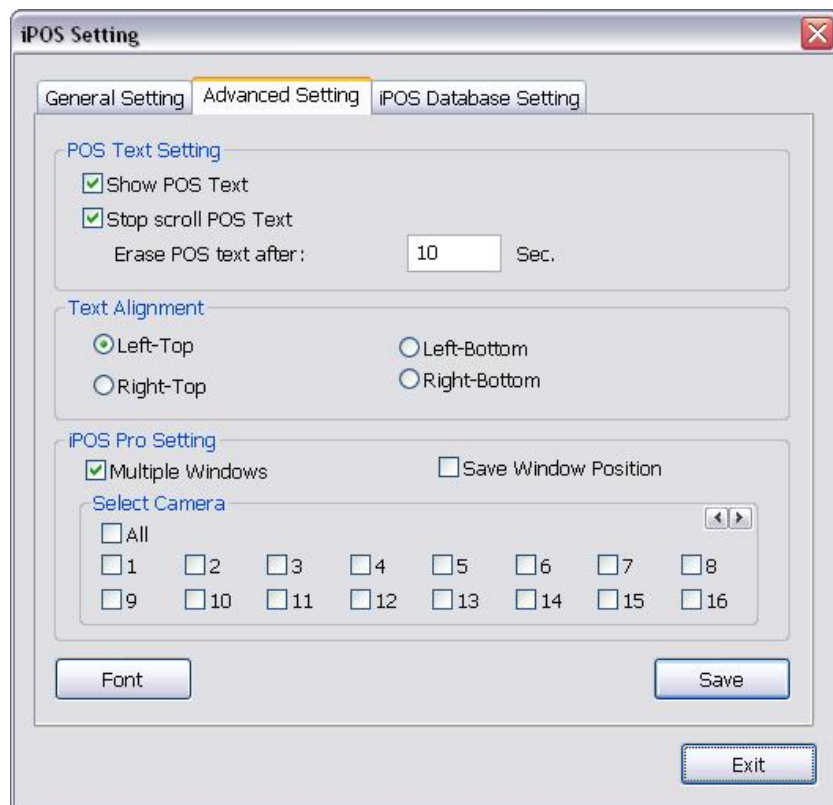
→サブタグ

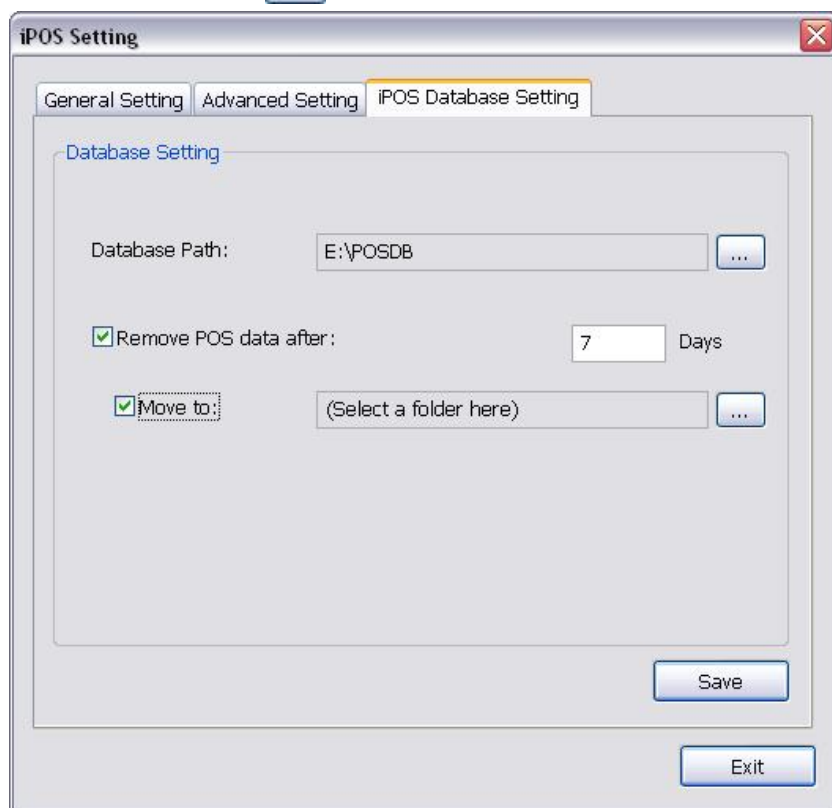
</Header>
</TicketStart>
<Item>
<SaleTotals>
<Item>
<SaleTotals>
<Item>
<SaleTotals>
<TenderEvent>

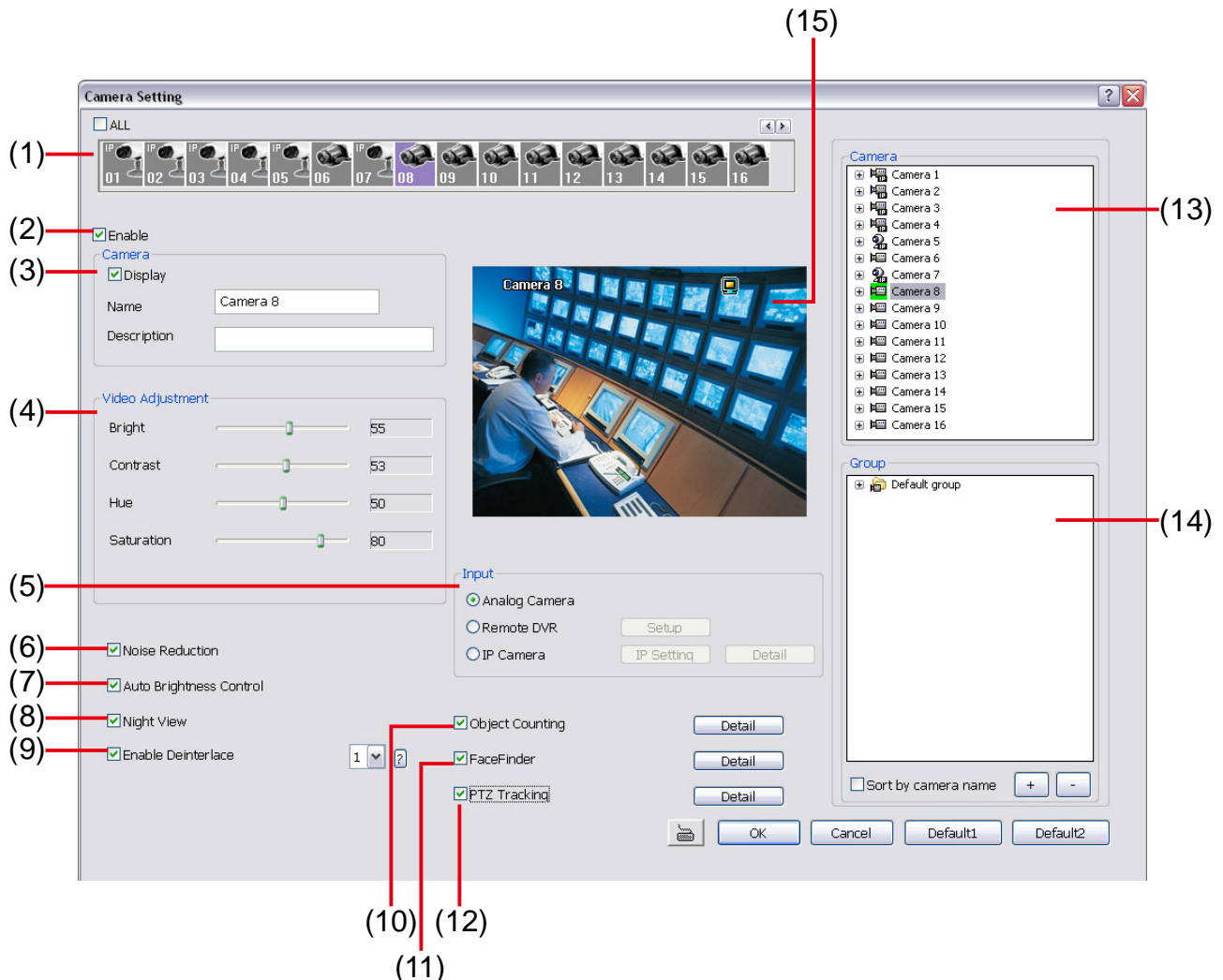
<TicketComplete> ***→ページの終わり***

4.1.1.2　　高度設定

POS テキストの表示位置、テキストフォントと色を設定します。

1. システム設定ダイアログボックスの POS セクションで、**設定**をクリックして、**高度設定（Advanced Setting）**をクリックします。
2. **POS テキスト表示（Show POS Text）**にチェックを入れて、POS のデータをスクリーンにディスプレイします。
3. **POS テキストのスクロール停止（Stop scroll POS Text）**にチェックして、POS データがスクロールしなくなります。また**次以降 POS テキストを削除（Erase POS text after）**欄に時間を入れると、POS テキストが削除されます。
4. スクリーンにディスプレイする POS データの位置を選択します：左上、左下、右上、右下。
5. **複数のウィンドウ**を選択すると、1 つ以上の iPOS ライブデータウィンドウ(プレビューモードの(13)iPOS ライブも参照してください)がプレビュースクリーンモードに表示されます。
6. **ウィンドウ位置の保存**を選択すると、終了時に iPOS ライブデータウィンドウの位置が(プレビューモードの(13)iPOS ライブも参照してください)次回のコールアウトの位置として保存されます。
7. iPos ライブ機能が使用可能な場合に、プレビューモードで iPos ライブデータを表示する**カメラ**を選択します。 すべてのカメラを選択するには、**すべて**をマークします。
8. **フォント（Font）**をクリックして、POS データのフォント、色を変更します。
9. **保存（Save）**をクリックして、設定を保存します。

4.1.1.3　　POS データベースの設定

ユーザーは POS のデータベースを出力して、他の場所或いは保存装置へ保存することができます。[...] をクリックして、保存先を変更します。**次以降の POS データを削除**（**Remove POS data after**）にチェックを入れて、DVR の HDD より設定した日にちとおりにPOSデータが削除されます。また、**次へ移動**（**Move to:**）にチェックを入れると、POSデータを削除する時、POSデータが DVR にある別のフォルダに保存します。[...] をクリックして、保存先を設定します。

4.2　カメラの設定

カメラ設定ダイアログボックスで、**OK** をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定 1**／ **初期設定 2** をクリックすると元の工場設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

ビデオ設定を調整したいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**チェックボックスにマークを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを**右クリック**します。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを**左クリック**します。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。選択したカメラのタイプによりカメラのアイコンが異なります。

IP カメラのアイコン

アナログカメラのアイコン

(2) 有効

選択したカメラを起動または解除に設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除するようお勧めします。

(3) カメラ

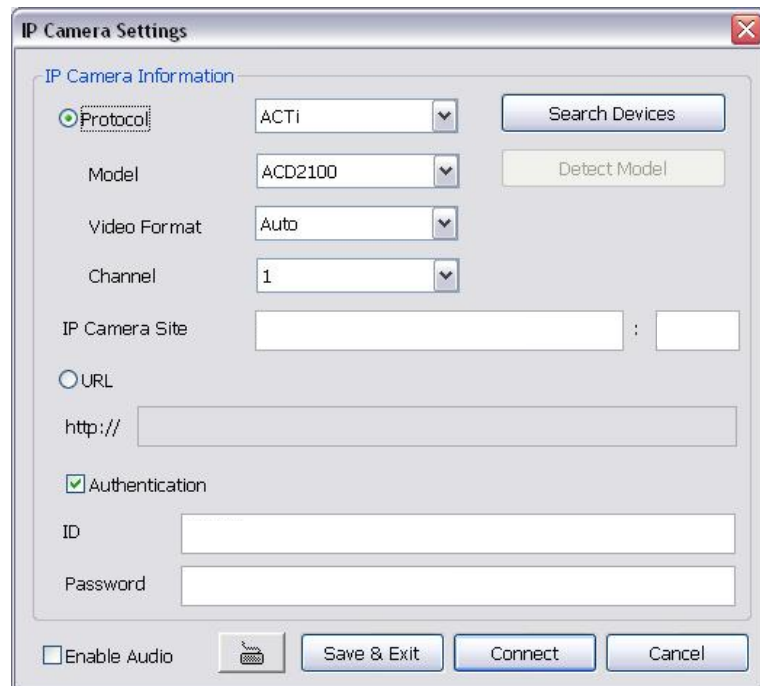
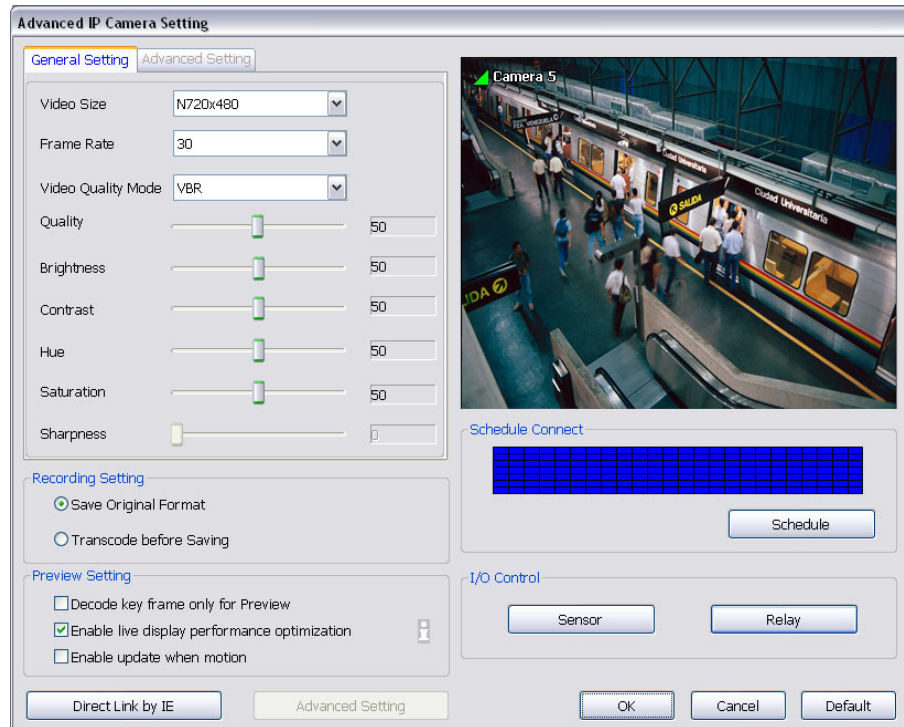
- **表示**
  ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、それを録画して、再生モードでプレビューすることができます。
- **名前**
  カメラの名前を変更します。
- **説明**
  短いコメントを追加します。

(4) 画質調整(アナログカメラのみ)

選択されたカメラの明るさ、コントラスト、彩度、色合いを調整します。

(5) 入力

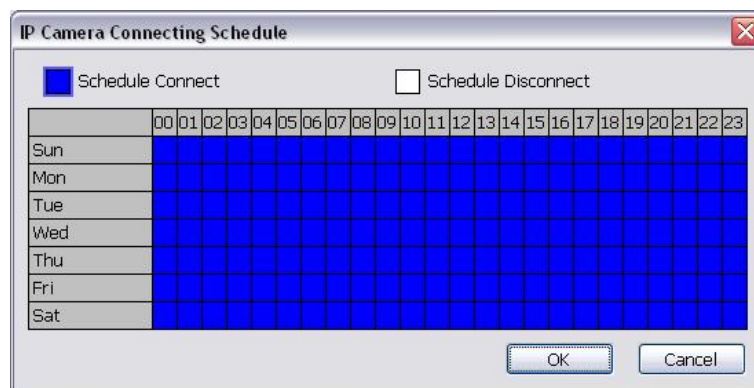
使用中のビデオカメラのタイプを選択します。

- **アナログカメラ**
  ビデオソースは、IWH シリーズ DVR の BNC コネクターに接続されているカメラから直接送られてきます。
- **リモート DVR**
  ビデオソースは、別の DVR サーバーから送られてきます。リモート DVR ダイアログボックスに、サーバーIP、ポート番号、ユーザーID、パスワードを入力し、カメラ番号を選択します。
  サーバーIP やポート番号が不明な場合には、ネットワーク設定で DVR サーバーの IP アドレスを確認してください。
- **IP カメラ**
  ビデオソースは、ネットワークカメラ或いは IP カメラから送られます。**設定（Setup）**をクリックして、IP カメラ設定ウィンドウズに入ります。IP カメラ設定ダイアログボックスに、接続するプロトコル或いは URL を選択して、必要な情報を入力します。IP カメラの IP アドレスが使える場合、IP カメラアドレス欄に IP アドレスを入力します。或いは**装置検索（Search Device）**をクリックして、LAN ネットワークにある選択したプロトコルに属するカメラを検索します。もしカメラのモデルがわからない場合、**モデル検出（Detect Model）**をクリックして、カメラの正しいモデルを検出します。認証を要求された場合、**認証（Authentication）**のチェックボックスにチェックを入れて、ID とパスワードを入力します。**音声有効（Enable Audio）**のチェックボックスにチェックを入れて、音声を有効にします。プロトコルまたは URL が不明な場合には、IP カメラの取扱説明書を参照するか、お近くの IP カメラの代理店にお尋ねください。
  カメラ設定ウィンドウズで、**保存（Save & Exit）**をクリックして、新しい設定を保存して終了します。**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

カメラ設定インターフェースで、**詳細**をクリックして IP カメラの**ビデオ**、**センサー**、**リレー**、**IE へ直接リンク（Direct Link by IE）**を設定できます。**OK** をクリックして、設定を保存して終了します。**デフォルト**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

ビデオ設定
選択したカメラのビデオ設定状態を調整します。**ビデオ設定（Video Setting）**をクリックして、ビデオ調整インターフェースに入ります。

■ **ビデオ設定**
フレームレート、画質、明るさ、コントラスト、色合い、彩度を調整します。

■ **録画設定**
- **オリジナル形式で保存（Save Original Format）**: IP カメラの圧縮モードのままで保存します。
- **キーフレームでプレビュー（Only decode key frame for Preview）**: **オリジナル形式で保存（Save Original Format）**を選択したら、**キーフレームでプレビュー（Only decode key frame for Preview）**にチェックを入れると、キーフレーム（1 秒間 1 コマ）で映像をプレビューします。
- **MPEG4 で圧縮（Transcode by MPEG4 Encoder）**: ビデオを MPEG4 に圧縮し直します。

■ **プレビュー設定**: プレビュー設定は**オリジナルフォーマットの保存**と関連します。
- **プレビュー用キーフレームのデコード**: ビデオのプレビュー時、DVR システムはキーフレームのみを毎秒 1 フレームで表示します。
- **ライブ表示パフォーマンスの最適化を使用可能化**: ライブビデオパフォーマンスは表示中に最適化されます。
- **モーション時の更新を使用可能化**: キーフレームにモーションが発見された時のみビデオが更新され、ビデオが表示されます。

■ **接続スケジュール（Schedule Connect）**
IP カメラへ接続開始する日時を指定することができます。青く塗られた部分は IP カメラへ接続を表しています。その一方、白い部分は IP カメラへ接続しないことを表しています。接続状態（青い或いは白い）、日時をクリックして、接続スケジュールを設定してください。

■ **I/O 制御（I/O Control）**: IP カメラに接続してるセンサーとリレー装置を設定します。
✓ **センサー設定（Sensor Setting）**: T IP カメラに内蔵するセンサーを設定します。
1. プルダウンリストをクリックして、センサーの ID ナンバーを選択します。

2. **名前**(Name)欄にセンサー名を入力します。
3. システムは自動的にカメラを検出して、関連情報を表示します。内容セクションでは、センサーに関連する説明を入力します。
4. テストのセクションでは、**テスト(Test)**をクリックして、センサーの状態を確認します。赤いは高(High)で、緑は低(Low)です。
5. **OK** をクリックして、新しい設定を保存して終了します。設定を保存したくない場合、**キャンセル(Cancel)**を押してください。

✓ **リレー設定(Relay Setting)**: IP カメラに内蔵するリレーを設定します。
1. ブルダウンリストをクリックして、リレーの ID ナンバーを選択します。
2. **名前**(Name)欄にリレー名を入力します。
3. システムは自動的にカメラを検出して、関連情報を表示します。内容セクションでは、リレーに関連する説明を入力します。
4. テストのセクションでは、**テスト(Test)**をクリックして、リレーを作動します。赤いは高(High)で、緑は低(Low)です。
5. **OK** をクリックして、新しい設定を保存して終了します。設定を保存したくない場合、**キャンセル(Cancel)**を押してください。

■ **IE へ直接リンク(Direct Link by IE)**

IE ブラウザを使いカメラへ接続して、ライブ映像を見ます。**IE へ直接リンク(Direct Link by IE)**をクリックすると、IE ブラウザがポップアップして、カメラへ接続します。また、映像を見るインターフェースはカメラモデルの違いによって異なることがあります。

ビデオ、IE による直接リンク、および詳細設定の設定内容は、サポート対象 IP カメラのブランドにより異なります。

(6) ノイズリダクション

不要なビデオ信号部分を削除して、画質を向上させます。

ノイズリダクションでは、多くの CPU リソースを使用するので、本当に必要な場合にのみ使用してください。

(7) AGC 機能

明るさを自動的に調整します。

(8) ナイトビュー

特に撮影現場が暗いときに露出を自動的に調整して、画像が見やすくなるようにします。この機能は、明るさの自動調整が作動しているときにのみ、起動することができます。

(9) インターレース除去有効化

映像画質を向上します。

(10) 物体流量計算

画面上の 2 つの部分を選択すると、システムは、一方の部分ともう一方の部分との間で、物体の個数を数えます(第 4.2.1 章を参照)。

(11) 顔面検出

実況画面または録画済みビデオで人間の顔を捕獲するために設定します(第 4.2.2 章を参照)。

(12) PTZ トラッキング

PTZ カメラの物体トラッキング機能をオン/オフします(第 4.2.3 章を参照)。

PTZ トラッキング機能を使用するには、必ず PTZ 或いは IP PTZ カメラをご使用ください。

(13) カメラリスト

グループした全て使用可能のカメラをリストアップします。カメラを(15) **映像スクリーン**(Video screen)へドラグして、カメラのライブ映像を見ることができます。

(14) グループ

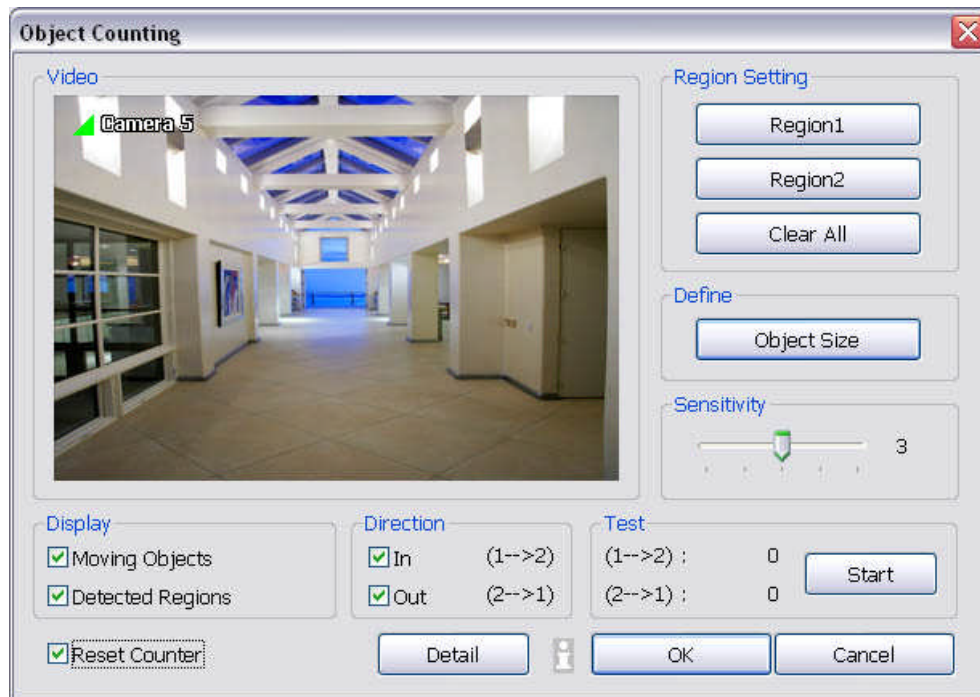
管理するため、複数個のカメラグループを作ることが出来ます。また、全てのカメラを分けて異なるグループへそれぞれ入れられます(第 4.2.4 章を参照)。

(15) 映像スクリーン

選択したカメラの映像をディスプレイします。

4.2.1 物体計数を設定する

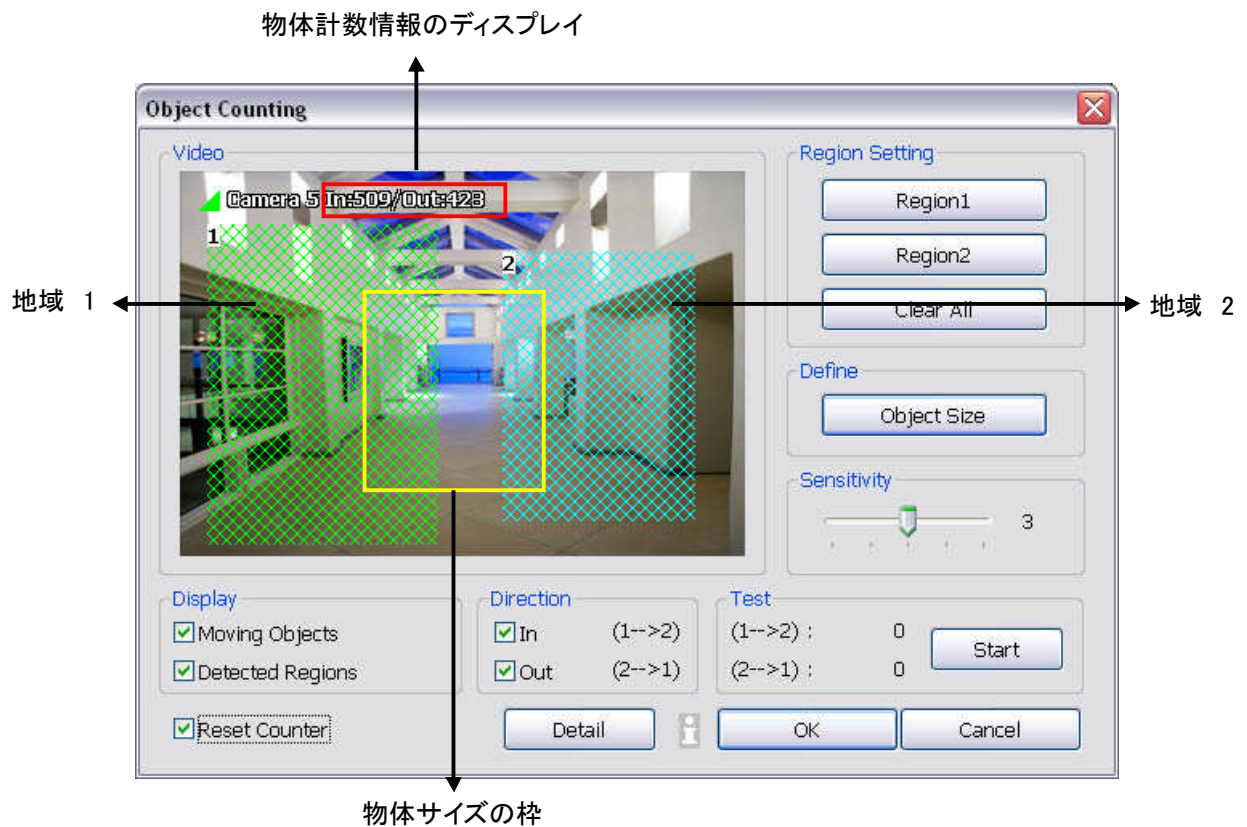
DVR システムは最大 2 チャンネルまで物体計数機能をサポートできません。

1. **詳細**をクリックして、物体計数設定ウィンドウを開きます。

2. **ディスプレイ**セクションで、**検出区域**を作動させます。すると、画面上に物体計数情報が表示されます。**移動物体**を作動させると、画面上に物体サイズフレームが表示されます。
3. **区域 1** をクリックして、マウスの左ボタンを押し、物体を数えたい区域をドラッグします。次に**区域 2** をクリックして、マウスの左ボタンを押し、物体を数えたい別の区域をドラッグします。これらの選択された区域は、異なる色でマーキングされます。システムはこれら 2 つの区域の間で移動する物体の数を数えます。
4. **物体サイズ**をクリックして、検出される物体の大きさを定義します。マウスの左ボタンを押し、画面上にドラッグします。画面上に物体サイズフレームを表示させるには、ディスプレイセクションで**移動物体**を起動してください。
5. 物体検出感度を調整します。
6. 設定をテストするには、テストしたい**方向**（**入**/**出**）にマークを付け、**開始**をクリックします。テストセクションにテスト結果が表示されます。
7. **計算機リセット**（**Reset Counter**）を有効にして、計算機をマニュアル或いは自動リセットします。

   ✓ **計算機リセット（Reset Counter）**
   - **計算機自動リセット（Auto reset counter）**：計算機の自動リセットする時間間隔（1 時間、12 時間、1 日）を選択します。
   - **計算機をリセット（Reset the counter now）**: 計算機をマニュアルリセットします。

   ✓ **統計レポート（Statistic Report）**
   - **計算機をリセットして統計レポートを保存（Save statistic report after counter reset）**: 計算機がリセットしたら、計算機の統計レポートを保存します。**保存先（Stored Path）**を変更した場合、[...] をクリックしてください。
   - **次以降データを削除（Remove data after）**：HDD から計算機データを削除する時間の期間を設定します。
   - **次へ移動（Move to）**: 計算機データの移動先を設定します。

8. **OK** をクリックすると設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。
9. 物体計数情報は、画面の上部に表示されます。

物体計数情報のディスプレイ

4.2.2 顔面検出を設定する

セキュリティのために実況画面や録画済みビデオで人の顔の検出を設定します。**詳細**をクリックして、フェースファインダー設定ウィンドウを開きます。初期設定に戻すには、**初期設定**ボタンをクリックします。

- 顔の検出角度は、顔の正面から左右方向に 30～45°、上下方向に 25～30°です。
- 顔の検出結果が改善される位置に光が当たるように、カメラを取り付けてください。

- **オブジェクトインデックスにデータを保存**: これにマークを入れると、顔を検出して、顔オブジェクトログに顔の画像を保存することができます。フェースファインダーを起動するとこの機能が作動するように、初期設定されています。
- **詳細検出**: **システムは**、顔を識別するだけでなく、目の検出も行います。
- **検索区域**: 顔検出条件や顔検出区域を選択することができます。
  - **移動物体**: 顔が動いているときにのみ、システムが顔を検出して捕獲します。
  - **区域選択**: 顔を検出する区域を設定します。システムは選択された区域内に顔があるときのみ検出します。プレビュー画面で、マウスを使用して検索を行いたい区域をドラッグしてください。このとき、フェースファインダー設定ウィンドウに、青いフレームが表示されます。検出区域を複数選択することもできます。選択された区域を解除するには、マウスボタンを右クリックして、選択した区域をドラッグするとクリアされます。もしくは、**クリア**をクリックしてもクリアされます。
- **検出感度**: 顔検出の感度を設定します。感度を上昇させると、顔の差が簡単に検出されるようになります。
- **最小顔サイズレベル**: 顔の検出を最小サイズに設定します。システムは、最小顔サイズと同じか、それより大きい顔のみを検出します。このとき、フェースファインダー設定ウィンドウに、緑のフレームが表示されます。
- **外部デバイスのコントロール設定**: センサーやリレーデバイスなどの外部デバイスによって顔検出を起動させるための条件を設定します。
  - **外部デバイスで顔面検出を起動します**: チェックを入れて、トリガーする条件を設定できるようにします。
  - **開始メッセージ**: 顔検出を起動するセンサーレベルを設定します。初期設定は高(High)レベルです。
  - **停止メッセージ**: 顔検出条件をリセットするセンサーレベルを設定します。初期設定は低(Low)レベルです。
  - **リアクション装置**: リレーデバイスの起動レベルを設定します。顔検出条件が**トリガー条件**の条件を満足すると、リレーが信号を発し、システムは顔オブジェクトログを送信します。このログは、顔オブジェクトログで見ることができます。
  - **トリガー条件**: DVR システムにログを送信するためにリレーデバイスを起動する際の条件を設定します。ドロップダウンメニューから、時間(秒)と回数(顔が検出された回数)を選択します。
  - **次以降で装置状態をリセット**: 起動したデバイスを通常状態にリセットするまでの時間を設定します。これは、起動条件がトリガーされたときのみ作動します。

設定後、**テストを開始**をクリックすると、コンフィギュレーション結果をテストすることができます。システムが顔を検出すると、画面上に赤いフレームが表示されます。テスト結果は、下図のように、顔ログリストウィンドウに表示されます。

4.2.3 PTZ トラッキングを設定する

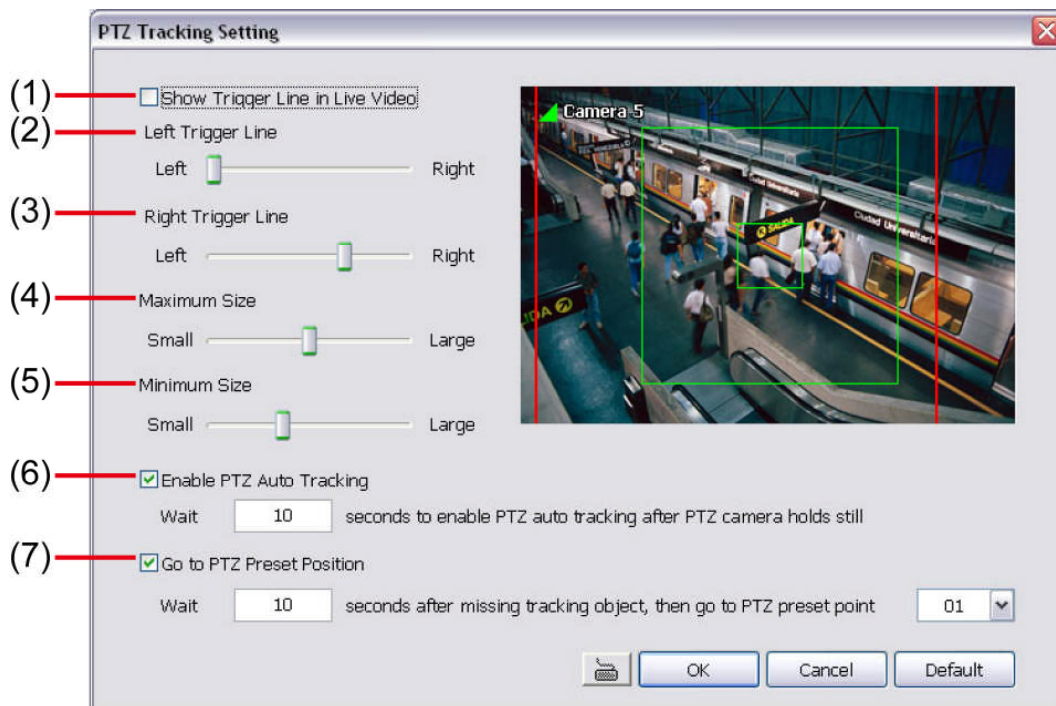
PTZ トラッキングとは、PTZ カメラのあるゾーンを選んで設定したら、トラッキングする物体が設定したゾーンを離れた場合、自動的に物体をトラッキングします。

PTZ トラッキング機能を使用するには、必ず PTZ 機能を持つカメラを使用してください。

1. PTZ カメラ或いは IP PTZ カメラの PTZ 機能を起動します（第 3.7 章を参照）。
2. カメラ設定ウィンドウズでの**詳細（Detail）**をクリックします。
3. 次の手順で PTZ トラッキングを設定します。

   (1) ライブ映像でのトリガーラインを表示：プレビュースクリーンでのトラッキングライン表示をオン/オフします。

   (2) 左トリガーライン(*赤線*): トラッキングゾーンの左境界線を設定します。物体が境界線を越えた場合、カメラが自動的に向きを換え、物体をトラッキングします。

4. **(3) 右トリガーライン(*赤線*)**: トラッキングゾーンの右境界線を設定します。物体が境界線を越えた場合、カメラが自動的に向きを換え、物体をトラッキングします。

(4) 最大サイズ(グリーンフレーム)：検知できる物体の最大サイズ。

(5) 最小サイズ(グリーンフレーム)：検知できる物体の最小サイズ。

(6) PTZ 自動トラッキング機能有効：カメラをマニュアル操作した後、PTZ トラッキング機能が自動復帰します。PTZ カメラをマニュアル操作する時、PTZ トラッキング機能が停止します。この機能を有効することによって、PTZ カメラをマニュアル操

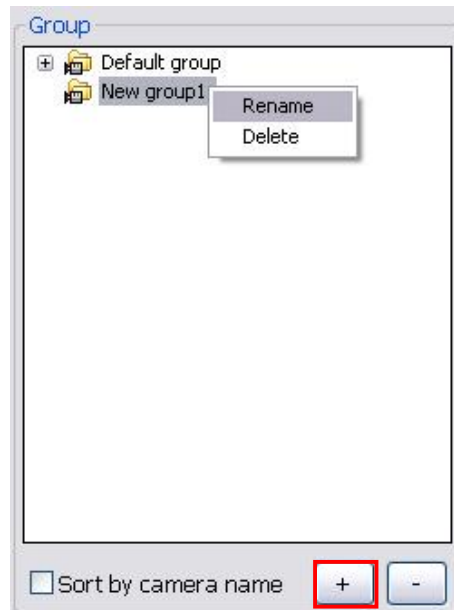
作した後、PTZ トラッキング機能が自動再開します。

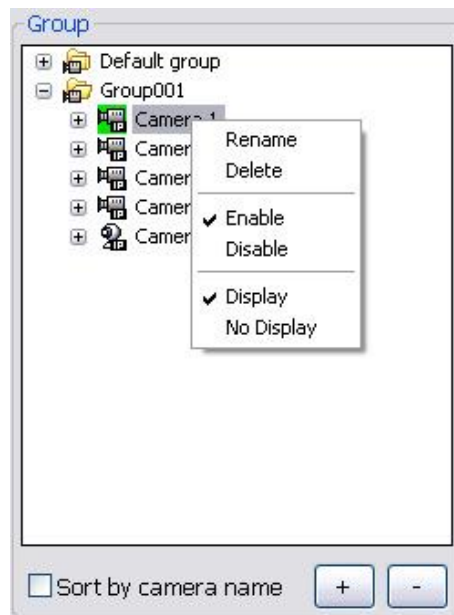
(7) PTZ プリセット位置へ移動：PTZ カメラが物体をトラッキングして、物体を見失い或いは物体がカメラの撮影範囲を離脱した場合、PTZ カメラが選択したプリセット位置へ移動します。

5. **OK** をクリックして、設定を保存します。
6. PTZ トラッキング機能が設定された場合、プレビュースクリーンで PTZ トラッキングアイコン（ ）が表示されます。

4.2.4 カメラグループを作る

カメラグループを作るには次の手順を御参照ください。最大 64 グループまで作ることが可能です。デフォルトグループについて、削除或いは編集することができます。

1. ［＋］をクリックして、新しいグループを追加します。
2. グループで右クリックして、グループ名を改名します。

3. カメラリストからカメラ選択して、グループへドラグします。

4. カメラを右クリックして、改名、削除、映像ディスプレイ、映像をディスプレイしない、カメラを有効、カメラを無効することができます。
5. 別のグループを新規追加したい場合、手順 1～4 を再度行ってください。
6. グループを削除するには、 - をクリックして、或いは右クリックして、削除を選んでください。
7. **カメラ名で分類（sort by camera name）**にチェックを入れて、名前の順でグループをディスプレイします。
8. グループの ＋ をクリックして、グループを展開します。 カメラの ＋ をクリックして、カメラに接続してる全ての装置を一覧することができます。
9. カメラグループ中の異なるカメラアイコンは異なるタイプのカメラ ―― (IP カメラ)、(アナログカメラ)、および(リモート DVR のカメラ)を表します。

10. プレビュー／高度モードでカメラツリーアイコンをクリックするだけで、簡単にカメラグループを見ると管理することができます（第 3.2(11) カメラグループ樹形図を参照）。カメラグループ樹形図からでは、カメラを有効／無効、ディスプレイする／ディスプレイしない、カメラ名の変更、カメラの音声を有効／無効にすることができます。

プレビュー／高度モードでのカメラグループ樹形図を管理するため、ユーザー設定の**グループツリーメニュー（Group Tree Menu）**の制御権限を有効にしないといけません(第 4.9 章節 ユーザー設定を参照)。

4.3　　録画の設定

4.3.1　　アナログカメラ設定

録画ダイアログボックスで、**OK** をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

録画設定を行いたいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**チェックボックスにマークを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを**右クリック**します。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを**左クリック**します。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。カメラのタイプによって、カメラのアイコンが異なります。

IP カメラのアイコン

アナログカメラのアイコン

(2) 録画モード

00 から 23 までのブロックは、24 時間時計の各時間を表しています。24 時間全部にわたって録画するには、録画モードを選択して、⊙ボタンをクリックします。特定の時間だけを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- **常時録画**

選択されたカメラからビデオを常時録画して、指定の保存パスに保存します(第 4.1 章#1 も参照)。

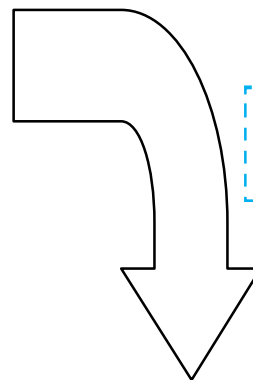
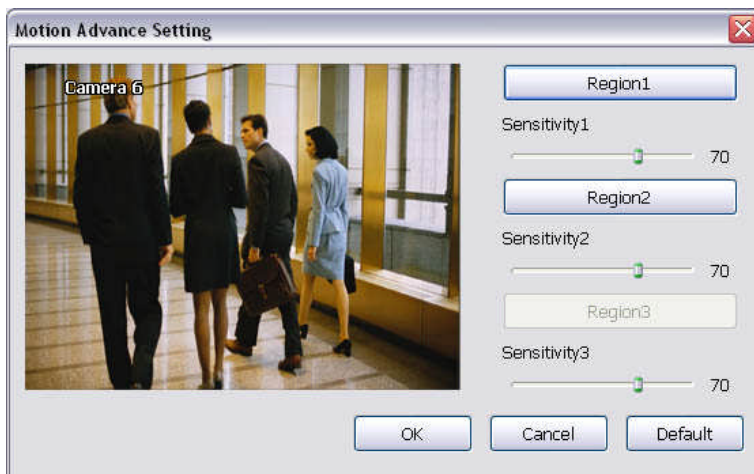
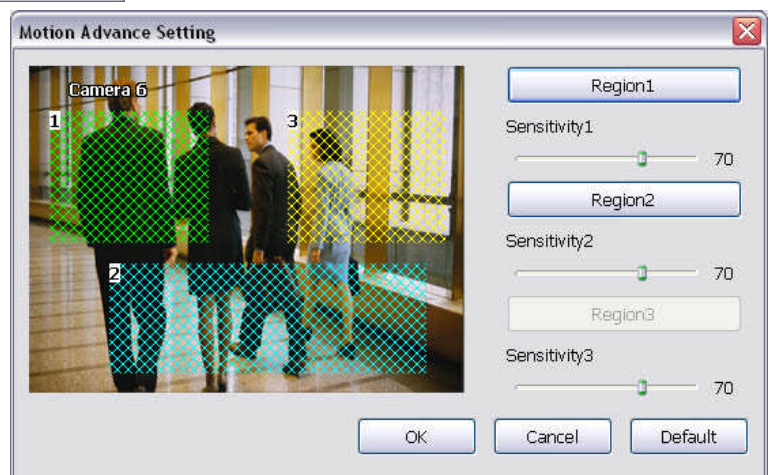
- **動作検知録画**
  システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。
- **スマート録画**
  動きを検知すると、自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと、最小フレームレート設定で録画されます。(7) フレームレートセクションで、最大および最小フレームレートを設定してください。
- **音声検知録画**
  DVR システムは、音声の大きさが音声検知設定の強度値を上回ると音声を録音します。
- **録画しない**
  システムは録画を行いません。
- **キーフレームレコーディング**
  毎秒 1 つのフレームのみをレコーディングします。

(3) 音声

選択されたカメラのチャンネルへ音声を割り当てます。1 台のカメラソースには一つの音声チャンネルしか割り当てられません。これにより、音声とビデオの両方が記録されます。

この機能には、音声 I/O カードが必要です。

(4) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。**高度設定（Advanced）**ボタンをクリックして、動作検知するエリアを選択します。**地域 1/2/3（Region 1/2/3）**ボタンをクリックして、カメラスクリーンで動作検知するエリアをクリックとドラグします。**感度 1/2/3（Sensitivity 1/2/3）**バーをスクロールして、動作検知の感度を調整します。**OK** をクリックして、設定を保存して終了します。設定をリセットしたい場合、**デフォルト（Default）**をクリックしてください。

(5) 音声検知

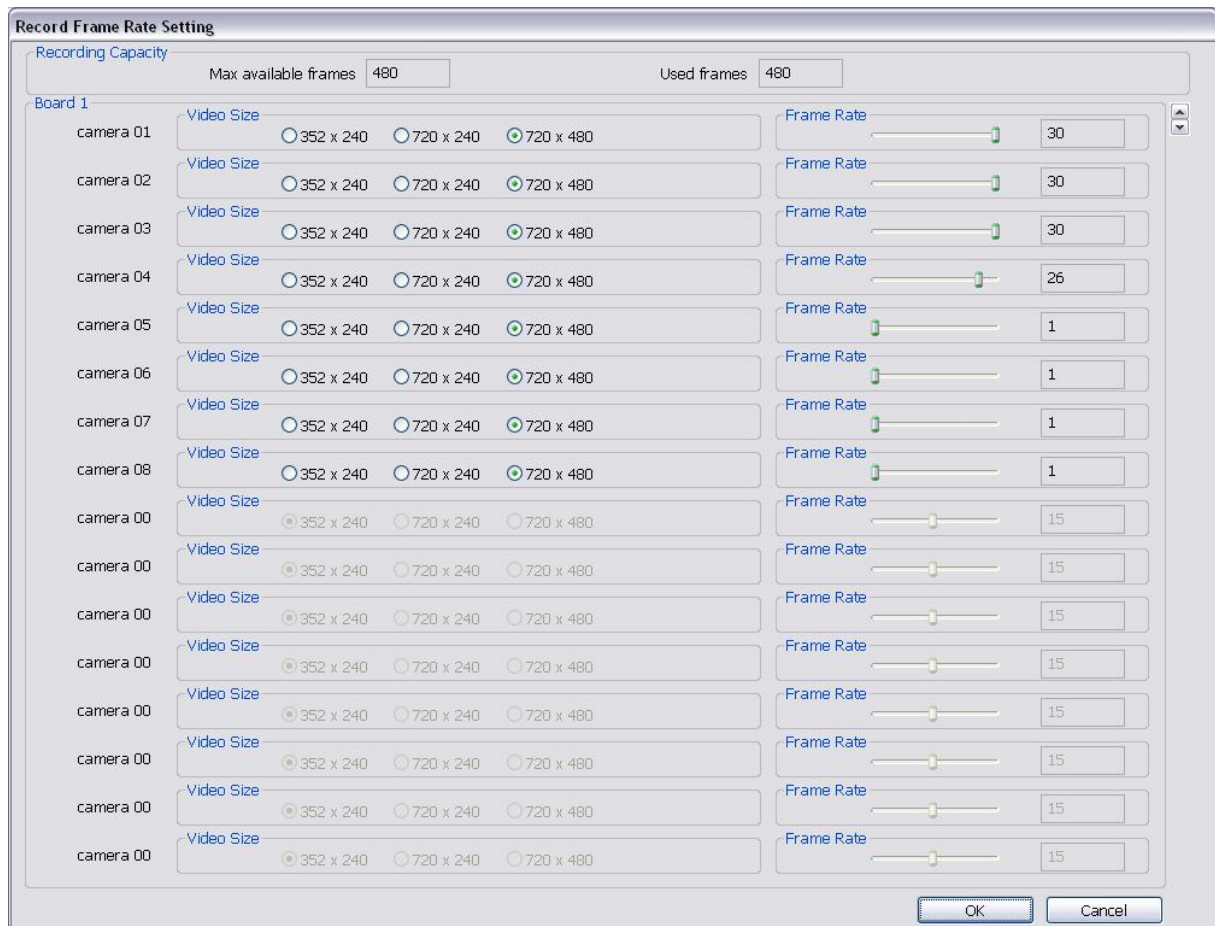
音声検出器の感度を調整します。音声検出設定の強度値を上回ると、システムは音声を録音します。

(6) 画質

ビデオの画質を調整します。この値が高いほど圧縮レベルが低くなり、ハードディスクの使用スペースが増加します。

(7) フレームレート

動きがある場合と動きがない場合の録画における、最大および最小フレームレートを設定します。フレームレートは、NTSC では 1 から 30 まで、PAL では 1 から 25 まで設定できます。フレームレートが多いほど、ハードディスクの使用量が増加します。

(8) ビデオサイズ

ビデオサイズを選択して⊙ボタンをクリックします。サイズが大きいほど、大きいファイルが作成されます。

(9) マスク/シールド編集

マスク: これは動きを無視したいエリアにマークを付ける機能で、マークのないエリアでのみ監視が行われます。シールド: これは画面上のエリアをカバーする機能で、カバーされたエリアは画面上で見ることができなくなり、録画もされません(第 4.3.3 章も参照)。

(10) 個別の調整

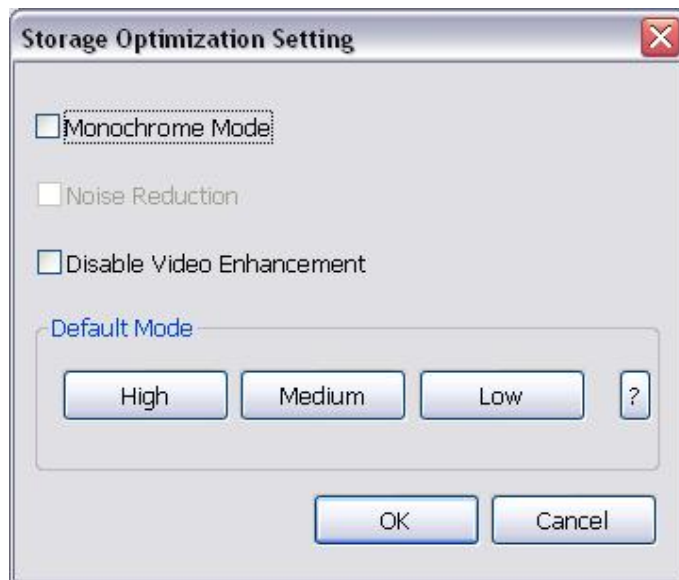
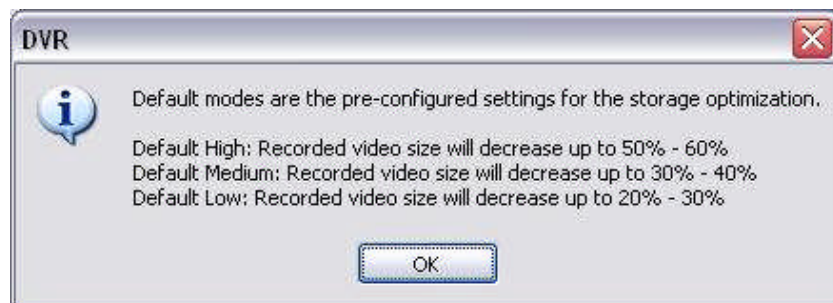
各チャンネルのレコーディングフレームレートを調整します。 **使用可能な最大フレーム**は使用可能なフレーム総数です。 **使用済みフレーム**はすでに使用済みのフレームです。 **ビデオサイズ**を選択し、バーをスクロールしてカメラの**フレームレート**を調整します。 [▼] ボタンをクリックして次のページに移動します。 **OK** をクリックして構成を保存します。 キャンセルをするには、**キャンセル**をクリックします。

(11)保存最適化機能有効(Enable Storage Optimization)

 アナログカメラ対象の機能です。

にチェックして、保存スペースを節約します。**詳細(Detail)**ボタンをクリックして、保存最適のタイプを選択します。

✓ **モノクロームモード(Monochrome Mode)**:映像は白黒で記録します。

✓ **ビデオエンハンスメント無効(Disable Video Enhancement)**:ビデオエンハンスメント機能をシャットダウンします。

デフォルトモードの高(High)/中(Medium)/低(Low)を選択することができます。**?** ボタンをクリックして、デフォルトモードの定義が表示されます。

(12) グループ

クリックして、**カメラ設定**で設定したカメラグループが表示されます（第 4.2.4 章を参照)。

(13) カメラ

クリックして、カメラのライブ映像を(13)**映像スクリーン**で見ます。

(14) 映像スクリーン

選択されたカメラの映像をディスプレイします。

4.3.2 IP カメラ設定

録画ダイアログボックスで、OK をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

録画設定を行いたいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**チェックボックスにマークを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを**右クリック**します。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを**左クリック**します。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。カメラのタイプによって、カメラのアイコンが異なります。

IP カメラのアイコン

アナログカメラのアイコン

(2) 録画モード

00 から 23 までのブロックは、24 時間時計の各時間を表しています。24 時間全部にわたって録画するには、録画モードを選択して、⊙ボタンをクリックします。特定の時間だけを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- **常時録画**
  選択されたカメラからビデオを常時録画して、指定の保存パスに保存します(第 4.1 章#1 も参照)。
- **動作検知録画**
  システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。
- **スマート録画**
  動きを検知すると、自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと、最小フレームレート設定で録画されます。(7) フレームレートセクションで、最大および最小フレームレートを設定してください。
- **音声検知録画**
  DVR システムは、音声の大きさが音声検知設定の強度値を上回ると音声を録音します。
- **録画しない**
  システムは録画を行いません。
- **キーフレームレコーディング**
  毎秒 1 つのフレームのみをレコーディングします。

(3) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。**高度設定(Advanced)**ボタンをクリックして、動作検知するエリアを選択します。**地域 1/2/3(Region 1/2/3)**ボタンをクリックして、カメラスクリーンで動作検知するエリアをクリックとドラグします。**感度 1/2/3 (Sensitivity 1/2/3)**バーをスクロールして、動作検知の感度を調整します。**OK** をクリックして、設定を保存して終了します。設定をリセットしたい場合、**デフォルト(Default)**をクリックしてください。

(4) マスク/シールド編集

マスク: これは動きを無視したいエリアにマークを付ける機能で、マークのないエリアでのみ監視が行われます。シールド: これは画面上のエリアをカバーする機能で、カバーされたエリアは画面上で見ることができなくなり、録画もされません(第 4.3.3 章も参照)。

(5) グループ

クリックして、**カメラ設定**で設定したカメラグループが表示されます(第 4.2.4 章を参照)。

(6) カメラ

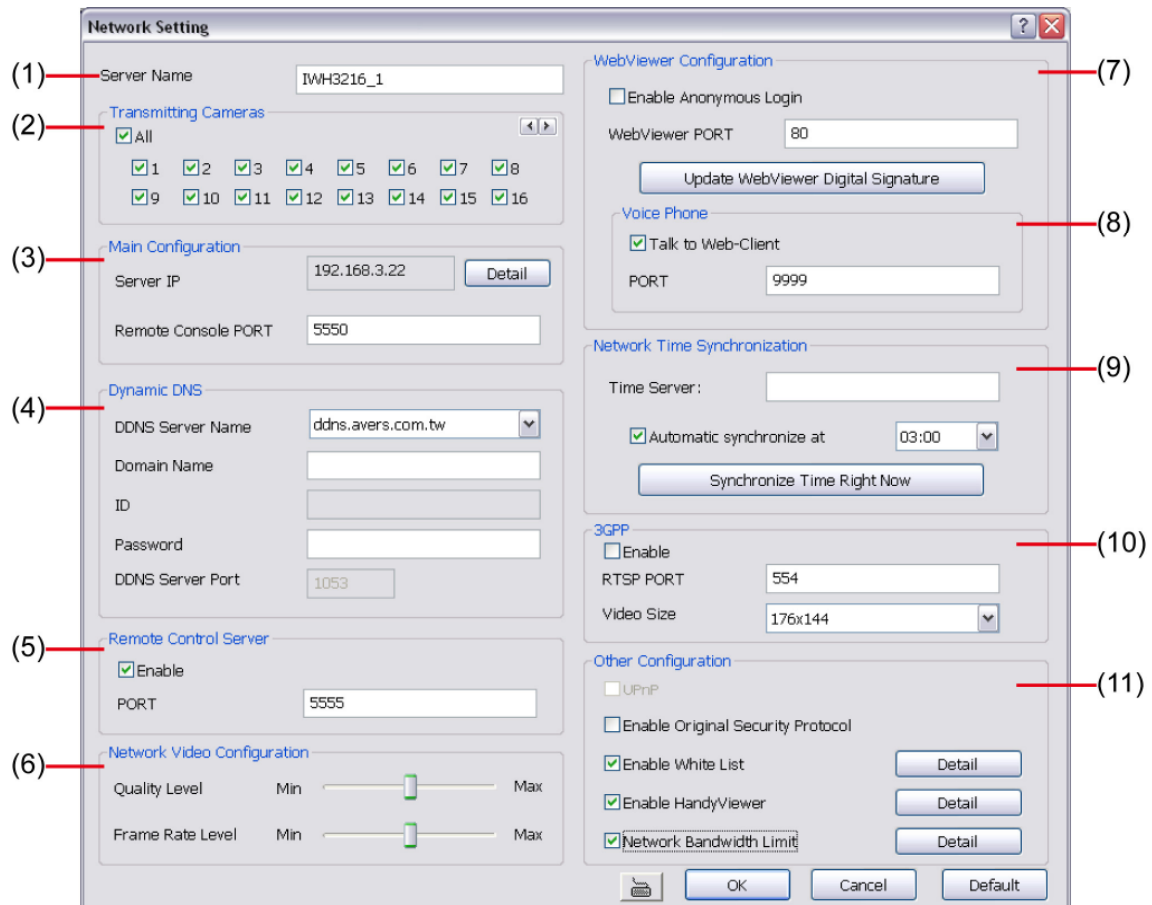
クリックして、カメラのライブ映像を(7)**映像スクリーン**で見ます。

(7) 映像スクリーン
選択されたカメラの映像をディスプレイします。

4.3.3 画面上のエリアをマスク/シールドする /マスクの表示及び色を変更する

1. マスク/シールド編集セクションで**マスク/シールド編集**チェックボックスにマークを入れます。
2. **マスクの表示**チェックボックスを選択して、監視スクリーンにマスクフレームを表示します。
3. 編集セクションでマスクまたはシールドを選択して⦿ボタンをクリックします。
4. カラーセクションで、カラーを選択して⦿ボタンをクリックします。
5. ビデオスクリーン上のフレームをクリックおよびドラッグして、マスクまたはシールド領域を作成します。

4.4 ネットワーク設定

ネットワーク設定ダイアログボックスで、OK をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

(1) サーバー名

DVR ユニットに名前を割り当てます。英数字のみが使用できます。

(2) 送信するカメラ

送信するカメラセクションで、ウェブビューアー、遠隔コンソール、PDA ビューアー、ハンディビューアー（静止画像）を使用して、インターネットを介してアクセスさせたいカメラの番号を選択してクリックします。全部のカメラを選択するには、**すべて**チェックボックスにマークを入れます。

(3) サーバー IP

サーバーIP と遠隔コンソールポート番号を設定します。システムは自動的にサーバーIP アドレスを検出します。これは、遠隔地からインターネットを介して DVR サーバーにアクセスするときに必要です。

(4) ダイナミック DNS（ドメイン名解決システム）

ドメイン名とパスワードを入力します。この機能を使用するには、http://ddns.avers.com.tw にアクセスして登録する必要があります(付録 A も参照)。CD キー番号、製品名、パスワード、ユーザー情報を入力します。インターネットに接続するたびに IP アドレスが変更される場合に、このサービスを利用します。

(5) リモートコントロールサーバー

リモートアプリケーション（CM3000 など）からリモートコントロールを作動または解除します。**ポート**カラムにリモートアクセスポートを入力します。初期設定値は 5555 です。

(6) ネットワークビデオコンフィギュレーション

リモートプログラムに送信したり、ビデオを見る際の、ビデオ画質とフレームレートを設定します。調整バーをスクロールして、**画質レベルとフレームレートレベル**を設定します。

(7) Web ビューアの構成

パスワードなしで DVR サーバーにリモートアクセスするには**匿名ログイン作動**を起動させます。また、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる双方向トーク機能を使用するには、**ウェブ-クライアントトーク**を起動させます。この機能を起動する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認してください。 **ウェブ-クライアントトーク**を解除すると、ウェブビューアー双方向トークボタンを押したときに、DVR サーバー側にいる人のみがクライアント側の人の声を聞くことしかできません(第 7.1 章 #6 を参照)。

ウェブビューアーデジタル署名を必ず毎年更新してください。さもないと、DVR ウェブビューアーから DVR サーバーにアクセスできなくなります。ウェブビューアーデジタル署名を更新またはダウンロードするには、**ウェブビューアーデジタル署名の更新**をクリックしてください。DVR がインターネットに接続されていることを確認してください。

(8) ボイスフォーン

ボイスフォーンは、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる双方向トーク機能です。この機能を起動する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認してください。**ウェブクライアントと会話する**チェックボックスを解除すると、ウェブビューアー双方向トークボタンを押したときに、DVR サーバー側にいる人のみがクライアント側の人の声を聞くことしかできません(第 7.1 章 #6 を参照)。

ウェブビューアーディジタル署名を必ず毎年更新してください。さもないと、DVRウェブビューアーからDVRサーバーにアクセスできなくなります。ウェブビューアーデジタル署名を更新またはダウンロードするには、**ウェブビューアーデジタル署名の更新**をクリックしてください。DVR がインターネットに接続されていることを確認してください。

(9) ネットワーク時間同期化

DVR システム時間をネットワーク時間サーバーと同じになるように調整します。**時間サーバー**の IP アドレスかドメイン名を記入してください。**自動同期化**を選択すると、毎日、自動時間同期化が設定されます。もしくは、**今すぐ時間を同期化**をクリックすると、直ちに時間が調整されます。

(10) 3GPP

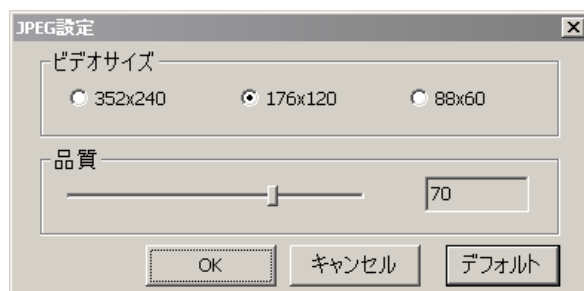
3GPP 機能を有効した場合、携帯電話のブラウザを使い、録画データを見ることができます。携帯電話のブラウザで http://DVR server IP address/3GPP を入力して、DVR サーバーより録画データを受信することが出来ます。3GPP を接続するための RTSP ポートを入力します。携帯電話のブラウザへ転送するビデオサイズを選択します。

(11) その他のコンフィギュレーション

- **ホワイトリスト有効**

  ホワイトリストは、DVR サーバーへ遠隔アクセスできる IP アドレスリストです。ホワイトリスト機能を有効した場合、リストにない IP アドレスから DVR へ遠隔アクセスすることが出来ません。IP アドレスを入力して**追加**をクリックします。もしくは、IP アドレスの範囲を入力して**追加**をクリックします。リストから IP を削除するには、IP を選択して**削除**ボタンをクリックします。入力をリセットするには、**クリア**ボタンをクリックします。

- **ハンディビュー有効**

  リモートユーザーが PDA または携帯電話を使って VDR サーバーにアクセスしたり、ビデオサイズや画質を選択できるようにする機能です(第 7.5 章を参照)。

- **ネットワーク回線容量制限**
  チャンネル: チャンネルごとにネットワークバンド幅を設定します。
  全部: ネットワークバンド幅の総消費上限を設定します。

4.5 スケジュールの設定

全部のカメラについて、1 週間単位または単発的に、録画やバックアップやネットワークの起動や再起動やアラームの解除のスケジュールを立てることができます。00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。一番左のカラムには、1 週間分の日が表示されます。

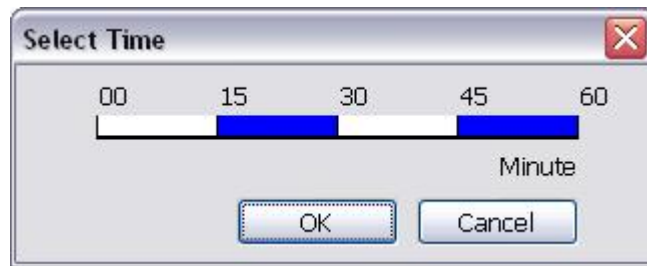
スケジュールの設定方法

1. カレンダーで日付を選択します。 と のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます。
2. ドロップダウンリストから、スケジュールに組み込みたい条件を選択します。
   - **録画**
     録画設定に基づいて、全カメラで、設定時刻にビデオ録画を開始させます (第 4.3 章も参照)。
   - **バックアップ**
     設定時刻に、指定のバックアップパスに全データの別コピーを保存します。DVR は、まだアーカイブに含まれていないデータのみを自動的に更新してバックアップします。バックアップパスを割り当てるには、をクリックします。
     - ✓ **ミラーバックアップ(Mirror Backup)**: HDD に保存した全てのデータを指定した時刻からバックアップ先へコピーします。
     - ✓ **増加分バックアップ(Incremental Backup)**: 前回バックアップしてアーカイブにないデータのみをバックアップします。

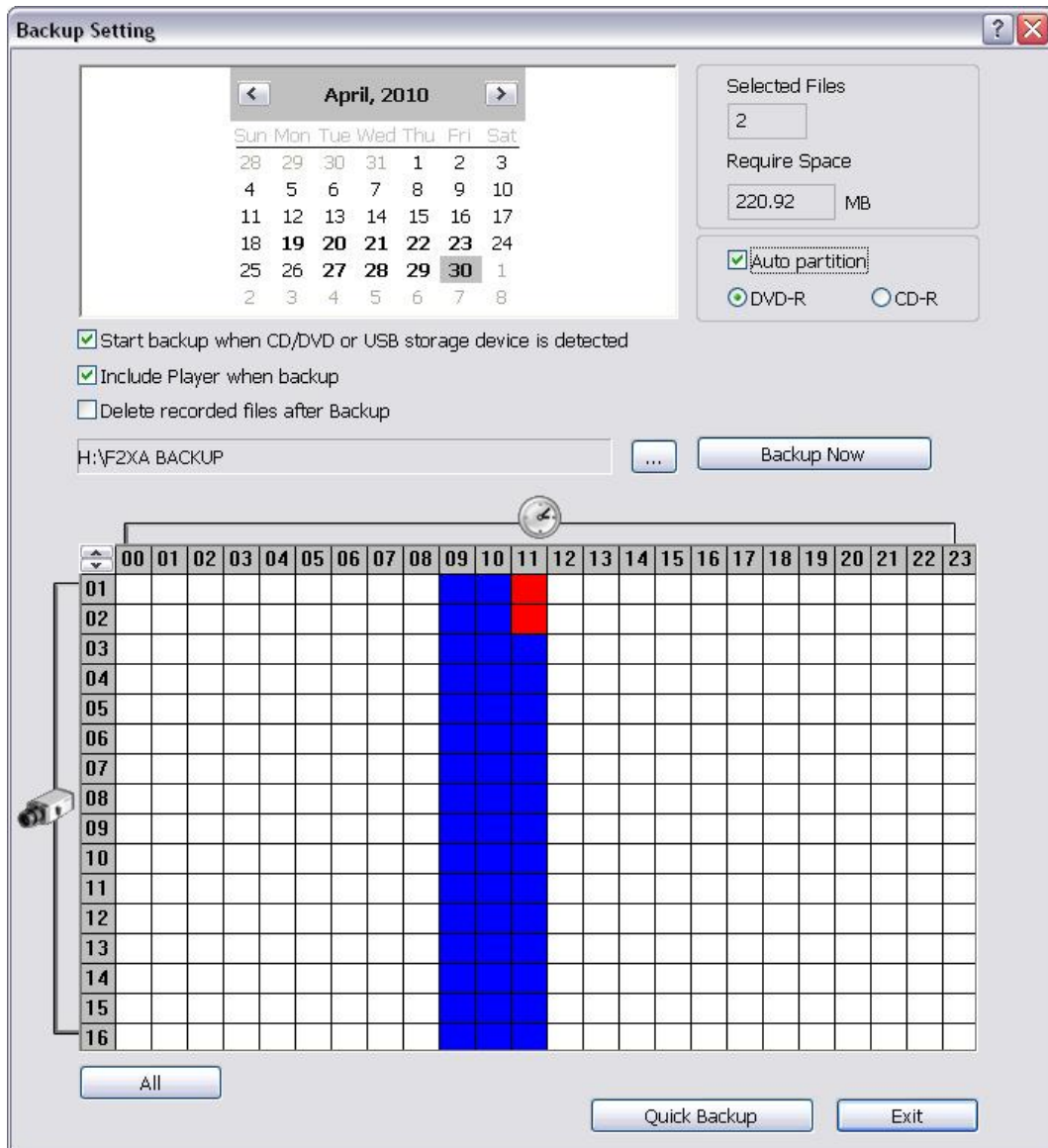
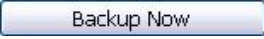
バックアップフォルダと保存フォルダが同じドライブ内にないことを確認してください。

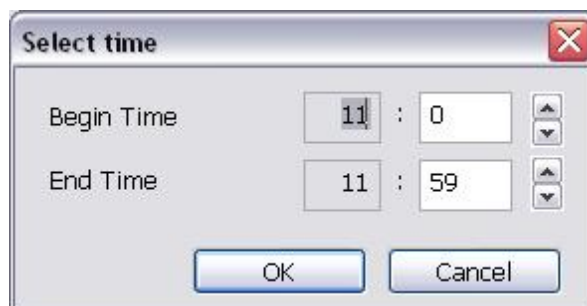
   - **ネットワークの起動**
     設定時刻に、DVR リモートシステムがアクセスできるように起動します。指定時刻以降は、ネットワーク機能は解除されます。ネットワーク機能が既に起動されている場合、指定時間が終了しても、ネットワーク機能は解除されません。
   - **再起動**
     指定時刻にコンピューターを再起動します。
   - **アラームの解除**
     設定時刻に、アラームを一時的に解除させせます。
   - **起動するリレーの番号**

設定時刻にリレーを起動させます。リレーが接続されていない場合、「起動するリレーの番号」機能はドロップダウンリストに表示されません。リレー番号は、何個のリレーが接続されているかによって異なります。

3. 1 週間単位か単発的かを指定します。⦿ボタンをクリックして選択を行います。
4. 色の付いたブロックを**右クリック**します。 時間選択ダイアログボックスでクリックして、設定したい部分を起動または解除します。 **OK** をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

5. もしくは**すべて**をクリックして全ブロックを選択します。設定を保存するには、保存をクリックします。設定を解除するにはクリアをクリックします。
6. スケジュールの設定を終了するには、**OK** をクリックすると設定が保存され、終了します。キャンセルをクリックすると、設定を保存しないで終了します。

4.6 バックアップの設定

バックアップ設定ダイアログボックスで、00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。01 から 16 までの数字は、カメラ番号を表しています。ファイルをバックアップする際には、バックアップフォルダに QLogViewer や Player アプリケーションが含まれていることがあります(第 5 章も参照)。

4.6.1 ファイルをバックアップする

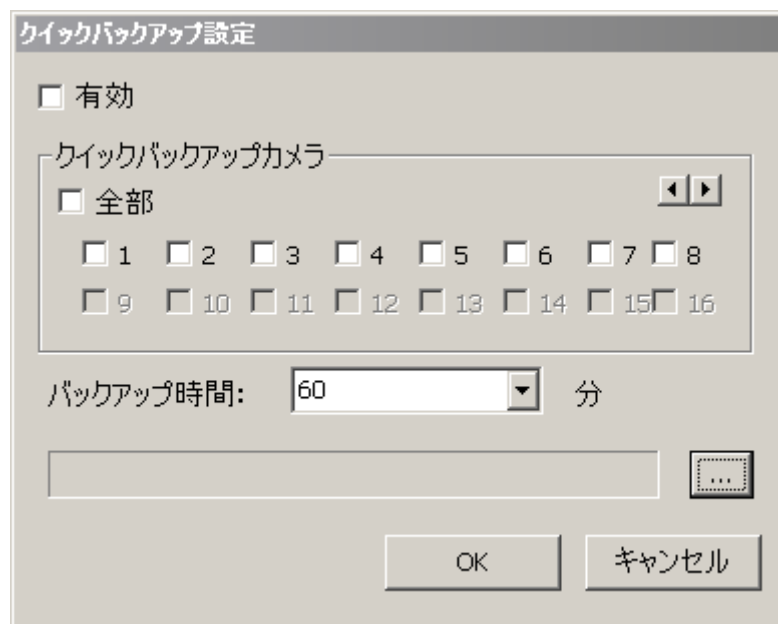
1. カレンダーでバックアップしたい録画ファイルの日付を選択します。 と のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます。
2. 下の表で、青いブロックをクリックして録画ファイルを選択します。選択すると青いブロックが赤くなります。白いブロックはデータがないことを示しています。特定の時刻を設定したい場合、選択されたブロックを右クリックし、開始時刻と終了時刻を入力します。

3. カレンダー横の情報を確認します。

- **選択されたファイル**: 選択されたファイルの数を示す。
- **必要なスペース**: 選択されたファイルのサイズ合計を示す。

4. 自動分割を起動して、ファイルのサイズを DVD−R または CD−R のどちらに収めたいか、選択します。DVR は、DVD−R または CD−R に焼くことができるように、自動的に分割します。
5. 保存フォルダに録画ファイルを**保存したくない**場合には、**バックアップ後にファイルを削除する**チェックボックスにマークを入れます。
6. [...] をクリックして、バックアップファイルを保存するパスを設定します。
7. [Backup Now] をクリックすると、選択されたファイルのバックアップが開始されます。
8. バックアップを中止したい場合、「処理中…」ダイアログボックスの**中止**を押します。バックアップが完了すると、バックアップパスリストに、バックアップされたファイルが列記されます。ファイルを CD に焼くには、コンピューターに NERO 6 またはそれ以降のバージョンがインストールされている必要があり、リストからファイルを選択して**焼く**をクリックします。後で焼く場合には、**終了**をクリックして手順を中止してください。
9. CD/DVD バックアップで、**焼いた後に削除する**チェックボックスにマークを入れると、焼いた後にバックアップファイルが削除されます。**焼く**をクリックすると焼く手順が開始され、**終了**をクリックするとこの手順が中止されます。

4.6.2 簡易バックアップの設定

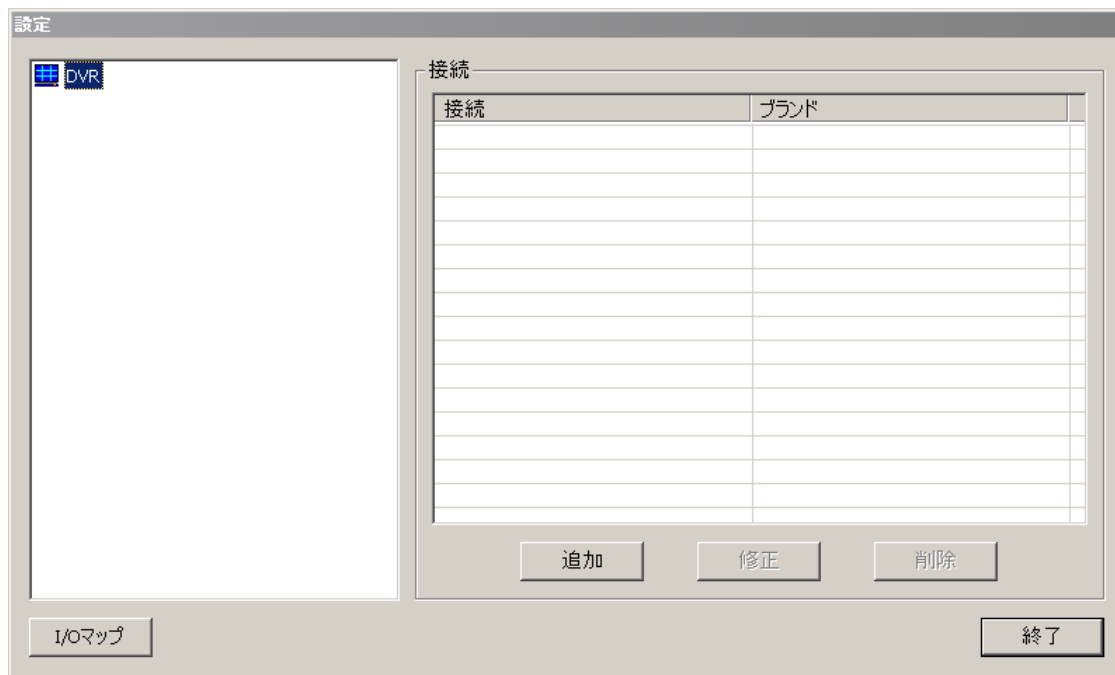
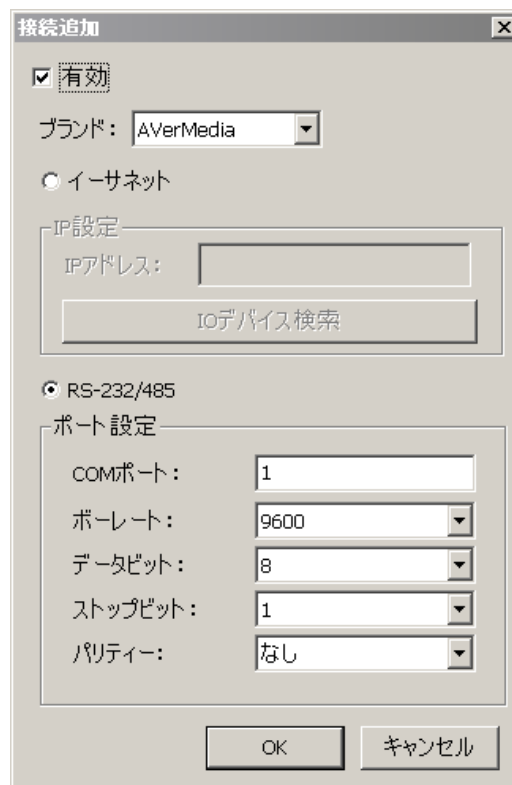
すばやくバックアップするには、ボタンを押して、簡易クイックバックアップ規則を設定してください。

1. **簡易バックアップ**をクリックします。
2. クイックバックアップ設定で**起動**にマークを付けます。
3. 次に、バックアップしたいチャンネルを選択します。
4. **バックアップするまでの時間**: バックアップするまでの時間を分で設定します。たとえば、「60 分前まで」とは、今から60分前までさかのぼって録画ファイルをバックアップすることを意味します。現在の時刻が 13:00 であった場合、簡易バックアップボタンを押すと、システムは、12:00 からの分のバックアップを開始します。

4.7　センサーの設定

この機能を使用するには、I/O デバイスをインストールしている必要があります。

1. ドロップダウンリストをクリックして、センサーの ID 番号を選択します。
2. センサー名を入力します。
3. I/O デバイスが利用可能な場合、**外部 IO** をクリックして、外部 I/O デバイスをコンフィギュレーションします。(第 4.7.1 章も参照)。
4. システムは自動的にセンサーを検出し、関連情報を入力します。内容セクションに、センサーの説明を入力してください。
5. テストセクションで、**テスト**をクリックして、センサーの状態を確認します。赤は高(High)で、緑は低(Low)です。
6. **OK** をクリックすると新しい設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

4.7.1　外部 I/O ボックスを設定する

DVR システムには I/O デバイスの接続数を増やすために外部 I/O ボックスを接続することができます。

1. **追加**をクリックします。.
2. **有効**ボックスにマークを入れ、この外部 I/O ボックスを起動させます。
3. ドロップダウンリストから外部 I/O ボックスの銘柄を選択します。
4. **ポート設定**では、I/O ボックスのモデルが異なると、ポートパラメーターも異なります。ポート設定の情報については、外部 I/O ボックスの取扱説明書を参照してください。外部 I/O ボックスを使用する際には初期設定値を使用してください。
5. **OK** をクリックして設定を保存します。
6. 2 台以上の外部 I/O ボックスを追加する場合には、**追加**をクリックして、上記ステップ 2～4 を繰り返します。

7. 外部 I/O ボックス設定ダイアログボックスには、追加された外部 I/O ボックスがすべて表示されます。追加された外部 I/O ボックスをクリックして、**追加**をクリックすると、接続されているリレーやセンサーがスキャンされます。
8. **モジュール追加**ウィンドウで、**スキャン**をクリックすると、外部 I/O ボックスに接続されているリレーやセンサーがスキャンされます。

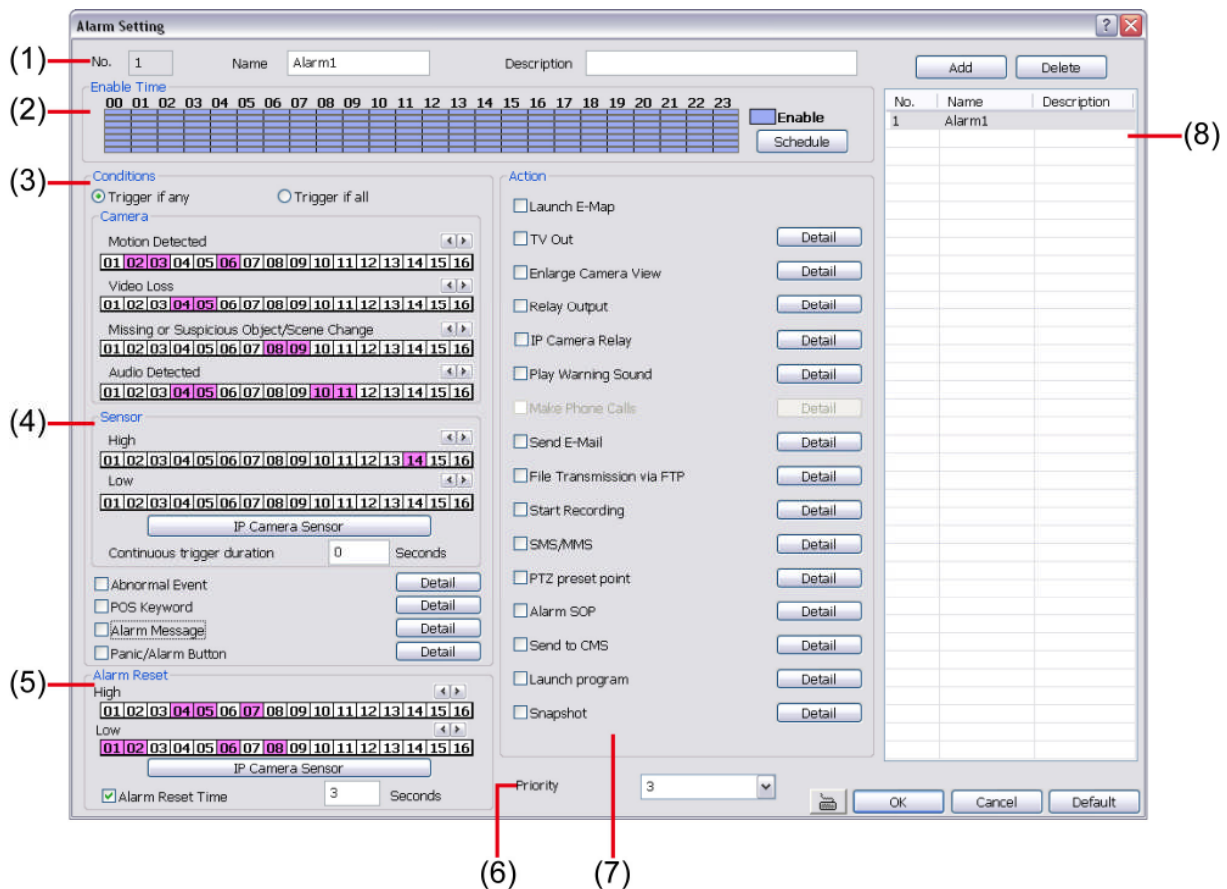
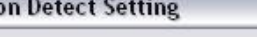
9. 接続されているリレーやセンサーがすべて列記されます。ラジオボタンをクリックすると、リレーの状態が制御されます。次に、**OK** をクリックして設定クリックして設定を保存するか、**キャンセル**をクリックして保存しないで終了します。
10. 外部 I/O ボックス設定ウィンドウに、ツリー型トポロジーに、接続されている外部 I/O ボックスとそのモジュールがすべて列記されます。
11. I/O デバイス情報をすべて表示させるには、**I/O マップ**をクリックしてください。

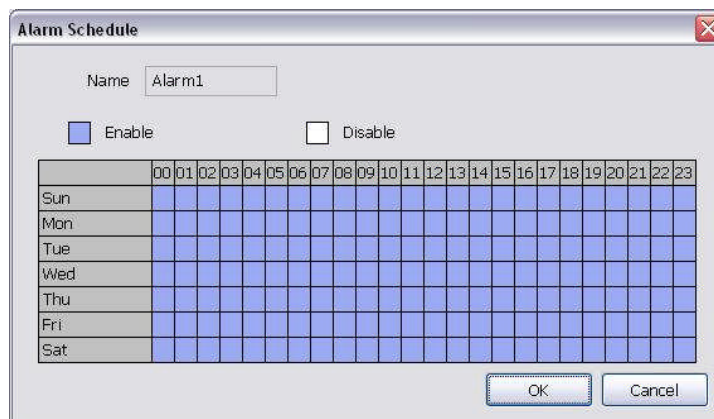
4.8 リレーの設定

この機能を使用するには、I/O デバイスをインストールしている必要があります。

1. ドロップダウンリストをクリックして、リレーの ID 番号を選択します。
2. **有効**にマークを付け、選択したリレーを起動します。
3. 外部 I/O デバイスが利用できる場合には、**外部 I/O** をクリックして、外部 I/O をコンフィギュレーションします（第 4.7.1 章も参照)。外部 I/O が設定されると、ドロップダウンリストに表示され、選択することができます。
4. システムは自動的にカードと入力番号を検出します。内容セクションに、リレーの説明を入力してください。
5. テストセクションで、**テスト**をクリックして、リレーを起動させます。赤は高（High）で、緑は低（Low）です。
6. **パルストリガの使用可能化**を選択すると、**インターバル時間**および**検索時間**の設定に応じてリレーがトリガされます。 **インターバル時間**は、リレーがトリガされるための空白時間です。 例えば、インターバル時間が 3 秒に設定されている場合、リレーは 3 秒ごとにトリガされます。 **読出し時間**はリレーがトリガ状態を保つ時間です。 例えば、読出し時間が 2 秒に設定されている場合、リレーはトリガされてから 2 秒間トリガ状態を保ちます。
7. **OK** をクリックすると新しい設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

4.9　アラームの設定

アラームの設定ダイアログボックスでは、**追加**をクリックすると新しいアラーム設定が挿入されて設定され、**削除**をクリックすると選択したアラーム設定が削除され、**OK** をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると選択したアラーム設定を保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

アラームの設定法

1. **追加**をクリックして、新しいアラーム設定を挿入して設定します。このアラーム設定を変更したい場合には (7) **アラーム設定リスト**で項目をクリックしてください。
2. (1) **アラーム設定番号/名称/説明**では、下のリストに、選択されたアラームの設定番号の項目が表示されます。アラームの名称と説明を記入してください。
3. (2) **起動時刻**では、00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。**スケジュール(Schedule)**をクリックして日時を選択して、アラーム機能を**起動(Enable)**または**解除(Disable)**したいブロックをクリックします。

4. (3) **条件**では、「**いずれかが満足されたら起動**」を設定すると、条件のいずれかが満足されたときにアラームを起動させることができ、「**すべてが満足されたら起動**」を設定すると、条件がすべて満足されたときにアラームを起動させることができます。
   - **動作検知**:カメラナンバー(01 から 32)を選択してクリックして、システムアラームの条件を設定します。カメラナンバーを右クリックして、動作検知する**連続作動期間(Continuous trigger duration)**を設定します。アラーム送信期間を設定して、設定した期間より長く動作を連続検知すると、アラームを送信します。

- **ビデオ消失**（**Video Loss**）で、カメラ番号(01 から 32)をクリックして、ビデオ消失時のアラーム条件を設定します。 カメラ番号を右クリックし、ビデオロスの**継続トリガ時間**を設定します。 一定時間ビデオロスの検知が継続する場合に、システムがアラームを送信する時間の間隔を入力します。

- 「**物体が消失する、または疑わしい物体が検出される**」で、カメラ番号(01 から 32)を選択してクリックして画面上の特定の物体を選択(カメラ番号を右クリックして詳細設定を行う)しておくと、その特定の物体が消失したり或いは疑わしい物体があった場合、システムがアラームを発します(第 4.9.11 章を参照)。
- **音声検知**でを選択してクリックしておくと、異常音を検知したときにシステムがアラームを発します。

5. **(4) センサー**では、センサー番号(01 から 16)を選択してクリックして、システムがアラームを起動する条件を設定します。センサーの通常の状態が高である場合、センサー状態を低にしておいてください(第 4.7 章ステップ 4 を参照)。

   IP カメラセンサーをクリックして、IP カメラのセンサー条件を設定します。**高**（**High**）或いは**低**（**Low**）をクリックして、システムがアラームするセンサー条件を設定します。欄に枠があった場合、選択されてることです。

- **連続トリガー期間**（**Continue trigger duration**）：センサーをトリガーして、設定した期間中で同じ状態であった場合、アラームを発します。
- **異常イベント**（**Abnormal Event**）：起動或いは解除して、システムがアラームを発する条件を設定します。

- **再起動**: 異常な状況なしで DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
- **異常再起動**: 異常な状況下で DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
- **録画停止**: 録画が停止した場合に、システムは警告メッセージを送信します。
- **ネットワーク停止**: DVR システムのネットワーク接続が切れた場合、システムが警告メッセージを送信します。
- **ハードディスクエラー**: ハードディスクが正常に動作しない場合、システムが警告メッセージを送信します。
- **温度**: システムが警告メッセージを送信する温度の上限を設定します。DVR システムの温度が上限を上回ると、システムが警告メッセージを送信します。.
- **不法侵入**: **物体計数**セクション(第 4.2.1 章を参照)で設定された選択区域の間で物体が移動した場合、システムが警告メッセージを送信します。移動方向（物体が区域 1 から区域 2 へ移動したか、または、区域 2 から区域 1 へ移動したか）と**詳細**(**Detail**)をクリックして、システムアラームするカメラと回数を選択します。
  - ✓ **1 回以上トリガー**(**Trigger if once**)：選択したカメラが選択した不法侵入を満たしたときにアラームを発します。
  - ✓ **トリガー合計回数が設定値を超えた**(**Trigger if the amount exceeds**)：選択したカメラが選択した不法侵入回数条件を満たしたときにアラームを発します。

不法侵入で選択した場合には、**物体計数**を設定されたカメラのみが利用可能です。

- **顔面検出**(**FaceFinder**)：選択したチャンネルが顔面検出した時にアラームを発します。

顔面検出を設定されたカメラのみ選択可能です。

- **POS キーワード**：チェックボックスにマークを入れると、POS からのデータがキーワードとマッチするか否かがスキャンされます(第 4.9.10 章を参照)。
- **アラームメッセージ**：チェックボックスにマークを入れると、ユーザー自身のプログラムで外部アラームメッセージを起動させせることができます。コンフィギュレーションの詳細については、最寄りの販売店にお問い合わせください。
- **アラームボタン**：チェックボックスにマークを入れると、手動アラーム機能を起動させることができます。手動アラーム機能のアラームメッセージを設定するには、アラームボタンをクリックしてアラームボタン番号を選択し、アラームボタンの説明を記入してください。アラームボタンを設定すると、DVR アプリケーションユーザー情報にアラームボタンアイコンが表示されます。アラームボタンアイコンをクリックすると、予め定義されたアラームが起動します。

6. **(5) アラームリセット**でカメラ番号(01 から 16)をクリックして、アラームのリセット条件を設定します。アラームがリセットされると、その時点でアラーム動作が停止します。センサーの通常の状態が高である場合、センサー状態を低にしておいてください。

   IP カメラのセンサー状態を設定するには、**IP カメラセンサー**をクリックします。IP カメラアラーム設定ウィンドウで**高（High）／低（Low）**をクリックして、センサー状態を設定します。

- **アラームリセット時間**：　アラームが自動リセットする時間を設定します。例えば動作検知とビデオロスによってアラームが発生しますが、アラームリセット時間になったらアラームがリセットされます。

7. **(6) プライオリティー（Priority）**、アラーム設定のプライオリティーを設定します。
8. **(7)動作**では、アラーム条件が起動したときにシステムが実行するアラーム動作を設定することができます。
   - **E マップの起動**

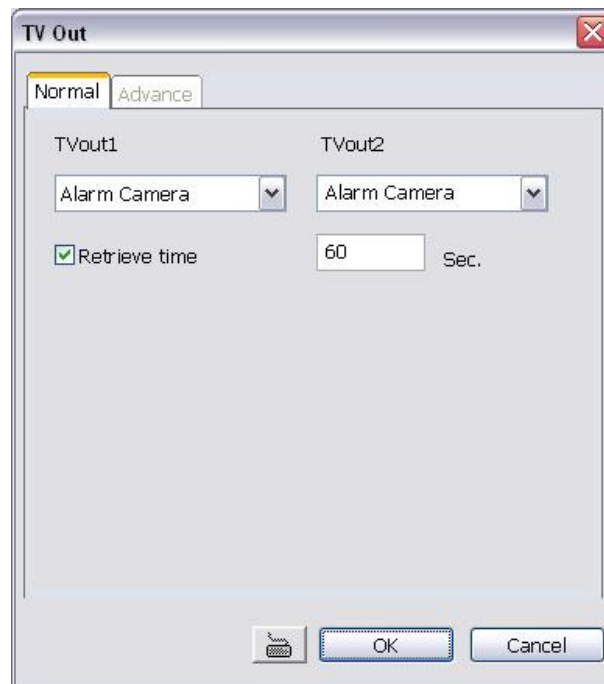
ミニ E マップ画面を表示します。

- **TV 出力 1/TV 出力 2　注)アナログカメラ映像のみの対応機能です**

  アラームがアクティブな場所からの映像を TV1/TV2 上のみに表示するように切替えます。

  アラームが起動した時点以降のビデオのみを TV に切り替え表示します。

  a. アラームが起動したときに TV にビデオを表示させたいカメラを、ドロップダウンリストから選択します。
     - ⦿ **アラームカメラ**: あるチャンネルでアラームが発せられると、アラームを発したチャンネルのビデオが TV に表示されます。
     - ⦿ **カメラ番号(1～16)**: アラームが発せられたときに TV に表示させたいカメラチャンネルビデオを選択します。

  b. **復元時間**: システムが通常の TV 表示モードに自動的に切り替わるまでの待ち時間を設定します。取得時間にマークが付いていない場合、手動で通常の表示モードに切り替わるまで、アラームビデオは表示され続けます。取得時間は、3 秒～600 秒の範囲で設定できます。

- **カメラ画面をポップアップ**

  アラームが起動した時点以降で、プレビュー/高度(Advanced)モードのビデオのみを表示するよう切り替えします。

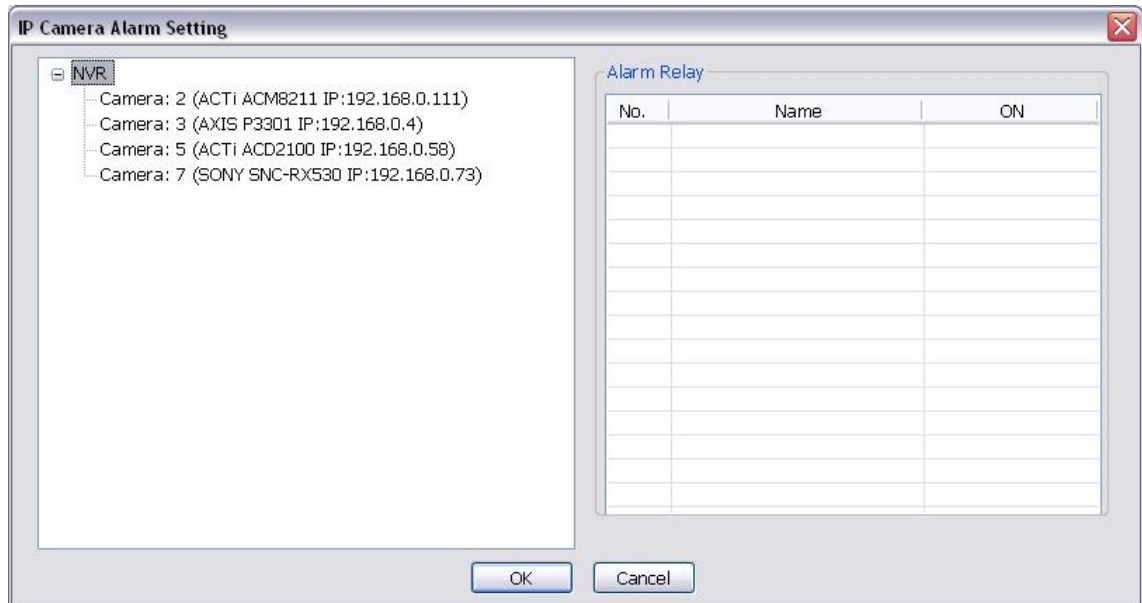
  a. アラームが起動したときに画面でビデオを拡大させたいカメラを、ドロップダウンリストから選択します。
     - ⦿ **アラームカメラ**: あるチャンネルでアラームが発せられると、アラームを発したチャンネルのビデオが拡大されます。
     - ⦿ **カメラ番号(1～16)**: アラームが発せられたときにビデオを拡大したいカメラチャンネルビデオを選択します。

  b. **復元時間**: システムが元のプレビューモードに切り替わるまでの待ち時間を設定します。取得時間にマークが付いていない場合、手動でプレビューモードに切り替わるまで、アラームビデオは拡大され続けます。取得時間は、3 秒～600 秒の範囲で設定できます。

- **リレー出力**

  アラームが起動したときにリレー動作を起動または解除し、リレー動作が停止するまでの追加時間(秒)を延長するように設定します(第 4.9.1 章を参照)。

- **IP Camera Relay**

  アラームが動作した場合のリレー設定をオン／オフ設定します。

- **警告音を出す**

  警告音を発します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(第 4.9.2 章を参照)。

- **電話をかける**

  リスト中の番号に電話をかけます。設定するには、**詳細**をクリックしてください(第 4.9.3 章を参照)。この機能を使用するには、コンピューターに音声モデムが接続されている必要があります。サポートされる音声システムは、8KHz、16Bit モノラルだけです。

- **E メール送信**

  電子テキストメッセージを送信します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(第 4.9.4 章を参照)。

- **FTP に転送**

  FTP(ファイル転送プロトコル)を介してリモートコンピューターにファイルをアップロードします。設定するには、**詳細**をクリックしてください(第 4.9.5 章を参照)。

- **録画開始**

  選択されたカメラからビデオを録画します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(第 4.9.6 章を参照)。

- **SMS (ショートメッセージサービス)/MMS (マルチメディアメッセージサービス)**

  SMS は、携帯電話にテキストメッセージのみを送信します。MMS は、ワイヤレスアプリケーションプロトコル(WAP)を使用して、ワイヤレスネットワーク上にテキストメッセージと画像を送信します。使用している携帯電話がこれらの機能をサポートしていて、コンピューターが GSM/GPRS モデムに接続されていることを確認してください。設定するには、**詳細**をクリックしてください(第 4.9.7 章を参照)。

- **PTZ プリセットポイント**

  プリセットポイント設定に基づいて、PTZ カメラを配置します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(第 4.9.8 章を参照)。

- **アラーム SOP(標準操作手順)**

  アラームが起動した際の対応手順に関する指示を列記します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(第 4.9.9 章を参照)。

- **CMS(中央管理システム)へ送信**

  アラームが起動した際に、選択されたカメラを、CMS にビデオを送信させるよう、起動または解除させます(第 4.9.10 章を参照)。

- **プログラムの起動**

  第 3 者によって供給される外部プログラムを呼び出します。**詳細**をクリックし、…をクリックして、プログラムパスを見つけます。**複数回**チェックボックスにマークを入れると、プログラムを同時に数回起動することができます。

- **スナップショット**

アラームが起動したときにスナップショットを撮影します。

a. **カメラを選択**: アラームが起動したときにどのチャンネルのビデオでスナップショットを撮影するか設定します。
   - ⦿ **アラームカメラ**: あるチャンネルでアラームが発せられると、DVR システムは、そのチャンネルのビデオのスナップショットを撮影します。
   - ⦿ **カメラ番号(1~32)**: アラームが発せられたときに、選択されたカメラでスナップショットが撮影されます。

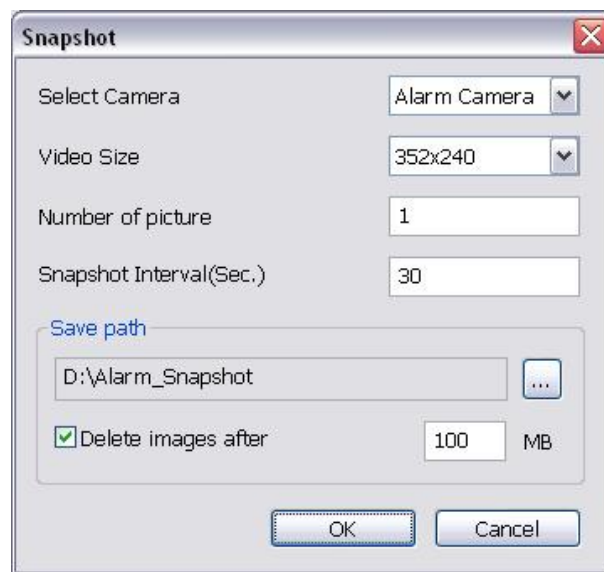
b. **ビデオサイズ**: スナップショット写真のサイズを選択します。

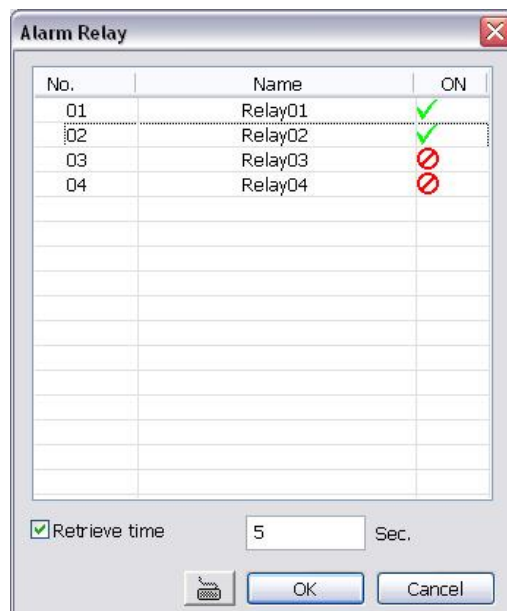
c. **写真の枚数**: 撮影する枚数を設定します。

d. **スナップショットの間隔**: 次のスナップショットを撮影するまでの時間間隔を設定します。

e. **保存先**: スナップショット写真の保存パスを設定します。

f. **次以降の映像削除（Delete image after）**: 上限を設定して、スナップショット映像ファイルが上限を超えたときに削除します。

g. **イメージを後で削除**: ハードディスク上に、スナップショットイメージのストレージ制限を設定します。 スナップショットイメージがストレージ制限に達する時、DVR システムはスナップショットイメージをハードディスクから削除します。

4.9.1 アラームリレーを設定する

1. リレー出力ボックスチェックボックスの横にある、**詳細**をクリックします。
2. アラームリレーダイアログボックスで、利用可能なリレーのリストと ON カラムで選択を行い、アラーム起動時のリレー作動を起動または解除します。
3. 取得時間チェックボックスでリレー作動時間延長を起動または解除できます。時間を秒で設定します。
4. **OK** をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

4.9.2 警報音を設定する

1. 警告音再生チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. アラーム音設定ダイアログボックスでは、...をクリックすると、他のソースかフォルダから別の wav ファイルを選択することができます。**再生**で音を聞くことができ、**録音**でその音の新しいコピーを作成することができます。

3. **録音**をクリックすると、ファイルを入れ替えるかどうかを聞いてきます。継続するには **OK** をクリックし、終了するには**キャンセル**をクリックします。
4. サウンドレコーダが表示されたら、録音コントロールパネルで録音、停止、再生、巻き戻し、早送りができます。既存のファイルを保存するには、**ファイル＞名前を付けて保存**をクリックし、ファイル名を記入して**保存**をクリックします。コンピューターにマイクロホンが接続されていることを確認してください。
5. **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

4.9.3 E メールを設定する

E メール送信チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。E メール設定ダイアログボックスで、**OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

(1) メールサーバー

SMTP サーバーとポートを入力します。E メールシステムがユーザーID を必要とする場合、**認証**チェックボックスにマークを入れてユーザーID とパスワードを入力します。

(2) メール
動作可能かどうかを確認するには、**テストアカウントボタン**をクリックします。
送信元: 送信者のEメールアドレスを入力します。
受信者とCC: 受信者のEメールアドレスを入力します。複数の場合は、カンマまたはセミコロン(;)で区切ります。
件名: メッセージの件名を入力します。
メッセージ: メッセージの内容をタイプします。
(3) Eメール通知設定
通知間隔: 別のEメール通知を送信するまでの時間間隔を設定します。
画像添付: 画像のサイズを選択し、フレーム数を設定します。
センサーが起動したときに画像を添付: センサーが作動すると、システムは画像をキャプチャーして、アラームメッセージと一緒に、指定のEメールアドレスに送信します。
(4) モデムダイアルアップ設定

ダイアルアップモデムを使用している場合、自動ダイアルアップチェックボックスにマークを入れてモデム名を選択しておきます。また、**自動接続解除までの時間**チェックボックスにマークを入れ、時間を設定すると、自動的に接続解除する時間を設定することもできます。

4.9.4 FTPを設定する

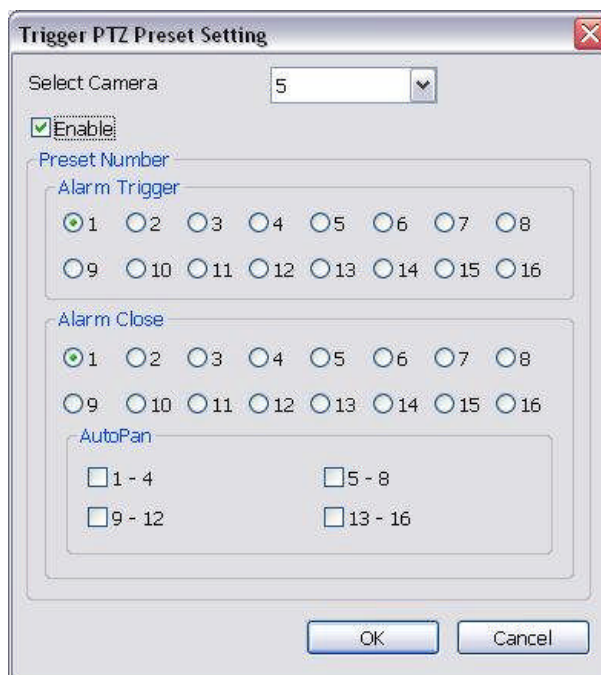
1. FTPに転送チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. FTP設定ダイアログボックスに、FTP IP、ポート、ユーザーID、パスワードを入力します。
3. **画像ナンバー**テキストボックスに、ファイルを送信する際に送りたい連続写真の枚数を入力します。
4. **センサーが作動時に画像をアップロード**で、センサーが起動したときに画像を捕獲して送信するカメラを選択します。
5. **OK**をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

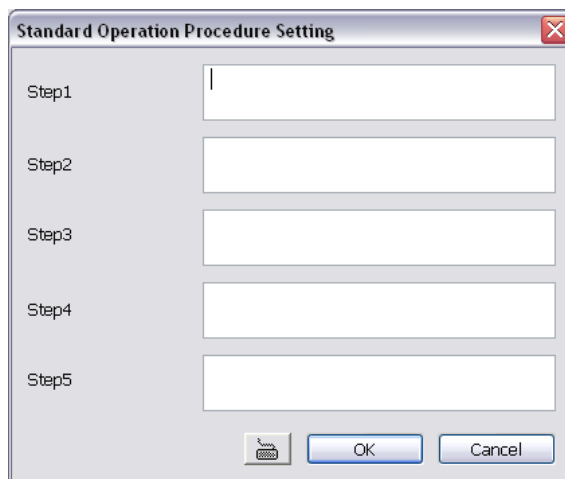
4.9.5 アラーム録画を設定する

1. 録画開始チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. アラーム録画設定ダイアログボックスで、ビデオ録画を作動/解除するカメラを選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。
3. フレームレート選択で、**設定通り**を選択すると、録画設定に基づくフレーム枚数を録画し、**最大**を選択すると、利用可能な速度に基づく最大フレーム枚数を録画します。
4. **アラーム開始前の録画**(**Start Recording prior**)のテキストボックスにマークを入れて、アラーム発する前のプレレコーディング時間を秒単位で入力して、プレレコーディングをします。時間の設定範囲は 1～10 秒です。
5. **アラーム終了後の録画停止**(**Stop Recording after**)のテキストボックスにマークを入れて、アラーム終了後の継続録画時間を秒単位で入力して、録画を継続させます。時間の設定範囲は 1～600秒です。チェックボックスにマークを入れなくて、時間も設定しない場合、アラームがリセットするまで録画が続きます。
6. **録画終了時間**テキストボックスに、アラームが終了したあとでもプログラムが録画を継続する時間を秒で入力してください。
7. **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

4.9.6 SMS/MMS を設定する

この機能を使用するには、GSM/GPRS モデムが必要です。GSM/GPRS モデムをコンピューターのシリアル COM ポートに接続してください。SMS/MMS チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
COM ポートドロップダウンリストで、GSM/GPRS モデムを接続するポート番号を選択します。

1. **モデム設定**ボタンをクリックすると、モデムボーレートが自動的に検出されます。
2. **市内電話番号**テキストボックスに、GSM SIM カード電話番号を入力します。
3. **電話番号**テキストボックスに、連絡先の電話番号を入力します。
4. これで、SMS や MMS で送信するように設定されました。SMS 設定を起動した場合、テキストボックスにメッセージを記入するだけです。MMS 設定を起動した場合、APN 名、WAP IP、MMS アドレス、メッセージを記入します。 不明な点があれば、携帯電話サービスプロバイダーにお問い合わせください。
5. **センサーが起動したときに画像を添付**で、センサーが起動したときに画像を捕獲して送信するカメラを選択します。
6. **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

- ISP 会社と携帯電話会社両方とも JPG ファイルフォーマットの送信をサポートしていることを確認してください。
- RS232 ポートは SMS/MMS モデムに接続できません。USB から RS232 へのコンバータを使用して接続する必要があります。

4.9.7 PTZ プリセットポイントを設定する

PTZ プリセットポイントチェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。PTZ プリセット起動設定ダイアログボックスで、PTZ カメラ番号を選択してから、起動チェックボックスにマークを入れます。アラームが起動したときと終了したときの、PTZ カメラの位置を選択します。PTZ カメラ終了ポイントについては、プリセットポイントの一つを選択したり、プリセット位置グループ間の**自動パン**を選択することができます。

4.9.8 アラーム機能作業手順を設定する

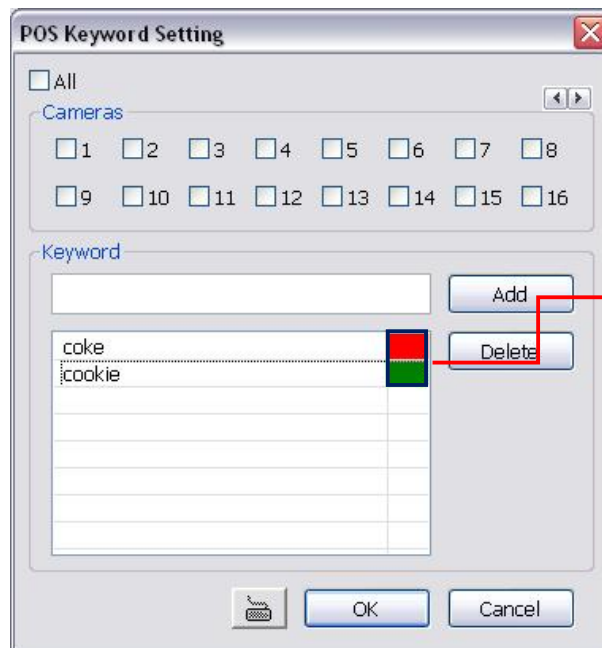
アラーム SOP チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。ステップテキストボックスに、アラーム起動時の標準プロトコルをタイプします。アラームが作動すると標準作業手順ダイアログボックスが表示されます。**次へ**をクリックすると次の指示が表示され、**戻る**をクリックすると前の指示に戻り、**終了**をクリックすると終了し、**中断**をクリックすると手順が中断されます。

4.9.9　CMS を設定する

「CMS へ送信」チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。**OK** をクリックして、新しい設定を保存します。**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

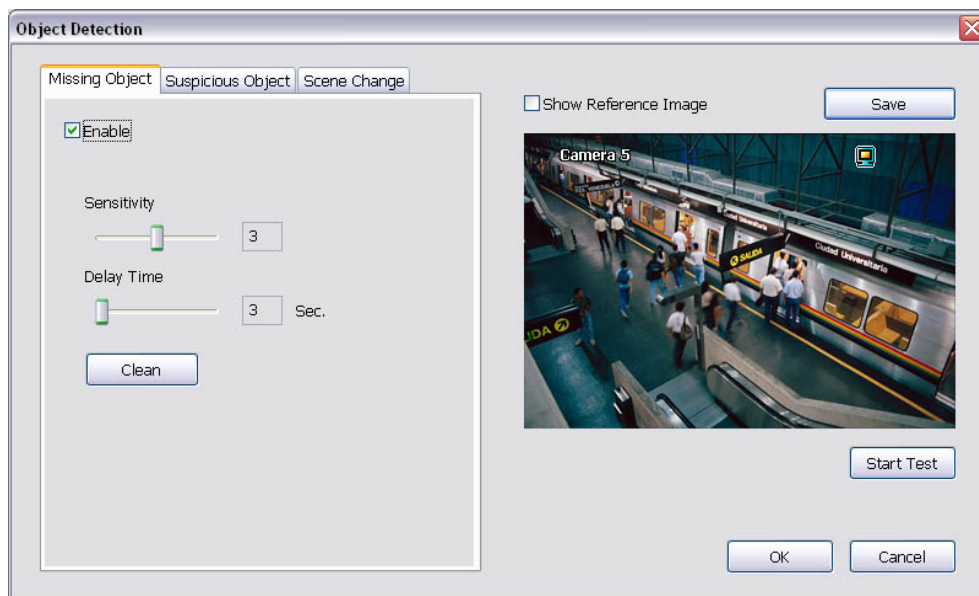
- **CMS:** CM3000 へ映像送信するカメラを選択します。
- **マトリックス（Matrix）:** カメラを選択して、CM3000 へアラームイベントの映像を送信します。DVR サーバーよりアラームイベントを受信できるようにするため、CM3000 の方ではマトリックスチャンネルを設定する必要があります（詳細は CM3000 のマニュアルを御参照）。

4.9.10　POS キーワードを設定する

1. 「POS へ送信」チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. POS キーワード設定で、キーワードのスキャンを作動／解除するカメラを選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。
3. キーワードテキストボックスの下にテキストを入力します。追加をクリックすると、リストにキーワードが追加されます。リスト内で語を選択して削除をクリックすると、その語が削除されます。キーワードは 8 個しか追加できません。各キーワードに色を指定することができます。POD キーワードカラムの横のカラーパネルをクリックするとカラー選択パネルが表示されるので、好きな色を選択して OK をクリックし、色を設定してください。
4. **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

4.9.11　物体が消失する、疑わしい物体やシーンの変更が検出される

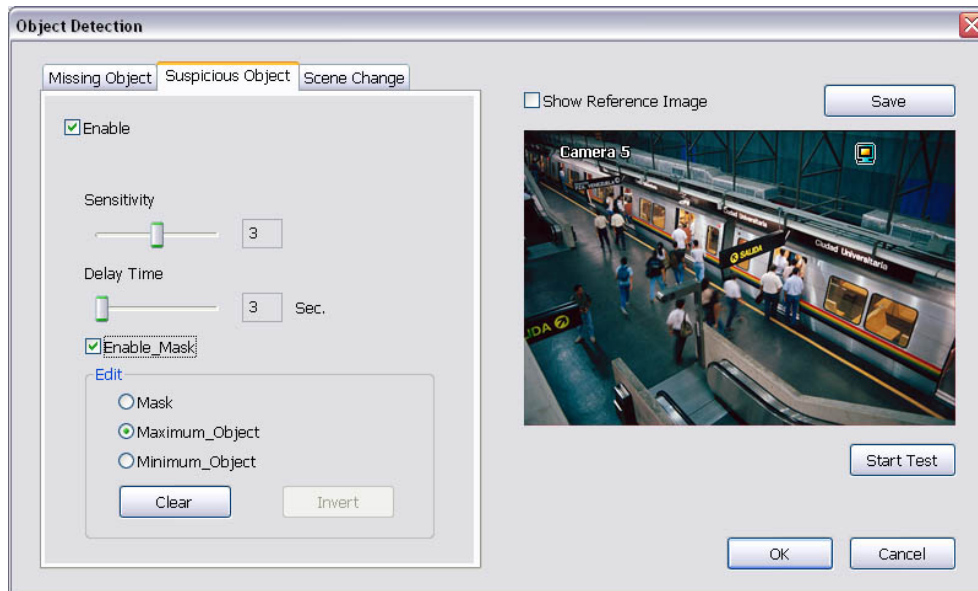
- **物体の消失**

  システムが検出できるように、画面上で特定の物体を選択します。その物体が消失したり移動すると、システムがアラームを発します。OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。設定条件をテストするには、**テストの開始**をクリックします。

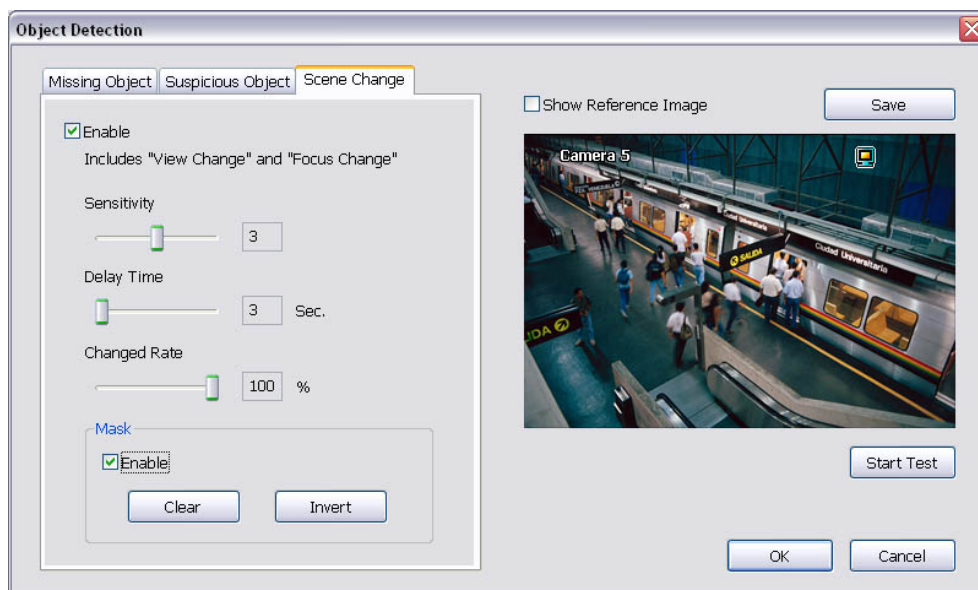
  1. カメラの番号(0～16)を選択し、マウスの右ボタンをクリックすると、設定ウィンドウが表示されます。
  2. **保存**をクリックして、最初に比較対象の参照画像を捕獲します。**参照画像を表示**チェックボックスにマークを入れると、捕獲した物体を表示させることができます。捕獲した物体が画面に表示されます。参照画像は、疑わしい物体やシーンの変更の各機能と共通に使用されます。
  3. **起動**チェックボックスにマークを入れて条件を設定します。
  4. マウスを使用して、フレームをクリックし、画面内にドラッグします。2 個以上のフレームをドラッグすることができます。
  5. **感度**: システムの検出感度を設定します。
  6. **遅延時間**: システムが物体を検出し続ける時間を設定します。
  7. 物体フレームをリセットするには、**消去**をクリックします。物体フレームを消去するには、マウスの右ボタンをクリックし、消去したい物体フレームをドラッグしてください。

- **疑わしい物体**

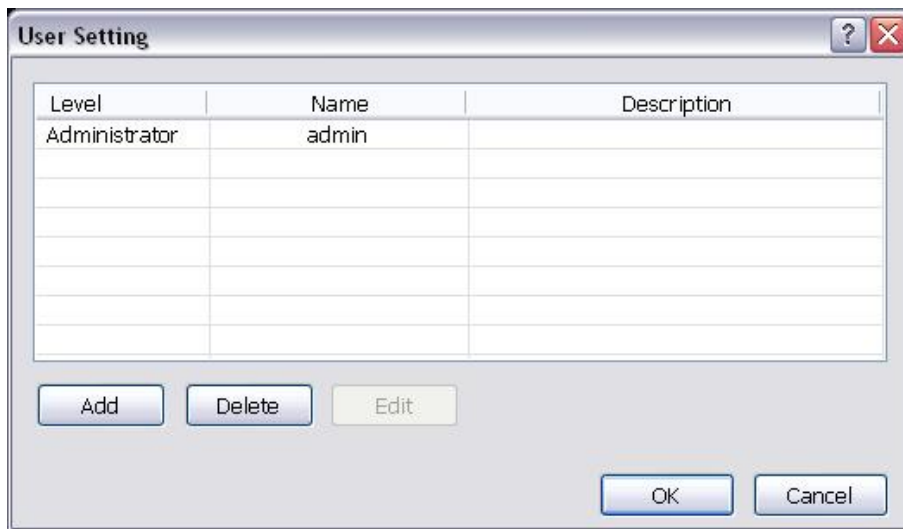
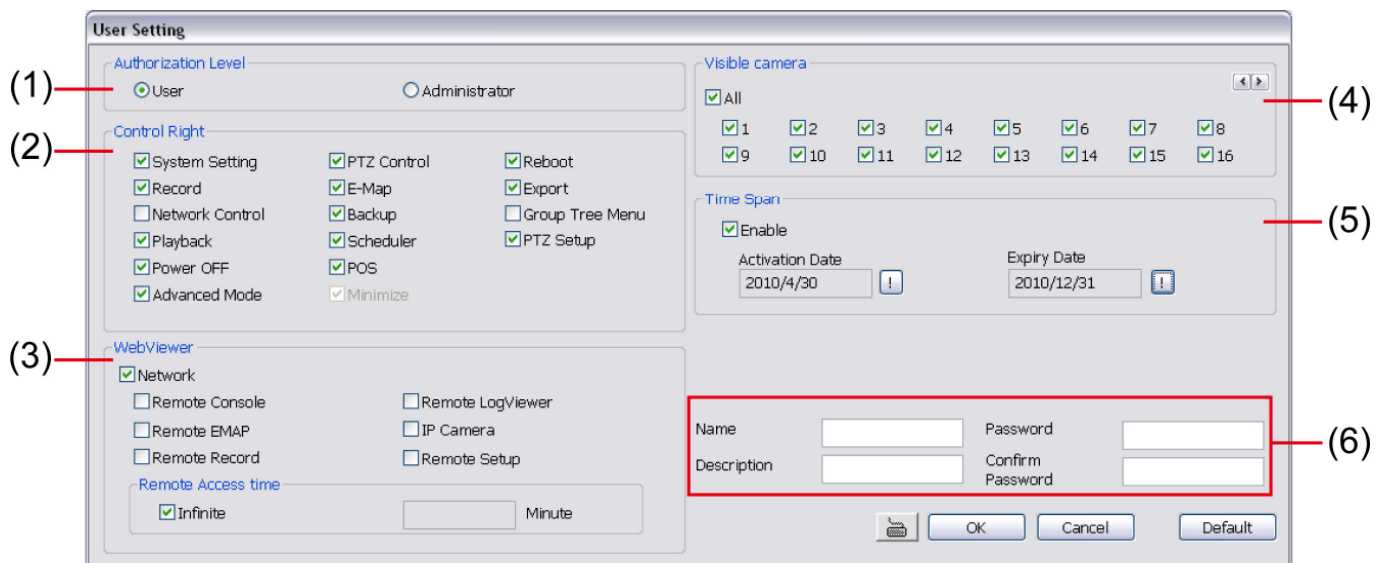
  疑わしい物体には、画面から物体が消失したり、画面に疑わしい物体が現れたりする状況を含んでいます。OK をクリックすると設定が保存されて設定ウィンドウが終了します。設定条件をテストするには、**テストの開始**をクリックします。

  1. カメラの番号(0～16)を選択し、マウスの右ボタンをクリックすると、設定ウィンドウが表示されます。次に、**疑わしい物体**タブをクリックします。
  2. **保存**をクリックして、最初に比較対象の参照画像を捕獲します。**参照画像を表示**チェックボックスにマークを入れると、捕獲した物体を表示させることができます。捕獲した物体が画面に表示されます。参照画像は、物体の消失やシーンの変更の各機能と共通に使用されます。
  3. **起動**チェックボックスにマークを入れて条件を設定します。
  4. **感度**: システムの検出感度を設定します。
  5. **遅延時間**: システムが物体を検出し続ける時間を設定します。
  6. マウスを使用して、フレームをクリックし、画面内にドラッグします。
     - **最大物体**: 最大検出サイズです。最大検出エリアの外にある物体は無視されます。マウスを使用して、フレームをクリックし、画面内にドラッグします。
     - **最小物体**: 最小検出サイズです。最小検出エリアより小さい物体は無視されます。マウスを使用して、フレームをクリックし、画面内にドラッグします。
  7. **マスク有効**

     これは、動きを無視したい区域にマークを付ける機能で、マークのない区域でのみ監視が行われます。**マスク有効**チェックボックスにマークを付け、マスクフレームを画面上にドラッグしてください。
  8. 物体フレームをリセットするには、**消去**をクリックします。物体フレームを消去するには、マウスの右ボタンをクリックし、消去したい物体フレームをドラッグしてください。

- **シーンチェンジ**

カメラが動かされたときに、システムがアラームを起動させます。

1. カメラの番号(0～16)を選択し、マウスの右ボタンをクリックすると、設定ウィンドウが表示されます。次に、**シーンの変更**タブをクリックします。
2. **保存**をクリックして、最初に比較対象の参照画像を捕獲します。**参照画像を表示**チェックボックスにマークを入れると、捕獲した物体を表示させることができます。捕獲した物体が画面に表示されます。参照画像は、物体の消失や疑わしい物体の各機能と共通に使用されます。
3. **起動**チェックボックスにマークを入れて条件を設定します。
4. **感度**: システムの検出感度を設定します。
5. **遅延時間**: システムが動きを検出し続ける時間を設定します。
6. **変更範囲**: 元の位置と比較するために、カメラの移動範囲を設定します。
7. **マスク有効**
   これは動きを無視したい区域にマークを付ける機能で、マークのない区域でのみ監視が行われます。**マスク有効**チェックボックスにマークを付け、マスクフレームを画面上にドラッグしてください。
8. 物体フレームをリセットするには、**消去**をクリックします。物体フレームを消去するには、マウスの右ボタンをクリックし、消去したい物体フレームをドラッグしてください。

4.10　ユーザー設定

管理者のみがユーザー設定にアクセスできます。ユーザー設定ダイアログボックスで、**追加**をクリックすると新しいユーザーが追加され、**削除**をクリックすると選択されたユーザーが削除され、**編集**をクリックするとユーザーの管理権を変更し、**OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

追加または**編集**をクリックすると、ユーザー管理設定をカスタム化することができます。**OK** をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

(1) 許可レベル
ユーザーのステータスを選択します。管理者レベルのユーザーのみがユーザー設定にアクセスでき、遠隔コンソールを使用してアラームの状態をリセットできます。

(2) 制御権限
ユーザーがアクセスできる項目を設定します。

(3) ウェブビューアー
ユーザーがインターネットエクスプローラを使用して遠隔地から操作することのできる、ウェブビューアーの制御権を起動または解除します。

- **遠隔コンソール**
  ユーザーが、遠隔地から DVR システム設定を変更することができるようにします。
- **遠隔ログビューアー**
  ユーザーが、遠隔地からイベントログを見ることができるようにします。
- **遠隔 E マップ**
  ユーザーが、遠隔地から DVR の電子地図を見ることができるようにします。
- **遠隔録画（Remote Record）**
  ユーザーが、遠隔地で映像を録画できるようにします。

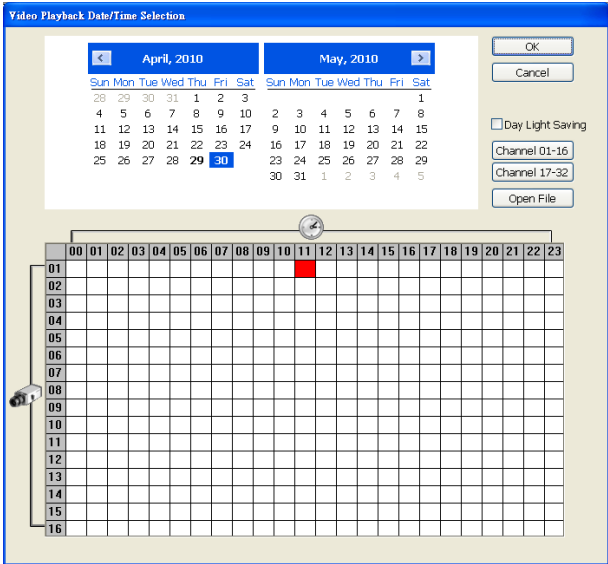
- **遠隔設定**（Remote Setup）
  ユーザーが、遠隔地から DVR システムの設定を変更できるようにします。
- **IP カメラ**
  ユーザーがウェブビューアーを使用して、新しい IP カメラの追加を行えるようにしたり、その権利を解除します。
- **リモートアクセスタイム**
  無制限チェックボックスにマークを入れると、時間制限なしに IWH シリーズ DVR にアクセスすることができます。
  時間制限をしたい場合、**分**テキストボックスに分を数字で記入します。

(4) 可視カメラ
ユーザーがアクセスしたり、見ることのできるカメラの番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**チェックボックスにマークを入れてください。

(5) 有効期間
特定の期間内だけ DVR プログラムにログインできるアカウントをユーザーに与えたい場合、ユーザーアカウントにその時間を設定することができます。起動チェックボックスにマークを入れ、**開始日**と**終了日**を選択してください。

(6) 名前
ユーザー名を入力します。
説明
ユーザーに関する説明を入力します。
パスワード
ユーザーパスワードを入力します。
パスワード確認
確認のために、同じユーザーパスワードを入力します。

第5章　　　ビデオプレーヤーのバックアップ

QPlayer アプリケーションを使用してバックアップファイルを再生することができます。録画済みファイルをバックアップする際に、バックアップフォルダに QPlayer アプリケーションが自動的に添付されます。

QPlayer では、再生モードと同様に、同時にすべてのビデオを見ることができるように、6 種類の分割画面がサポートされます。異なるユーザー情報表示言語を使用することもできます。唯一の相違点は、プレビューボタンと再生ボタンがないことです。

このアプリケーションを実行するには、バックアップフォルダに進んで QPlayer アイコンをダブルクリックしてください。

5.1　QPlayer の各ボタンについて

名称	機能
(1)分割画面モード	全カメラの録画済みビデオファイルを再生する際に、6 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。
	カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、13、16 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。 画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を**右クリック**して**ドラッグ**してください。
(2) 終了	再生モードを終了ます。
(3) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(4) 時間ボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。
	時間ボタンは、24 時間時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。
(5) 再生コントロールボタン	以下は左から右の順です。 **開始**: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 **コマ戻し**: 以前のフレームに戻ります。 **スロー再生**: 録画済みビデオファイルの再生速度を 1/2x、1/4x、1/8x に遅くします。 **巻き戻し**: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 **一時停止**: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 **再生**: 録画済みビデオファイルを再生します。 **早送り**: 録画済みビデオファイルの再生速度を 2x、4x、8x、16x、32x 倍速度で再生します。 **コマ送り**: 次のフレームに進みます。 **終了**: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。

名称	機能
(6) 日付	録画済みビデオファイルの再生を開始する日付や時刻を、それぞれ、カレンダー、および、00 から 23 までの数字で選択します。 – **ファイルを開く**: HDD より録画データを開きます。 – チャンネル 01 から 16 およびチャンネル 17 から 32: 再生カレンダーの異なるチャンネルグループに切替えます。 DVR システムがサポートするチャンネルが 16 以下の(16 を含む)場合、チャンネルグループの切替えボタンは機能しません。 – **サマータイム**: サマータイム期間の録画データを再生カレンダーに表示します。

00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 16 までの数字は、カメラ ID です。青いカラムは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いカラムは、録画済みビデオファイルの再生が始まる場所を示しています。

(7) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。
(8) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。
(9) 言語	表示する言語を選択します。
(10) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力が含まれます。 ■ **スナップショット**: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ **印刷**: 画面ショットを印刷します。 ■ **ビデオクリップ出力**: *.mpg、*.avi または*.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.3.1 章も参照)。
(11) セグメント	録画済みもにビデオの一部分を保存します(第 3.3.1 章も参照)。

名称	機能
(12) フルスクリーン	画面全体にビデオのみが表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すか、矢印アイコンを押すと、元の画面に戻ります。 矢印をクリックして、フル画面モードを終了します 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(13) イベントログ	システムのアクティビティの記録を表示します。記録をフィルターするには、オプションボタンを選択してクリックすると、イベント、システム、操作、ネットワーク、POS のみが表示されます。
(14) ビジュアル検索	特定のカメラで、日付、時刻、分、10 秒、秒で検索します(第 3.3.3 章も参照)。
(15) 次を検索	次のイベントまたは動作検知器フレームの変更を検索します。インテリジェント検索やイベント検索機能でもこれを使用することができます。
(16) イベント検索	システムで記録されたアクティビティ(センサー、動作、ビデオ消失、POS など)を検索します(第 3.3.4 章も参照)。
(17) インテリジェント検索	動作検知器フレームの変更を検索します。(第 3.3.5 章も参照)。
(18) 音声	音声のオン/オフをします。
(19) インターレース除去	ビデオの画質を改善します。キャプチャーした画像が動きのない画像のときにはインターレース除去モードを#1 に、動きの多い画像のときには#2 に設定してください。

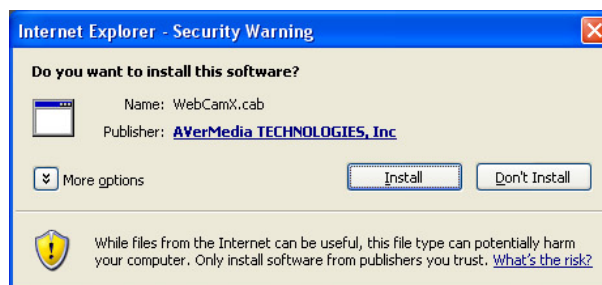
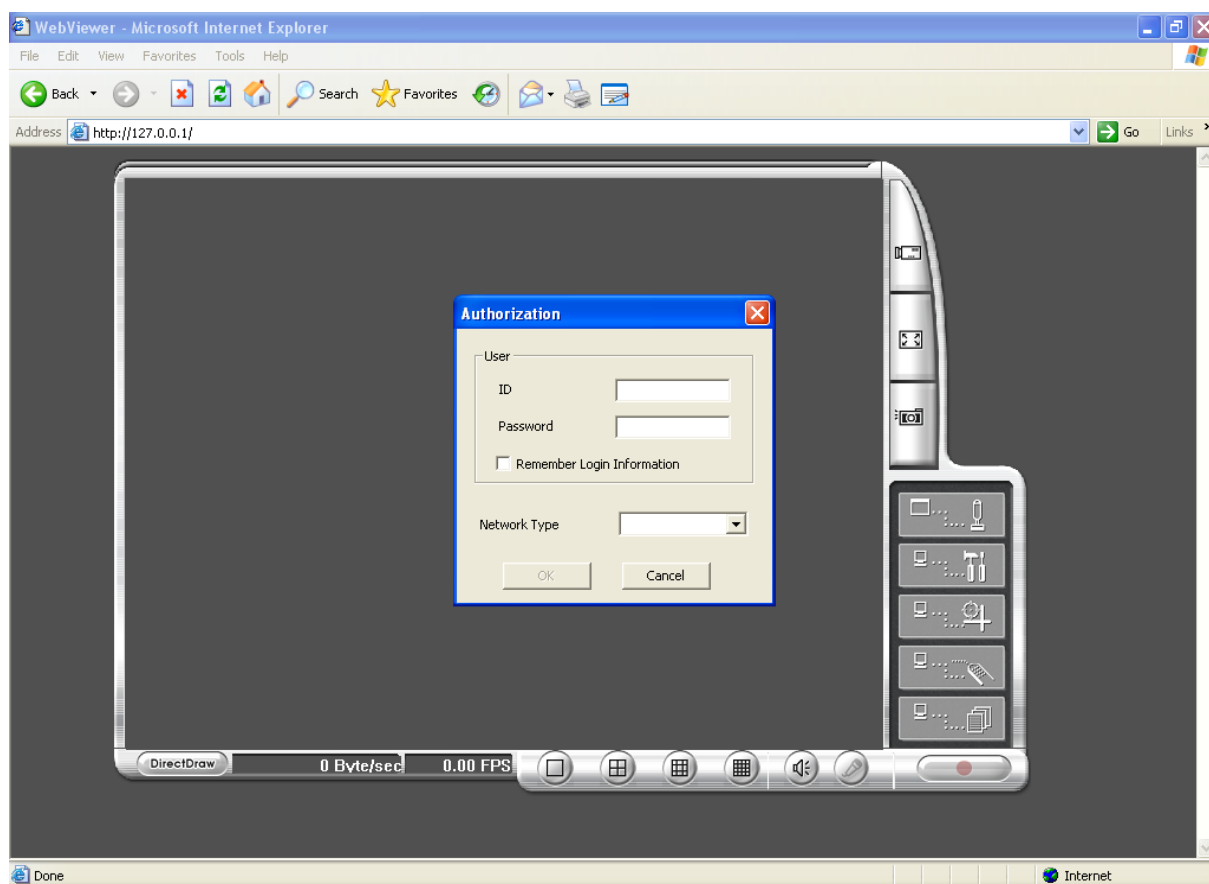
第6章　　リモートプログラムの使用法

Microsoft Internet Explorer を使用し、IP アドレスまたはドメイン名を入力して、DVR サーバーにアクセスすることができます。この機能を使用するには、LAN に接続され、ネットワーク機能が作動状態になっている必要があります。

この機能に初めてアクセスすると、ウェブブラウザから **WebCamX.cab** のインストールを許可するよう指示されますのでインストールしてください。接続やログインができるようになります。

Windows 2000 では、セキュリティ警告ダイアログボックスが表示されたら、**はい**をクリックしてください。

Windows XP 用 Internet Explorer では、Internet Explorer セキュリティ警告ダイアログボックスが表示されたら、**インストール**をクリックしてください。

注意　インストールしないとリモートプログラムの機能はご使用になれません。

WebCamX.cab をインストールして DVR サーバーに接続したら、ユーザーID とパスワードを入力し、ネットワークタイプを選択してください。

LAN 以外のネットワーク環境で使用した場合、ネットワークスピードの制限により映像の遠隔再生がスムーズできない時があります。また、ネットワーク転送速度が遅い関係で、システムの性能低下を招く可能性もあります。

6.1　ウェブビューアーボタンについて

ウェブビューアービデオ画面を右クリックすると、ビデオ録画を開始したり、ビデオ画質を変更したり、カメラを切り替えたり、DirectDraw を起動/解除することができます。

名称	機能
(1) DirectDraw	ビデオ画質を向上させます。

グラフィックカードによっては、この機能をサポートしないものもあります。

(2) 受信ファイルサイズ	毎秒送信されるデータサイズを表示します。
(3) カメラフレーム	毎秒のフレーム数を表示します。
(4) 分割画面モード	全カメラを表示する際に、4 種類の分割画面から選択できます。別のカメラ番号に切り替えて見ることもできます。
(5) 音声	リモート音声を起動または解除します。
(6) 双方向トーク	双方向トークを起動または解除します。これは、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる機能です。 この機能を使用する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認してください。DVR サーバーでウェブクライアントとのトーク機能が解除されていると、相手の声は聞こえません。
(7) 録画	AVI フォーマットで、選択したカメラのビデオを録画します。
(8) イベントログビューアー	イベントログ、運用ログ、POS ログ、システムログ、ネットワークログが表示されます。
(9) 遠隔コンソール	遠隔コンソールを起動します。インターフェースは DVR アプリケーションと同じであり、DVR サーバーを制御することができます(第 6.2 章も参照)。
(10) リモート E マップ	DVR サーバーの E マップ画面を表示します(第 3.6 章も参照）。
(11) リモート設定	DVR サーバーの 設定を変更します(第 6.1.1 章も参照)。
(12) PTZ カメラの選択	PTZ カメラコントローラーを起動します(第 6.2 章も参照)。
(13) スナップショット	画面ショットを捕獲して、*.bmp ファイルで保存します。
(14) フル画面	画面全体を使用して、ビデオのみが表示されます。 マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。

<table>
<tr><th>名称</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>(15) 表示するカメラの選択</td><td>

サーバー追加をクリックすると、追加するサーバータイプを DVR と IP に切り替わります。

削除をクリックすると、選択したサーバーが削除されます。

インポートをクリックすると、以前に保存されたリストと入れ替わります。

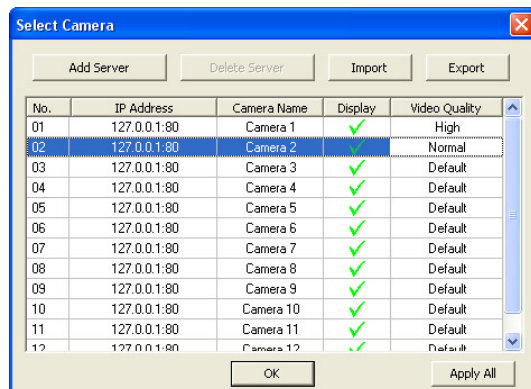
エクスポートをクリックすると、リストが保存されます。

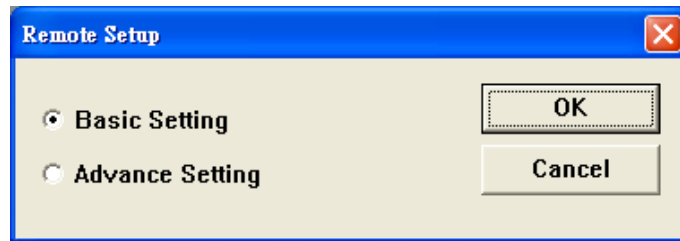
全部適用をクリックすると、選択された設定に基づいて、カメラのビデオ画質がすべて変更されます。

OK をクリックすると終了します。

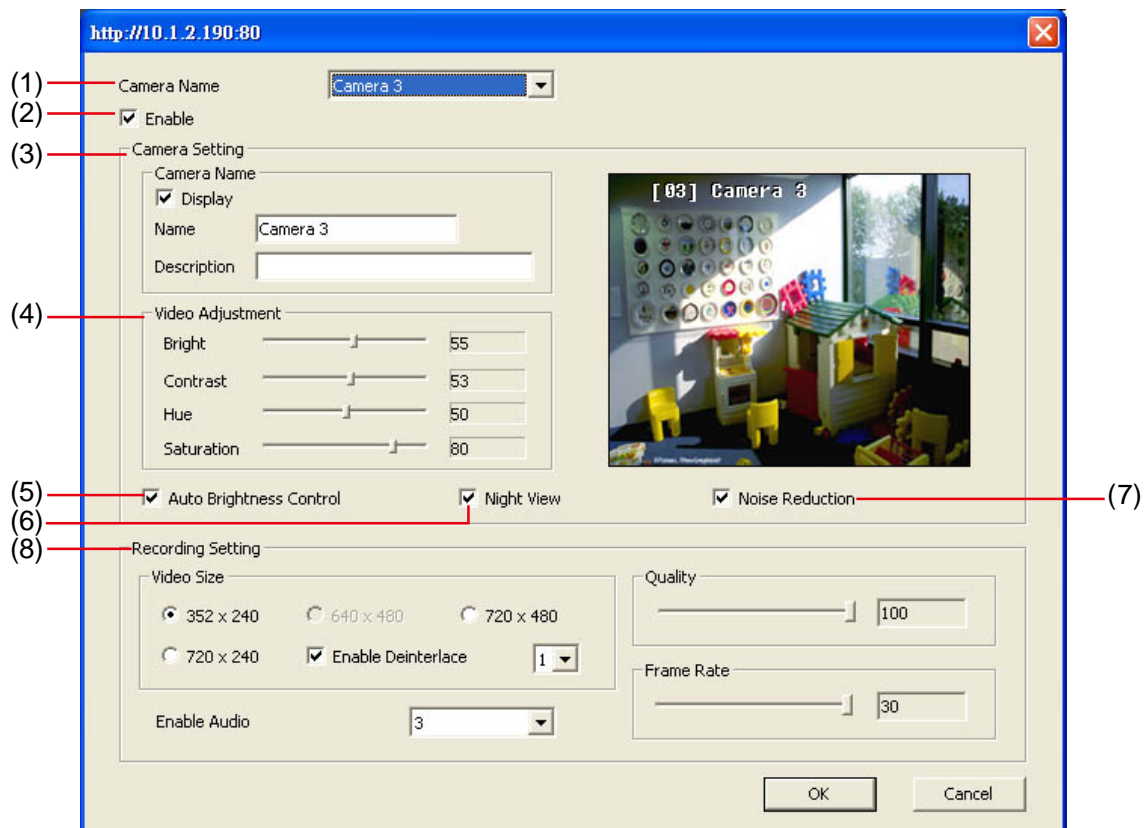
別のサーバーからカメラを表示するよう選択します。カメラの選択ダイアログボックスのディスプレイカラムをクリックすると、カメラの表示を起動または解除できます。ビデオ画質カラムをクリックすると、画質が高、中、低と切り替わります。

 IP カメラを追加するには、DVR システムの**ユーザー設定**で、IP カメラの使用権限を有効にする必要があります(第 4.10 章を参照)。

</td></tr>
</table>

6.1.1　リモートシステムを設定する

遠隔設定モードは２種類があり、それぞれ基本設定と高度設定です。設定モードを選択して、**OK** をクリックして設定ウィンドウに入ります。

6.1.1.1　基本設定

<u>**アナログカメラ**</u>

OK をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。ここでの設定は、リモート DVR にのみ適用されます。

(1) カメラ名

設定を調整したいカメラを選択します。

(2) 適用

選択したカメラを起動または解除に設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除するようお勧めします。

(3) カメラの設定

- **表示**

  ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、それを録画して、再生モードでプレビューすることができます。

- **名前**

  カメラの名前を変更します。

- **説明**

  短いコメントを追加します。

(4) 画像調節

選択されたカメラの明るさ、コントラスト、色合い、彩度を調整します。

(5) AGC 機能

明るさを自動的に調整します。

(6) ナイトビュー

特に撮影現場が暗いときに露出を自動的に調整して、画像が見やすくなるようにします。この機能は、明るさの自動調整が作動しているときにのみ、起動することができます。

(7) ノイズリダクション

不要なビデオ信号部分を低減して、画質を向上させます。

ノイズ低減するには、CPU リソースを多量に消費するので、本当に必要な場合のみ使用してください。

---

(8) 録画設定

- **ビデオサイズ**
  ビデオサイズを選択して⊙ボタンをクリックします。サイズが大きいほど、大きいファイルが作成されます。**インターレース解除有効**を起動して、画質を向上します。動きがない画面をキャプチャーしたい場合には**インターレース解除有効**モードを#1 に設定し、動きをたくさんある画面をキャプチャーしたい場合には、**インターレース解除有効**モードを#2 に設定してください。
- **音声有効**
  選択されたカメラのチャンネルへ音声を割り当てます。1 台のカメラソースには一つの音声チャンネルしか割り当てられません。これにより、音声とビデオの両方が記録されます。
- **画質**
  映像品質の調整をします。値が高ければ高いほど圧縮率が低くなり、HDD スペースの消費量が高くなります。
- **フレームレート**
  1 秒間録画する画像の枚数を設定します。フレームレートは、NTSC では 1 から 30 まで、PAL では 1 から 25 まで設定できます。フレームレートが多いほど、ハードディスクの使用量が増加します。

IP カメラ

OK をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。ここでの設定は、リモート DVR にのみ適用されます。

(1) カメラ名
設定を調整したいカメラを選択します。
(2) 適用
選択したカメラを起動または解除に設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除するようお勧めします。
(3) カメラの設定

- **表示**
  ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、それを録画して、再生モードでプレビューすることができます。
- **名前**
  カメラの名前を変更します。
- **説明**
  短いコメントを追加します。

6.1.1.2　高度設定

Web ビューア UI で、リモート設定ボタン( )をクリックしてリモート DVR サーバの設定を構成します。 リモート設定ボタンをクリック後、設定メニューバーが以下のように表示されます。

設定選択をクリックし、設定ウィンドウに入ります。 設定メニューバーを終了するには、OK をクリックします。

システム設定

システム設定ウィンドウで**更新**(Update)をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**(Exit)をクリックすると設定が保存されずに終了し、**初期設定**(Default)をクリックすると工場設定に戻ります。

(1) 次より前の録画データを削除
ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、**次より前の録画データを削除**のボックスにチェックを入れ、**日数**のテキストボックスに日数を入力します。
(2) ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、**次より前の録画データを削除**のボックスにチェックを入れ、**日数**のテキストボックスに日数を入力します。
(3) ビデオ形式
使用しているカメラビデオシステムに応じてビデオ形式を選択して変更してください。ビデオ形式の設定が間違っていると、画面が正しく表示されません。
(4) アテンションプリーズ
システムの監視者がどの程度注意を払っているかを確認することができます。**1 日の回数**のテキストボックスで、1 日にアテンションダイアログボックスを表示させる回数を設定することができます。
この機能を作動させると、**アテンション**のダイアログボックスが表示されます。システムの監視者は、左のテキストボックスに表示されているのと同じ数字を右のボックスに記入して、**OK** をクリックしなければなりません。

(5) TV 出力
次のカメラに切り替わるまでの時間として、3～10 秒の時間のギャップを設定します。
(6) ログイン
システムに自動的に実行させたいログインセクションの条件を可能にします。

- **ログイン時の自動録画**
  DVR システムを実行したときに、自動的にビデオ録画を開始します。
- **ログイン時の自動ネットワーク起動**
  DVR システムを実行したときに、自動的にネットワークに接続します。
- **コンパクトモードへのログイン**
  DVR システムを実行したときに、直接コンパクトモードに切り替わります。
- **ツールバーに隠す**
  DVR システムを実行したときに、最小化して自動的にツールバーに隠します。
- **ゲストモード**
  DVR システムを実行したときに、自動的にゲストモードにログインします。ゲストモードだと、使える機能はプレビューと再生のみです。

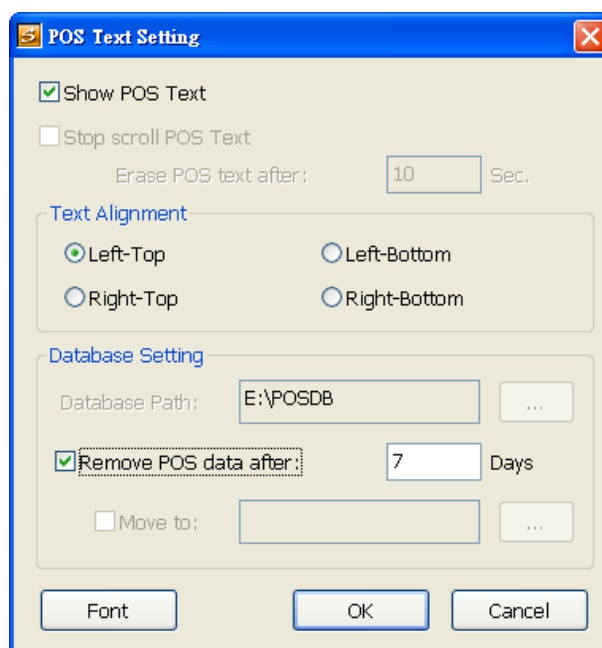
(7) その他
その他のセクションでは、システムにどんな状態を実行させたいかを選択することができます。

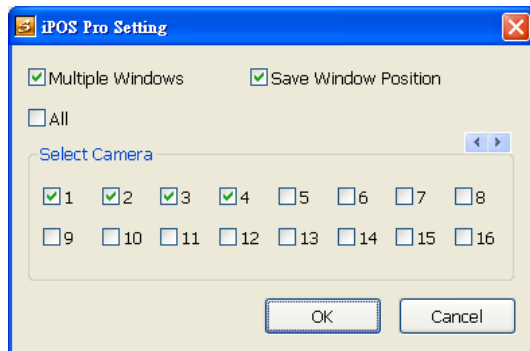
- **信号がない場合のビープ音**
  ビデオ信号が消失すると、警告音が出ます。
- **自動録画**
  DVR が動作中、ずっと録画をします。
- **オーバーレイ有効**
  ビデオの画質を改善するためにビデオ信号を強化します。
- **スクリーンセイバー**
  スクリーンセイバーモードに切り替わる時間を設定します。
- **オートスキャン時間**
  自動スキャン機能の時間的ギャップを、3 秒から 10 秒の間で設定します。設定した時間ギャップに応じて、自動的に次のビデオに順々に切り替わります。
- **再生モード**
  ビデオの再生モードを選択します。
  - ✓ **日付と時刻の選択**: 再生させたい日付と時刻を選択します。
  - ✓ **最後のファイルを再生**: 最後の 1 時間分のビデオを自動的に再生します。
  - ✓ **インスタント再生**: たった今録画したビデオを再生します。インスタント再生期間の設定は、**インスタント再生時間設定(Set Instant Playback's Play Time)**欄に時間(秒)を入力します。
- **日付フォーマット**
  日付と時刻の選択再生モードで表示させたい日付フォーマットを選択します。

(8) POS

■ **高度(Advanced)**

POS 装置から受信したデータをカメラスクリーンで表示します。POS テキストフロー、色と POS データベースのエクスポートを設定するには、**高度(Advanced)**をクリックしてください。

1. **POS テキスト表示(Show POS Text)**をマークして、スクリーンで POS データを表示します。
2. **POS テキストスクロール停止(Stop scroll POS Text)**をマークして、POS データのスクロールアップを停止します。**次より前の POS データ削除(Remove POS data after)**の欄に時間を入力して、POS テキストを削除します。
3. スクリーンでの POS データ表示位置を選択します– 左上、左下、右上或いは右下。
4. **フォント(Font)**をクリックして、POS データのフォントとカラーを変更します。
5. **次より前の POS データ削除(Remove POS data after)**のチェックボックスをマークして、設定した日にちより前の POS データを HDD から削除します。

■ iPOS Pro 設定

マルチプルウィンドウズ(Multiple windows)を有効にして、マルチチャンネルでリアルタイムの iPOS データを見ます。ユーザーインターフェースにあるリアルタイム iPOS データのウィンドウ位置を保存するには、**ウィンドウ位置の保存(Save window Position)**にチェックを入れます。全チャンネルを選択したい場合、**全部(ALL)**のチェックボックスをマークしてください。

(9) UPS (無停電電源装置)

電源サージや電圧低下などからシステムを保護します。これによって、バッテリー容量がパーセントレベル設定以下になってバッテリーバックアップ電源がシャットダウンに達すると、自動的にDVR システムを適切な方法で終了する程度の時間が与えられます。

カメラ設定

■　アナログカメラの設定

リモート DVR サーバーからカメラを選択して設定を変更します。カメラ設定ウィンドウで、**更新**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定 1**／ **初期設定 2** をクリックすると元の工場出荷時の設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

ビデオ設定を調整したいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**全部**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを右クリックします。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを左クリックします。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 有効

選択したカメラの起動または解除を設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除することをお勧めします。

(3) カメラ

- **表示**

  ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、ビデオを録画して、再生モードでプレビューすることができます。

- **名前**

  カメラの名前を変更します。

- **説明**

  短いコメントを追加します。

(4) 画質調整

選択されたカメラの明るさ、コントラスト、彩度、色合いを調整します。

(5) ノイズリダクション

不要なビデオ信号部分を低減して、画質を向上させます。

 ノイズリダクションでは、多くの CPU リソースを使用するため、本当に必要な場合にのみ使用してください。

---

(6) 明るさの自動調整

明るさを自動的に調整します。

(7) 夜間撮影

特に撮影現場が暗いときに露出を自動的に調整することで、画像が見やすくなります。この機能は、**明るさの自動調整が作動しているときにのみ**、起動することができます。

(8) インターレース除去有効

インターレース除去有効を実行すると画質が向上します。動きがない画面が多い場合には、**インターレース除去有効**モード#1 に設定し、動きの画面が多い場合には、**インターレース除去有効**モード#2 に設定してください。

■ IP カメラの設定

リモート DVR サーバーからカメラを選択して設定を変更します。カメラ設定ウィンドウで、**更新**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定 1/ 初期設定 2** をクリックすると元の工場出荷時の設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

ビデオ設定を調整したいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**全部**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを右クリックします。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを左クリックします。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 有効

選択したカメラの起動または解除を設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除することをお勧めします。

(3) カメラ

- **表示**
  ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、ビデオを録画して、再生モードでプレビューすることができます。
- **名前**
  カメラの名前を変更します。
- **説明**
  短いコメントを追加します。

(4) インターレース除去有効

インターレース除去有効を実行すると画質が向上します。動きがない画面が多い場合には、**インターレース除去有効**モード#1 に設定し、動きの画面が多い場合には、**インターレース除去有効**モード#2 に設定してください。

録画設定

■　アナログカメラ

録画設定ダイアログボックスで、**終了**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

録画設定を行いたいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを**右クリック**します。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを**左クリック**します。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 録画モード

00 から 23 までのブロックは、24 時間時計の各時間を表しています。24 時間全てを録画するには、録画モードを選択して⊙ボタンをクリックします。特定の時間のみを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- **常時録画**
  選択されたカメラからビデオを録画して、指定の保存パスに保存します。
- **動作検知録画**
  システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。動きを検知すると、システムは自動的に以前のフレームを保存して、**録画開始時刻**と**録画終了時刻**の各設定を元に停止します。
- **スマート録画**
  動きを検知すると自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと最小フレームレート設定で録画されます。(6) フレームレートのセクションで、最大および最小フレームレートを設定してください。

- **録画しない**
  システムは録画を行いません。
- **キーフレームレコーディング**
  毎秒 1 つのフレームのみをレコーディングします。

(3) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。

(4) 音声検知

音声検知の感度を調整します。

(5) 画質

ビデオの画質を調整します。この値が高いほど圧縮レベルが低くなり、ハードディスクの使用スペースが増加します。

(6) フレームレート

動きがある場合と動きがない場合の録画における最大および最小フレームレートを設定します。フレームレートは、NTSC では 1 から 30 まで、PAL では 1 から 25 まで設定できます。フレームレートが多いほど、ハードディスクの使用スペースが増加します。

(7) ビデオサイズ

ビデオサイズを選択して⊙ボタンをクリックします。サイズが大きいほど、大きいファイルが作成されます。

(8) 圧縮タイプ

H.264は最新とアドバンスド映像圧縮フォーマットです。H.264 に圧縮することで、よりいい画質と小さいファイルサイズを提供できますが、CPU のリソースが多く使われます。アドバンスド MPEG4 はカラーピクチャー向けの標準圧縮レートを提供できます。

■ IP カメラ

録画設定ダイアログボックスで、**終了**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

録画設定を行いたいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを**右クリック**します。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを**左クリック**します。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 録画モード

00 から 23 までのブロックは、24 時間時計の各時間を表しています。24 時間全てを録画するには、録画モードを選択して⊙ボタンをクリックします。特定の時間のみを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、

時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- **常時録画**
  選択されたカメラからビデオを録画して、指定の保存パスに保存します。
- **動作検知録画**
  システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。動きを検知すると、システムは自動的に以前のフレームを保存して、**録画開始時刻と録画終了時刻**の各設定を元に停止します。
- **スマート録画**
  動きを検知すると自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと最小フレームレート設定で録画されます。
- **録画しない**
  システムは録画を行いません。
- **キーフレームレコーディング**
  毎秒 1 つのフレームのみをレコーディングします。

(3) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。

ネットワーク設定

ネットワーク設定ダイアログボックスで、更新（Update）をクリックすると新しい設定が保存され、終了（Exit）をクリックすると保存せずに終了し、初期設定（Default）をクリックすると元の工場設定に戻ります。DVR サーバーで使用されるネットワークサービスポートについては 付録 B を参照してください。

(1) サーバー名

DVR ユニットに名前を割り当てます。英文字と数字のみが使用できます。

(2) 送信するカメラ

送信するカメラのセクションで、ウェブビューアー、遠隔コンソール、PDA ビューアー、ハンディビューアー（静止画像）を使用してインターネットを介してアクセスさせたいカメラの番号を選択してクリックします。全部のカメラを選択するには、**すべてのボックス**にチェックを入れます。

(3) ダイナミック DNS

ドメイン名とパスワードを入力します。この機能を使用するには、http://ddns.avers.com.tw にアクセスして登録する必要があります(付録 A も参照)。CD キー番号、製品名、パスワード、ユーザー情報を入力します。インターネットに接続する度に IP アドレスが変更される場合、このサービスを利用します。

(4) 遠隔コントロールサーバー

遠隔アプリケーション（例えば CMS）より遠隔コントロール機能をオン/オフします。遠隔アクセスポートをポート欄に入力します。

(5) ネットワークビデオ設定

リモートプログラムに送信したり、ビデオを見る際の、ビデオ画質とフレームレートを設定します。調整バーをスクロールして、**画質レベルとフレームレートレベル**を設定します。

(6) ウェブビューアーポート

パスワードなしで DVR サーバーにリモートアクセスするには、**匿名ログイン作動**を起動させます。ウェブポートの初期設定値は 80 です。

(7) ボイスフォーン

ボイスフォーンは、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる双方向トーク機能です。この機能を起動する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認してください。**ウェブクライアントと会話する**チェックボックスを解除すると、ウェブビューアー双方向トークボタンを押したときに、DVR サーバー側にいる人のみがクライアント側の人の声を聞くことしかできません(第 6.1 章 #6 を参照)。ボイスフォーンの初期設定ポートは 9999 です。

(8) ネットワーク時間同期化

DVR システム時間をネットワーク時間サーバーと同じになるように調整します。**時間サーバー**の IP アドレスかドメイン名を記入

してください。時間の**自動同期化**を選択すると、毎日、自動的に時間が同期化されるように設定されます。

(9) その他のコンフィギュレーション

- **オリジナルセキュリティプロトコル有効(Enable Original Security Protocol)**
  DVR システムの新しいバージョンでも昔の遠隔ソフトバージョンをサポートできるようにします。例えば、CMS バージョン 7.1 を使って、バージョン 7.3 の DVR システムへ接続する場合、この項目を有効にする必要があります。DVR システムの新しいバージョン 7.3 とそれより新しいものでは、新しいセキュリティプロトコルが使用されて、古い遠隔ソフトが対応できません。
- **ホワイトリスト有効**
  DVR サーバーがリモートアクセスできるようにするためのアクセス許可リストです。IP アドレスを入力して**追加**をクリックします。もしくは、IP アドレスの範囲を入力して**追加**をクリックします。リストから IP を削除するには、IP を選択して**削除**ボタンをクリックします。入力をリセットするには、**クリア**ボタンをクリックします。

- **ハンディービューを有効にします**
  PDA または携帯電話を使って DVR サーバーにアクセスしたり、ビデオサイズや画質を選択できるようにする機能です(第 6.5 章および 6.6 章も参照)。

- **ネットワーク回線容量限度**
  ✓ **チャンネルごと:** 各チャンネルごとのネットワークバンド幅を設定します。
  ✓ **全部:** ネットワークバンド幅のトータル使用上限を設定します。

スケジュール設定

全部のカメラについて、1 週間単位または単発的に、録画やバックアップやネットワークの起動や再起動やアラームの解除のスケジュールを立てることができます。00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。一番左の欄には、1 週間分の日が表示されます。

スケジュールの設定方法

1. カレンダーで日付を選択します。 と のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます。
2. ドロップダウンリストから、スケジュールに組み込みたい条件を選択します。
   - **録画**
     録画設定に基づいて、全カメラで、設定時刻にビデオ録画を開始させます (第 4.3 章も参照)。
   - **バックアップ**
     設定時刻に、指定のバックアップパスに全データの別コピーを保存します。DVR は、まだアーカイブに含まれていないデータのみを自動的に更新してバックアップします。バックアップパスを割り当てるには、をクリックします。
     ✓ **ミラーバックアップ(Mirror Backup)**:HDD に保存した全てのデータを指定した時刻からバックアップ先へコピーします。
     ✓ **増加分バックアップ(Incremental Backup)**:前回バックアップしてアーカイブにないデータのみをバックアップします。

バックアップフォルダと保存フォルダが同じドライブ内にないことを確認してください。

   - **ネットワークの起動**
     設定時刻に、DVR リモートシステムがアクセスできるように起動します。指定時刻以降は、ネットワーク機能は解除されます。ネットワーク機能が既に起動されている場合、指定時間が終了しても、ネットワーク機能は解除されません。
   - **再起動**
     指定時刻にコンピューターを再起動します。
   - **アラームの解除**

設定時刻に、アラームを一時的に解除させます。

- **起動するリレーの番号**

  設定時刻にリレーを起動させせます。リレーが接続されていない場合、「起動するリレーの番号」機能はドロップダウンリストに表示されません。リレー番号は、何個のリレーが接続されているかによって異なります。

3. 1 週間単位か単発的かを指定します。⦿ボタンをクリックして選択を行います。
4. 色の付いたブロックを**右クリック**します。 時間選択ダイアログボックスでクリックして、設定したい部分を起動または解除します。 OK をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

5. もしくは**すべて**をクリックして全ブロックを選択します。設定を保存するには、保存をクリックします。設定を解除するにはクリアをクリックします。
6. スケジュールの設定を終了するには、**OK** をクリックすると設定が保存され、終了します。キャンセルをクリックすると、設定を保存しないで終了します。
7. もしくは**すべて**をクリックして全ブロックを選択します。設定を保存するには、保存をクリックします。設定を解除するにはクリアをクリックします。
8. スケジュールの設定を終了するには、**OK** をクリックすると設定が保存され、終了します。キャンセルをクリックすると、設定を保存しないで終了します。

アラーム設定

アラームの設定ダイアログボックスでは、**追加**をクリックすると新しいアラーム設定が挿入されて設定され、**削除**をクリックすると選択したアラーム設定が削除され、OK をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると選択したアラーム設定が保存されずに終了され、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

アラームを設定する:

1. **追加**をクリックして、新しいアラーム設定を挿入して設定します。このアラーム設定を変更したい場合には、**(7) アラーム設定リスト**で項目をクリックしてください。
2. **(1) アラーム設定番号/名称/説明**では、下のリストに、選択されたアラームの設定番号の項目が表示されます。アラームの名称と説明を記入してください。
3. **(2) 起動時刻**では、00 から 23 までの数字は 24 時間時計の各時間を表しています。 時刻を選択して、アラーム機能を起動または解除したいブロックをクリックしてください。解除されると、ブロックの色が白になります。

4. **(3) 条件**では、「**1 つの条件を満たす**」を設定すると、条件のどれかが満たされたときにアラームを起動させることができ、「**全ての条件を満たす**」を設定すると、条件がすべて満たされたときにアラームを起動させることができます。
   - カメラセクションでは、**動作検知**や**ビデオ信号消失**でカメラ番号(01 から 32)を選択してクリックすると、システムがアラームを起動させる条件を設定することができます。
   - **行方不明と怪しい物体・シーン**では、カメラ番号(01 から 32)を選択してクリックし、画面上の特定の物体を選択(カメラ番号を右クリックして詳細設定する)しておくと、その特定の物体が消失したり疑わしい物体である場合、システムがアラームします(第 4.9.11 章を参照)。**シーンチェンジ(Scene Change)**では、カメラが動いた場合、システムがアラームします。
   - **音声検知**で、カメラ番号(01 から 32)をクリックすると、異常な音声を検出したときにシステムがアラームします。
5. **(4) センサー**では、センサー番号を選択してクリックして(◀と▶を使用してセンサーを選択する)、システムがアラームする条

件を設定します。センサーの通常の状態が高（High）である場合、センサー状態を低（Low）に設定してください。

- **連続トリガー期間（Continue trigger duration）**：センサーをトリガーして、設定した期間中で同じ状態であった場合、アラームを発します。
- **異常イベント**: 起動或いは解除して、システムがアラームを発する条件を設定します。

✓ **再起動**: 異常な状況なしで DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
✓ **異常再起動**: 異常な状況下で DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
✓ **録画停止**: 録画が停止した場合に、システムは警告メッセージを送信します。
✓ **ネットワーク停止**: DVR システムのネットワーク接続が切れた場合、システムが警告メッセージを送信します。
✓ **ハードディスクエラー**: ハードディスクが正常に動作しない場合、システムが警告メッセージを送信します。

- **POS キーワード**：チェックボックスにマークを入れると、POS からのデータがキーワードとマッチするか否かがスキャンされます（第 4.9.10 章を参照）。

- **アラームメッセージ**：チェックボックスにマークを入れると、ユーザー自身のプログラムで外部アラームメッセージを起動させることができます。コンフィギュレーションの詳細については、最寄りの販売店にお問い合わせください。
- **アラームボタン**：チェックボックスにマークを入れると、手動アラーム機能を起動させることができます。手動アラーム機能のアラームメッセージを設定するには、アラームボタンをクリックしてアラームボタン番号を選択し、アラームボタンの説明を記入してください。

6. **(5) アラームリセット**でカメラ番号(◀ と ▶ を使いアラームを選択)をクリックして、アラームのリセット条件を設定します。アラームがリセットされると、その時点でアラーム動作が停止します。センサーの通常の状態が高(High)である場合、センサー状態を低(Low)にしておいてください。
   - **アラームリセット時間**: アラームが自動リセットする時間を設定します。例えば動作検知とビデオロスによってアラームが発生しますが、アラームリセット時間になったらアラームがリセットされます。
7. **(6)動作**では、アラーム条件が起動したときにシステムが実行するアラーム動作を設定することができます。
   - **E マップの起動**
     ミニ E マップ画面を表示します。
   - **TV 出力**
     アラームが起動した時点以降のビデオのみを TV に切り替え表示します。
     ✓ **読出し時間**: システムが自動的に TV 上の元の表示モードに切替わるまでの待ち時間を設定します。 読出し時間がチェックされていない場合、ユーザが手動で通常表示モードに切替えるまでアラームビデオが表示され続けます。

   - **カメラ画面をポップアップ**
     アラームが起動した時点以降で、プレビュー/高度(Advanced)モードのビデオのみを表示するよう切り替えします。
     ✓ **読出し時間**: システムが元のプレビューモードに切替わるまでの待ち時間を設定します。 読出し時間がチェックされていない場合、ユーザが手動でプレビューモードに切替えるまで、アラームビデオが拡大表示され続けます。

   - **E メール送信**
     電子テキストメッセージを送信します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(E メール送信設定を参照)。
   - **FTP に転送**
     FTP (ファイル転送プロトコル)を介してリモートコンピューターにファイルをアップロードします。設定するには、**詳細**をクリックしてください(FTP 設定を参照)。

- **録画開始**
  選択されたカメラからビデオを録画します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(アラーム設定を参照)。
- **アラーム SOP(標準操作手順)**
  アラームが起動した際の対応手順に関する指示を列記します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(アラーム SOP 設定を参照)。
- **CMS(中央管理システム)へ送信**
- アラームが起動した際に、選択されたカメラを、CMS にビデオを送信させるよう、起動または解除させます(CMS に関する設定を参照)。

E メール送信を設定する

E メール送信チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。E メール設定ダイアログボックスで、**OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

(1) メールサーバー

SMTP サーバーとポートを入力します。E メールシステムがユーザーID を必要とする場合、**認証**チェックボックスにマークを入れてユーザーID とパスワードを入力します。

(2) メール

動作可能かどうかを確認するには、**テストアカウントボタン**をクリックします。
送信元: 送信者の E メールアドレスを入力します。
受信者と CC: 受信者の E メールアドレスを入力します。複数の場合は、カンマまたはセミコロン(;)で区切ります。
件名: メッセージの件名を入力します。
メッセージ: メッセージの内容をタイプします。

(3) E メール通知設定

- **通知間隔**: 別の E メール通知を送信するまでの時間間隔を設定します。
- **画像添付**: 画像のサイズを選択し、フレーム数を設定します。
- **センサーが起動したときに画像を添付**:センサーが作動すると、システムは画像をキャプチャーして、アラームメッセージと一緒に、指定の E メールアドレスに送信します。

(4) モデムダイアルアップ設定

自動接続解除までの時間チェックボックスにマークを入れて、時間を設定すると、自動的に接続解除する時間を設定することができます。

FTP に関する設定

1. FTP に転送チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. FTP 設定ダイアログボックスに、FTP IP、ポート、ユーザーID、パスワードを入力します。
3. **画像数**テキストボックスに、ファイル転送中に送信したいシーケンスイメージ数を入力します。 転送可能な画像の最大数は 16 です。
4. **センサートリガ時のアップロードドイメージ**中で、センサーのトリガ時にイメージをキャプチャして送信するカメラを選択します。
5. OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

アラーム録画を設定する

1. 録画開始チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. アラーム録画設定ダイアログボックスで、ビデオ録画を作動/解除するカメラを選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。
3. フレームレート選択で、**設定通り**を選択すると、録画設定に基づくフレーム枚数を録画し、**最大**を選択すると、利用可能な速度に基づく最大フレーム枚数を録画します。
4. **アラーム開始前の録画**(Start Recording prior)のテキストボックスにマークを入れて、アラーム発する前のプレレコーディング時間を秒単位で入力して、プレレコーディングをします。時間の設定範囲は 1~10 秒です。
5. **アラーム終了後の録画停止**(Stop Recording after)のテキストボックスにマークを入れて、アラーム終了後の継続録画時間を秒単位で入力して、録画を継続させます。時間の設定範囲は 1~600秒です。チェックボックスにマークを入れなくて、時間も設定しない場合、アラームがリセットするまで録画が続きます。
6. OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

アラーム SOP を設定する

アラーム SOP チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。ステップテキストボックスに、アラーム作動時の標準プロトコルをタイプします。アラームが作動すると標準作業手順ダイアログボックスが表示されます。**次へ**をクリックすると次の指示が表示され、**戻る**をクリックすると前の指示に戻り、**終了**をクリックすると終了し、**中断**をクリックすると手順が中断されます。

CMS を設定する

「CMS へ送信」チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。**OK** をクリックして、新しい設定を保存します。**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

■ **CMS:** CM3000 へ映像送信するカメラを選択します。

マトリックス（**Matrix**）：カメラを選択して、CM3000へアラームイベントの映像を送信します。DVR サーバーからのアラームイベントを受信できるようにするため、CM3000 の方ではマトリックスチャンネルを設定する必要があります（詳細は CM3000 のマニュアルを御参照）。

6.2　ウェブビューアーPTZ ボタンについて

名称	機能
(1) 方向ボタン	PTZ カメラの焦点を調整して配置します。中央をクリックすると、自動的にパンします。.
(2) PTZ の選択	PTZ カメラの起動や解除を選択します。PTZ 選択ダイアログボックスの選択カラムをクリックすると、PTZ カメラの表示や制御を起動したり解除することができます。 **OK** をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。
(3) 自動パングループ	カメラグループプリセット位置番号に基づいて、自動的に PTZ カメラを操作します。
(4) カメラプリセット位置番号	PTZ カメラをプリセット位置へ移動させます。
(5) ズーム+/−	画像を拡大または縮小します。
(6) ピント+/−	画像がはっきりに写るように、手動でピントを調整します。

6.3 遠隔コンソールボタンについて

名称	機能
(1) DirectDraw	ビデオ画質を向上させます。

グラフィックカードによっては、この機能をサポートしないものもあります。

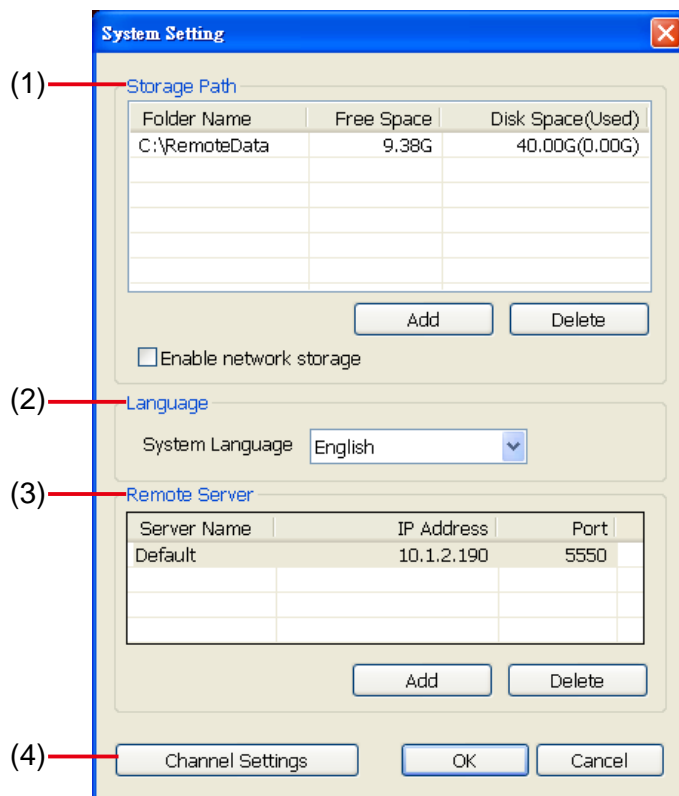
名称	機能
(2) 終了	遠隔コンソールを閉じます。
(3) 音量	音声を起動または解除します。
(4) 分割画面モード	全カメラを表示する 6 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。

- カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。
- ビデオ画質を変更するには、画面を右クリックすると、画質が高、中、低と切り替わります。
- IWH3216 Touch では、32 分割スクリーン表示モードの機能は備わっておりません

名称	機能
(5) 録画	ビデオ録画を開始または停止します。
(6) E マップ	各エリアのマップや、カメラ/センサー/リレーの位置、警告イベントを表示します(第 3.6 章を参照)。
(7) ネットワーク	リモートシステムアクセスを起動または解除します。この機能で、遠隔地からインターネット接続を介して、DVR サーバーにアクセスすることができます。
(8) 設定	遠隔コンソールの設定をコンフィギュレーションします(第 6.3.1 章を参照)。
(9) PTZ	PTZ コントロールパネルにアクセスします。DVR システムは、PTZ カメラのほかに、メガピクセル IP カメラもサポートします(第 6.3.2 章を参照)。
(10) プレビュー	プレビュー /高度モードに切り替わります。実況カメラ表示を行うことができます。
(11) 再生	再生モードに切り替わります。録画したビデオファイルを再生することができます。(第 6.4 章を参照)。
(12) 状態バー	現在の日付と時刻、およびハードディスクの残りスペースを表示します。
(13) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。
(14) スナップショット	録画画面を静止して、BMP または JPG ファイルで保存します。
(15) イベントログ	システムのアクティビティの記録を表示します。記録をフィルターするには、オプションボタンを選択してクリックすると、イベント、システム、操作、ネットワーク、POS のみが表示されます。
(16) スナップショット	画面ショットを捕獲して、*.jpg または*.bmp フォーマットで保存します。

名称	機能
(17) フル画面	画面全体を使用して、ビデオのみが表示されます。 マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。
(18) アラーム	警告情報を表示します。管理者レベルの者だけが、センサーおよびリレーリストで項目を右クリックして、センサーやリレーをオンオフしたり、起動させることができます。

6.3.1 遠隔コンソールを設定する

OK をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると設定を保存せずに終了します。

(1) 保存先

データを保存するディレクトリを設定します。1 時間分のデータを保存するための十分なスペースがない場合、システムは自動的に一番古いデータを削除して新しいデータを保存します。保存先が 2 つ以上ある場合には、システムは自動的に、次の保存パスにデータを保存します。

初期設定では、データは C: ¥RemoteData に保存されます。別の保存パスを挿入するには、**追加**をクリックします。選択したパスを削除するには、**削除**をクリックします。

ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、**…日後に記録したデータを削除する**チェックボックスにマークを入れ、**日数**テキストボックスに日数を入力します。

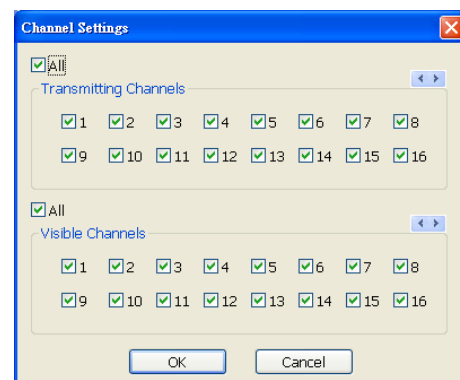
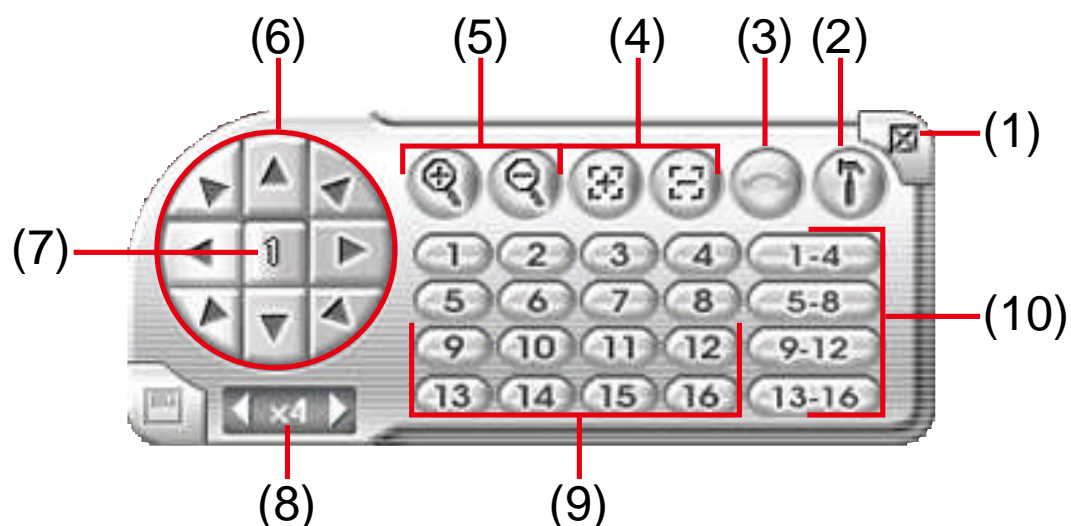
(2) 言語

選択した言語でツールのヒントやダイアログを表示するように、システムをカスタム化することができます。初期設定言語は英語です。

(3) 遠隔サーバー

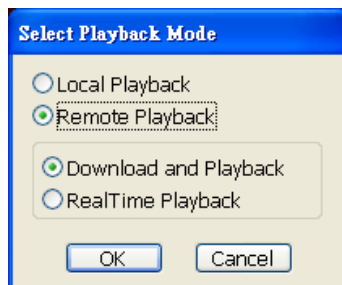
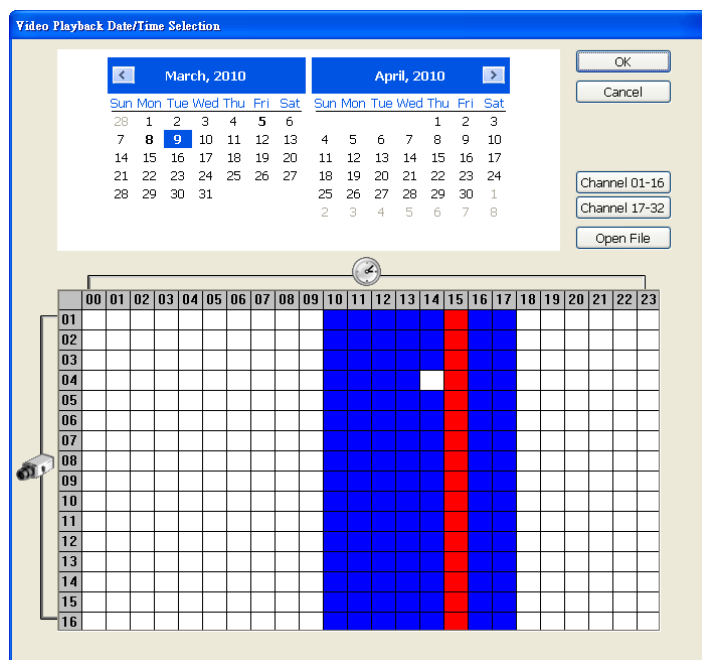
DVR サーバーの IP とポート番号を入力します。

(4) チャンネル設定

01 から 16 までの数字は、カメラ ID を表します。送信チャンネルセクションで、サーバーからカメラ信号を受信するカメラの番号を選択します。受信チャンネルセクションで、遠隔コンソール画面でカメラ信号を見るカメラの番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**チェックボックスにマークを入れます。

6.3.2 PTZ カメラコントローラーのボタンについて

名称	機能
(1) 終了	PTZ カメラコントローラーを閉じます。
(2) 設定	PTZ カメラをコンフィギュレーションします。
(3) 自動パン	選択したカメラグループプリセット位置番号に基づいて、自動的に PTZ カメラを操作します。
(4) ピント+/−	画像がはっきりに写るように、手動でピントを調整します。
(5) ズーム+/−	画像を拡大または縮小します。
(6) 方向ボタン	PTZ カメラの焦点を調整して配置します。
(7) カメラ ID 窓	現在作動している PTZ カメラの番号を示します。
(8) カメラレンズ速度コントローラー	PTZ カメラレンズの移動速度を調整します。
(9) カメラプリセット位置番号	PTZ カメラをプリセット位置へ移動させます。
(10) グループオートパン	全 PTZ カメラを一つのグループとして自動的に作動させます。

6.4　遠隔再生の使用法

この機能を使用するには、まず、ファイルのソースを選択する必要があります。再生モードの選択ダイアログボックスで、**ローカル再生**を選択すると、遠隔コンソールで録画されたファイルが開き、**遠隔再生**を選択すると、DVR サーバーで録画されたファイルが開きます。リモート再生を選択したときに、インターネットバンド幅が十分高速である場合には**リアルタイム再生**を選択し、低速な場合には**ダウンロードと再生**を選択してください。

OK をクリックすると次に進み、**キャンセル**をクリックすると、この手順が終了します。

ビデオ再生の日付と時刻の選択で、00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 16 までと17から 32 までの数字は、カメラ番号を表わしています。 チャンネルグループに切替えるには、**チャンネル 01–16** および**チャンネル 17–32** ボタンをクリックしますが、DVR がサポートするチャンネルが 16 以下(16 チャンネルを含む)の場合は、チャンネルグループ切替えボタンは機能しません。

選択を行うには:

1. カレンダーで日付を選択します。 と のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます
2. 下の表で、青いブロックをクリックして録画ファイルを選択します。選択すると青いブロックが赤くなります。白いブロックはデータがないことを示しています。ダウンロードおよび再生を選択した場合には、一つのブロックのみを選択することができます。
3. OK をクリックすると次に進み、**キャンセル**をクリックすると、この手順が終了します。
4. この選択を行った後でダウンロードおよび再生を選択した場合には、システムは選択された時間を16のビデオサムネールに分割します。時間選択画面で、ダウンロードして開きたいビデオサムネールをクリックしてください(第 6.4.2 章を参照)。

6.4.1 ローカル再生ボタンについて

名称	機能
(1) 分割画面モード	全カメラを表示する 6 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。

- カメラが 4 台しか接続されていない場合合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。
- 画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を**右クリック**して**ドラッグ**してください。.

(2) 終了	遠隔コンソールを閉じます。
(3) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(4) 時間ボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。

時間ボタンは、24 時間制時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。

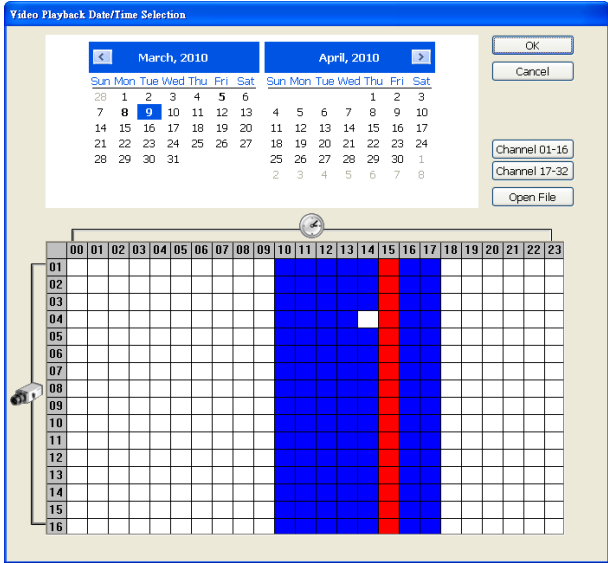
(5) 再生コントロールボタン	**開始**: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 **コマ戻し**: 以前のフレームに戻ります。 **スロー再生**: 録画済みビデオファイルの再生速度を 1/2x、1/4x、1/8x、1/16x に遅くします。 **巻き戻し**: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 **一時停止**: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 **再生**: 録画済みビデオファイルを再生します。 **早送り**: 録画済みビデオファイルの再生速度を 2x、4x、8x、16x、32x 倍速度で再生します。 **コマ送り**: 次のフレームに進みます。 **終了**: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。
(6) 日付	録画ファイルの再生を開始する日付や時刻を、カレンダー及び 00 から 23 までの時間で選択します。

名称	機能
	– **ファイル開く**ボタンを押して、指定した場所より録画データを再生します。 – **チャンネル 01 から 16 およびチャンネル 17 から 32:** 再生カレンダーの異なるチャンネルグループに切替えます。 DVR システムがサポートするチャンネルが 16 以下の(16 を含む)場合、チャンネルグループの切替えボタンは機能しません。 – **サマータイム(Day Light Saving)**をマークして、サマータイム期間中で録画した再生可能のデータが再生カレンダーに表示されます。

00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 32 までの数字は、カメラ ID を表わしています。青いカラムは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いカラムは、録画済みビデオファイルの再生が始まる場所を示しています。

(7) プレビュー	プレビュー/高度(アドバンスド)モードに切り替わります。
(8) 再生	再生モードに切り替わり、録画済みビデオファイルを見ることができます。
(9) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。
(10) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。
(11) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれます。 ■ **スナップショット:** *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ **印刷:** 画面ショットを印刷します。 ■ **ビデオクリップ出力:** *.mpg、*.avi または*.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.3.1 章を参照)。 ■ **バックアップ:** 再生ファイルを USB デバイスまたは DVD-ROM ディスクに保存します(第 4.6 章バックアップの設定を参照)。
(12) セグメント	録画済みビデオの必要な部分を保存します(第 3.3.1 章を参照)。
(13) フル画面	再生コンパクトモードで表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、**左**クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(14) イベントログ	システムのアクティビティの記録を表示します。記録をフィルターするには、オプションボタンを選択してクリックすると、イベント、システム、操作、ネットワーク、POS のみが表示されます。
(15) ビジュアル検索	特定のカメラで、日付、時刻、分、10 秒、秒で検索します(第 3.3.3 章を参照)。
(16) 次を検索	次のイベントまたは動作検知器フレームの変更を検索します。インテリジェント検索やイベント検索機能でもこれを使用することができます。
(17) イベント検索	システムで実行されるレコーディング動作から検索します(センサー、モーション、ビデオロス、および POS 等)。
(18) インテリジェント検索	動作検知フレームでの変更を検索します(第 3.3.4 章を参照)。

ビジュアル検索およびインテリジェント検索は、リモートサイトがリモートローカルハードディスクで録画や再生を行っている場合にのみ利用することができます。

(19) 音声	音声のオン/オフをします。
(20) インターレース除去	ビデオの画質を改善します。キャプチャーした画像が動きのない画像のときにはインターレース除去モ

名称	機能
	ードを#1 に、動きの多い画像のときには#2 に設定してください。

6.4.2 リアルタイム再生ボタンについて

名称	機能
(1) 終了	プログラムを終了します。
(2) 分割画面モード	6 種類の分割画面タイプの中から選択して、全カメラまたは 1 台のカメラの録画済みビデオを再生することができます。

- カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。
- 画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を**右クリック**して**ドラッグ**してください。

名称	機能
(3) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(4) 時間ボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。

時間ボタンは、24 時間時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。

名称	機能
(5) 再生コントロールボタン	**開始**: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 **コマ戻し**: 1 コマ前のフレームに戻ります。 **スロー再生**:録画済みビデオファイルの再生速度を 1/2x、1/4x、1/8x、1/16x に遅くします。 **巻き戻し**: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 **一時停止**: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 **再生**: 録画済みビデオファイルを再生します。 **早送り**: 録画済みビデオファイルの再生速度を 2x、4x、8x、16x、32x 倍速度で再生します。 **コマ送り**: 次のフレームに進みます。 **終了**: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。

名称	機能
(6) 日付	録画ファイルの再生を開始する日付や時刻を、カレンダー及び 00 から 23 までの時間で選択します。 – **ファイル開く**ボタンを押して、指定した場所より録画データを再生します。 – **チャンネル 01 から 16 およびチャンネル 17 から 32:** 再生カレンダーの異なるチャンネルグループに切替えます。 DVR システムがサポートするチャンネルが 16 以下の(16 を含む)場合、チャンネルグループの切替えボタンは機能しません。

00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 32 までの数字は、カメラ ID を表わしています。青いカラムは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いカラムは、録画済みビデオファイルの再生が始まる場所を示しています。

(7) プレビュー	プレビュー/高度(アドバンスド)モードに切り替わります。
(8) 再生	再生モードに切り替わり、録画済みビデオファイルを見ることができます。
(9) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。
(10) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。
(11) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれます。 ■ **スナップショット**: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ **印刷:** 画面ショットを印刷します。 ■ **ビデオクリップ出力**: *.mpg、*.avi または*.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.3.1 章を参照)。
(12) フル画面	再生コンパクトモードで表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、**左**クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(13) イベントログ	システムのアクティビティの記録を表示します。記録をフィルターするには、オプションボタンを選択してクリックすると、イベント、システム、操作、ネットワーク、POS のみが表示されます。
(14) イベント検索	システムで実行されるレコーディング動作から検索します(センサー、モーション、ビデオロス、および POS 等)。
(15) 音声	音声再生のオン/オフします。
(16) インターレース除去	ビデオの画質を改善します。キャプチャーした画像が動きのない画像のときにはインターレース除去モードを#1 に、動きの多い画像のときには#2 に設定してください。

6.4.3　ダウンロードと再生ボタンについて

名称	機能
(1) 終了	DVR プログラムを閉じるには**終了**をクリックします。
(2) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(3) 再生コントロールボタン	**開始**: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 **コマ戻し**: 以前のフレームに戻ります。 **スロー再生**: 録画済みビデオファイルの再生速度を 1/2x、1/4x、1/8x、1/16x に遅くします。 **巻き戻し**: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 **一時停止**: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 **再生**: 録画済みビデオファイルを再生します。 **早送り**: 録画済みビデオファイルの再生速度を 2x、4x、8x、16x、32x 倍速度にします。 **コマ送り**: 次のフレームに進みます。 **終了**: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。
(4) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。
(5) 言語	言語を選択します。
(6) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれます。 ■ **スナップショット**: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ **印刷**: 画面ショットを印刷します。 ■ **ビデオクリップ出力**: *.mpg、*.avi または*.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.3.1 章を参照)。
(7) セグメント	録画済みのビデオの一部分を保存します(第 3.3.1 章を参照)。
(8) フル画面	再生コンパクトモードで表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、**左**クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(9) ビジュアル検索	特定のカメラで、日付、時刻、分、10 秒、秒で検索します(第 3.3.3 章を参照)。
(10) 次を検索	次のイベントまたは動作検知器フレームの変更を検索します。インテリジェント検索やイベント検索機能でもこれを使用することができます。

名称	機能
(12) イベント検索	システムで記録されたアクティビティ(センサー、動作、ビデオ消失、POS など)を検索します(第 3.3.4 章を参照)。
(13) インテリジェント検索	動作検知フレームでの変更を検索します。(第 3.3.5 章も参照)。
(14) 音声	音声再生のオン/オフします。

6.5 DVR サーバーにアクセスするためのハンディビューアーHandyViewer の使用法

携帯電話を使用して、インターネットを介して DVR にアクセスすることができます。使用中の携帯電話が Internet Explorer ブラウザをサポートし、インターネットに接続されていることを確認してください。DVR サーバーにアクセスするには、Internet Explorer を開き、http://(サーバーIP またはドメイン名をここに記入)/mobile を入力します。最新画面ショットを見ることができます。<<　>>をクリックするとチャンネルやカメラを変更でき、**更新**をクリックすると新しい画面ショットを再ロードすることができます。

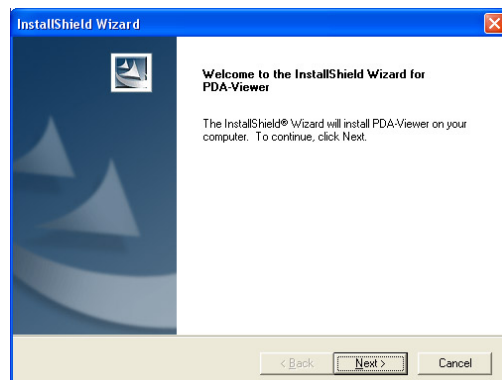
6.6 DVR サーバーにアクセスするための PDA ビューアーの使用法

PDA を使用しても、インターネットを介して DVR にアクセスすることができます。使用中の PDA が Internet Explorer ブラウザをサポートし、インターネットに接続されていることを確認してください。この機能を使用するには、ActiveSync 接続を介して PDAViewer ソフトウェアをインストールするか、インターネットからそれをダウンロードする必要があります。使用中の PDA が下記の 2 つの条件を満たすことを確認してください。

OS: MS Windows CE 4.0, PocketPC 2002/2003, Mobile 5 PDA バージョン CPU: ARM アーキテクチャ

6.6.1 ActiveSync を介して PDA ビューアーをインストールする

1. コンピューターに PDA を接続します。CD-ROM に CD を入れ、「PDAViewer をインストール」をクリックします。画面に表示される指示に従ってください。

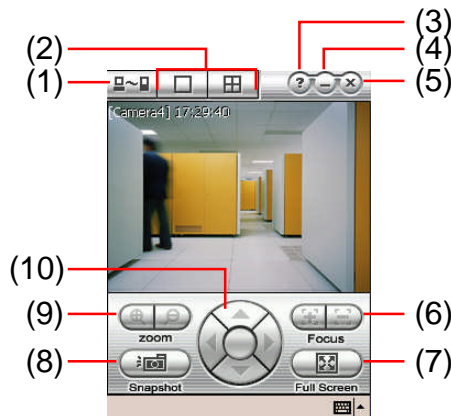
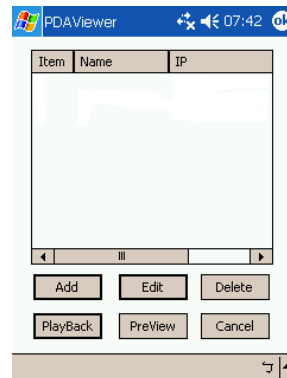
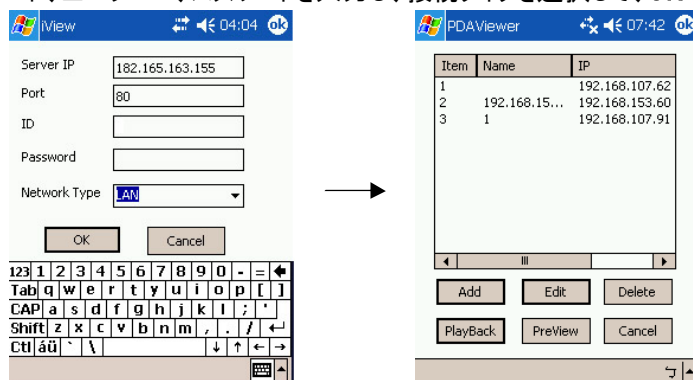
2. **次へ**をクリックして継続します。

3. ライセンス同意書を読み、条項にすべて同意したら、**はい**をクリックします。すると、システムは自動的にアプリケーションをインストールします。

6.6.2　インターネットから PDA ビューアーをインストールする

1. インターネットに接続されていることを確認します。
2. ウェブブラウザを開き、サーバーIP を入力し、ハイパーリンク「PDA ビューアーをダウンロードする」をクリックします。
3. ダウンロードダイアログボックスが表示されたら、「ダウンロード後にファイルを開く」にマークをいれ、**はい**をクリックします。

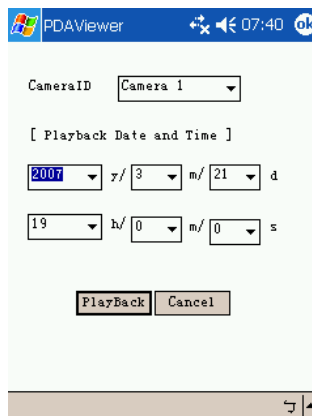
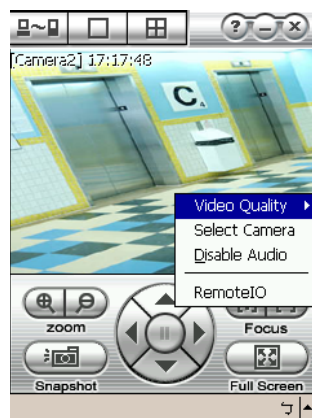
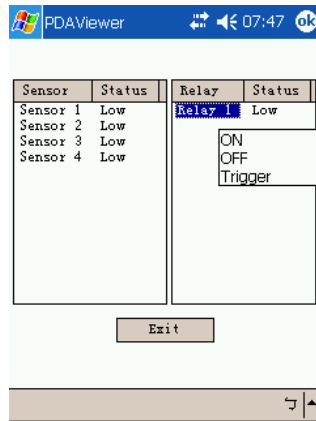
4. インストールが完了すると、プログラムリストに PDA-Viewer 5.5 アイコンが表示されます。

6.6.3　PDA ビューアーを使用する

1. プログラムで **PDA−Viewer 5.5** を実行します。
2. PDA ビューアーボタンの使い方に慣れましょう。

名称	機能
(1) 接続	DVR サーバーに接続します。インターネットに接続されていることを確認してください。 iView 画面が表示されたら、追加をクリックして DVR サーバーを追加します。 サーバーIP 、ポート、ユーザーID、パスワードを入力し、接続タイプを選択して、OK をクリックします。 PDAViewer でリモート DVR サーバーから録画済みビデオを再生することができます(第 6.6.4 章を参照)。
(2) 分割画面モード	2 種類の分割画面タイプの中から選択します。また、別のカメラ番号や別のチャンネルを見るように切り替えることもできます。.
(3) バージョン情報	PDA ビューアーのバージョン情報を表示します。
(4) 最小化	サイズをタスクバーの大きさまで縮小します。
(5) 終了	PDA ビューアーを閉じます。
(6) ピント	画像がはっきりに写るように、PTZ カメラのピントを調整します。
(7) フル画面	画面全体を使用して、ビデオのみが表示されます。
(8) スナップショット	画面ショットを捕獲して、*.bmp フォーマットで保存します。
(9) ズーム	PTZ カメラの画像を拡大または縮小します。

名称	機能
(10) 方向ボタン	PTZ カメラの焦点を調整して配置します。

3. ビデオの画質を変更したり、音声を起動または解除したり、別のカメラからの画像を選択するには、ビデオ画面を長めに押すと、ポップアップメニューが表示されます。

6.6.4 PDA ビューアー で再生する

1. プログラムで **PDA ビューアー** を実行します。
2. DVR サーバーに接続します。
3. **接続**アイコンをクリックして、DVR サーバーを選択します。
4. **再生**をクリックして、再生オプション画面に進みます。
5. **カメラ、データ、時刻**を選択します。
6. **再生**をクリックして、録画済みビデオを再生します。

7. 再生中に、I/O デバイスの状態を確認したりそれを変更することができます。
8. 再生画面でビデオ画面を長めに押すと、ポップアップメニューが表示されます。
9. **リモート IO** を選択します。

10. 下記のように、センサーとリレーデバイスが表示されます。

11. リレーの状態を変更することができます。リレーを選択し、再生画面でビデオ画面を長めに押すと、ポップアップメニューが表示されます。次に、状態(ON、OFF、トリガー)を選択します。

6.6.5 DVR サーバーにアクセスするための Java ビューアーの使用法

Symbian Smart Phone OS をインストールした携帯電話を使用して、インターネットを介して DVR にアクセスすることができます。使用中の携帯電話が Symbian Smart Phone OS をサポートし、インターネットに接続できることを確認してください。この機能を使用するには、JAVA ビューアープログラムをインストールする必要があります。これは、インターネットを介して DVR サーバーからダウンロードすることができます。

DVR サーバーから JAVA ビューアーをインストールするには、

1. ウェブブラウザを開いて、DVR サーバーIP(http://DVR サーバーIP: ポート/JAVA-Viewer.html)を入力し、**接続**をクリックします。
2. ダウンロード画面が表示されたら、**JAVA-Viewer.jad** を選択し、携帯電話にダウンロードします。
3. インストールが完了すると、携帯電話で JAVA-Viewer が使用可能になります。JAVA-Viewer の場所を見つけるには、携帯電話の取扱説明書を参照してください。

6.6.6　JAVA ビューアーを使用する

1. JAVA ビューアープログラムを実行します。

2. DVR IP アドレス、ポート番号、ユーザーID、パスワードを入力します。それに関する情報は、DVR サーバーの設定を参照してください。

3. 次に接続を選択して、DVR サーバーに接続します。

4. **はい**をクリックして、DVR サーバーからデータを受け取ります。

5. 接続が成功すると、画面にカメラからのビデオが表示されます。

6. 別のカメラからの画面に切り替えるには、メニューを選択してチャンネルを選択します。

7. JAVA ビューアー　サポート PTZ　制御機能については、詳細機能コントロールキーの**ヘルプ**ファイルを参照してください。**メニュー**を選択してスクロールし、**ヘルプ**ファイルを選択します。

→

第7章　　iEnhance

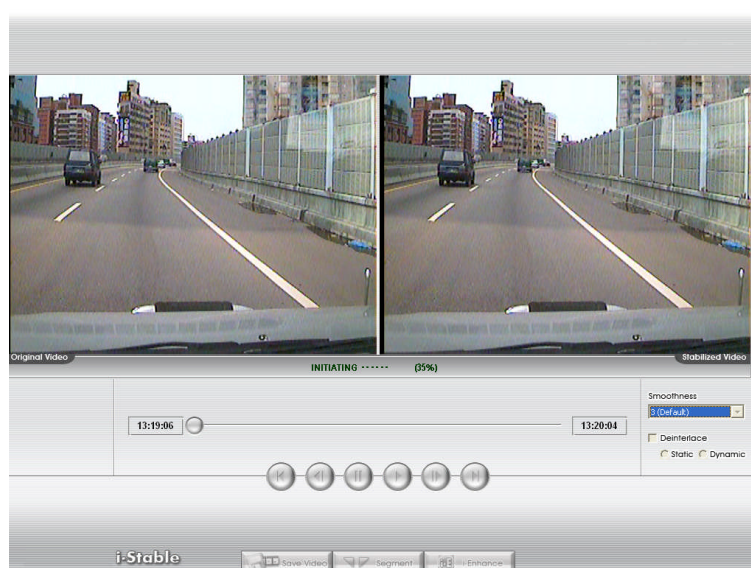
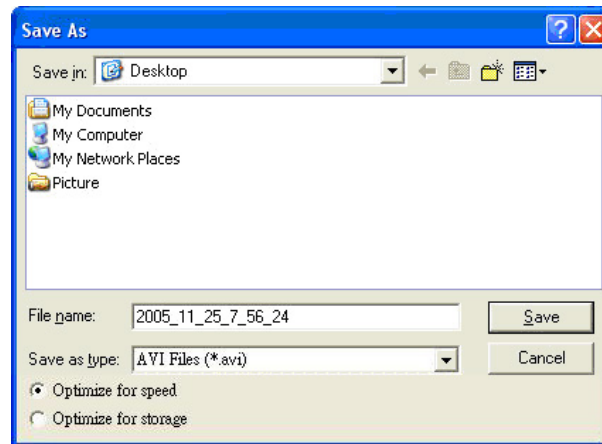
同梱ソフトウェアの iEnhance は、*.dvr ビデオファイルにのみ使用できるビデオ編集ツールです。ビデオの画質を調整し、ビデオ内の必要な部分を保存し、画像の拡大や縮小を行い、画面ショットを印刷したり保存することができます。また、設定を保存して、それを他のファイルに適用することもできます。

名称	機能
(1) ファイルを開く	*.dvr ビデオファイルにアクセスします。
(2) 画像の保存	*.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。
(3) 再生コントロールボタン	**開始**: ビデオファイルの最初まで戻ります。 **コマ戻し**: 以前のフレームに戻ります。 **一時停止**: ビデオファイルの再生を一時停止します。 **再生**: ビデオファイルを再生します。 **早送り**: ビデオファイルを高速で再生します。 **コマ送り**: 次のフレームに進みます。 **終わり**: ビデオファイルの最後に進みます。
(4) ビデオの保存	編集したビデオやセグメントに分割されたビデオを*. avi フォーマットで保存します。
(5) 印刷	画面ショットを印刷します。
(6) セグメント	ビデオ内の必要な部分の初めと終わりの部分にマークを付けます。スライダー上に三角マークが 2 個表示されます。セグメント分割をキャンセルするには、このボタンをもう一度クリックしてください。
(7) ズームボタン	画像を拡大縮小したり通常のサイズに戻します。
(8) フル画面	画面全体にビデオのみが表示されます。
(9) 初期設定	ビデオを元の状態に戻し、履歴ボックスにある変更点をすべて削除します。
(10) 履歴ボックス	行った操作がすべて列記されています。
(11) 元に戻す	最後に行った操作を元に戻します。
(12) 雑音低減	画質のソフトな部分を調整し、損傷した色を修復します。
(13) シャープネス	画像の端をシャープにして画像全体を改善します。これにより、画像に深みが出てきます。
(14) 効果	■ **グレースケール**: 画像を白黒(モノクロ)画面に変換します。 ■ **正規化**: 輝度を調整します。 ■ **イコライズ**: 暗すぎる画面を自動的に調整します。 ■ **インターレース除去**: フレームの重なりを滑らかにします。 ✓ **静止**: 動きのないシーンのインターレース解除です。 ✓ **ダイナミック**: 動きのあるシーンのインターレース解除です。

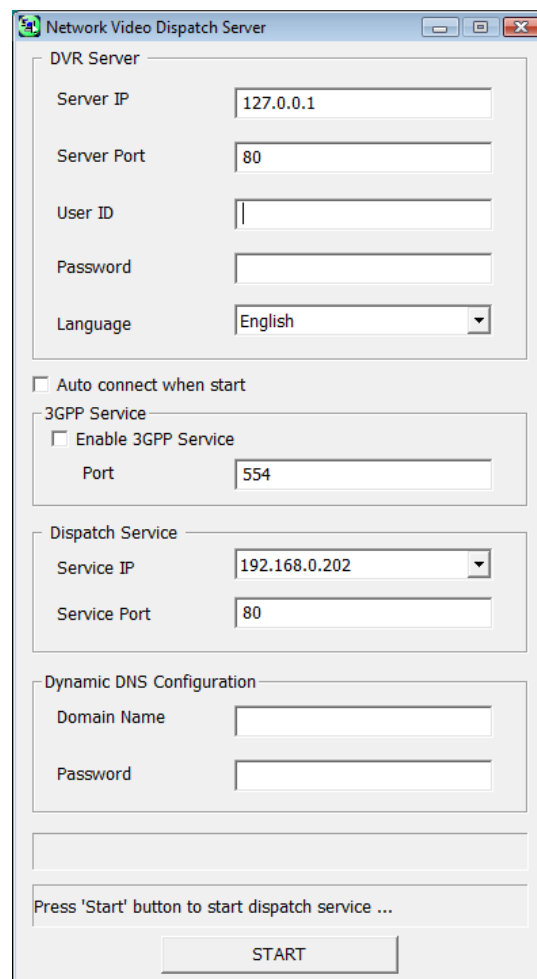
名称	機能
(15) 画質調整	明るさ、コントラスト、彩度、色合い、ガンマを調整します。
(16) 元の画面	画像の元の状態を表示します。
(17) 一時的設定ブロック	サンプル設定を表示します。サンプルをクリックして、現在のビデオに設定を適用します。
(18) 状態バー	ビデオの日付と時刻が表示されます。
(19) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(20) iStable	録画済みビデオのゆれを軽減します(第 7.1 章も参照)。
(21) 設定の追加	一時的設定ブロックに新しい設定を追加します。
(22) 名称変更	一時的設定ブロックで、選択した設定の名称を変更します。
(23) 削除	一時的設定ブロックで、選択した設定を永久に削除します。
(24) 設定のロード	保存した設定を呼び戻します。
(25) 設定の保存	一時的設定ブロックにある設定を保存します。

7.1 iStable を使用する

iStable は、録画済みビデオのゆれを軽減する機能を有しています。

1. **ファイルを開く**ボタンをクリックして、録画済みビデオを選択します。
2. 次に **iStable** ボタンをクリックします。
3. iStable ウィンドウが表示されます。
4. **滑らかさレベル**を選択します(1(低)、2、3、4、5(高))。初期設定値は 3 です。
5. **再生**ボタンをクリックします。すると、i-Stable 機能が録画済みビデオの初期化を開始します。
6. 初期化が終了すると、元のビデオと安定化されたビデオが、2 つのウィンドウで再生されます。

7. 映像再生時、映像の一部を選んで再生及び保存することが出来ます。再生コントロールボタンの使用或いは再生プロセスバーをドラグして、最初カット開始したい場所で一時停止します。**セグメント**をクリックして、最初のマークを設定します。そして、再生コントロールボタンの使用或いは再生プロセスバーをドラグして、最後カットしたい場所で一時停止します。**セグメント**をクリックして、最後のマークを設定します。セグメントをキャンセル或いはやり直したい場合、**セグメント**ボタンを再度クリックしてください。
8. **映像保存**(**Save Video**)ボタンをクリックして、映像のクリックを保存します。
9. 保存のダイアログボックスにファイルの保存場所を指定します。ファイルの名前を入力して、映像の圧縮モードを選択します－**スピード最適**(**Optimize for speed**)或いは**保存最適**(**Optimize for storage**)。

10. iEnhance インターフェースに戻すには、**iEnhance** ボタンをクリックしてください。

第8章　ウェブツール

同梱のウェブツールには、ディスパッチサーバーとリモートバックアッププログラムが含まれています。ウェブツールをインストールするには、CD-ROM ドライブに CD を入れ、**ウェブツールのインストール**をクリックして、画面に表示される指示に従ってください。

8.1　ディスパッチサーバー

ディスパッチは、DVR サーバーのトラフィックを低減するよう設計されています。クライアントは、ディスパッチプログラムを使用することにより、DVR サーバーに直接接続する代わりに、DVR サーバーに接続されているコンピューターに接続することができます。

ディスパッチプログラムを実行する:

1. インターネットに接続されていることを確認します。
2. **スタート>プログラム>DSS>ツール>ディスパッチ** の順にクリックします。
3. DVR サーバーセクションで、DVR サーバーIP、ポート番号、ユーザーID、パスワードを入力します。また、希望の言語で表示するように選択することもできます。
4. **起動時の自動接続**

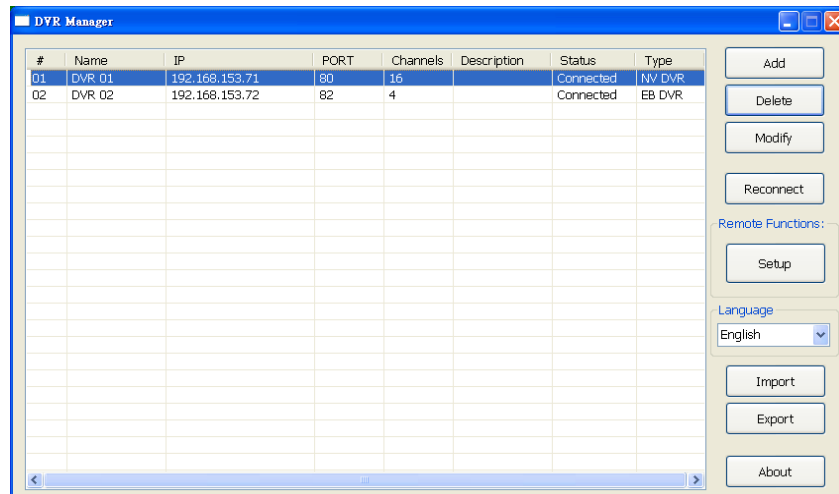
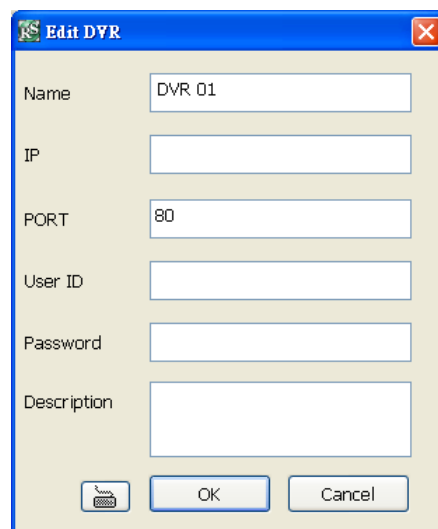
   起動時にディスパッチサーバーに自動的に接続することができます。
5. **3GPP サービス**

   ディスパッチサーバーからビデオストリームを受信して、3GPP サービスを使用します。サービスポートは必ず DVR で設定した3GPP のRTSP ポートのと同様にしてください。
6. 2 つ以上のネットワークカードがインストールされている場合、**ディスパッチサービス**のセクションで、サービス IP 番号を選択してください。
7. **ダイナミック DNS コンフィギュレーション**のセクションで、DNS サーバー名とパスワードを入力します。DNS サーバーは、DVR システムローディングを共用するためのリモートストレージサーバーにすることもできます。
8. **開始**をクリックして接続します。

8.2 リモート設定

リモート設定は、遠隔地から DVR サーバーのコンフィギュレーションするためのツールです。リモート設定アプリケーションをインストールするには、CD-ROM ドライブに CD を入れ、**ウェブツール**をクリックします。インストール後に をクリックすると、リモート設定アプリケーションが起動します。

8.2.1 DVR サーバーを追加する

リモート DVR サーバーを設定するには、DVR サーバーを追加して接続する必要があります。

1. **追加**をクリックします。
2. DVR の編集ウィンドウで、以下の各項目を記入します。:
   - **名前**: 管理しやすいように、リモート DVR サーバーに名前を付けてください。
   - **IP**: リモート DVR サーバーの IP アドレスを記入します。
   - **ポート**: リモート DVR サーバーへの接続に使用するポート。ポート番号は、リモート DVR サーバーの WebViewer ポートと同じです。初期設定値は 80 です。
   - **ユーザーID**: リモート DVR サーバーのログインアカウントを記入します。
   - **パスワード**: リモート DVR サーバーのログインパスワードを記入します。
   - **説明**: リモート DVR サーバーに関する短い説明文を記入します。

3. **OK** をクリックすると、リモート DVR サーバーの追加作業が完了します。
4. 追加した DVR サーバーが列記され、DVR サーバーに自動的に接続されます。
5. 接続が成功すると、DVR サーバーのコンフィギュレーションを開始することができます。
6. 接続が解除されたら、**再接続**をクリックしてもう一度接続してください。
7. 追加した DVR サーバーを変更したり削除する場合、リストから DVR サーバーを選択して、**変更**をクリックすると DVR サーバーを変更することができ、**削除**をクリックすると DVR サーバーを削除することができます。
8. **インポート**ボタンをクリックすると、設定をインポートすることができます。ローカルハードディスクに設定を保存するには、**エクスポート**ボタンをクリックします。

8.2.2　リモート DVR サーバーを設定する

リストから DVR サーバーを選択して**設定**をクリックすると、リモート DVR サーバーをコンフィギュレーションすることができます。

8.2.2.1　システム設定

システム設定ウィンドウで**更新**（**Update**）をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**（**Exit**）をクリックすると設定が保存されずに終了し、**初期設定**（**Default**）をクリックすると工場設定に戻ります。

(1)　次より前の録画データを削除

ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、**次より前の録画データを削除**のボックスにチェックを入れ、**日数**のテキストボックスに日数を入力します。

(2)　ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、**次より前の録画データを削除**のボックスにチェックを入れ、**日数**のテキストボックスに日数を入力します。

(3)　ビデオ形式

使用しているカメラビデオシステムに応じてビデオ形式を選択して変更してください。ビデオ形式の設定が間違っていると、画面が正しく表示されません。

(4)　アテンションプリーズ

システムの監視者がどの程度注意を払っているかを確認することができます。**1　日の回数**のテキストボックスで、1　日にアテンションダイアログボックスを表示させる回数を設定することができます。

この機能を作動させると、**アテンション**のダイアログボックスが表示されます。システムの監視者は、左のテキストボックスに表示されているのと同じ数字を右のボックスに記入して、**OK** をクリックしなければなりません。

Attention

Please enter the number what you see.

6　0　OK

(5) TV　出力

次のカメラに切り替わるまでの時間として、3～10 秒の時間のギャップを設定します。

(6)　ログイン

システムに自動的に実行させたいログインセクションの条件を可能にします。

- **ログイン時の自動録画**

  DVR　システムを実行したときに、自動的にビデオ録画を開始します。

- **ログイン時の自動ネットワーク起動**

  DVR　システムを実行したときに、自動的にネットワークに接続します。

- **コンパクトモードへのログイン**
  DVR システムを実行したときに、直接コンパクトモードに切り替わります。
- **ツールバーに隠す**
  DVR システムを実行したときに、最小化して自動的にツールバーに隠します。
- **ゲストモード**
  DVR システムを実行したときに、自動的にゲストモードにログインします。ゲストモードだと、使える機能はプレビューと再生のみです。

(7) その他

その他のセクションでは、システムにどんな状態を実行させたいかを選択することができます。

- **信号がない場合のビープ音**
  ビデオ信号が消失すると、警告音が出ます。
- **自動録画**
  DVR が動作中、ずっと録画をします。
- **オーバーレイ有効**
  ビデオの画質を改善するためにビデオ信号を強化します。
- **スクリーンセイバー**
  スクリーンセイバーモードに切り替わる時間を設定します。
- **オートスキャン時間**
  自動スキャン機能の時間的ギャップを、3 秒から 10 秒の間で設定します。設定した時間ギャップに応じて、自動的に次のビデオに順々に切り替わります。
- **再生モード**
  ビデオの再生モードを選択します。
  - ✓ **日付と時刻の選択**: 再生させたい日付と時刻を選択します。
  - ✓ **最後のファイルを再生**: 最後の 1 時間分のビデオを自動的に再生します。
  - ✓ **インスタント再生**: たった今録画したビデオを再生します。インスタント再生期間の設定は、**インスタント再生時間設定**(**Set Instant Playback's Play Time**)欄に時間(秒)を入力します。
- **日付フォーマット**
  日付と時刻の選択再生モードで表示させたい日付フォーマットを選択します。

(8) POS

■ **高度(Advanced)**

POS 装置から受信したデータをカメラスクリーンで表示します。POS テキストフロー、色と POS データベースのエクスポートを設定するには、**高度(Advanced)**をクリックしてください。

1. **POS テキスト表示（Show POS Text）**をマークして、スクリーンで POS データを表示します。
2. **POS テキストスクロール停止（Stop scroll POS Text）**をマークして、POS データのスクロールアップを停止します。**次より前の POS データ削除（Remove POS data after）**の欄に時間を入力して、POS テキストを削除します。
3. スクリーンでの POS データ表示位置を選択しますｰ 左上、左下、右上或いは右下。
4. **フォント（Font）**をクリックして、POS データのフォントとカラーを変更します。
5. **次より前の POS データ削除（Remove POS data after）**のチェックボックスをマークして、設定した日にちより前の POS データを HDD から削除します。

■ **iPOS Pro 設定**

マルチプルウィンドウズ（Multiple windows）を有効にして、マルチチャンネルでリアルタイムの iPOS データを見ます。ユーザーインターフェースにあるリアルタイム iPOS データのウィンドウ位置を保存するには、**ウィンドウ位置の保存（Save window Position）**にチェックを入れます。全チャンネルを選択したい場合、**全部（ALL）**のチェックボックスをマークしてください。

(9) UPS（無停電電源装置）

電源サージや電圧低下などからシステムを保護します。これによって、バッテリー容量がパーセントレベル設定以下になってバッテリーバックアップ電源がシャットダウンに達すると、自動的に DVR システムを適切な方法で終了する程度の時間が与えられます。

8.2.2.2　　カメラ設定

■　アナログカメラ

リモート DVR サーバーからカメラを選択して設定を変更します。カメラ設定ウィンドウで、**更新**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定 1**/ **初期設定 2** をクリックすると元の工場出荷時の設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

ビデオ設定を調整したいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**全部**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを右クリックします。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを左クリックします。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 有効

選択したカメラの起動または解除を設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除することをお勧めします。

(3) カメラ

- **表示**

  ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、ビデオを録画して、再生モードでプレビューすることができます。

- **名前**

  カメラの名前を変更します。

- **説明**

  短いコメントを追加します。

(4) 画質調整

選択されたカメラの明るさ、コントラスト、彩度、色合いを調整します。

(5) ノイズリダクション

不要なビデオ信号部分を低減して、画質を向上させます。

 ノイズリダクションでは、多くの CPU リソースを使用するため、本当に必要な場合にのみ使用してください。

(6) 明るさの自動調整

明るさを自動的に調整します。

(7) 夜間撮影

特に撮影現場が暗いときに露出を自動的に調整することで、画像が見やすくなります。この機能は、**明るさの自動調整が作動しているときにのみ**、起動することができます。

(8) インターレース除去有効

インターレース除去有効を実行すると画質が向上します。動きがない画面が多い場合には、**インターレース除去有効**モード#1 に設定し、動きの画面が多い場合には、**インターレース除去有効**モード#2 に設定してください。

■ IP カメラ

リモート DVR サーバーからカメラを選択して設定を変更します。カメラ設定ウィンドウで、**更新**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定 1/ 初期設定 2** をクリックすると元の工場出荷時の設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

ビデオ設定を調整したいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**全部**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを右クリックします。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを左クリックします。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 有効

選択したカメラの起動または解除を設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除することをお勧めします。

(3) カメラ

- **表示**
  ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、ビデオを録画して、再生モードでプレビューすることができます。
- **名前**
  カメラの名前を変更します。
- **説明**
  短いコメントを追加します。

(4) インターレース除去有効

インターレース除去有効を実行すると画質が向上します。動きがない画面が多い場合には、**インターレース除去有効**モード#1 に設定し、動きの画面が多い場合には、**インターレース除去有効**モード#2 に設定してください。

8.2.2.3　　録画設定

■　アナログカメラ

録画設定ダイアログボックスで、**終了**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

録画設定を行いたいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを**右クリック**します。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを**左クリック**します。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 録画モード

00 から 23 までのブロックは、24 時間時計の各時間を表しています。24 時間全てを録画するには、録画モードを選択して⦿ボタンをクリックします。特定の時間のみを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- **常時録画**
  選択されたカメラからビデオを録画して、指定の保存パスに保存します。
- **動作検知録画**
  システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。動きを検知すると、システムは自動的に以前のフレームを保存して、**録画開始時刻**と**録画終了時刻**の各設定を元に停止します。
- **スマート録画**
  動きを検知すると自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと最小フレームレート設定で録画されます。(6) フレームレート のセクションで、最大および最小フレームレートを設定してください。

- **録画しない**
  システムは録画を行いません。
- **キーフレームレコーディング**
  毎秒 1 つのフレームのみをレコーディングします。

(3) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。

(4) 音声検知

音声検知の感度を調整します。

(5) 画質

ビデオの画質を調整します。この値が高いほど圧縮レベルが低くなり、ハードディスクの使用スペースが増加します。

(6) フレームレート

動きがある場合と動きがない場合の録画における最大および最小フレームレートを設定します。フレームレートは、NTSC では 1 から 30 まで、PAL では 1 から 25 まで設定できます。フレームレートが多いほど、ハードディスクの使用スペースが増加します。

(7) ビデオサイズ

ビデオサイズを選択して⦿ボタンをクリックします。サイズが大きいほど、大きいファイルが作成されます。

(8) 圧縮タイプ

H.264は最新とアドバンスド映像圧縮フォーマットです。H.264に圧縮することで、よりいい画質と小さいファイルサイズを提供できますが、CPU のリソースが多く使われます。アドバンスド MPEG4 はカラーピクチャー向けの標準圧縮レートを提供できます。

■ IP カメラ

録画設定ダイアログボックスで、**終了**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

(1) カメラアイコン

録画設定を行いたいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを**右クリック**します。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを**左クリック**します。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 録画モード

00 から 23 までのブロックは、24 時間時計の各時間を表しています。24 時間全てを録画するには、録画モードを選択して⦿ボタンをクリックします。特定の時間のみを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、

時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- **常時録画**
  選択されたカメラからビデオを録画して、指定の保存パスに保存します。
- **動作検知録画**
  システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。動きを検知すると、システムは自動的に以前のフレームを保存して、**録画開始時刻と録画終了時刻**の各設定を元に停止します。
- **スマート録画**
  動きを検知すると自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと最小フレームレート設定で録画されます。
- **録画しない**
  システムは録画を行いません。
- **キーフレームレコーディング**
  毎秒 1 つのフレームのみをレコーディングします。

(3) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。

8.2.2.4 ネットワーク設定

ネットワーク設定ダイアログボックスで、更新（Update）をクリックすると新しい設定が保存され、終了（Exit）をクリックすると保存せずに終了し、初期設定（Default）をクリックすると元の工場設定に戻ります。DVR サーバーで使用されるネットワークサービスポートについては 付録 B を参照してください。

(1) サーバー名

DVR ユニットに名前を割り当てます。英文字と数字のみが使用できます。

(2) 送信するカメラ

送信するカメラのセクションで、ウェブビューアー、遠隔コンソール、PDA ビューアー、ハンディビューアー（静止画像）を使用してインターネットを介してアクセスさせたいカメラの番号を選択してクリックします。全部のカメラを選択するには、**すべて**のボックスにチェックを入れます。

(3) ダイナミック DNS

ドメイン名とパスワードを入力します。この機能を使用するには、http://ddns.avers.com.tw にアクセスして登録する必要があります(付録 A も参照)。CD キー番号、製品名、パスワード、ユーザー情報を入力します。インターネットに接続する度に IP アドレスが変更される場合、このサービスを利用します。

(4) 遠隔コントロールサーバー

遠隔アプリケーション（例えば CMS）より遠隔コントロール機能をオン/オフします。遠隔アクセスポートをポート欄に入力します。

(5) ネットワークビデオ設定

リモートプログラムに送信したり、ビデオを見る際の、ビデオ画質とフレームレートを設定します。調整バーをスクロールして、**画質レベルとフレームレートレベル**を設定します。

(6) ウェブビューアーポート

パスワードなしで DVR サーバーにリモートアクセスするには、**匿名ログイン作動**を起動させます。ウェブポートの初期設定値は 80 です。

(7) ボイスフォーン

ボイスフォーンは、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる双方向トーク機能です。この機能を起動する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認してください。**ウェブクライアントと会話する**チェックボックスを解除すると、ウェブビューアー双方向トークボタンを押したときに、DVR サーバー側にいる人のみがクライアント側の人の声を聞くことしかできません(第 6.1 章 #6 を参照)。ボイスフォーンの初期設定ポートは 9999 です。

(8) ネットワーク時間同期化

DVR システム時間をネットワーク時間サーバーと同じになるように調整します。**時間サーバー**の IP アドレスかドメイン名を記入

してください。時間の**自動同期化**を選択すると、毎日、自動的に時間が同期化されるように設定されます。

(9) その他のコンフィギュレーション

- **オリジナルセキュリティプロトコル有効(Enable Original Security Protocol)**
  DVR システムの新しいバージョンでも昔の遠隔ソフトバージョンをサポートできるようにします。例えば、CMS バージョン 7.1 を使って、バージョン 7.3 の DVR システムへ接続する場合、この項目を有効にする必要があります。DVR システムの新しいバージョン 7.3 とそれより新しいものでは、新しいセキュリティプロトコルが使用されて、古い遠隔ソフトが対応できません。
- **ホワイトリスト有効**
  DVR サーバーがリモートアクセスできるようにするためのアクセス許可リストです。IP アドレスを入力して**追加**をクリックします。もしくは、IP アドレスの範囲を入力して**追加**をクリックします。リストから IP を削除するには、IP を選択して**削除**ボタンをクリックします。入力をリセットするには、**クリア**ボタンをクリックします。

- **ハンディービューを有効にします**
  PDA または携帯電話を使って DVR サーバーにアクセスしたり、ビデオサイズや画質を選択できるようにする機能です(第 6.5 章および 6.6 章も参照)。

- **ネットワーク回線容量限度**
  - ✓ **チャンネルごと**: 各チャンネルごとのネットワークバンド幅を設定します。
  - ✓ **全部**: ネットワークバンド幅のトータル使用上限を設定します。

8.2.2.5　スケジュール設定

全部のカメラについて、1 週間単位または単発的に、録画やバックアップやネットワークの起動や再起動やアラームの解除のスケジュールを立てることができます。00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。一番左の欄には、1 週間分の日が表示されます。

スケジュールの設定方法

7.　カレンダーで日付を選択します。 と のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます。

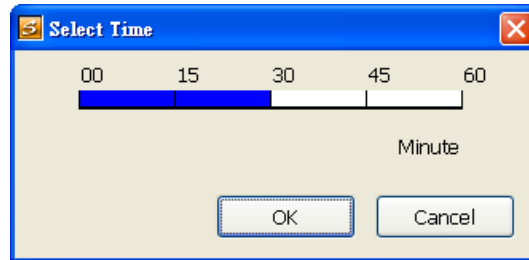
8.　ドロップダウンリストから、スケジュールに組み込みたい条件を選択します。

- **録画**
  録画設定に基づいて、全カメラで、設定時刻にビデオ録画を開始させます（第 4.3 章も参照）。
- **バックアップ**
  設定時刻に、指定のバックアップパスに全データの別コピーを保存します。DVR は、まだアーカイブに含まれていないデータのみを自動的に更新してバックアップします。バックアップパスを割り当てるには、をクリックします。
  - ✓ **ミラーバックアップ（Mirror Backup）**：HDD に保存した全てのデータを指定した時刻からバックアップ先へコピーします。
  - ✓ **増加分バックアップ（Incremental Backup）**：前回バックアップしてアーカイブにないデータのみをバックアップします。

　バックアップフォルダと保存フォルダが同じドライブ内にないことを確認してください。

- **ネットワークの起動**
  設定時刻に、DVR リモートシステムがアクセスできるように起動します。指定時刻以降は、ネットワーク機能は解除されます。ネットワーク機能が既に起動されている場合、指定時間が終了しても、ネットワーク機能は解除されません。
- **再起動**
  指定時刻にコンピューターを再起動します。
- **アラームの解除**
  設定時刻に、アラームを一時的に解除させます。

- **起動するリレーの番号**
  設定時刻にリレーを起動させせます。リレーが接続されていない場合、「起動するリレーの番号」機能はドロップダウンリストに表示されません。リレー番号は、何個のリレーが接続されているかによって異なります。

9. 1 週間単位か単発的かを指定します。⦿ボタンをクリックして選択を行います。
10. 色の付いたブロックを**右クリック**します。 時間選択ダイアログボックスでクリックして、設定したい部分を起動または解除します。 OK をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

11. もしくは**すべて**をクリックして全ブロックを選択します。設定を保存するには、保存をクリックします。設定を解除するにはクリアをクリックします。
12. スケジュールの設定を終了するには、**OK** をクリックすると設定が保存され、終了します。キャンセルをクリックすると、設定を保存しないで終了します。
13. もしくは**すべて**をクリックして全ブロックを選択します。設定を保存するには、保存をクリックします。設定を解除するにはクリアをクリックします。
14. スケジュールの設定を終了するには、**OK** をクリックすると設定が保存され、終了します。キャンセルをクリックすると、設定を保存しないで終了します。

8.2.2.6　アラーム設定

アラームの設定ダイアログボックスでは、**追加**をクリックすると新しいアラーム設定が挿入されて設定され、**削除**をクリックすると選択したアラーム設定が削除され、OK をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると選択したアラーム設定が保存されずに終了され、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

アラームを設定する:

1. **追加**をクリックして、新しいアラーム設定を挿入して設定します。このアラーム設定を変更したい場合には、（7）**アラーム設定リスト**で項目をクリックしてください。
2. （1）**アラーム設定番号/名称/説明**では、下のリストに、選択されたアラームの設定番号の項目が表示されます。アラームの名称と説明を記入してください。
3. （2）**起動時刻**では、00 から 23 までの数字は 24 時間時計の各時間を表しています。 時刻を選択して、アラーム機能を起動または解除したいブロックをクリックしてください。解除されると、ブロックの色が白になります。

4. （3）**条件**では、「**1 つの条件を満たす**」を設定すると、条件のどれかが満たされたときにアラームを起動させることができ、「**全ての条件を満たす**」を設定すると、条件がすべて満たされたときにアラームを起動させることができます。
   - カメラセクションでは、**動作検知**や**ビデオ信号消失**でカメラ番号(01 から 32)を選択してクリックすると、システムがアラームを起動させる条件を設定することができます。
   - **行方不明と怪しい物体・シーン**では、カメラ番号(01 から 32)を選択してクリックし、画面上の特定の物体を選択(カメラ番号を右クリックして詳細設定する)しておくと、その特定の物体が消失したり疑わしい物体である場合、システムがアラームします(第 4.9.11 章を参照)。**シーンチェンジ（Scene Change）**では、カメラが動いた場合、システムがアラームします。
   - **音声検知**で、カメラ番号(01 から 32)をクリックすると、異常な音声を検出したときにシステムがアラームします。
5. （4）**センサー**では、センサー番号を選択してクリックして(◀と▶を使用してセンサーを選択する)、システムがアラームする条

件を設定します。センサーの通常の状態が高(High)である場合、センサー状態を低(Low)に設定してください。

- **連続トリガー期間(Continue trigger duration)**:センサーをトリガーして、設定した期間中で同じ状態であった場合、アラームを発します。
- **異常イベント**: 起動或いは解除して、システムがアラームを発する条件を設定します。

- ✓ **再起動**: 異常な状況なしで DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
- ✓ **異常再起動**: 異常な状況下で DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
- ✓ **録画停止**: 録画が停止した場合に、システムは警告メッセージを送信します。
- ✓ **ネットワーク停止**: DVR システムのネットワーク接続が切れた場合、システムが警告メッセージを送信します。
- ✓ **ハードディスクエラー**: ハードディスクが正常に動作しない場合、システムが警告メッセージを送信します。

- **POS キーワード**:チェックボックスにマークを入れると、POS からのデータがキーワードとマッチするか否かがスキャンされます(第 4.9.10 章を参照)。

- **アラームメッセージ**:チェックボックスにマークを入れると、ユーザー自身のプログラムで外部アラームメッセージを起動させることができます。コンフィギュレーションの詳細については、最寄りの販売店にお問い合わせください。
- **アラームボタン**:チェックボックスにマークを入れると、手動アラーム機能を起動させることができます。手動アラーム機能のアラームメッセージを設定するには、アラームボタンをクリックしてアラームボタン番号を選択し、アラームボタンの説明を記入してください。

6. **(5) アラームリセット**でカメラ番号(◀ と ▶ を使いアラームを選択)をクリックして、アラームのリセット条件を設定します。アラームがリセットされると、その時点でアラーム動作が停止します。センサーの通常の状態が高(High)である場合、センサー状態を低(Low)にしておいてください。
   - **アラームリセット時間**: アラームが自動リセットする時間を設定します。例えば動作検知とビデオロスによってアラームが発生しますが、アラームリセット時間になったらアラームがリセットされます。
7. **(6)動作**では、アラーム条件が起動したときにシステムが実行するアラーム動作を設定することができます。
   - **E マップの起動**
     ミニ E マップ画面を表示します。
   - **TV 出力**
     アラームが起動した時点以降のビデオのみを TV に切り替え表示します。
     ✓ **読出し時間**: システムが自動的に TV 上の元の表示モードに切替わるまでの待ち時間を設定します。 読出し時間がチェックされていない場合、ユーザが手動で通常表示モードに切替えるまでアラームビデオが表示され続けます。

   - **カメラ画面をポップアップ**
     アラームが起動した時点以降で、プレビュー/高度(Advanced)モードのビデオのみを表示するよう切り替えします。
     ✓ **読出し時間**: システムが元のプレビューモードに切替わるまでの待ち時間を設定します。 読出し時間がチェックされていない場合、ユーザが手動でプレビューモードに切替えるまで、アラームビデオが拡大表示され続けます。

   - **E メール送信**
     電子テキストメッセージを送信します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(E メール送信設定を参照)。
   - **FTP に転送**
     FTP (ファイル転送プロトコル)を介してリモートコンピューターにファイルをアップロードします。設定するには、**詳細**をクリックしてください(FTP 設定を参照)。

- **録画開始**
  選択されたカメラからビデオを録画します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(アラーム設定を参照)。
- **アラーム SOP(標準操作手順)**
  アラームが起動した際の対応手順に関する指示を列記します。設定するには、**詳細**をクリックしてください(アラーム SOP 設定を参照)。
- **CMS(中央管理システム)へ送信**
- アラームが起動した際に、選択されたカメラを、CMS にビデオを送信させるよう、起動または解除させます(CMS に関する設定を参照)。

E メール送信を設定する

E メール送信チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。E メール設定ダイアログボックスで、**OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

(1) メールサーバー

SMTP サーバーとポートを入力します。E メールシステムがユーザーID を必要とする場合、**認証**チェックボックスにマークを入れてユーザーID とパスワードを入力します。

(2) メール

動作可能かどうかを確認するには、**テストアカウントボタン**をクリックします。
送信元: 送信者の E メールアドレスを入力します。
受信者と CC: 受信者の E メールアドレスを入力します。複数の場合は、カンマまたはセミコロン(;)で区切ります。
件名: メッセージの件名を入力します。
メッセージ: メッセージの内容をタイプします。

(3) E メール通知設定

- **通知間隔**: 別の E メール通知を送信するまでの時間間隔を設定します。
- **画像添付**: 画像のサイズを選択し、フレーム数を設定します。
- **センサーが起動したときに画像を添付**:センサーが作動すると、システムは画像をキャプチャーして、アラームメッセージと一緒に、指定の E メールアドレスに送信します。

(4) モデムダイアルアップ設定

自動接続解除までの時間チェックボックスにマークを入れて、時間を設定すると、自動的に接続解除する時間を設定することができます。

FTP に関する設定

1. FTP に転送チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. FTP 設定ダイアログボックスに、FTP IP、ポート、ユーザーID、パスワードを入力します。
3. **画像数**テキストボックスに、ファイル転送中に送信したいシーケンスイメージ数を入力します。 転送可能な画像の最大数は 16 です。
4. **センサートリガ時のアップロードイメージ**中で、センサーのトリガ時にイメージをキャプチャして送信するカメラを選択します。
5. OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

アラーム録画を設定する

1. 録画開始チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. アラーム録画設定ダイアログボックスで、ビデオ録画を作動/解除するカメラを選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。
3. フレームレート選択で、**設定通り**を選択すると、録画設定に基づくフレーム枚数を録画し、**最大**を選択すると、利用可能な速度に基づく最大フレーム枚数を録画します。
4. **アラーム開始前の録画**(Start Recording prior)のテキストボックスにマークを入れて、アラーム発する前のプレレコーディング時間を秒単位で入力して、プレレコーディングをします。時間の設定範囲は 1～10 秒です。
5. **アラーム終了後の録画停止**(Stop Recording after)のテキストボックスにマークを入れて、アラーム終了後の継続録画時間を秒単位で入力して、録画を継続させます。時間の設定範囲は 1～600秒です。チェックボックスにマークを入れなくて、時間も設定しない場合、アラームがリセットするまで録画が続きます。
6. OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

アラーム SOP を設定する

アラーム SOP チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。ステップテキストボックスに、アラーム作動時の標準プロトコルをタイプします。アラームが作動すると標準作業手順ダイアログボックスが表示されます。**次へ**をクリックすると次の指示が表示され、**戻る**をクリックすると前の指示に戻り、**終了**をクリックすると終了し、**中断**をクリックすると手順が中断されます。

CMS を設定する

「CMS へ送信」チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。**OK** をクリックして、新しい設定を保存します。**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

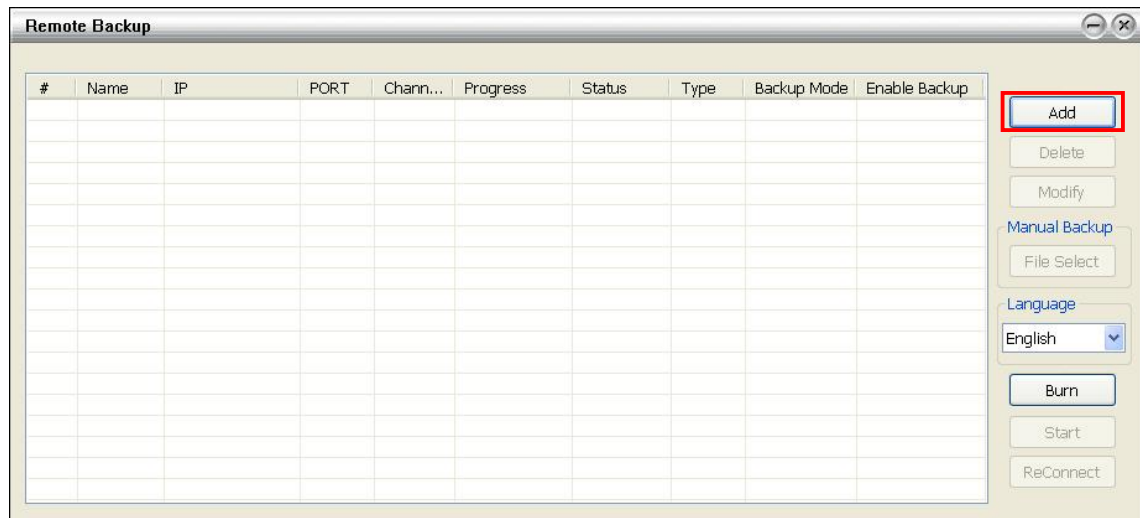
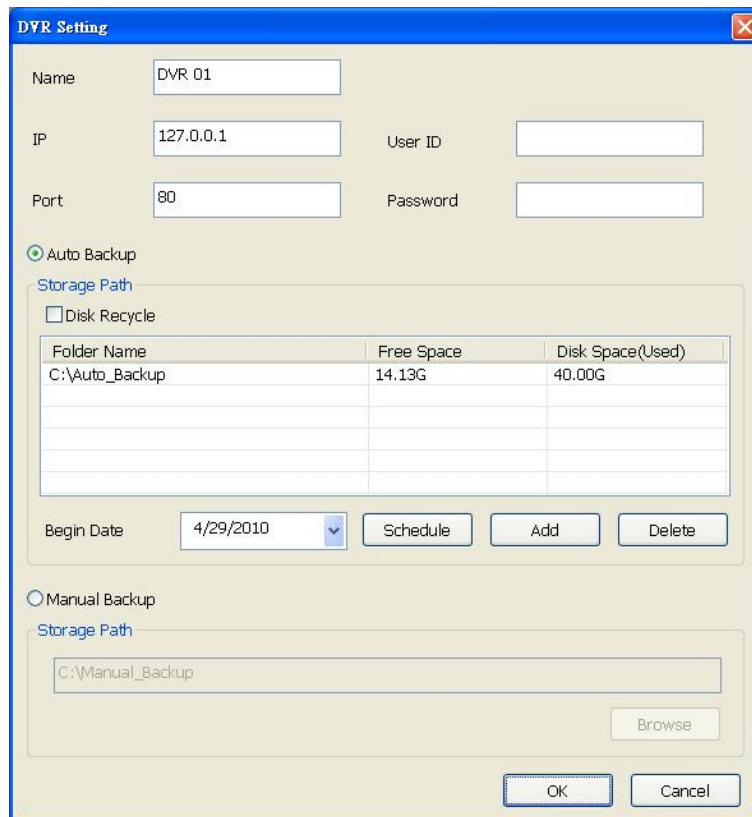
- **CMS**: CM3000 へ映像送信するカメラを選択します。
- **マトリックス（Matrix）**：カメラを選択して、CM3000へアラームイベントの映像を送信します。DVR サーバーからのアラームイベントを受信できるようにするため、CM3000 の方ではマトリックスチャンネルを設定する必要があります（詳細は CM3000 のマニュアルを御参照）。

8.3　リモートバックアップ

リモートバックアップは、DVR サーバーから*.dvr ファイルをバックアップするためにのみ使用されます。自動バックアップと手動バックアップのどちらか一方を選択することができます。自動バックアップでは、ある特定の日以降に、一度に 1 時間分の記録データを継続的にバックアップします。手動バックアップでは、選択した日に記録されたデータのみをバックアップします。

データをバックアップするには、少なくとも 2GB のハードディスク空きスペースを必要とします。

DVR サーバーから、記録データをバックアップする:

1. インターネットに接続されていることを確認します。
2. **スタート>>プログラム>>DSS>>ツール>>リモートバックアップ** の順にクリックします。
3. DVR サーバーを追加するには、**追加**をクリックします。

4. 「新しい DVR を追加」ウィンドウで、名前、IP、ユーザーID、パスワードを入力します。

5. バックアップモードを選択します。:

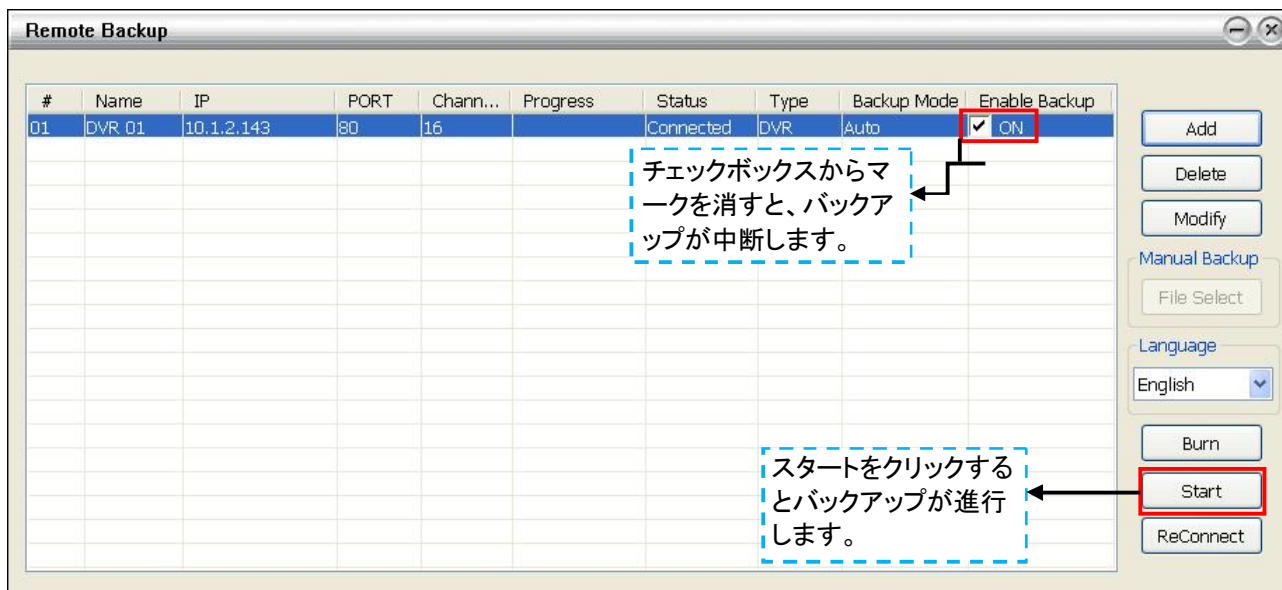
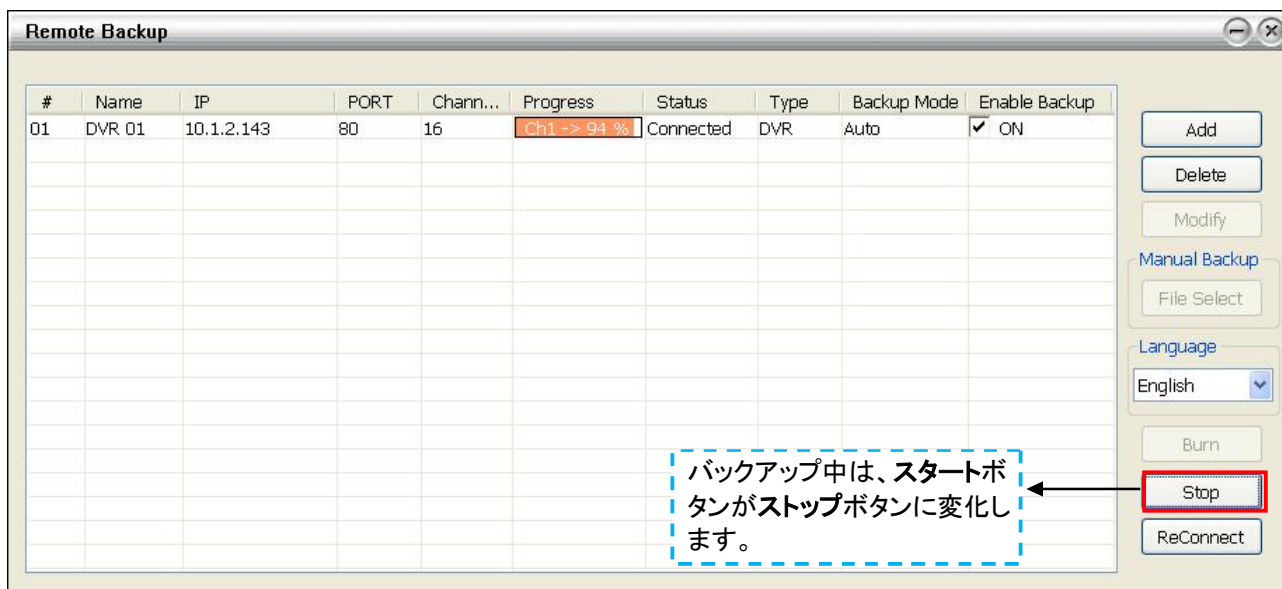
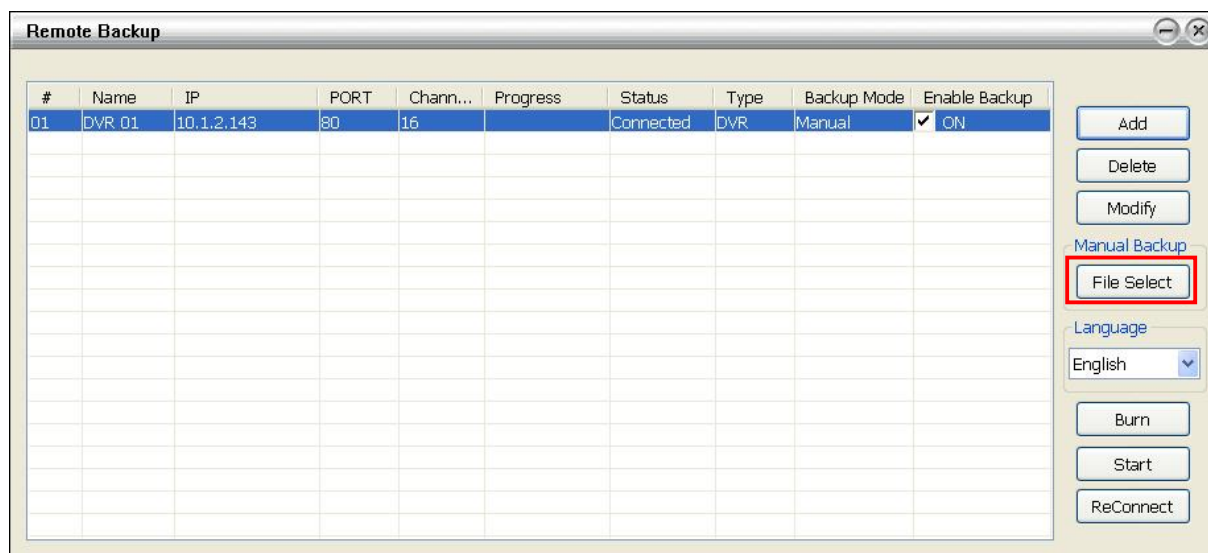
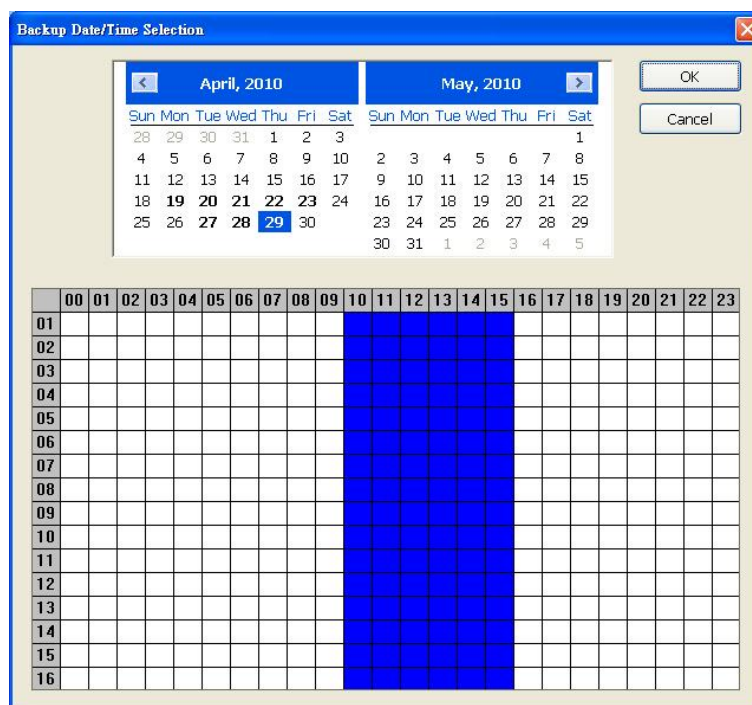
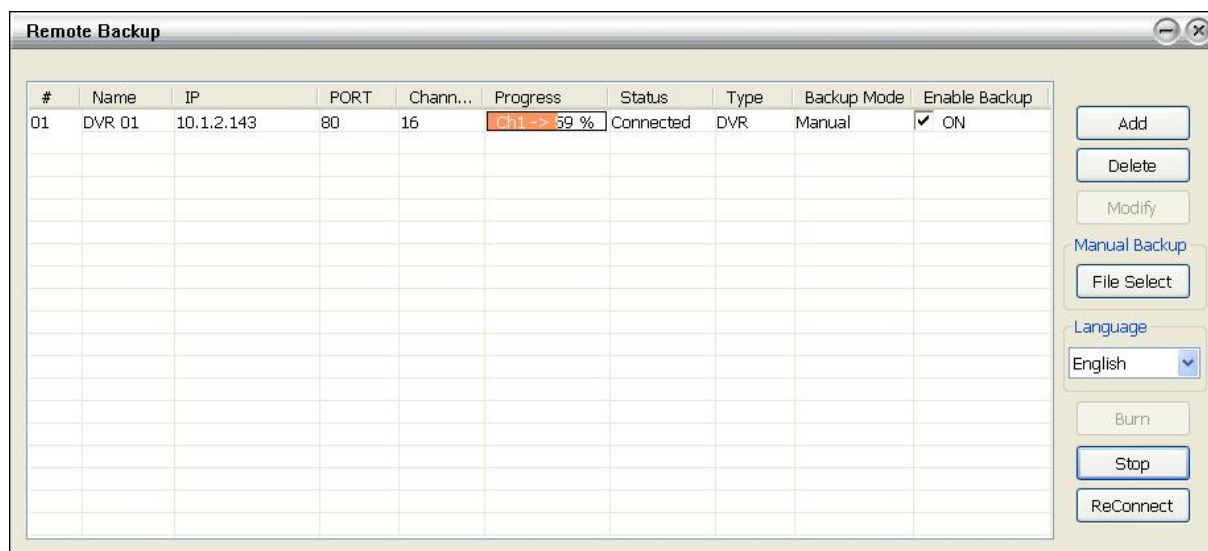
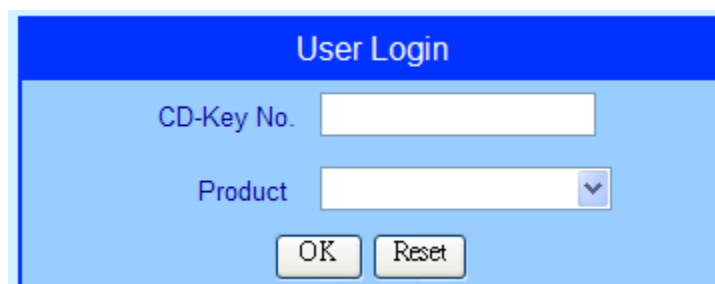
■ **自動バックアップモード:** 設定が完了すると、バックアップが自動的に実行されます。

- 開始日ドロップダウンカレンダーで、開始日を選択します。
- **追加**をクリックすると、保存パスが設定されます。

- **削除**をクリックすると、選択した保存パスが削除されます。
- **スケジュール**をクリックして、バックアップしたい時刻を選択または選択を解除してください。解除されると、赤いブロックが白くなります。
- **ディスクリサイクル**起動/解除のボックスにチェックを入れると、ファイルのバックアップに十分なスペースがないときに、自動的に一番古いデータが上書きされます。

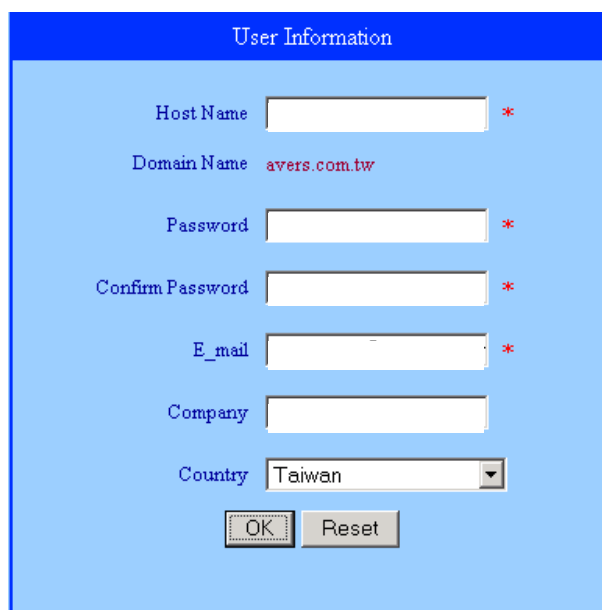
■ **手動バックアップモード**: バックアップボタンを押すと、バックアップ作業が開始されます。

- ファイルの選択をクリックして、日付、時刻、バックアップ用カメラを選択します。
- **ブラウズ**をクリックして、保存パスを設定します。

6. **OK** をクリックすると、DVR サーバーの追加作業が完了します。追加された DVR は、リモートバックアップのメインウィンドウに表示されます。

7. **開始**をクリックするとバックアップが開始され、**停止**をクリックするとバックアップが停止します。

8. 手動バックアップの場合、**ファイルの選択**ボタンをクリックして、バックアップしたい DVR を選択してください。

9. 次に、ユーザがバックアップしたい日付と時間を選択します。

10.リモートバックアップウィンドウで、**開始**ボタンをクリックしてバックアップします。

11.ユーザがバックファイルを DVD ディスクに焼きたい場合、**焼く**ボタンをクリックし、焼くファイルを選択します。

Appendix A　　ドメイン名の登録

DDNS（ダイナミックドメイン名サービス）は、主に、インターネット上でドメイン名をインターネットアドレスに翻訳するために使用されるデータクエリサービスです。これによって、リモートクライアントは、以前にサーバーのインターネットアドレスを検索したことがなくても、ダイナミックサーバーをインテリジェントに検索することができます。

このインテリジェントサービスを活用するには、まず、http://ddns.avers.com.tw にドメイン名を登録する必要があります。

1. **ユーザーログイン**

   Microsoft IE または Netscape Navigator で ddns.avers.com.tw をブラウズして、次のダイアログボックスにアクセスします。.

- まず CD キー番号(製造番号)を入力し、製品名を選択します。
- 次に OK をクリックしてログインするか、**リセット**をクリックして入力項目をクリアします。

2. **ユーザー情報**

   ホスト名(他のユーザーが既に使用していない限り、どんな名前でもかまいません)、**パスワード**、**E メール**、**会社名**、**国名**の各ユーザー情報を入力します。OK をクリックすればドメイン名の登録が完了します。

リモートクライアントがダイナミックサーバーを検索している間は、ホスト名とドメイン名(AVerMedia.avers.com.tw)が、インターネットアドレスの代替となることに注意してください。

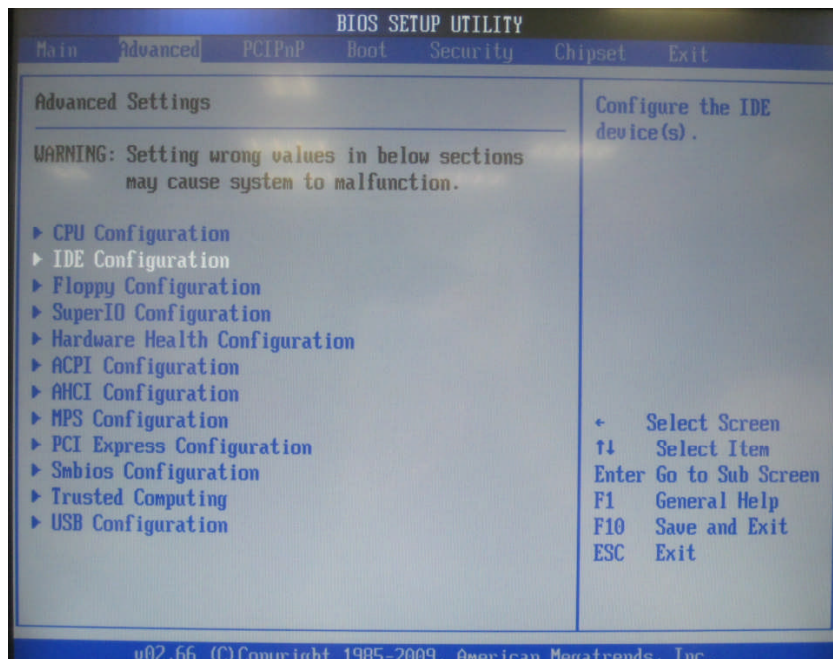
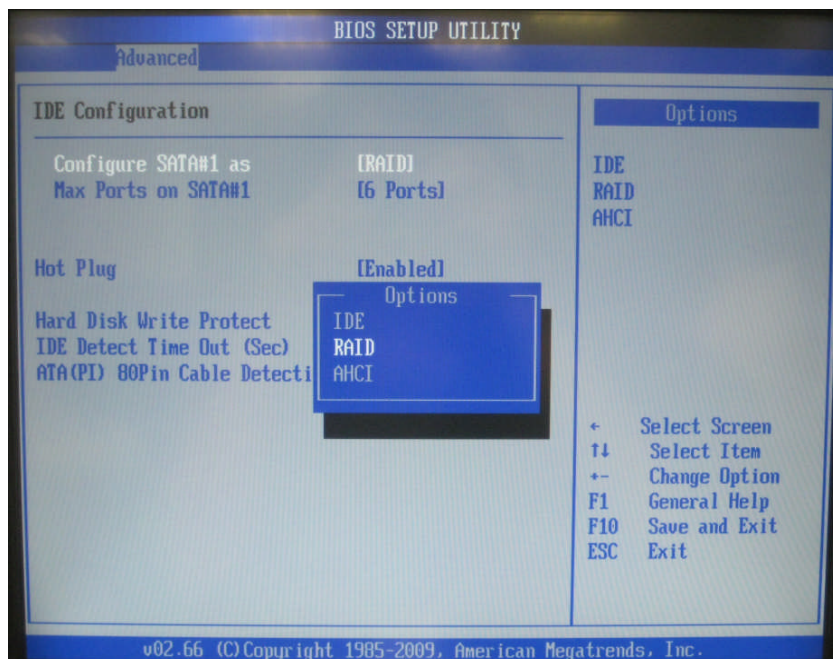
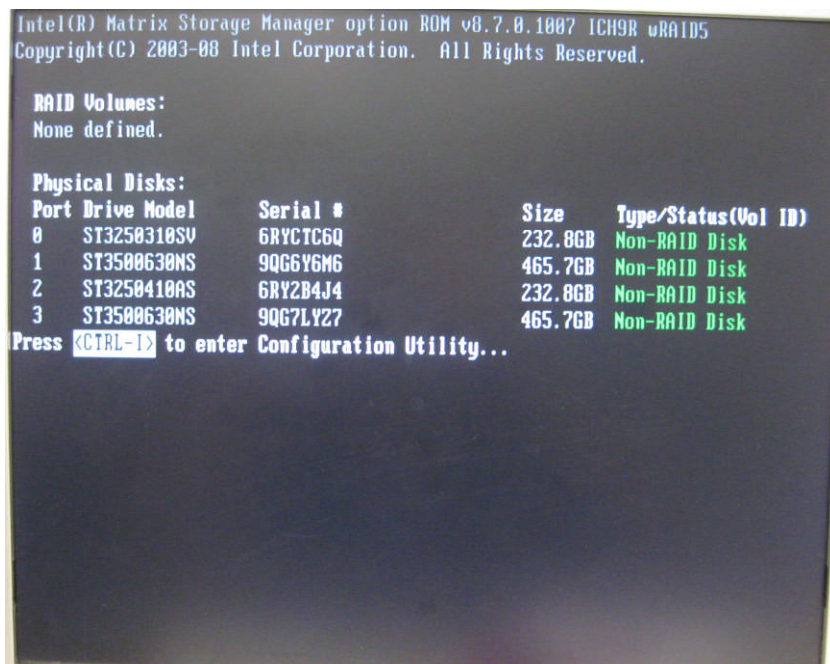
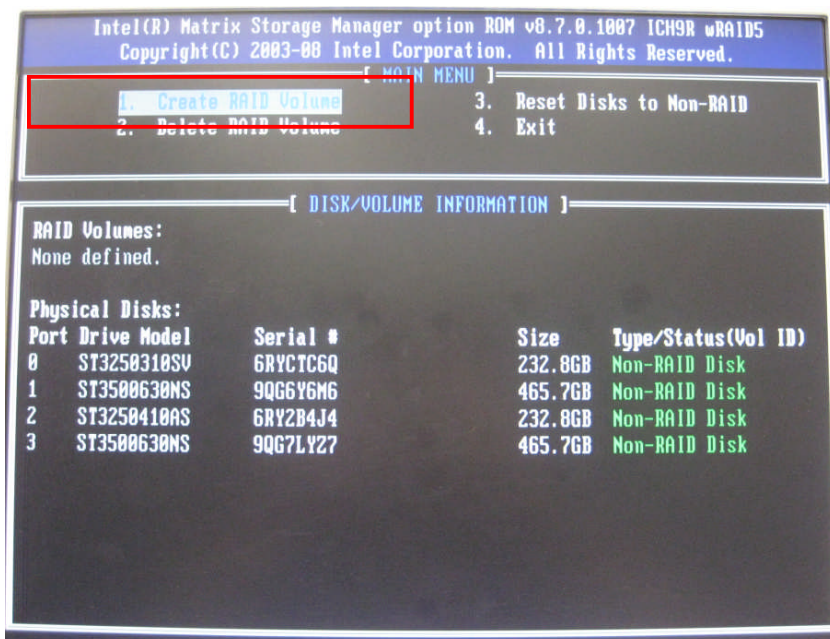
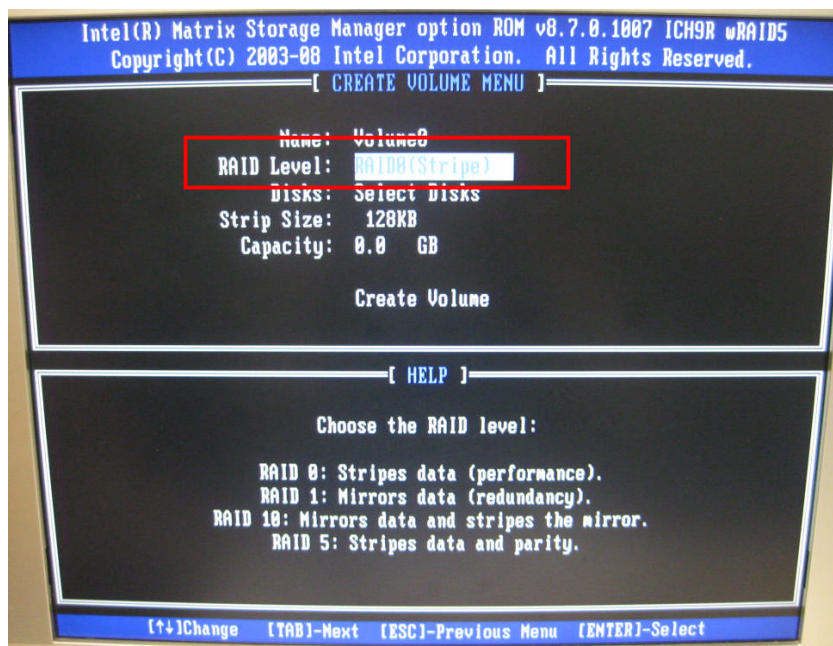
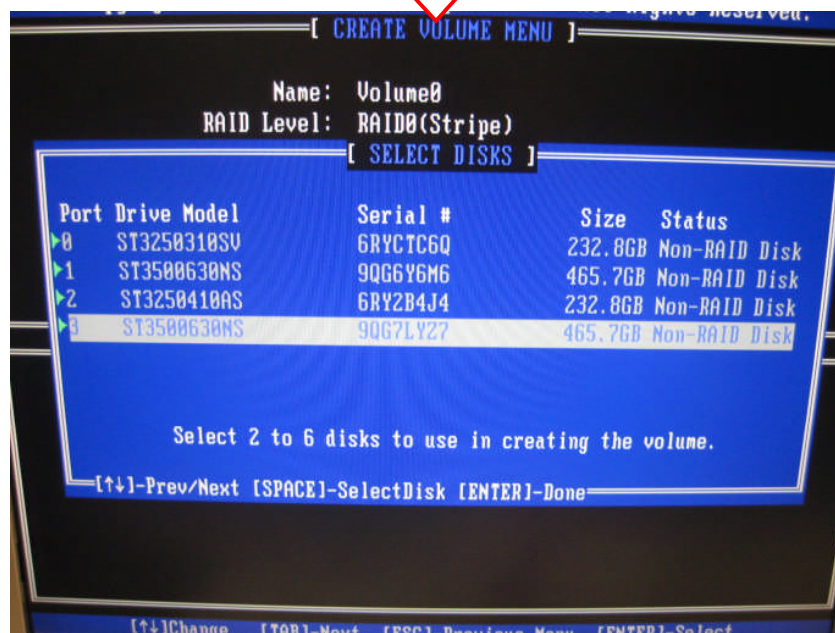
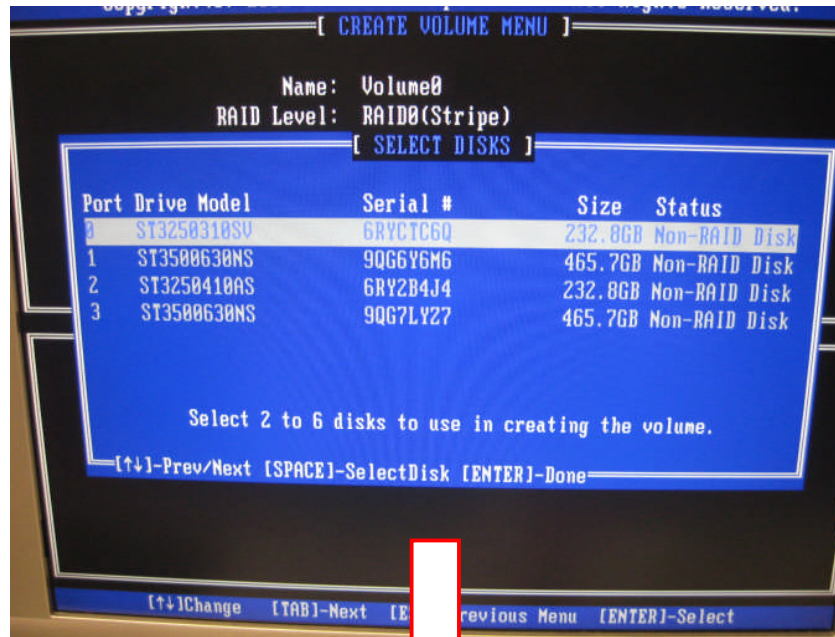
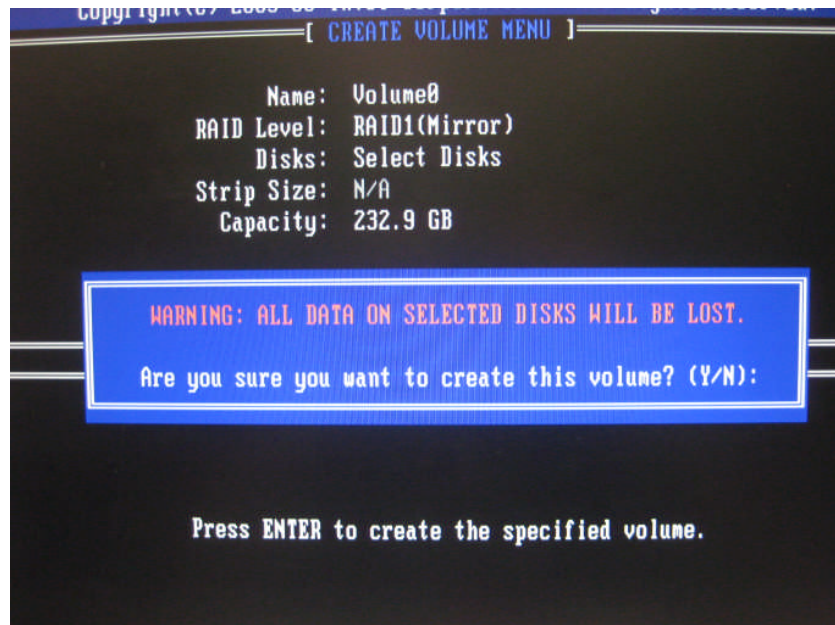
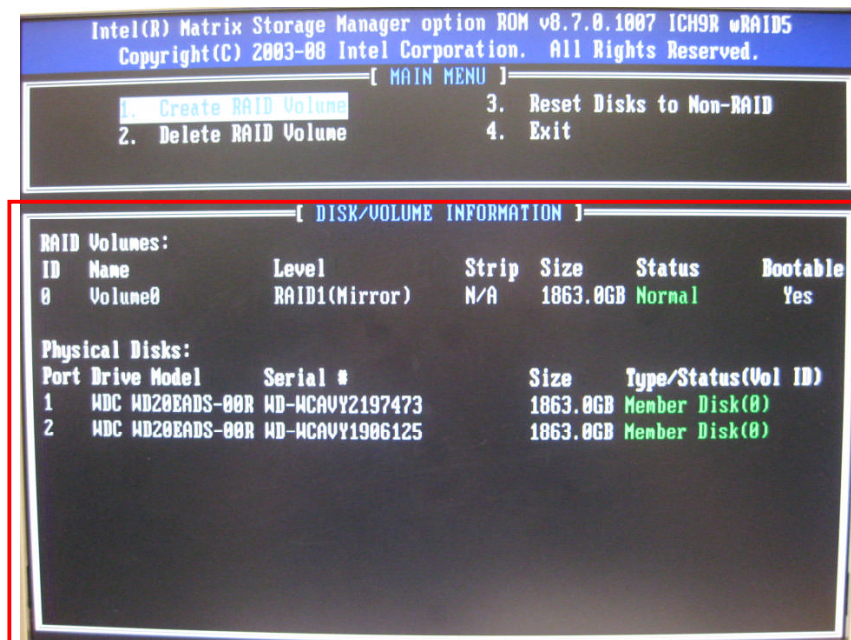
Appendix B　ネットワークサービスポート

下表は、DVR サーバーが各ネットワークサービスのために使用するポートを示しています。

	ポート ナンバー	変更可能
遠隔コンソール（CM 3000）	5550	Yes
ウェブビューアー	80	Yes
双方向音声	9999	Yes
リモートコントロール（CM3000）	5555	Yes
DVR POS	5150	Yes
DVR DDNS(アップロード ／ ダウンロード)	53 ／ 1053	No

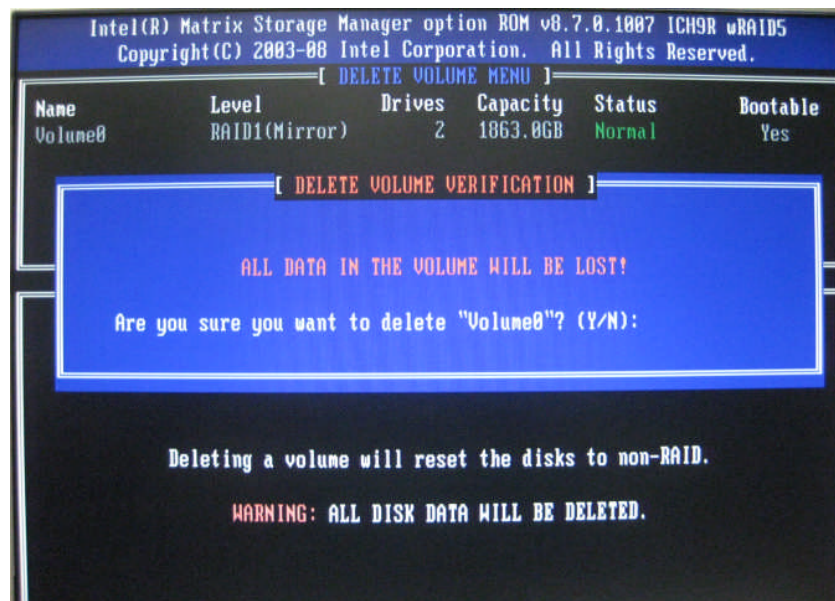
付録 C　　　　　　RAID の設定

以下のステップに従い、RAID を設定してください。

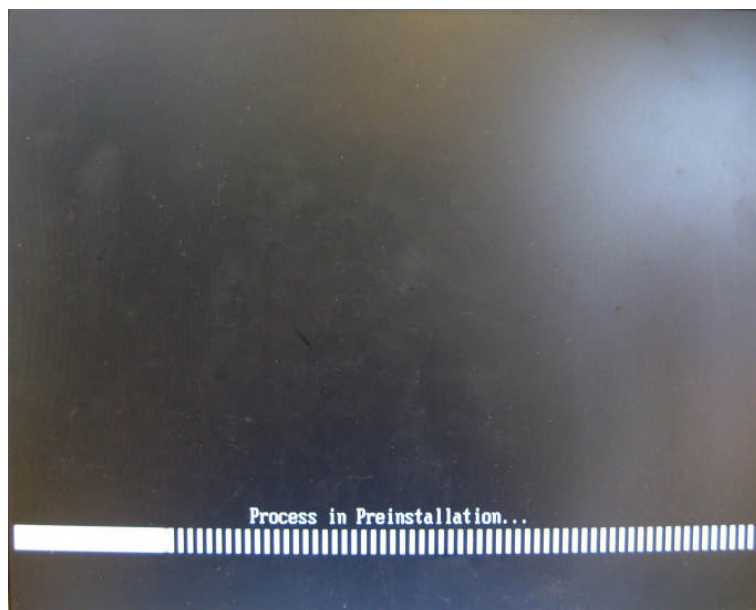
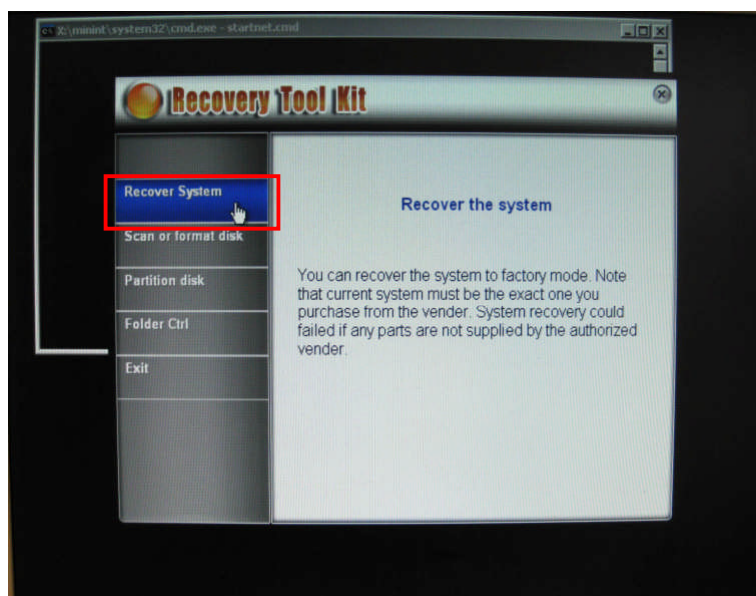
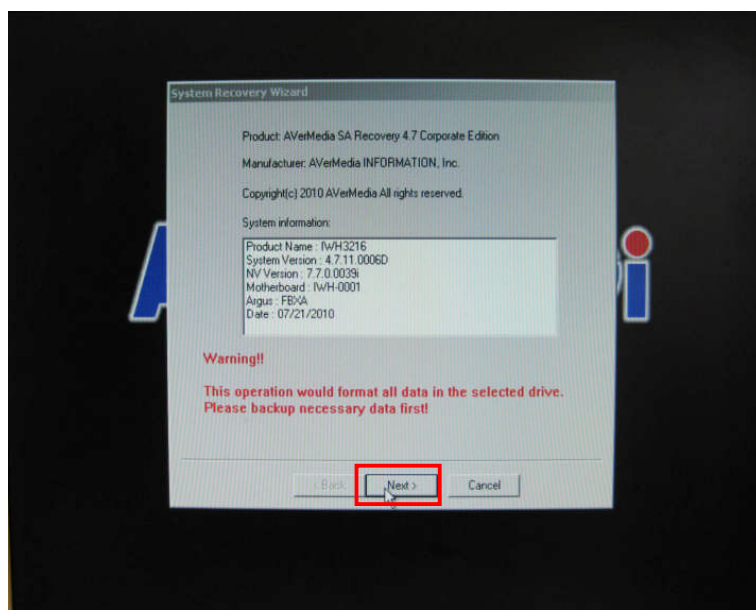
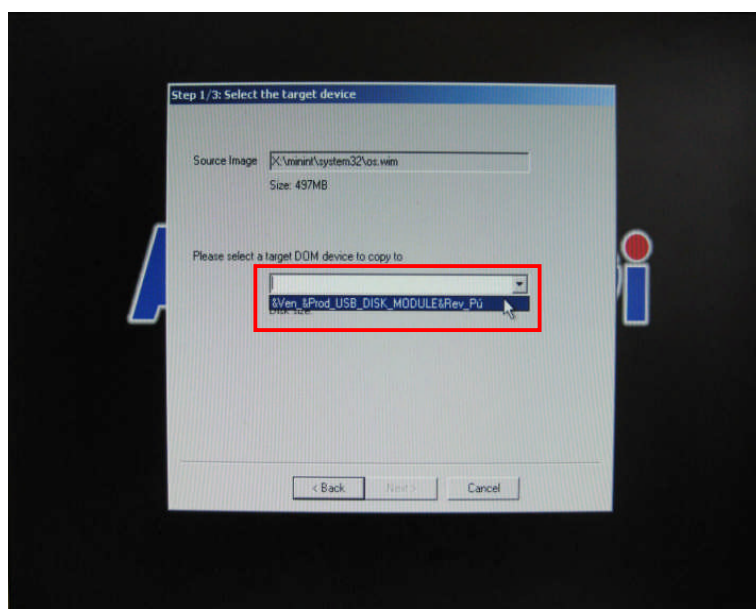
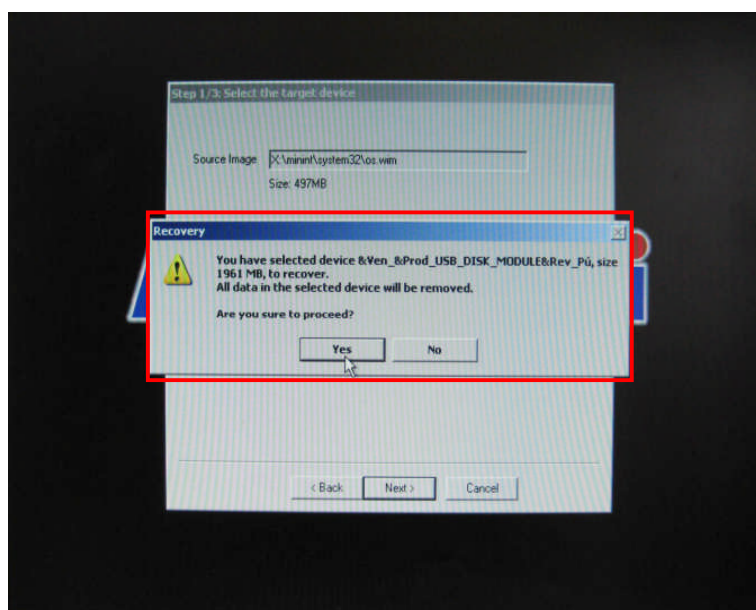
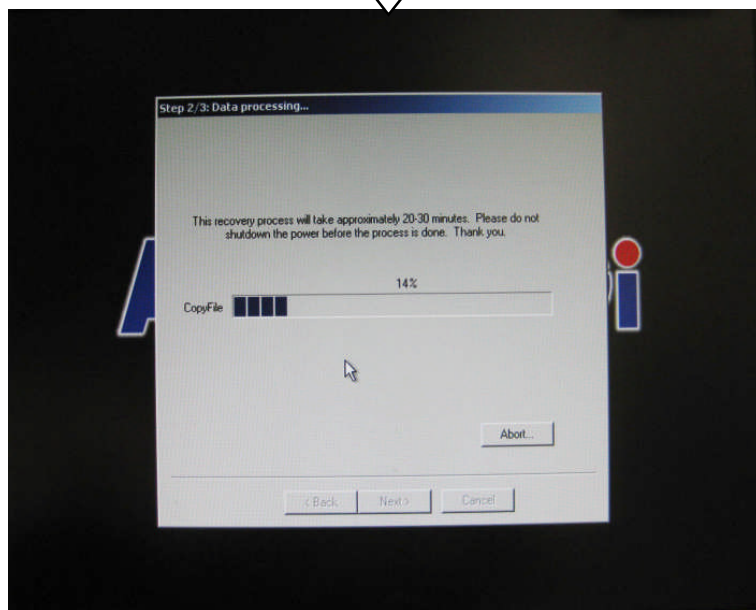
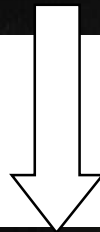
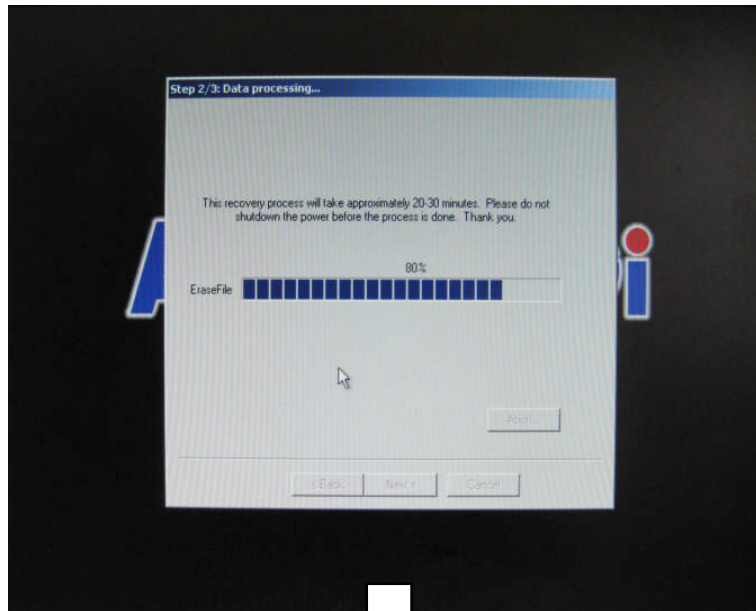
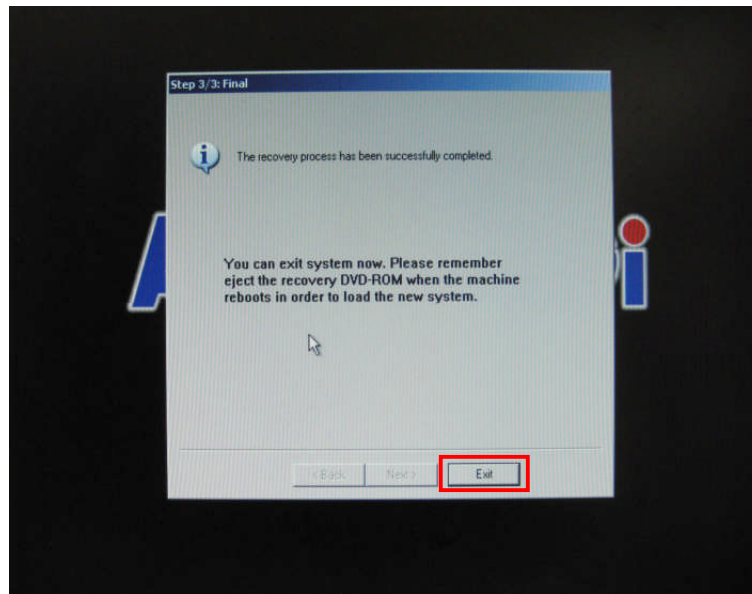
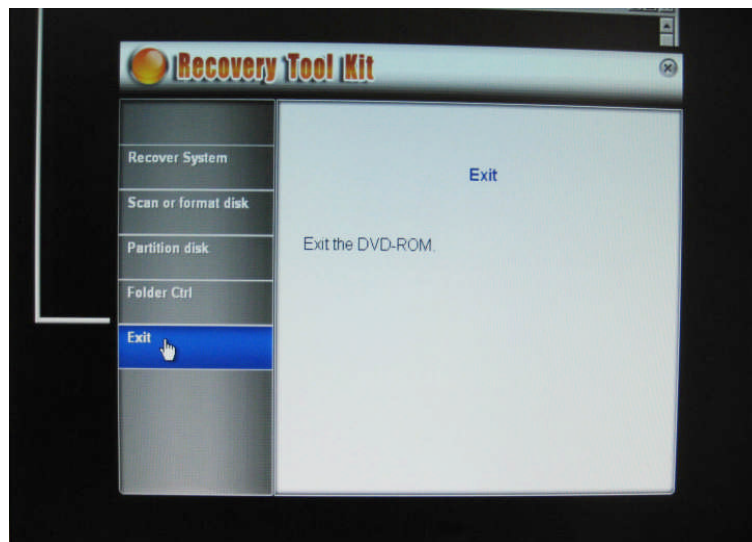
1. DVR システムを再起動し、**削除**ボタンを押して BIOS 設定画面に入ります。

2. **IDE Configuration** を選択し、**Enter** ボタンを押します。
3. Configuration SATA#1 as で、**RAID** を選択し、**F10** を押して保存後終了します。

4. 以下のスクリーンが表示されてから、CTRL + I を押します。

5. Create RAID Volume を選択します。

6. Create RAID Volume Menu 画面で、ユーザが作成したい **RAID Level** を選択します。 up および down ボタンを使用して選択を変更します。

7. 次に、ディスクを選択します。 **Enter** を押して、select disks 画面を開きます。 **スペースキー**を使用してディスクを選択します。 選択したディスクには緑の三角マークがつきます。

8. RAID レベルおよびディスクの選択後、**Enter** キーを押して RAID ボリュームを作成します。 Y を押して作成を確定します。

9. RAID ボリュームの作成後、RAID ボリューム情報が DISK/VOLUME INFORMATION セクションに表示されます。

10. RAID ボリュームは使用前にフォーマットする必要があります。(13) システム構成の 4.1 章ディスク管理を参照してください。

RAID ボリュームの削除方法

1. BIOS 設定に入り、Esc キーを押し、CTRL + I を押します。
2. Delete RAID Volume を選択します。

3. 複数の RAID ボリュームがある場合、RAID ボリュームを選択します。 Delete キーを押し、Y を押して RAID ボリュームを削除します。

***注意:** この時点で 2 つの RAID 1 レベルの HDD パーティションは作成できません。

付録 D　　　　　　　　システムリカバリ

1. DVR ユニットの DVD-ROM ドライブにリカバリーDVD を挿入します。
2. DVR ユニットを再起動します(電源をオフにし、電源をオンにします)。
3. DVR システムがリカバリー動作を開始します。

4. **Recovery Tool Kit** ウィンドウが現れたら、**Recovery System** をクリックします。

5. **Next（次へ）**をクリックして、次のステップに進みます。

6. リカバリ対象を選択します。 **次に**、次へをクリックします。

7. **Yes** をクリックします。リカバリー目標を変更したい場合、**NO** をクリックして、別のリカバリー目標を選択してください。

8. リカバリー作業がスタートして、約 50 分間がかかります。リカバリー作業を中止するには、**Abort** をクリックします。

9. リカバリー完成というメッセージが現れたら、**Exit** をクリックして、Recovery Wizard ウィンドウを終了します。

10. **Recovery Tool Kit** ウィンドウで、**Exit** をクリックして、リカバリーDVD を取り出し、DVR システムを再起動します。

保障に関する注意事項

制限付保証

アバーメディア・インフォメーション株式会社では、下記の条項に従って、本製品に製造上の不良または部品の欠陥がないことを保証します。

保障期間

無償修理サービス期間は１年間です。

製造終了後の保守部品の保存期間は３年間です。

保証対象者

本保証は、販売店より直接購入されたお客様にのみ適用されます。

保証の対象および保証対象外

下記で特に指定されていない限り、本保証は本製品の製造上の欠陥により生じたあらゆる不具合に適用されます。下記の場合は、保証の対象とはなりません。

1. 製造番号が摩滅・改変・消去されている製品。
2. 下記の原因による損傷、劣化、誤動作。
   a. 事故、悪用、誤用、不注意、火災、水害、落雷、その他の自然災害、商用または工業関連における使用、無許可で製品を改造した場合、製品に付属する取扱説明書に従わなかった場合。
   b. 製造者の代理店以外の者によって修理が行われた場合。
   c. 輸送中の事故による損傷(この場合の補償は輸送業者に請求してください)。
   d. 製品の欠陥とは無関係なその他の損傷。
3. 製品とともに使用されるケース類、カートン類、バッテリー、キャビネット、テープまたはアクセサリなど。
4. アバーメディア・インフォメーション株式会社では、本製品がお客様の要件を満たすことを保証するものではありません。お客様の目的に対する製品の適合性を確認する責任は、お客様が負うものとします。

当社の支払対象、および支払対象外事項

当社では、保証対象製品の修理にかかる人件費および部品費用の支払いを行います。ただし、以下の代金は支払対象外です。

1. 設置場所からの取り外しおよび再取り付けに要する費用。
2. 輸送費用。
3. 偶発的な費用。

損傷の免責

本保証の下に発生する製造者の義務や責務は、不具合製品の修理および交換に限定され、どちらを選択するかは製造者の判断に委ねられます。製造者は、購入者または第三者における、いかなる偶発的損害やそれが原因で発生した損害(サービスの中断による損害や事業上の損失を含むがそれに限定されない)、および、かかる保証の責務範囲外の事項に関して一切の責務を負いません。

商品としての適格性に対する保証や特定の使用目的に関する適合性を含め、上記の各事項以外には、口頭または書面による保証事項は一切ありません。保証期間は購入日より 12 ヶ月間とします。

地方自治体の法規および購入者の保証

本保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものです。また、お客様には各地方自治体の法規によりその他の権利が付与される場合があります。そのような権利は、お住まいの地域によって異なります。

連絡先

アバーメディア・インフォメーション株式会社

〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-3-13　麹町秀永ビル 5F

電話: 03-3222-7380

FAX: 03-3222-7381

HP: http://www.averdigi.com/jp/